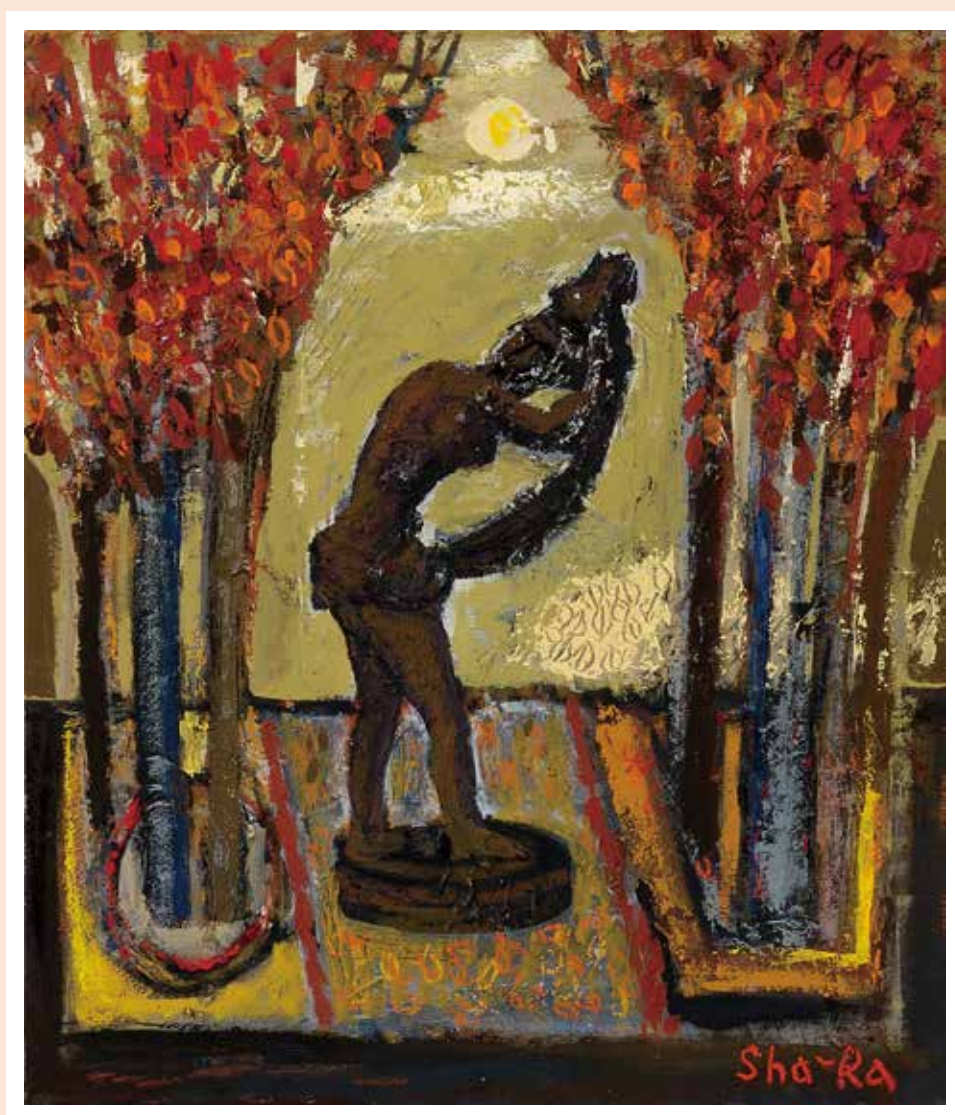


STUDENT HANDBOOK

〈健康科学部 平成27年度入学生用〉



2015

 東北福祉大学

平成27年度 七 曜 日								2015～2016							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
	S	M	T	W	T	F	S		S	M	T	W	T	F	S
四 月 APR	・	・	・	1	2	3	4	十 月 OCT	・	・	・	・	1	2	3
	5	6	7	8	9	10	11		4	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17	18		11	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24	25		18	19	20	21	22	23	24
	26	27	28	29	30	・	・		25	26	27	28	29	30	31
五 月 MAY	・	・	・	・	・	1	2	十一 月 NOV	1	2	3	4	5	6	7
	3	4	5	6	7	8	9		8	9	10	11	12	13	14
	10	11	12	13	14	15	16		15	16	17	18	19	20	21
	17	18	19	20	21	22	23		22	23	24	25	26	27	28
	24 ₃₁	25	26	27	28	29	30		29	30					
六 月 JUN	・	1	2	3	4	5	6	十二 月 DEC	・	・	1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12	13		6	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26
	28	29	30	・	・	・	・		27	28	29	30	31	・	・
七 月 JUL	・	・	・	1	2	3	4	一 月 JAN	・	・	・	・	・	1	2
	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16
	19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23
	26	27	28	29	30	31	・		24 ₃₁	25	26	27	28	29	30
八 月 AUG	・	・	・	・	・	・	1	二 月 FEB	・	1	2	3	4	5	6
	2	3	4	5	6	7	8		7	8	9	10	11	12	13
	9	10	11	12	13	14	15		14	15	16	17	18	19	20
	16	17	18	19	20	21	22		21	22	23	24	25	26	27
	23 ₃₀	24 ₃₁	25	26	27	28	29		28	29	・	・	・	・	・
九 月 SEP	・	・	1	2	3	4	5	三 月 MAR	・	・	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12		6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19		13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26		20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	・	・	・		27	28	29	30	31	・	・

授業時間

- ・ 第1時限 8：40～10：10
- ・ 第2時限 10：25～11：55
- ・ 第3時限 12：35～14：05
- ・ 第4時限 14：20～15：50
- ・ 第5時限 16：05～17：35
- ・ 第6時限 17：50～19：20

- ・ 4月3日 入学式
- ・ 4月3日～6日 ガイダンス
- ・ 4月7日 授業開始
- ・ 4月29日 授業実施日
- ・ 5月1日 昭和の日振替日
- ・ 3月18日 卒業式

目次

※ 太字の項目は各ページにインデックスとして記載されていますので、参照の際にはインデックスを使うと便利です。

建学の精神	(1)
沿 革	(1)
校 歌	(2)
平成27年度学年暦	(4)
I 東北福祉大学学則	1
II 教育課程及び履修方法	25
第1 授業科目	25
1 教育課程の体系	25
2 総合基礎教育科目	26
3 総合基礎教育科目の履修方法	28
第2 卒業所要単位	33
第3 履修方法（履修届）	34
第4 履修規程	39
第5 試験規程	43
第6 4年次特別再試験規則	46
第7 通学の課程における学内単位互換に関する規程	47
第8 学生の海外留学に関する規程	49
第9 GPA 制度	51
第10 授業受講上の留意事項	53
(イ) 保健看護学科	
教育理念と教育目標	54
教育課程の構造	55
教育体系	56
専門教育科目	57
履修方法	60
履修モデル	62
授業科目の流れ	66
第1 実習	68
第2 卒業研究	70
実習計画表	71
第3 看護師・保健師国家試験受験資格	72
(ロ) リハビリテーション学科	
教育理念と教育目標	74
教育課程の構造	75
第1 作業療法学専攻	76
教育体系	76
専門教育科目	77
履修方法	79
履修モデル	80
授業科目の流れ	82
第2 理学療法学専攻	84
教育体系	84
専門教育科目	85



I 東北福祉大学学則

II 教育課程及び履修方法

III 単学都互換台

IV 聴講生

V 研究生

VI 諸手続

VII 図書館

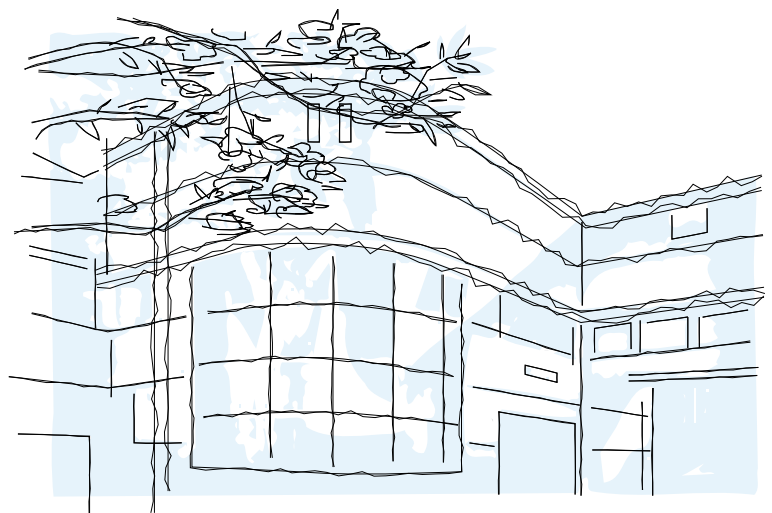
VIII 東北福祉大学等学

履修方法	87
履修モデル	88
授業科目の流れ	90
第3 実習	92
作業療法学専攻	92
理学療法学専攻	96
第4 卒業研究	99
第5 作業療法士・理学療法士国家試験受験資格	100
(ハ) 医療経営管理学科	
教育体系	103
専門教育科目	104
履修モデル ①医事管理系	108
②医療情報系	110
③企業系	112
授業科目の流れ	114
第1 演習	116
第2 実習	116
第3 資格等	117
1 診療情報管理士	117
2 社会福祉主事（任用資格）	119
3 福祉用具専門相談員	120
4 図書館司書	121
5 博物館学芸員	122
6 公認障がい者スポーツ指導員資格	124
7 介護職員初任者研修課程	126
8 レクリエーション・インストラクター資格	128
9 「臨床美術」課程	131
10 「デジタルコンテンツアセッサ」課程について	133
11 「救急救命士」課程	135
12 仏教専修科規程（曹洞宗二等教師資格）	140
Ⅲ 学都仙台単位互換ネットワーク	141
Ⅳ 聴講生規程	143
Ⅴ 研究生規程	145
Ⅵ 諸手続	146
第1 学費等納付細則	146
第2 東北福祉大学私費外国人留学生学費等減免規程	148
第3 留年学生に対する取扱い	149
第4 願書および証明書	150
1 願書	150
2 届出	150
3 各種証明書の交付	152
4 学生証（身分証明書）	153
5 在学証明書	153





6	成績証明書	154
7	卒業見込証明書	154
8	人物証明書	154
9	通学証明書	154
10	実習用通学定期乗車券発売申請書	154
11	学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）	154
12	学生団体旅行割引	155
VII	図書館利用	156
VIII	東北福祉大学校地・校舎等配置図	161
1	国見キャンパス（本校地）	161
	管理棟事務局	163
	第1号館	165
	第2号館	170
	第3号館	173
	第5号館	174
	第6号館	175
	第7号館	177
	H-ONE 館	178
	H-2 館	180
	H-3 GYM	181
	2001館	182
	図書館棟	183
	福聚殿	184
	音楽堂（けやきホール）	185
	特別教室（坐禅堂・法堂・道庵）	187
2	ステーションキャンパス	188
3	国見ヶ丘第1キャンパス	193
	雄翔館・スロヴェニア記念館・	
	医療法人社団東北福祉会・せんだんの丘・	
	社会福祉法人東北福祉会・せんだんの里	
	ウェルコム21	194
	感性福祉研究所	198
	全天候型体育館	200
	せんだんホスピタル	201
4	国見ヶ丘第2キャンパス	203
	野球場・運動広場・駐車場・陸上競技場・	
	サッカー場・テニスコート・弓道場・	
	社会福祉法人東北福祉会・せんだんの杜・	
	せんだんの杜市民・ボランティア活動応援センター・	
	せんだんの杜国見ヶ丘保育園・せんだんの家・せんだんの里	
5	北山キャンパス	204
	仙台駅東口キャンパス館	205



建学の精神

行学一如

(自利・利他円満)

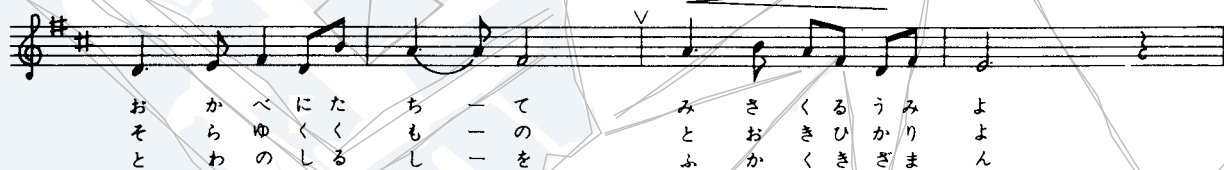
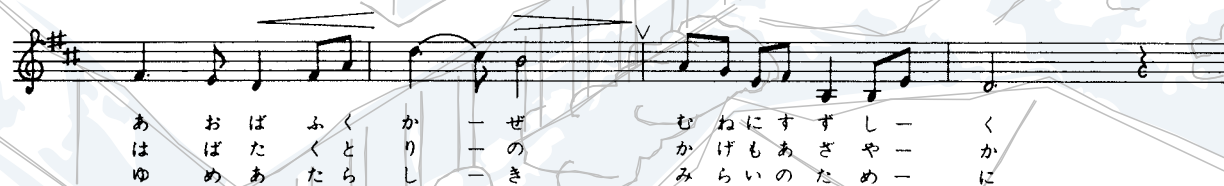
学園の沿革

- 1875年 (明治8年) 宮城県曹洞宗専門学支校として仙台市若林区荒町に設置。
1890年 (明治23年) 専門学支校を廃止し曹洞宗小学林および中学林設置。
1896年 (明治29年) 学制改革により仙台市青葉区東二番丁に第二十五中学林として設置移転。
1902年 (明治35年) 第二十五中学林を廃止し曹洞宗第二中学林設置。
1908年 (明治41年) 仙台市青葉区東二番丁より仙台市若林区南鍛冶町へ全校移転。
1926年 (大正15年) 曹洞宗第二中学林を梅檀中学と改称し仙台市若林区南鍛冶町より現在地に移転。
1940年 (昭和15年) 新制梅檀中学校開校。
1947年 (昭和22年) 東北高等仏教学院開校。
1948年 (昭和23年) 梅檀学園高等学校開校。
1949年 (昭和24年) 財団法人梅檀学園認可、東北高等仏教学院廃校。
1951年 (昭和26年) 学校法人梅檀学園となる。
1953年 (昭和28年) 双葉幼稚園設置。
1957年 (昭和32年) 東北社会事業学校設立。
1958年 (昭和33年) 東北福祉短期大学社会福祉科設置。東北社会事業学校廃校。
梅檀学園高等学校を東北福祉短期大学附属高等学校と改称。
双葉幼稚園を東北福祉短期大学附属幼稚園と改称。
1960年 (昭和35年) 東北福祉短期大学に社会福祉学専攻科設置。
1961年 (昭和36年) 東北福祉短期大学に研究科設置。
1962年 (昭和37年) 東北福祉短期大学社会福祉科、社会福祉学専攻科、研究科廃止。
東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科設置。
東北福祉短期大学附属高等学校を東北福祉大学附属高等学校と改称。
東北福祉短期大学附属幼稚園を東北福祉大学附属幼稚園と改称。
1965年 (昭和40年) 東北福祉大学社会福祉学部産業福祉学科設置。
1968年 (昭和43年) 東北福祉大学附属高等学校が独立し梅檀学園高等学校と改称。
1971年 (昭和46年) 東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科設置。
東北福祉大学仏教専修科設置。
1972年 (昭和47年) 東北福祉大学仏教社会福祉研究所設置。
1973年 (昭和48年) 東北福祉大学社会福祉学専攻科設置。
1974年 (昭和49年) 東北福祉大学社会福祉学部福祉心理学科設置。
東北福祉大学附属幼稚園が独立し学校法人福聚幼稚園と改称。
1975年 (昭和50年) 梅檀学園高等学校廃校。
1976年 (昭和51年) 東北福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻(修士課程)設置。
社会福祉学専攻科募集停止。
1984年 (昭和59年) 東北福祉大学仏教社会教育研究所設置。
1989年 (平成元年) 東北福祉大学・芹沢銈介美術工芸館開館。総合教育センター設置。
1993年 (平成5年) 生涯学習センター設置。
1994年 (平成6年) 東北福祉大学音楽堂棟(けやきホール)竣工。
1995年 (平成7年) 東北福祉大学社会福祉学専攻科廃止。
1999年 (平成11年) 東北福祉大学感性福祉研究所設置。
ボランティアセンター、ウェルネスセンター設置。
2000年 (平成12年) 東北福祉大学社会福祉学部を総合福祉学部と改称。
東北福祉大学総合福祉学部情報福祉学科設置。
東北福祉大学大学院棟竣工。言語文化交流センター設置。
2002年 (平成14年) 東北福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻(修士課程)を
東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻(修士課程)と改称。
東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻(博士課程)設置。
東北福祉大学大学院総合福祉学研究科福祉心理学専攻(修士課程)設置。
東北福祉大学通信制大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻(修士課程)設置。
東北福祉大学通信制大学院総合福祉学研究科福祉心理学専攻(修士課程)設置。
東北福祉大学総合福祉学部通信教育部社会福祉学科設置。
東北福祉大学総合福祉学部通信教育部社会教育学科設置。
東北福祉大学総合福祉学部通信教育部福祉心理学科設置。
2003年 (平成15年) 東北福祉大学ウェルコム21竣工。
2004年 (平成16年) 東北福祉大学ウェルコム21内に予防福祉クリニック開院。
2006年 (平成18年) 東北福祉大学子ども科学部子ども教育学科、健康科学部保健看護学科設置。
2007年 (平成19年) 東北福祉大学ステーションキャンパス竣工。JR 仙山線東北福祉大前駅開業。
2008年 (平成20年) 東北福祉大学健康科学部リハビリテーション学科、医療経営管理学科設置。
東北福祉大学総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科、
情報福祉マネジメント学部学科設置。
梅檀学園東北福祉看護学校開校。
東北福祉大学せんだんホスピタル開設。
2014年 (平成26年) 東北福祉大学総合福祉学部産業福祉学科廃止。
2015年 (平成27年) 東北福祉大学大学院教育学研究科教育学専攻(修士課程)設置。
東北福祉大学教育学部教育学科設置。
東北福祉大学総合福祉学部福祉行政学科設置。
東北福祉大学仙台駅東口キャンパス開設。

東北福祉大学校歌

作詞 扇畑忠雄

作曲 古賀政男



東北福祉大学校歌

作詞 扇畑忠雄
作曲 古賀政男



一、 天 ^{てん} 伝 ^{でん} う ^う 日 ^{にち} の 青 ^{あお} 葉 ^は 吹 ^ふ く風 ^{ふう} 丘 ^{かみ} べに立 ^た ちて	二、 草 ^{くさ} の香 ^か りの はばたく鳥 ^{とり} の 空 ^{そら} ゆく雲 ^{うみ} の 道 ^{みち} をつらぬく いさぎよくあれ ここに知る	三、 このみちのく 夢 ^{ゆめ} 新 ^{あらた} しき 永 ^{とこ} 遠 ^{とほ} のしるしを 人 ^{ひと} の世 ^よ の幸 ^{さい} 高 ^{たか} き星 ^{せい} 座 ^ざ の 歌 ^{うた} うべし
光 ^{ひかり} さやかに 胸 ^{むね} にすずしく 見 ^み 放 ^{はな} くる海 ^{うみ} よ 吾 ^{われ} ら学 ^{がく} ばん ひたすら求 ^{もと} め 思 ^{おも} ひの泉 ^{いずみ}	ただよう徑 ^{みち} に 影 ^{かげ} もあざやか 遠 ^{とほ} き光 ^{ひかり} よ 思 ^{おも} い一つに 吾 ^{われ} らが青春 ^{せいしゅん} 真 ^ま 理 ^り の命 ^{いのち}	安 ^{やす} らぎの国 ^{くに} 未 ^み 来 ^{らい} のため 深 ^{ふか} く刻 ^き まん 福 ^{ふく} 祉 ^し の心 ^{こころ} か ^か がやきの下 ^{した} 無 ^む 限 ^{げん} の調 ^{てう} べ

平成27年度学年暦

前期 2015年4月1日～9月30日

4月3日(金)	入学式(大学院・学部・通信制大学院含む) 新入生ガイダンス〔13:00～〕
4月3日(金)・4日(土)・6日(月)	新入生ガイダンス〔9:00～〕
4月7日(火)	前期授業開始
4月13日(月)～20日(月)	Web履修登録期間
4月29日(水)	昭和の日 ※通常授業
5月1日(金)	昭和の日(4月29日)振替休日
5月7日(木)～14日(木)	履修取消期間(前期・後期・通年科目) ※2014年度以降の入学者のみ
5月30日(土)	月曜日授業
6月28日(日)	オープンキャンパス①
7月10日(金)	前期定期試験時間割及び無資格者発表
7月19日(日)	オープンキャンパス②
7月20日(月)	オープンキャンパス③
7月23日(木)	月曜日授業
7月24日(金)	前期通常授業終了
7月25日(土)～8月4日(火)	前期定期試験
8月5日(水)～30日(日)	通学生夏季休業
8月22日(日)	オープンキャンパス④
8月29日(土)～30日(日)	平成28年度AO入試第一次(Ⅰ期)
8月31日(月)～9月2日(水)	前期集中講義Ⅰ
9月2日(水)	前期追試験時間割発表
9月3日(木)～5日(土)	前期集中講義Ⅱ
9月7日(月)～9日(水)	前期追試験
9月7日(月)～25日(金)	総合福祉学研究科修士課程一般選抜Ⅰ期出願期間
9月7日(月)～25日(金)	教育学研究科修士課程一般選抜Ⅰ期出願期間
9月10日(木)	後期授業開始
9月12日(土)～13日(日)	平成28年度AO入試第一次(Ⅱ期)
9月20日(日)	オープンキャンパス⑤
9月25日(金)	学園創立記念日(通常授業日)
9月26日(土)～27日(日)	平成28年度AO入試第二次(Ⅰ期)
9月30日(水)	修士論文計画書提出締切日
9月30日(水)	前期終了

後期 2015年10月1日～2016年3月31日

10月1日(木)	後期開始・前期終了科目結果公開日
10月1日(木)～8日(木)	履修取消期間(後期・通年科目) ※2014年度以降の入学者のみ
10月3日(土)	総合福祉学研究科修士課程一般選抜Ⅰ期選考日
10月3日(土)	教育学研究科修士課程一般選抜Ⅰ期選考日
10月10日(土)～11日(日)	平成28年度AO入試第一次(Ⅲ期)
10月13日(火)～11月19日(木)	通信制大学院修士課程Ⅰ期出願期間
10月17日(土)～18日(日)	平成28年度AO入試第二次(Ⅱ期)
10月23日(金)	大学祭準備のため全学休講
10月24日(土)～25日(日)	大学祭
10月25日(日)	オープンキャンパス⑥
10月31日(土)	月曜日授業
11月7日(土)	平成28年度特別選抜推薦A方式入試
11月7日(土)	学士入学(A)・推薦編入学試験
11月9日(月)～30日(月)	総合福祉学研究科修士課程社会人選抜Ⅰ期出願期間
11月9日(月)～30日(月)	教育学研究科修士課程社会人選抜Ⅰ期出願期間
11月14日(土)～15日(日)	平成28年度AO入試第二次(Ⅲ期)
11月16日(月)～12月4日(金)	総合福祉学研究科修士課程特別選抜推薦(学内)出願期間
11月16日(月)～12月4日(金)	教育学研究科修士課程特別選抜推薦(学内)出願期間
11月23日(月)～27日(金)	平成28年度特別選抜推薦B方式入試〔16:00まで学内立入禁止〕
11月28日(土)	通信制大学院修士課程Ⅰ期選考日
12月1日(火)～15日(火)	学部卒業論文提出期間〔15日正午まで担当教員研究室提出〕
12月5日(土)	総合福祉学研究科修士課程社会人選抜Ⅰ期選考日

12月5日(土)	教育学研究科修士課程社会人選抜Ⅰ期選考日
12月12日(土)	総合福祉学研究科修士課程特別選抜推薦(学内)選考日
12月12日(土)	教育学研究科修士課程特別選抜推薦(学内)選考日
12月20日(日)	オープンキャンパス⑦
12月22日(火)	終講
12月24日(木)～26日(土)	後期集中講義
12月26日(土)	仕事納
12月27日(日)～1月4日(月)	事務局全休
12月27日(日)～1月4日(月)	通学生冬季休業
1月5日(火)	仕事始
1月5日(火)	授業開始
1月12日(火)～2月10日(水)	学部3年 卒業論文論題提出期間
1月13日(水)	後期定期試験時間割及び無資格者発表
1月13日(水)	学部4年 卒業論文口述試問時間割発表
1月14日(木)	月曜日授業
1月15日(金)	大学入試センター試験準備のため全学休講(終日学内立入禁止)
1月16日(土)～17日(日)	大学入試センター試験(終日学内立入禁止)
1月18日(月)～2月5日(金)	総合福祉学研究科博士課程(一般・社会人)出願期間
1月18日(月)～2月5日(金)	総合福祉学研究科修士課程一般選抜Ⅱ期出願期間
1月18日(月)～2月5日(金)	教育学研究科修士課程一般選抜Ⅱ期出願期間
1月18日(月)～2月18日(木)	通信制大学院修士課程Ⅱ期出願期間
1月20日(水)	修士論文提出締切〔16:00〕
1月21日(木)	後期通常授業終了
1月21日(木)	金曜日授業
1月22日(金)～2月8日(月)	後期定期試験
2月2日(火)～5日(金)	平成28年度一般選抜A日程試験〔16:00まで学内立入禁止〕
2月8日(月)～26日(金)	総合福祉学研究科修士課程社会人選抜Ⅱ期出願期間
2月8日(月)～26日(金)	教育学研究科修士課程社会人選抜Ⅱ期出願期間
2月9日(火)	卒業論文口述試問
2月9日(火)～25日(木)	平成28年度演習等説明会期間〔～2月25日〕
2月10日(水)	後期追試験時間割発表〔16:00〕
2月13日(土)	総合福祉学研究科博士課程(一般・社会人)選考日
2月13日(土)	総合福祉学研究科修士課程一般選抜Ⅱ期選考日
2月13日(土)	教育学研究科修士課程一般選抜Ⅱ期選考日
2月15日(月)～16日(火)	修士論文口述試問
2月15日(月)～17日(水)	後期追試験
2月19日(金)～21日(日)	平成28年度一般選抜B日程試験〔16:00まで学内立入禁止〕
2月22日(月)	通年及び後期終了科目成績発表
2月23日(火)～24日(水)	特別再試験申込期間〔24日正午まで〕
2月25日(木)	特別再試験時間割発表〔16:00〕
2月26日(金)～29日(月)	特別再試験期間
2月27日(土)	通信制大学院修士課程Ⅱ期選考日
3月1日(火)	特別再試験結果公開日
3月2日(水)	卒業決定者揭示
3月5日(土)	転学部・転学科・転籍試験
3月5日(土)	学士入学(B)・一般編入学試験
3月5日(土)	総合福祉学研究科修士課程社会人選抜Ⅱ期選考日
3月5日(土)	教育学研究科修士課程社会人選抜Ⅱ期選考日
3月14日(月)	平成28年度一般選抜C日程試験〔16:00まで学内立入禁止〕
3月18日(金)	学位記・卒業証書授与式〔13:00～予定〕
3月24日(木)	新4年生ガイダンス〔9:30〕
3月25日(金)	新3年生ガイダンス〔9:30～予定〕
3月27日(日)	オープンキャンパス⑧
3月28日(月)	新2年生ガイダンス〔9:30～予定〕
3月31日(木)	平成27年度終了

平成27年度 授業日程

【前期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日（補講日）
1	4月13日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日
2	4月20日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日
3	4月27日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日
4	5月11日	4月28日	4月29日	4月30日	5月8日	5月9日
5	5月18日	5月12日	5月13日	5月7日	5月15日	5月16日
6	5月25日	5月19日	5月20日	5月14日	5月22日	5月23日
7	5月30日(土)	5月26日	5月27日	5月21日	5月29日	
8	6月1日	6月2日	6月3日	5月28日	6月5日	6月6日
9	6月8日	6月9日	6月10日	6月4日	6月12日	6月13日
10	6月15日	6月16日	6月17日	6月11日	6月19日	6月27日
11	6月22日	6月23日	6月24日	6月18日	6月26日	
12	6月29日	6月30日	7月1日	6月25日	7月3日	7月4日
13	7月6日	7月7日	7月8日	7月2日	7月10日	7月11日
14	7月13日	7月14日	7月15日	7月9日	7月17日	7月18日
15	7月23日(木)	7月21日	7月22日	7月16日	7月24日	
16	まとめ（試験） 前期定期試験					

【後期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日（補講日）
1	9月14日	9月15日	9月16日	9月10日	9月11日	9月12日
2	9月28日	9月29日	9月30日	9月17日	9月18日	9月19日
3	10月5日	10月6日	10月7日	9月24日	9月25日	9月26日
4	10月19日	10月13日	10月14日	10月1日	10月2日	10月3日
5	10月26日	10月20日	10月21日	10月8日	10月9日	10月10日
6	10月31日(土)	10月27日	10月28日	10月15日	10月16日	10月17日
7	11月2日	11月10日	11月4日	10月22日	10月30日	11月7日
8	11月9日	11月17日	11月11日	10月29日	11月6日	11月14日
9	11月16日	12月1日	11月18日	11月5日	11月13日	11月21日
10	11月30日	12月8日	12月2日	11月12日	11月20日	11月28日
11	12月7日	12月15日	12月9日	11月19日	12月4日	12月5日
12	12月14日	12月22日	12月16日	12月3日	12月11日	12月12日
13	12月21日	1月5日	1月6日	12月10日	12月18日	12月19日
14	1月14日(木)	1月12日	1月13日	12月17日	1月8日	1月9日
15	1月18日	1月19日	1月20日	1月7日	1月21日(木)	
16	まとめ（試験） 後期定期試験					

I . 東北福祉大学学則



TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

東北福祉大学学則

第1章 総 則

第1節 目的、使命及び自己評価等

第1条（目的、使命）東北福祉大学は学校教育法に基づき、建学の精神に則り広く学術理論と応用を教授・研究して、高潔な人格と豊かな教養を培い、福祉社会を担う有為な人材を養成することを目的とし、もって人類の幸福の追求と国際社会並びに地域社会の発展に貢献することを使命とする。

第2条（自己評価等）前条の目的及び使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検及び評価に関する規則は、別に定める。

第2節 組織及び収容定員

第3条（学 部）本学に、総合福祉学部、総合マネジメント学部、子ども科学部及び健康科学部を置く。

2 前項の学部 zu 置く学科、専攻及び収容定員は次の通りとする。

（ ）内は専攻定員

学 部	学 科 名	入 学 定 員	収 容 定 員
総 合 福 祉 学 部	社 会 福 祉 学 科	400名	1,600名
	福 祉 行 政 学 科	100名	400名
	福 祉 心 理 学 科	120名	480名
	(情 報 福 祉 学 科)	—	—
	小 計	620名	2,480名
総 合 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	産 業 福 祉 マ ネ ジ メ ン ト 学 科	100名	400名
	情 報 福 祉 マ ネ ジ メ ン ト 学 科	100名	400名
	小 計	200名	800名
教 育 学 部	教 育 学 科	250名	1,000名
	初 等 教 育 専 攻	(210名)	(840名)
	中 等 教 育 専 攻	(40名)	(160名)
	小 計	250名	1,000名
健 康 科 学 部	保 健 看 護 学 科	70名	280名
	リハビリテーション学科	80名	320名
	作 業 療 法 学 専 攻	(40名)	(160名)
	理 学 療 法 学 専 攻	(40名)	(160名)
	医 療 経 営 管 理 学 科	80名	320名
	小 計	230名	920名
総 計		1,300名	5,200名

3 前項の学部学科等にコースを置くことができる。なお、コースおよびその教育課程は別に定める。

4 学部学科の教育研究上の目的は、別添1の通りとする。

- 5 第一項の総合福祉学部に通信教育部を置く。通信教育部に置く学科及び収容定員は次の通りとする。

学 科 名	入 学 定 員	収 容 定 員
社会福祉学科	600名	2,400名
社会教育学科	200名	800名
福祉心理学科	200名	800名
計	1,000名	4,000名

- 6 通信教育部の学則は別に定める。

第4条（大学院）本学に大学院を置く。

- 2 大学院に関する規則は別に定める。

第5条（附属研究所・センター等）本学に次の研究所及びセンターを置く。

感性福祉研究所 仏教社会福祉研究所 社会貢献・地域連携センター
国際交流センター IR センター

- 2 研究所の組織・運営等に関する規則は別に定める。

第6条（図書館・美術工芸館）本学に図書館及び美術工芸館を置く。

- 2 図書館及び美術工芸館の組織・運営等に関する規則は別に定める。

第7条（せんだんホスピタル）本学にせんだんホスピタルを置く。

- 2 せんだんホスピタルの組織・運営等に関する規則は別に定める。

第8条（事務局）本学に事務局を置く。

- 2 事務局の組織・運営等に関する規則は別に定める。

第3節 教 職 員

第9条（教職員）本学に次の教職員を置く。

学長、副学長、学部長、図書館長、美術工芸館長、病院長、学科長、所長、センター長
教授、准教授、講師、助教
局長、部長、部長代行、副部長、副センター長、室長、副館長、次長、課長、課長補佐、係長、
主任、事務員、司書、学芸員、助手、その他必要な職員

第10条（人事委員会）本学の専任教員の任免及び昇任または降任の選考に関し、学長の諮問に応ずるため人事委員会を置く。

- 2 人事委員会に関する規則は別に定める。

第10条の2（名誉教授）本学に功労があり、学術上功績のある者に対して人事委員会の推薦により名誉教授の称号を贈ることができる。

- 2 名誉教授の称号授与に関する規則は別に定める。

第4節 教 授 会

第11条（教授会）本学に教授会を置く。

- 2 教授会は、学長、副学長、総務局長、学部長、学科長、専任の教授及び専任の准教授をもって組織する。ただし、休職者及び教授会決議によって出席を停止を命じられた者を除く。

第12条（召集者）教授会は学長が召集する。

第13条（審議事項）教授会は次の事項について審議する。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること。
- (2) 学位の授与に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を参酌して学長が定めたもの。
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下、学長等という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 3 この学則に定めるものの他、教授会に関し必要な事項は別に定める。

第5節 学年、授業期間、学期及び休業日

第14条（学年）学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

- 2（授業期間）毎学年の授業期間は、定期試験等の期間を含め35週を原則とする。

第15条（学期）学年を分けて次のとおりとする。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から翌年3月31日まで

第16条（休業日）休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 本学創立記念日（9月25日）
- (4) 春季休業（3月24日より3月31日まで）
- (5) 夏季休業（8月1日より8月31日まで）
- (6) 冬季休業（12月28日より翌年1月4日まで）
- 2 必要がある場合、学長は前項の休業日を臨時に変更し、あるいは前項に定めるものの他に臨時休業日を定めることができる。

第2章 学 部 通 則

第1節 修業年限及び在学年限

第17条（修業年限）各学部の修業年限は4年とする。

第17条の2（長期履修学生）前条の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し終了することを希望する学生（以下「長期履修学生」という。）がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

ただし、第18条に定める最長在学年限を超えることはできない。

- 2 長期履修学生に関し、必要な事項は別に定める。

第18条（在学年限）学生は8年を越えて在学することはできない。

ただし、第26条第1項の第1号・第2号・第3号・第4号・第5号の規定により入学した学生は第29条により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を越えて在学することはできない。

第2節 入 学

第19条（入学時期）入学の時期は学年の始めとする。

ただし、転入学、編入学、再入学については、学期の始めとすることができる。

第20条（入学資格）本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 高等学校・中等教育学校を卒業した者
- (2) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であつて、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者。又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (7) 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で18才に達した者

第21条（入学の出願）本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

第22条（入学者の選考）前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

第23条（入学手続及び入学許可）前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに保証人連署の誓約書、保証書、その他所定の書類を提出するとともに、所定の諸納金を納付しなければならない。

2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第24条（保証人）保証人は学生に関する一切の責任を負うことのできる者で、独立生計者2名とし、正保証人はそのうち1名を父母とし、他の1名（副保証人）は原則として宮城県内に居住していることを必要とする。

2 保証人が死亡、その他の理由により、その責を負うことができないときは新たに保証人を定めなおして保証書を提出しなければならない。

第25条（改姓等）学生又は保証人が改姓・改名・転籍・転居をしたときは、ただちに証明書類を添えてその旨を届け出なければならない。

第26条（編入学・転入学）次の各号の一に該当する者で、総合福祉学部、総合マネジメント学部、子ども科学部及び健康科学部医療経営管理学科への入学を志願する者があるときは、いずれも欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 学士の学位を有する者
- (2) 修業年限4年以上の大学に1年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (3) 短期大学を卒業した者、又は高等専門学校を卒業した者
- (4) 学校教育法施行規則（附則）第7条に定める従前の規定による高等学校・専門学校、又は教員養成諸学校等の課程を修了し又は卒業した者
- (5) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たす課程を修了した者

第27条（再入学） 本学に1年以上在学し依願退学した者で、同じ学科に再入学を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、再入学を許可することがある。

第28条（転学部・転学科・転籍） 転学部・転学科・転籍を希望する者は1年次もしくは2年次終了時、いずれも欠員のある場合に限り、選考の上、許可することがある。

第29条（編入学・転入学・再入学・転学部・転学科・転籍者の授業科目及び単位数の取扱い） 編入学・転入学・再入学の規定により入学を許可された者及び転学部・転学科・転籍を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

第3節 教育課程及び履修方法等

第30条（授業科目） 本学に開設する授業科目は、その内容により総合基礎科目・専門教育科目及び資格科目とする。

2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。なお、これらの授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 授業科目及び単位数は次のとおりである。

(1) 総合基礎教育科目（全学部共通） (別表1)

(2) 専門教育科目

1) 総合福祉学部社会福祉学科 (別表2)

2) 総合福祉学部福祉行政学科 (別表3)

3) 総合福祉学部福祉心理学科 (別表4)

4) 総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科 (別表5)

5) 総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科 (別表6)

6) 教育学部教育学科 (別表7)

①初等教育専攻 (別表7-①)

②中等教育専攻 (別表7-②)

7) 健康科学部保健看護学科 (別表8)

8) 健康科学部リハビリテーション学科

①作業療法学専攻 (別表9-①)

②理学療法学専攻 (別表9-②)

9) 健康科学部医療経営管理学科 (別表10)

(3) 社会福祉士受験資格に関する指定専門科目（総合福祉学部） (別表11)

(4) 社会福祉士受験資格に関する基礎専門科目（総合福祉学部） (別表12)

(5) 精神保健福祉士受験資格に関する指定専門科目（社会福祉学科、福祉心理学科） (別表13)

(6) 精神保健福祉士受験資格に関する基礎専門科目（社会福祉学科、福祉心理学科） (別表14)

(7) 保育士資格に関する科目（総合福祉学部社会福祉学科） (別表15)

(8) 保育士資格に関する科目（子ども科学部子ども教育学科） (別表16)

(9) 介護福祉士受験資格に関する科目（社会福祉学科） (別表17)

- (10) 第一種衛生管理者免許に関する科目
(総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科) (別表18)
- (11) 教育職員免許状に関する科目
- 1) 総合福祉学部
- (ア) 高校福祉科一種普通免許状に関する教育課程 (社会福祉学科) (別表19)
- (イ) 養護教諭一種普通免許状に関する教育課程 (福祉心理学科) (別表20)
- 2) 教育学部
- (ア) 幼稚園一種普通免許状に関する教育課程 (初等教育専攻) (別表21)
- (イ) 小学校一種普通免許状に関する教育課程 (初等教育専攻) (別表22)
- (ウ) 中学校社会科一種免許状に関する教育課程 (中等教育専攻) (別表23)
- (エ) 高校地歴科一種普通免許状に関する教育課程 (中等教育専攻) (別表24)
- (オ) 高校公民科一種普通免許状に関する教育課程 (中等教育専攻) (別表25)
- (カ) 特別支援学校一種普通免許状に関する教育課程 (初等教育専攻) (別表26)
- (12) 学校図書館司書教諭資格に関する科目 (総合福祉学部) (別表27)
- (13) 図書館司書資格に関する専門科目 (総合福祉学部) (別表28)
- (14) 博物館学芸員資格に関する専門科目 (総合福祉学部) (別表29)
- (15) 社会福祉主事任用資格に関する科目
(総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営学科) (別表30)
- (16) 身体障害者福祉司任用資格に関する科目 (総合福祉学部) (別表31)
- (17) 社会教育主事任用資格
(社会福祉学科・福祉心理学科・総合マネジメント学部・教育学部) (別表32)
- (18) 認定心理士資格に関する科目 (福祉心理学科) (別表33)
- (19) 財団法人障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者資格
(総合福祉学部・総合マネジメント学部・教育学部・健康科学部)
- (イ) 初級スポーツ指導員資格に関する科目 (別表34)
- (ロ) 中級スポーツ指導員資格に関する科目 (別表35)
- (20) 介護職員初任者研修の課程に関する科目
(総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科) (別表36)
- (21) レクリエーション・インストラクター資格に関する科目
(総合福祉学部・総合マネジメント学部) (別表37)
- (22) 福祉用具専門相談員に関する科目
(総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科) (別表38)
- (23) 感性デザイン課程に関する科目
- (イ) 社会福祉学科・福祉行政学科・産業福祉マネジメント学科 (別表39)
- (ロ) 福祉心理学科 (別表40)
- (ハ) 情報福祉マネジメント学科 (別表41)
- (24) 福祉観光課程に関する科目 (総合福祉学部・総合マネジメント学部) (別表42)
- (25) スポーツマネジメント課程に関する科目 (総合福祉学部・総合マネジメント学部) (別表43)

(26) 臨床美術課程に関する科目（総合福祉学部・総合マネジメント学部）（別表44）

(27) 社会貢献活動支援士課程に関する科目（総合福祉学部・総合マネジメント学部）（別表45）

(28) デジタルコンテンツアセッサ課程に関する科目

（総合福祉学部・総合マネジメント学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科）（別表46）

(29) 救急救命士課程に関する科目（総合福祉学部福祉行政学科・

総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科）（別表47）

(30) スクールソーシャルワーカーに関する科目（社会福祉学科社会福祉コース）（別表48）

第31条（履修方法）本学を卒業するためには、その区分に従い、124単位以上（ただし、健康科学部保健看護学科は125単位以上）を取得しなければならない。

(1) 総合基礎科目

各学部学科の履修単位数は以下の通りである（上段は必修単位数、下段は最低選択単位数）。

1) 総合福祉学部、総合マネジメント学部、教育学部、健康科学部

学 部 名	学 科 名	基礎知	科学知	実践知	健康知	計
総合福祉学部	社 会 福 祉 学 科	9	2	0	4	21
		3 科目 6 単位以上選択				
	福 祉 行 政 学 科	9	4	0	4	21
		2 科目 4 単位以上選択				
	福 祉 心 理 学 科	9	0	0	4	21
		4 科目 8 単位以上選択				
総合マネジ メント学部	産業福祉マネジメント学科	9	0	0	4	21
		4 科目 8 単位以上選択				
	情報福祉マネジメント学科	9	0	0	4	21
		4 科目 8 単位以上選択				
教育学部	教 育 学 科	9	2	2	4	21
		2 科目 4 単位以上選択				
健康科学部	保 健 看 護 学 科	11	0	0	4	21
		3 科目 6 単位以上選択				
	リハビリテーション学科	9	0	0	4	19
		3 科目 6 単位以上選択				
	医 療 経 営 管 理 学 科	9	4	0	4	21
		2 科目 4 単位以上選択				

ただし、それぞれの超過した単位も関連科目として卒業単位に加算する。

(2) 専門教育科目

各学部学科の履修単位数は以下の通りである（いずれの単位数も以上を示している）。

総合福祉学部社会福祉学科および教育学部教育学科、健康科学部リハビリテーション学科は必修単位数を示しており、その他は各コースの履修方法にしたがって選択履修取得のこと。なお、各コースの教育課程は別に定める。

学 部 名	学 科 名	専門基礎科目	専門基幹科目	専門発展科目	関連科目
総合福祉学部	社 会 福 祉 学 科	38	32	16	
	福 祉 行 政 学 科	22	32		
	福 祉 心 理 学 科	18	30	10	
総合マネジ メント学部	産業福祉マネジメント学科	18	36		
	情報福祉マネジメント学科	22	20		
教育学部	教 育 学 科	12	48～76※	2	
	初 等 教 育 専 攻	12	48～76※	2	
	中 等 教 育 専 攻	12	64	2	
健康科学部	保 健 看 護 学 科	31	75		
	リハビリテーション学科				
	作 業 療 法 学 専 攻	30	73		
	理 学 療 法 学 専 攻	30	69		
	医 療 経 営 管 理 学 科	24	26		

ただし、それぞれの超過した単位も卒業単位に加算する。

※履修コースにより異なる。

(3) 副専攻

指定された学部では、副専攻（「感性デザイン課程」、「福祉観光課程」、「スポーツマネジメント課程」、「臨床美術課程」、「社会貢献活動支援士課程」、「デジタルコンテンツアセッサ課程」、「救急救命士課程」）の各科目も卒業単位科目（関連科目）として同時履修ができる。

(4) 実習科目

各種実習科目の履修条件及び方法に関しては、各学科が別に定める実習規程による。

(5) 地域貢献関連資格科目

総合福祉学部・総合マネジメント学部・教育学部・健康科学部では、初級障害者スポーツ指導員資格に関する必修科目及び中級障害者スポーツ指導員資格に関する必修科目、総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科では、レクリエーション・インストラクター資格に関する必修科目を卒業単位（関連科目）として同時履修ができる。

第32条（入学前の既修得単位等の認定）教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に、大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、大学の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目をわが国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目をわが国において履修する場合について準用する。

3 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

4 前3項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学・転入学等の場

合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

第33条（単位互換派遣学生） 本学の学生で仙台圏単位互換協定を締結した他の大学及び短期大学の授業科目を履修し単位を修得した場合は本学の専門教育科目（関連科目）として認定する。

2 単位互換派遣学生の履修規定については、別に定める。

第34条（教員免許状授与の所要資格の取得） 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法施行規則に定める所要資格を取得しなければならない。

2 本学の学部・学科等において当該所要資格を修得できる教員の免許状の種類は、次のとおりである。

学 部	学 科	教員免許状の種類（教科）
総合福祉学部	社会福祉学科	高等学校教諭一種普通免許状（福祉）
	福祉心理学科	養護教諭一種普通免許状
教育学部	教育学科	幼稚園教諭一種普通免許状
		小学校教諭一種普通免許状
		特別支援学校教諭一種免許状
	中等教育専攻	中学校教諭一種普通免許状（社会） 高等学校教諭一種普通免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種普通免許状（公民） 特別支援学校教諭一種免許状

3 総合福祉学部社会福祉学科の学生で、高等学校福祉科一種普通免許状を得ようとする者は、別表19の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。

4 総合福祉学部福祉心理学科の学生で、養護教諭一種普通免許状を得ようとする者は、別表20の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。

5 教育学部教育学科（初等教育専攻）の学生で、幼稚園教諭一種普通免許状および小学校教諭一種普通免許状を得ようとする者は、それぞれ別表21および別表22の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。

6 教育学部教育学科（中等教育専攻）の学生で、中学校社会一種普通免許状および高等学校地歴一種普通免許状、高等学校公民一種普通免許状を得ようとする者は、それぞれ別表23、別表24、別表25の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。

7 教育学部教育学科（初等教育専攻および中等教育専攻）の学生で、特別支援学校教諭一種免許状を得ようとする者は、別表26の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。

8 学校図書館司書教諭の資格を得ようとする者は、教育職員免許法による小学校、中学校または高等学校の教諭の普通免許状を取得し、学校図書館法第5条第4項並びに文部科学省令により本学に定める学校図書館司書教諭に関する科目及び単位（別表27）を取得しなければならない。

第35条（各種資格の取得） 総合福祉学部・総合マネジメント学部の学生で社会福祉士の受験資格を得ようとする者は、社会福祉士の指定科目（別表11）を修めて卒業しなければならない。なお、社会福祉士を養成するための定員は別に定める。

2 総合福祉学部・総合マネジメント学部の学生で社会福祉士の短期養成施設に入所する者は、社会福祉士の基礎科目（別表12）を修めて卒業しなければならない。

- 3 社会福祉学科・福祉心理学科の学生で精神保健福祉士の受験資格を得ようとする者は、精神保健福祉士の指定科目（別表13）を修めて卒業しなければならない。なお、精神保健福祉士を養成するための定員は別に定める。
- 4 社会福祉学科・福祉心理学科の学生で精神保健福祉士の短期養成施設に入所する者は、精神保健福祉士の基礎科目（別表14）を修めて卒業しなければならない。
- 5 保育士の資格（総合福祉学部社会福祉学科社会福祉コース、教育学部教育学科初等教育専攻のみ）を得ようとする者は、児童福祉法施行規則及び児童福祉法施行令の定めるものの外、本学に定める保育士資格に関する専門科目及び単位（社会福祉学科は別表15、教育学科は別表16）を取得しなければならない。
なお、社会福祉学科社会福祉コース及び教育学科初等教育専攻で保育士を養成するための定員はそれぞれ別に定める。
- 6 介護福祉士の受験資格（社会福祉学科社会福祉コースのみ）を得ようとする者は、別表17に定める科目及び単位数を修め卒業しなければならない。なお、介護福祉士を養成するための定員は別に定める。
- 7 総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科の学生で介護職員初任者研修修了の資格を得ようとする者は、本学に定める介護職員初任者研修の課程に関する科目及び単位（別表36）を3年次までに取得しなければならない。
- 8 第一種衛生管理者の資格（総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科のみ）を得ようとする者は、本学に定める第一種衛生管理者に関する科目及び単位（別表18）を取得しなければならない。
- 9 総合福祉学部・総合マネジメント学部・教育学部教育学科中等教育専攻・健康科学部医療経営管理学科の学生で図書館司書の資格を得ようとする者は、図書館法第5条第1項第1号により本学に定める図書館に関する科目及び単位（別表28）を取得しなければならない。
- 10 総合福祉学部・総合マネジメント学部・教育学部教育学科中等教育専攻・健康科学部医療経営管理学科の学生で博物館学芸員の資格を得ようとする者は、博物館法第5条第1項第1号により本学に定める博物館に関する科目及び単位（別表29）を取得しなければならない。
- 11 総合福祉学部・総合マネジメント学部の学生で社会福祉主事の任用資格を得ようとする者は、社会福祉主事任用資格に関する科目（別表30）に定める科目を修めて卒業しなければならない。
- 12 総合福祉学部・総合マネジメントの学生で身体障害者福祉司の任用資格を得ようとする者は、身体障害者福祉司任用資格に関する科目（別表31）に定める科目を修めて卒業しなければならない。
- 13 総合福祉学部・総合マネジメント学部・教育学部の学生で社会教育主事の任用資格を得ようとする者は、社会教育主事講習等規定第3章社会教育に関する科目の単位（第11条）の科目及び単位（別表32）を取得しなければならない。
- 14 認定心理士の資格（福祉心理学科のみ）を得ようとする者は本学に定める認定心理士に関する科目及び単位（別表33）を取得し卒業しなければならない。
- 15 総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部の学生で（公財）日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者資格「初級障がい者スポーツ指導員」の資格を得ようとする者は、（別表34）に定める科目を修めて卒業しなければならない。ただし、卒業までに2年以上の指導経験を有する（中級障がい者スポーツ指導員の資格取得条件の取得のため）については、必要な科目の履

修了後に所定の手続きをすることによって、初級障がい者スポーツ指導員資格を取得できる。

- 16 総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部の学生で（財）日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者資格「中級障がい者スポーツ指導員」の資格を得ようとする者は、1年次に初級障がい者スポーツ指導員資格を取得し、2年次以降で（別表35）に定める科目を修め、卒業までに3年間、計120時間（15日）以上の指導経験を積み卒業しなければならない。
- 17 総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科の学生でレクリエーション・インストラクターの資格を取得するためには、レクリエーション・インストラクター資格取得に関する認定専門科目（別表37）により本学の3年次又は4年次のうち、1年間で指定科目を取得しなければならない。
- 18 健康科学部保健看護学科の学生で、看護師の国家試験受験資格を取得するためには別表8に定める科目及び単位を取得し卒業しなければならない。また、保健師の国家試験受験資格を取得するためには別表8の欄外に定める所定の選択科目及び単位を取得しなければならない。
- 19 健康科学部リハビリテーション学科の学生で、作業療法士の国家試験受験資格を取得するためには別表9-①、理学療法士の国家試験受験資格を取得するためには別表9-②に定めるそれぞれの科目及び単位を履修方法にしたがって取得し卒業しなければならない。
- 20 総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科の学生で、福祉用具専門相談員の資格を取得するためには、福祉用具専門相談員資格に関する科目（別表38）に定める科目及び単位を取得しなければならない。
- 21 総合福祉学部・総合マネジメント学部の学生で、感性デザイン課程を履修しようとする者は、感性デザイン課程に関する科目（別表39・40・41）に定める科目及び単位を取得しなければならない。
- 22 総合福祉学部・総合マネジメント学部の学生で福祉観光課程を履修する者は、福祉観光課程に関する科目（別表42）に定める科目及び単位を取得しなければならない。
- 23 総合福祉学部・総合マネジメント学部の学生でスポーツマネジメント課程を履修する者は、スポーツマネジメント課程に関する科目（別表43）に定める科目及び単位を取得しなければならない。
- 24 総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科の学生で臨床美術課程を履修する者は、臨床美術課程に関する科目（別表44）に定める科目及び単位を取得しなければならない。
- 25 総合福祉学部・総合マネジメント学部の学生で社会貢献活動支援士課程を履修する者は、社会貢献活動支援士課程に関する科目（別表45）に定める科目及び単位を取得しなければならない。
- 26 総合福祉学部・総合マネジメント学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科の学生で、デジタルコンテンツアセッサの資格を得ようとする者は、「デジタルコンテンツアセッサ課程に関する科目」（別表46）に定める科目及び単位を取得しなければならない。
- 27 総合福祉学部福祉行政学科・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科の学生で、救急救命士の受験資格を得ようとする者は、「救急救命士課程に関する科目」（別表47）に定める科目及び単位を取得しなければならない。
- 28 総合福祉学部社会福祉学科（社会福祉コース）の学生で、スクールソーシャルワーカー資格を得ようとする者は、「スクールソーシャルワーカーに関する科目」（別表48）に定める科目及び単位を取得しなければならない。

第36条（単位数の算定基準）各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもつて1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて1単位とすることができる。
- (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。
 - 2 前号の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第37条（単位の授与及び学内単位互換）授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 授業科目の履修ならびに試験に関する規程は別に定める。
- 3 通学課程において修得した単位と通信教育課程において修得した単位は相互に転換することができる。
- 4 前項の学内単位互換に関する規程は別に定める。

第38条（成績）授業科目の試験の成績は、秀・優・良・可・不可の5種の評語をもって表し、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。

第4節 休学・復学・転学・留学・退学及び除籍

第39条（休学）疾病その他特別の理由により、3カ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

第40条（休学期間）休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は通算して4年を越えることはできない。
- 3 休学期間は第18条の在学期間には算入しない。

第41条（復学）休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。復学の許可を得た者は、原年次に帰属する。

- 2 休学者が休学期間を過ぎても、復学・退学・休学の延長願を提出せず、許可を得なかった場合、学長は復学とみなし第62条に定める学費を徴収することができる。

第42条（転学）他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

第43条（留学）外国の大学で修学することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は第18条に定める在学期間に含めることができる。

第44条（退学）退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない

第45条（除籍）次の各号の一に該当する者は教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 正当な理由がなく授業科目の履修を怠った者
- (2) 所定の期日以降3カ月授業料の納付を怠った者
- (3) 第18条に定める在学年限を越えた者
- (4) 第40条第2項に定める休学期間を越えて、なお修学できない者

第5節 卒業及び学士学位

第46条（卒業） 本学に4年以上在学し、所定の授業科目及び単位数を取得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2 卒業時の通算 GPA が1.50未満の場合は、卒業試験を受け、卒業試験に合格しなければならない。GPA については、別に定める。

- 3 学長は卒業を認定した者に対して学位記・卒業証書を授与する。

第47条（学士学位） 卒業した者には、次の区分に従い、学士学位を授与する。

学 部	学 科	学 位 名 称
総 合 福 祉 学 部	社 会 福 祉 学 科	学士（社会福祉学）
	福 祉 行 政 学 科	学士（福祉行政学）
	福 祉 心 理 学 科	学士（福祉心理学）
総合マネジメント学部	産業福祉マネジメント学科	学士（産業福祉学）
	情報福祉マネジメント学科	学士（情報福祉学）
教 育 学 部	教 育 学 科	学士（教育学）
健 康 科 学 部	保 健 看 護 学 科	学士（看護学）
	リハビリテーション学科	学士（リハビリテーション学）
	医 療 経 営 管 理 学 科	学士（医療経営管理学）

第6節 賞 罰

第48条（表彰） 学生及び本学学生を構成とする団体が表彰に値する行為があったものは、教授会の議を経て学長が表彰することができる。

第49条（特待生） 学生のうち学術優秀、品行方正の者を選考の上、特待生とし授業料の全部又は一部を免除することができる。

第50条（懲戒・訓告） 学生で本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の審議を経て学長が懲戒または訓告を行う。

- 2 前項の懲戒の種類は退学・停学・譴責とする。
- 3 前項の退学は次の各号の一に該当する者に対して行う。
 - (イ) 性行不良で改善の見込みがない者
 - (ロ) 正当の理由がなく出席常でない者
 - (ハ) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
- 4 停学3カ月以上にわたるときは、その期間を在学期間に算入しない。

第7節 厚生補導

第51条（厚生補導）大学は学生の厚生補導に関して助言指導を行う。

2 前項の厚生補導の運営等に関する規則は別に定める。

第52条（厚生施設及び保健）本学に厚生施設を置く。

2 前項の厚生施設の運営等に関する規則は別に定める。

3 毎学年定期に学生及び教職員の健康診断を行う。

第8節 委託生・研究生・聴講生・科目等履修生・特別科目等履修生・

単位互換学生及び外国人留学生

第53条（委託生）官公庁・法人・外国政府及び他の大学等から委託された学生は委託学生とする。

2 委託生に関する内規は別に定める。

第54条（研究生）本学に研究生を置くことができる。

2 研究生は本学の卒業生又は同等以上の資格を有する者で、指導教員の申請によって学長が教授会の議を経て入学の可否を決める。

3 研究生に関する規程は別に定める。

第55条（聴講生）本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、学部の教育に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生に関する規程は別に定める。

第56条（科目等履修生）本学所定の授業科目中、総合福祉学部、総合マネジメント学部及び子ども科学部の特定の科目について履修を希望する者があるときは、選考の上、科目等履修生としてこれを許可することがある。

2 科目等履修生は、その履修した科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、授業科目所定の単位を与える。

3 科目等履修生に関する規程は別に定める。

第56条の2（特別科目等履修生）本学通信教育部の正科生で通学課程の授業の履修を許可された者。

2 特別科目等履修生に関する規程は別に定める。

第57条（単位互換学生）仙台圏単位互換協定を締結した他の大学及び短期大学並びに高等専門学校の学生で本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学との協議に基づき、単位互換学生として履修を許可することができる。

2 単位互換学生の履修規程については、別に定める。

第58条（外国人留学生）外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生の入学に関する規程は別に定める。

第59条（準用規程）委託生・研究生・聴講生・科目等履修生・特別科目等履修生・単位互換学生及び外国人留学生には、別段の規定がない限り学生に関する一般の規程を準用する。

第9節 学 費

第60条（学費）入学検定料・入学金・授業料・施設設備資金・教育環境整備費・厚生費等は、別添2の通りとする。

第61条（課程履修費、任意の実験実習費等）前条の他、資格取得の為の課程履修費及び実験実習費等を別途徴収する。

第62条（復学等の場合の学費）復学を許可された学生の学費は、その者の入学年次に定められた学費をスライドさせた金額とする。

第63条（学年の途中で卒業する場合の学費）卒業年次以降の学年途中で卒業する見込の者は、当該期間の学費を納付するものとする。

第64条（退学及び停学等の場合の学費）学年の途中で退学し、又は除籍された者の当該期間の学費は徴収する。

2 停学期間中の学費は徴収する。

第65条（休学の場合の学費）休学を許可され、又は命ぜられた者については、休学期間中は在籍料を納付しなければならない。ただし、学期の途中で休学する場合は、その期の所定の学費は納入しなければならない。

2 在籍料は別に定める。

第66条（委託生・研究生・聴講生・科目等履修生・特別科目等履修生・外国人留学生等の学費）委託生・研究生・聴講生・科目等履修生・特別科目等履修生・外国人留学生の入学検定料及び学費等については別に定める。

第67条（納付した学費等）納付した学費等の返戻に関しては、消費者契約法及び関係法規に基づき処理する。

第10節 公開講座

第68条（公開講座）社会人の教養を高め、文化の向上に資するため本学に公開講座を開設することができる。

第11節 雑 則

第69条（細 則）この学則に必要な細則は別に定める。

附 則

1. この学則は昭和37年4月1日より施行する。
2. この学則は昭和40年4月1日より施行する。
3. この学則は昭和45年4月1日より施行する。
4. この学則は昭和46年4月1日より施行する。
5. この学則は昭和47年4月1日より施行する。
6. この学則は昭和48年4月1日より施行する。
7. この学則は昭和49年4月1日より施行する。
8. この学則は昭和50年4月1日より施行する。
9. この学則は昭和51年4月1日より施行する。
10. この学則は昭和52年4月1日より施行する。
11. この学則は昭和53年10月1日より施行する。
12. この学則は昭和54年4月1日より施行する。
13. この学則は昭和55年4月1日より施行する。

14. この学則は昭和56年4月1日より施行する。
15. この学則は昭和57年4月1日より施行する。
16. この学則は昭和58年4月1日より施行する。
17. この学則は昭和59年4月1日より施行する。
18. この学則は昭和63年4月1日より施行する。
19. この学則は平成元年4月1日より施行する。
20. この学則は平成2年4月1日より施行する。
21. この学則は平成3年4月1日より施行する。
22. この学則は平成4年4月1日より施行する。
23. この学則は平成6年4月1日より施行する。
24. この学則は平成7年4月1日より施行する。
25. この学則は平成9年4月1日より施行する。
26. この学則は平成10年4月1日より施行する。
27. この学則は平成12年4月1日より、①社会福祉学部の名称を総合福祉学部に変更するため、②社会福祉学科および福祉心理学科の収容定員を変更するため、③情報福祉学科の設置にともない、施行する。なお、平成11年度までに入学した学生は従前によるものとする。
28. この学則は平成13年4月1日より、①社会福祉学科に教育職員免許状「福祉」、情報福祉学科に教育職員免許状「情報」を設置にともない、②学都仙台単位互換ネットワークを設置にともない、施行する。なお、平成12年度までに入学した学生も平成13年4月開設の「福祉」・「情報」の教育職員免許状の科目履修を認める。
29. この学則は平成14年4月1日より、①学則第3条総合福祉学部に通信教育部社会福祉学科、社会教育学科、福祉心理学科を設置、②学則第26条（編入学・転入学）に（5）を設けて。専修学校の専門課程からの編入学を可能にした。③社会福祉学科の保育士課程が「児童福祉法施行規則第39条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」（平成13年厚生労働省告示第198号）により平成14年4月から適用されることにより、第30条（授業科目）2、（9）保育士資格に関する科目（別表18）を改正して平成14年度入学者から適用して施行する。④第30条（授業科目）2、（9）（助）日本障害者スポーツ協会公認スポーツ指導者資格（イ）初級スポーツ指導員資格に関する科目（別表39）を改正する。ただし、平成13年度までの入学者については、従前の例によることとする。
30. この学則は平成15年4月1日より、①総合福祉学部社会福祉学科に介護福祉士課程を設置するにともない、②学則第30条（授業科目）－2、（2）外国語科目（別表2）に「ハングル講座Ⅰ（コミュニケーションを含む）～Ⅵ」「中国語Ⅰ（コミュニケーションを含む）～Ⅵ」を新設するにともない、③学則第30条（授業科目）－2、（9）保育士資格に関する科目（別表18）に「ハングル講座Ⅰ（コミュニケーションを含む）～Ⅵ」「中国語Ⅰ（コミュニケーションを含む）～Ⅵ」を新設するにともない、④学則第30条（授業科目）－2、（12）（イ）教職に関する科目の教育職員免許法施行規則第66条の5に定める科目（別表21）に「ハングル講座Ⅰ（コミュニケーションを含む）～Ⅵ」「中国語Ⅰ（コミュニケーションを含む）～Ⅵ」を新設するにともない、⑤第30条（授業科目）の2（20）訪問介護員養成2級課程修了に関する指定専門科目（別表41）を新設するにともない、改正施行する。ただし、平成14年度までの入学者については、従前の例によることとする。

31. この学則は平成16年4月1日より、①第20条（入学資格）の変更にともない、②第30条（授業科目）(22) レクリエーション・インストラクター資格取得に関する科目の設置、③(23) 臨床美術士資格取得に関する科目の設置、④(24) 感性デザイン課程に関する科目の設置および第56条の2に特別科目等履修生制度を設置することにより改正し、全学年に施行する。
32. この学則は平成17年4月1日より、①福祉心理学科に教育職員免許状「養護教諭1種普通免許状」を設置することにより、②第30条（授業科目）の2、(12) (リ) 養護教諭1種普通免許状の養護に関する科目の設置、③第34条（教員免許状授与の所要資格取得）の2を変更し、施行する。なお、平成16年度までに入学した学生も、平成17年度4月開設の「養護教諭1種普通免許状」の教育職員免許状の科目履修を認める。
- さらに、④第30条（授業科目）の2、(33) 臨床美術士資格取得に関する科目（別表43）の削除、⑤第30条（授業科目）の2、(25) 福祉観光課程に関する科目の設置、⑥第30条（授業科目）の2、(26) スポーツマネジメント課程に関する科目の設置、⑦第30条（授業科目）の2、(27) 臨床美術課程に関する科目の設置、⑧第30条（授業科目）の2、(28) 異文化コミュニケーション課程に関する科目の設置、⑨福祉観光課程・スポーツマネジメント課程・臨床美術課程・異文化コミュニケーション課程の設置に伴い第35条（各種資格の取得）に(22)～(25)を追加変更し、施行する。なお、④～⑨については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度までに入学した学生は従前によるものとする。
33. この学則は平成18年4月1日より、新学部創設にともない、①第1条（目的、使命）を修正し、②学内組織の見直し（第5条、第9条、第10条、第13条）等をはかった。さらに、③第3条（学部）子ども科学部子ども教育学科、健康科学部保健看護学科の設置、④第30条（授業科目）の2、(1) 基礎教養（別表1）、および(2) 外国語科目（別表2）の科目と履修方法の変更、⑤第30条の2、(4) - ② 子ども科学部の専門教育科目（別表17）の設置、⑥第30条（授業科目）の2、(4) - ③健康科学部の専門教育科目（別表18）の設置、⑦第30条（授業科目）の2、(9) - ②子ども科学部子ども教育学科に保育士資格に関する科目を設置、⑧第30条（授業科目）の2、(12) - ①子ども科学部に教職に関する科目（別表37-①）（別表37-②）の設置、⑨第30条（授業科目）の2、幼稚園教諭1種普通免許状に関する科目・教科又は教職に関する科目（別表38-①、2種は別表38-②）および小学校教諭1種普通免許状に関する科目・教科又は教職に関する科目（別表39-①、2種は別表39-②）を設置する。⑩第31条（履修方法）、(4) - ②子ども科学部子ども教育学科および(4) - ③健康科学部保健看護学科の履修方法を規定する。⑪第34条（教員免許状授与の所要資格の取得）の2、子ども科学部に教育職員免許状「幼稚園教諭1種普通免許状」、「幼稚園教諭2種普通免許状」、「小学校教諭1種免許状」、「小学校教諭2種免許状」の設置、⑫第35条（各種資格の取得）の5、保育士資格に子ども科学部子ども教育学科を追加し、保育士資格の取得を可能とする。⑬さらに、第35条（各種資格の取得）の20、健康科学部保健看護学科において、看護師及び保健師の国家試験受験資格の取得を可能とする。⑭そのための授業科目を第30条（授業科目）2、に設置する。⑮第47条、学士学位の授与に子ども科学部子ども教育学科に「学士」（教育学）、健康科学部保健看護学科に「学士」（看護学）を追加する。⑯第60条（学費）、子ども科学部と健康科学部の入学検定料・入学金・授業料・施設設備資金・厚生費・後援会等を新たに設定する。ただし、平成17年度までに入学した学生は従前によるものとする。
34. この学則は平成19年4月1日より、大学の教員組織の変更にともない、①第9条（教職員）にお

いて従来の「助教授」を「准教授」に名称を変更し、「助教」を新設して施行する。また、特殊教育教員免許課程が、特別支援学校教員免許課程に移行するにともない、②第34条（教員免許状授与の所要資格の取得）の2および6において、社会福祉学科に設置されている「養護学校教諭1種普通免許状の教科に関する科目」を「特別支援学校教諭1種免許状の教科に関する科目」へ再編成して施行する（別表28）。③従来の「基礎教養科目」「外国語科目」「健康とスポーツ科目」を再編し、「総合基礎科目」（別表1-①）を導入するとともに、各学科の科目を再編・再構成する（第31条、第32条）。ただし、健康科学部は従前の通りとする。④総合福祉学部情報福祉学科に2コース（情報応用コース、総合情報コース）を設置する（第30条（授業科目）2の（2）5）の（イ）、（ロ））。⑤総合福祉学部の副専攻に「減災・予防福祉課程」を追加する。

35. この学則は、平成20年4月1日より、①総合福祉学部産業福祉学科及び情報福祉学科を、総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科及び情報福祉マネジメント学科に独立・改組し、②健康科学部に新たにリハビリテーション学科（作業療法学専攻、理学療法学専攻）と医療経営管理学科を設置するとともに、③それにとまなう収容定員の見直しを行い施行する（第3条）。なお、④第30条（授業科目）2の（1）、総合基礎科目（別表1）を全学部共通科目として配置するとともに、（2）専門教育科目に新学部新学科の授業科目と第31条（履修方法）に履修方法をそれぞれ追加する。さらに、健康科学部保健看護学科の関連科目に授業科目を追加する（別表8）。また、⑤第34条（教員免許状授与の所要資格の取得）について、従来の「産業福祉学科」に設置されていた中学校教諭一種普通免許状（社会）、高等学校教諭一種普通免許状（公民）及び「情報福祉学科」に設置されていた高等学校教諭一種普通免許状（情報）の教員免許状を取り下げる。⑥産業福祉学科食品衛生コースに設置されていた食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格を取り下げる。⑦附属研究所・センター等に「キャリア推進センター」「次世代育成センター」「PCサポートセンター」を増設する（第5条）。⑧大学設置基準等の一部を改正する省令に伴い学部学科の教育研究上の目的を明確にした（第3条の4）。

36. この学則は平成21年4月より、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更にとまない、①保健看護学科のカリキュラム・履修方法の一部変更および卒業単位の変更（いずれも学則第31条、学則別表8）を行い施行する。また、「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律（平成19年法律第125号）」により、①資格取得のための履修科目を見直し、社会福祉士、精神保健福祉士及び介護福祉士養成の新しい教育課程を編成する（別表11）（別表12）（別表13）（別表14）（別表17）。②それらにとまなって、社会福祉学科の教育課程も再編成する（別表2）。③社会福祉士及び介護福祉士、精神保健福祉士養成課程において定員を設ける（第35条）。さらに、「福祉科一種普通免許状」の「教科又は教職に関する科目」の内容を変更する。なお、本学に付属病院としてせんだんホスピタルを置く（学則第7条、第9条）。学則本文（学則第60条）中の学費明細表を、別添2として本中から分離する。

37. この学則は、平成22年4月より①組織改組し、「社会貢献センター」を置く（第5条）。②教育職員免許法の一部改正にとまない、教職に関する科目である「総合演習」を「教職実践演習」に変更（別表19）（別表26-①）（別表26-②）して施行する。また、③「異文化コミュニケーション課程」、「減災・予防福祉課程」の廃止と「社会貢献支援士課程」の設置にとまない、第30条（授業科目）2（28）、第31条（履修方法）（3）、第35条（各種資格の取得）26を追加変更する。さらに、④「総合基礎科目」を再編（別表1）するとともに、総合福祉学部の各学科と子ども科学部子ども教育学

科の教育課程を見直し（別表2）（別表3）（別表4）（別表7）、総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科に専門科目を追加（別表5）する。⑤保育士資格に関する科目（別表15）（別表16）を再編し、特別支援学校教諭一種免許状の教科に関する科目（別表21）、幼稚園教諭一種免許状および小学校教諭一種免許状の教職に関する科目（別表26-①）（別表26-②）、幼稚園教諭一種免許状および小学校教諭一種免許状に関する科目（別表27-①）（別表27-②）（別表28-①）（別表28-②）をそれぞれ見直し施行する。

38. この学則は、平成23年4月より①専門基幹科目にリエゾン群（L群）を新設する（健康科学部を除く）ことにともない、「総合基礎科目」（別表1-①、別表2-②）及び各学科の教育課程（別表2、別表3、別表4、別表5、別表6、別表7）を変更し施行する。また、②「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正により、「保育士資格に関する科目」（別表15及び別表16）を変更する。それにともない、③教員免許状取得のための科目を一部変更する（別表26-①、別表26-②、別表27-①、別表27-②、別表28-①、別表28-②）。④総合福祉学部社会福祉学科社会福祉コース（保育士課程履修）の学生の幼稚園教諭一種普通免許状の取得を可能とする（第34条9）。⑤教育職員免許法施行規則の一部改正にともない、「福祉」の教科に関する科目・単位数および履修方法（別表20）を変更して施行する。⑥総合福祉学部社会福祉学科と福祉心理学科において、福祉用具専門相談員の資格取得を可能とし、第35条（各種資格の取得）に（20）として追加する（別表41）。さらに、⑦休学の場合（第65条）の学費を変更して施行する。

39. この学則は、平成24年4月より、①総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科および情報福祉マネジメント学科のカリキュラムの一部を変更する（学則別表5、6）。②全学部学科へのリエゾン系科目の導入に伴い、健康科学部における総合基礎科目および履修方法を変更する（別表1）とともに、健康科学部保健看護学科、リハビリテーション学科、医療経営管理学科のカリキュラム・履修方法の一部を変更する（別表8、9-①、9-②、学則第31条）。③また、保健看護学科において、保健師受験資格を選択制とし（学則第35条の18）、卒業単位を変更する（学則第31条）。④精神保健福祉士法施行規則等の改正により、精神保健福祉士受験資格に関する指定専門科目および精神保健福祉士受験資格に関する基礎科目を見直し（別表13、14）、社会福祉士受験資格に関する指定専門科目の一部を見直す（別表11）とともに、社会福祉学科並びに福祉心理学科のカリキュラムを一部変更する（別表2、4）。⑤さらに第一種衛生管理者免許に関する科目（別表18）の一部を変更し、図書館司書養成科目および学芸員養成科目の改正により、図書館司書資格に関する専門科目（別表30）および博物館学芸員資格に関する専門科目（別表31）を見直すとともに、社会福祉学科、社会教育学科、福祉心理学科のカリキュラムを一部変更する（別表2、3、4）。⑥介護福祉士の資格取得の変更により、「資格」から「受験資格」と変更（学則第35条6）および科目を追加し（別表17）、⑦学生表彰の対象に学生団体を追加する（学則第48条）変更、⑦学則第31条に（4）を追加し、施行する。

40. この学則は、平成25年4月より、①入学前の既修得単位等の認定において、「他の大学又は短期大学における授業科目の履修等」および「大学以外の教育施設等における学修」を明文化（学則第32条）、②防災・減災に関連する科目を移動・配置（学則別表1-1、2、3、4、5、6、7）、③精神保健福祉士受験資格に関する指定専門科目の履修年次および単位数の一部変更（別表2、4、14）、④総合福祉学部社会福祉学科および子ども科学部子ども教育学科の専門教育科目（専門基幹科目L群）（別表2、7）並びに保育士資格に関する科目（別表15、16）の一部変更、⑤教育

実習の単位変更（別表 2、3、19）⑥訪問介護員 2 級に関する科目の廃止および介護職員初任者研修に関する科目の設置（別表39）、それに伴う福祉科の教科又は教職に関する科目の一部変更（別表20）、⑦社会貢献活動支援士に関する科目の一部変更（別表48）をし、施行する。

41. この学則は、平成26年 4 月より、①第 1 条の目的、使命を一部変更（学則第 1 条）し、総合基礎科目を全学共通（学則別表 1）とするとともに、全学科に地域共創関連科目を専門基幹科目に配置する（学則別表 2～8、9－①、9－②、10）。同時に、健康科学部保健看護学科、リハビリテーション学科及び医療経営管理学科に防災・減災関連科目を配置する（学則別表 8、9－①、9－②、10）。履修方法に地域貢献関連資格科目を位置づける（学則第31条（5））。また、保育士資格に関する科目の一部を追加し（学則別表15及び16）、さらに特別支援学校教諭一種免許状の教科に関する科目の一部変更（別表21）、及び副専攻に「デジタルコンテンツアセッサ課程」を設置し（学則第31条（3））、授業科目（学則別表49）及び各種資格の取得（学則第35条26）にそれぞれ追加変更する。さらに学内単位互換の規程を追加して実施する（学則第37条第 4 項）。②第 5 条（付属研究所・センター等）の地域連携を充実させるため社会貢献センターを社会貢献・地域連携センターに改組するとともに、経営情報・教育情報の調査分析等を行う IR センターを新たに設置する。③ GPA 制度を導入するにあたり、第38条（成績）を 4 種の評語（優・良・可・不可）から 5 種の評語（秀・優・良・可・不可）に変更し施行する。④第46条（卒業）の条件を授業科目及び単位数取得から、授業科目及び単位数、GPA 制度も導入して認定するに変更し施行する。⑤第41条では、休学期間完了後の学費について、事項を追加するとともに、第45条（除籍）においては、除籍の条件を追加し、一部を削除する。⑥第65条（休学の場合の学費）学期途中での学費に関する事項を追加し、変更施行する。なお、平成25年度まで入学した学生は従前によるものとする。
42. この学則は、平成27年 4 月より、学部・学科再編に伴い、①総合福祉学部社会教育学科を廃止し、福祉行政学科を設置。②子ども科学部子ども教育学科を廃止し、教育学部教育学科初等教育専攻・教育学科中等教育専攻を設置。さらに③総合福祉学部社会福祉学科の入学定員を300名から400名に変更、新たに 2 学科の設置のため入学定員を1,100名から1,300名にするとともに、収容定員も4,400名から5,200名に変更施行する。さらに、長期履修学生の規定を追加する。また、産業福祉学科を廃止する。なお、平成26年度まで入学した学生は従前によるものとする。

【学部・学科の教育研究上の目的】

建学の精神（行学一如）に則り、人類の幸福の追求と国際社会の発展に貢献できる人材育成を目的として、以下の学部、学科を設置する。

I. 総合福祉学部

多角的視野から教育・研究に取り組み、知識、技術、社会的実践力を錬磨し、福祉社会の実現に資する人材の育成を目的とする。

①社会福祉学科

人間理解のための深い教養と福祉の専門知識を修得し、福祉領域における問題解決能力を有する人材を育成する。

②福祉心理学科

人間理解の基礎となる心理学的視点や理論・方法を学び、人々の抱える心理的問題を分析・解決できる人材を育成する。

③福祉行政学科

「福祉」の視点を土台として、地域社会及び住民の福祉の向上に貢献する高い志と強い責任感・倫理観をもち、地域の諸問題に主体的に対応できる幅広い基礎能力を有する人材を育成する。

II. 総合マネジメント学部

人間活動におけるマネジメントの知識と能力をもち、リーダーシップを発揮しうる人材を育成することを目的とする。

①産業福祉マネジメント学科

主として産業界にあって、経済的な効率経営に加えて、福祉的経営の視点も考慮することにより健全な経営を実現できる人材を育成する。

②情報福祉マネジメント学科

豊かで活力ある福祉社会を実現させるため、経営に資するマネジメント能力や情報科学の活用能力を兼ね備えた人材を育成する。

III. 教育学部

豊かな教養と人間性を基礎に据え、保育・教育への熱意、高度な専門性、研修意欲等を備え、乳幼児・児童・生徒の保育・教育に柔軟に対応できる人材を育成する。

①教育学科

乳幼児・児童・生徒の発達の特性を活かした教育を研究するとともに、自らの実践を省察する能力を有する人材育成を目的とする。

IV. 健康科学部

ヒューマニティやノーマライゼーションを基本に、人間を全人的に捉え、「生命の尊重」「人としての尊厳」を基盤にもつ人材を育成することを目的とする。

①保健看護学科

すべての人を対象として、ヒューマンケアの思想を、保健・看護の現場で実践できる能力を有する人材を育成する。

②リハビリテーション学科

専門職となる医療現場に加え、「保健・福祉現場における地域リハビリテーション」を視野に入れた、健康増進・障害予防に関わるヘルスケアなど「理論と実践の融合」による調和のとれた人材を育成する。

③医療経営管理学科

保健・医療・福祉の経営に役立つ管理的知識と医学的知識を有し、医療情報を活用しうる専門的な人材を育成する。

【東北福祉大学 学費】

項 目	学 部 (学 科)	
	総合福祉・教育・総合マネジメント・健康科学部 (医療経営管理)	健康科学 (保健看護・リハビリテーション)
入 学 検 定 料	30,000円	30,000円
入 学 金 (入学時)	100,000円	100,000円
授 業 料 (年 額)	733,000円	1,000,000円
施設設備資金 (年 額)	241,000円	300,000円
教育環境整備費 (年 額)	50,000円	50,000円
厚 生 費 (年 額)	20,000円	20,000円
実験施設維持費 (福祉心理学科、保健看護学科、 リハビリテーション学科のみ年額)	35,000円	250,000円
実 習 費 (1 年次)		100,000円
後 援 会 費	24,200円	24,200円

- 1 次年度以降はスライド制の適用により改訂する。
スライド制を適用するときの変動率は原則として次のものを基準とする。
授業料については、人事院による「国家公務員の給与に関する勧告」によって示された国家公務員給与の対前年度アップ率に、同じく定期昇給のアップ率分を加算したものによる。施設設備資金については消費者物価指数（総務省統計局調査）の対前年度アップ率による。
- 2 前項の学費納付の細則は別に定める。
- 3 2 年度以降の実習費については別に定める。
- 4 学則第65条（休学の場合の学費）に基づく在籍料は、原則として、半期60,000円とする。厚生費は別途徴収する。

休学・退学・復学等に関する申請期間及び学費の取扱いについて

I. 休学・復学制度について

疾病その他特別の理由により、3ヵ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。休学期間は通算して4年を越えることはできない。休学期間は在学年限に算入しない。

休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。復学の許可を得た者は、原年次に帰属する。

1. 休学・復学についての申請期間

休学・復学について、下記のように申請期間等を設定し、事務処理を変更するものとする。

申請種類	改正前	改正後
①休学申請期間	随 時	通年休学：前年度の2月4日～5月31日 ^{※1} 前期休学：前年度の2月4日～5月31日 ^{※1} 後期休学：8月1日～10月31日 ^{※1}
②復学手続	復学する場合は、手続必要	(1) 休学期間満了の場合は自動的に復学となるため手続は不要 (2) 休学理由が消滅し、休学期間満了前に復学する場合は、原則として復学手続が必要
③復学の時期	通年で休学した場合：4月1日 前期に休学した場合：9月9日 後期に休学した場合：4月1日	通年で休学した場合：4月1日 前期に休学した場合：後期授業開講日 後期に休学した場合：4月1日
④復学時の年次	通年で休学した場合：原年次 前期に休学した場合：進級 後期に休学した場合：進級	通年で休学した場合：原年次 前期に休学した場合：進級 後期に休学した場合：進級
⑤休学制度利用上限	学部学生：4年 修士課程：2年 博士課程：3年	学部学生：4年 修士課程：2年 博士課程：3年

※1 この申請期間を過ぎて提出した場合は、学則第65条（休学の場合の学費）は適用されません。

II. 学費の取扱いについて

休学者及び退学者の学費の取扱いは以下の通りです。

1. 休学者の学費について

休学願を提出し、休学を許可された者の学費については、当該休学期間の在籍料・厚生費・後援会費を除く学費（授業料、施設設備資金、教育環境整備、実験施設維持費、実習費）を免除します。

(1) 在籍料について

在籍料は、当該学生の在籍保証、在籍管理事務費として、所属に係わらず一律に徴収します。在籍料の徴収額は、年間120,000円（半期60,000円）とし、休学学期（半期）ごとに徴収します。

(2) 休学時の学費等の取扱い

休学申請期間	在籍状況		学費等請求		
	前期	後期	前期	後期	年間計
通年休学：前年度の 2月4日～5月31日	休学	休学	在籍料 1/2 額 (60,000円) 厚生費 (20,000円)	在籍料 1/2 額 (60,000円)	在籍料 (120,000円) 厚生費 (20,000円) 合計 140,000円
前期休学：前年度の 2月4日～5月31日	休学	在学	在籍料 1/2 額 (60,000円) 厚生費 (20,000円)	学費 1/2 額 後援会費 (12,100円)	在籍料 1/2 額 + 学費 1/2 額 + 厚生費 + 後援会費
後期休学： 8月1日～10月31日	在学	休学	学費 1/2 額 厚生費 (20,000円) 後援会費 (12,100円)	在籍料 1/2 額 (60,000円)	在籍料 1/2 額 + 学費 1/2 額 + 厚生費 + 後援会費

注1) 学費 1/2 額 (在籍料含む)：1 年間に支払う学費の 1/2 額を意味します。

注2) 上記の額は、それぞれの休学申請期間内に休学願を提出し許可された者に適用します。休学申請期間外に提出した場合は、適用されませんのでご注意ください。

2. 退学者の学費について

退学願を提出し退学を許可された者は、当該学期に必要な学費を納入することとします。

ただし、在籍2年目以上の学生が締め切り期日までに退学願を提出した場合は、当該学期の学費を免除します。

なお、退学時の学費等の取扱いについては、以下の通りとなります。

(1) 退学時の学費等の取扱い

退学願提出期間	学費請求		
	前期	後期	年間計
4月1日～5月31日	免除	免除	免除
6月1日～8月31日	学費納入	免除	前期学費のみ
9月1日～10月31日	学費納入	免除	前期学費のみ
11月1日～3月31日	学費納入	学費納入	免除なし

※学費未納で退学願を提出した場合は、当該学期学費納入後退学願を受理するものとする。

Ⅱ. 教育課程及び履修方法



1 教育課程の体系

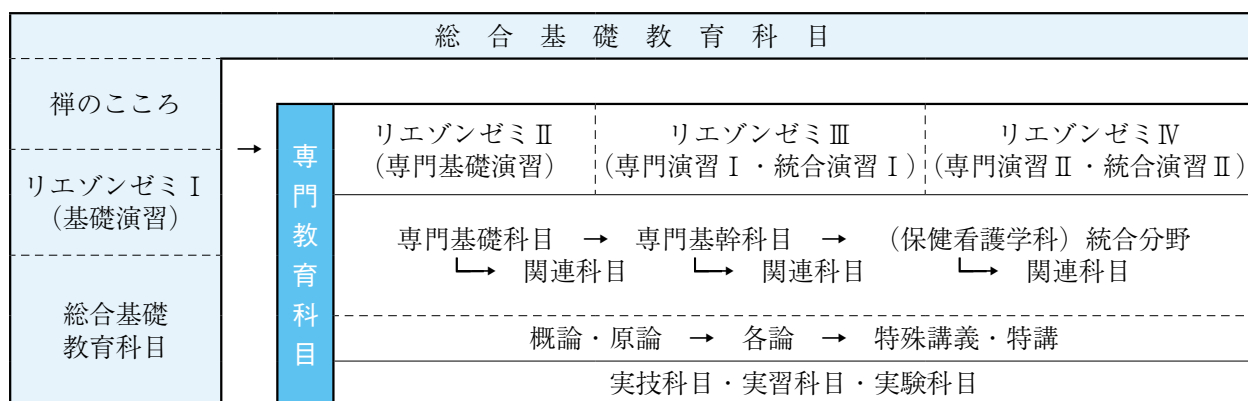
(1) 総合基礎教育科目 教養の基礎知（Ⅰ群・Ⅱ群）
科学知（Ⅰ群・Ⅱ群）
実践知（Ⅰ群・Ⅱ群）
健康知（Ⅰ群・Ⅱ群）

(2) 専門教育科目 専門基礎科目
専門基幹科目
専門発展科目
関連科目

総合基礎教育科目は、広い意味での「教養」を涵養する「知」の枠組みであり、総合的・多角的な見方を身につけるとともに専門の基礎を学ぶことを目的としています。本学では、これを「教養の基礎知」「科学知」「実践知」「健康知」の四分野に分割して、学びの方向性を示しています。

資格科目は、本学で取得できる諸資格に関するもので、学科によっては専門教育科目と重複する場合もあります。

いろいろな講義を受講する際、教育課程の全体系・構造を視野に入れ、それぞれの授業がどのような位置に配置されているかを意識しながら、受講する態度が求められます。これらをまとめたものを図示します。



2 総合基礎教育科目

(別表1)

科目区分	授業科目名	指示事項	必修	選択	履修年次	履修方法
教養の基礎知	I 群	リエゾンゼミ I (基礎演習)	全学部必修	2	1 年以上	健康科学部保健看護学科は、「教養の基礎知」11 単位、「健康知」4 単位の他に、異なる「群」から 3 科目 6 単位以上の計 21 単位以上を選択取得のこと。
		禅のこころ	全学部必修	1	1 年以上	
		仏教入門 (建学の精神・理念を含む)		2	1 年以上	
		哲学入門		2	1 年以上	
		倫理学入門		2	1 年以上	
		宗教学入門		2	1 年以上	
		文学入門		2	1 年以上	
		芸術入門		2	1 年以上	
		ことばと表現		2	1 年以上	
	II 群	英語 I (コミュニケーションを含む)	健康科学部リハビリテーション学科は英語 I～Ⅲまで 6 単位必修。	2	1 年以上	健康科学部リハビリテーション学科は、「教養の基礎知」9 単位、「健康知」4 単位の他に、異なる「群」から 3 科目 6 単位以上の計 19 単位以上を選択取得のこと。
		英語 II		2	1 年以上	
		英語 III		2	2 年以上	
		実用英語 A		1	2 年以上	
		実用英語 B	健康科学部保健看護学科は英語 I～Ⅲまで 6 単位必修。その他、実用英語 A～F のいずれか 2 科目 2 単位を選択取得のこと。	1	2 年以上	
		実用英語 C		1	2 年以上	
		実用英語 D		1	2 年以上	
		実用英語 E		1	2 年以上	
		実用英語 F		1	2 年以上	
		ドイツ語 I (コミュニケーションを含む)		2	1 年以上	健康科学部医療経営管理学科は、「教養の基礎知」9 単位、「科学知」4 単位、「健康知」4 単位の他に、異なる「群」から 2 科目 4 単位以上の計 21 単位以上を選択取得のこと。
		ドイツ語 II		2	1 年以上	
		ドイツ語 III		2	2 年以上	
		実用ドイツ語 A	健康科学部医療経営管理学科は 1 外国語を選択し、I～Ⅲまで 6 単位必修。	2	2 年以上	
		実用ドイツ語 B		2	2 年以上	
		ハングル講座 I (コミュニケーションを含む)		2	1 年以上	
		ハングル講座 II		2	1 年以上	
		ハングル講座 III		2	2 年以上	
		実用ハングル講座 A		2	2 年以上	
		実用ハングル講座 B		2	2 年以上	
		中国語 I (コミュニケーションを含む)		2	1 年以上	
		中国語 II		2	1 年以上	
		中国語 III		2	2 年以上	
		実用中国語 A		2	2 年以上	
		実用中国語 B		2	2 年以上	
		日本語 I	留学生対象	2	1 年以上	
		日本語 II	留学生対象	2	1 年以上	
		日本語 III	留学生対象	2	2 年以上	
		実用日本語 A	留学生対象	2	2 年以上	
		実用日本語 B	留学生対象	2	2 年以上	
		グローバルコミュニケーション I		2	1 年以上	
		グローバルコミュニケーション II		2	2 年以上	
		異文化コミュニケーション		2	2 年以上	
		アジア共同体に向けて		2	1 年以上	
科学知	I 群	生物学の基礎		2	1 年以上	
		化学の基礎		2	1 年以上	
		物理学の基礎		2	1 年以上	

		天文学の基礎	保健看護学科、リハビリテーション学科履修不可	2	1年以上	
		数学の基礎	医療経営管理学科必修	2	1年以上	
		統計学の基礎	医療経営管理学科必修	2	1年以上	
		心理学の基礎		2	1年以上	
		地理学の基礎		2	1年以上	
II 群		現代社会を見る眼	社会福祉学科・福祉行政学科必修	2	1年以上	
		現代福祉の基礎		2	1年以上	
		法の基礎		2	1年以上	
		政治学の基礎		2	1年以上	
		経済学の基礎	福祉行政学科必修	2	1年以上	
		社会学の基礎		2	1年以上	
		歴史学の基礎		2	1年以上	
		教育学の基礎	教育学科必修	2	1年以上	
実践知	I 群	情報処理論	教育学科必修	2	1年以上	
		情報処理実習		2	1年以上	
		情報処理応用実習		2	1年以上	
		キャリアデザインⅠ		2	1年以上	
		キャリアデザインⅡ		2	2年以上	
		キャリアデザインⅢ		2	3年以上	
		インターンシップⅠ		4	2年以上	
		インターンシップⅡ		4	3年以上	
		Study Abroad A (アジア)		1	1年以上	
		Study Abroad B (北米)		1	1年以上	
		Study Abroad C (オセアニア)		1	1年以上	
		Study Abroad D (ヨーロッパ)		1	1年以上	
		Study Abroad E (その他の地域)		1	1年以上	
	II 群	リスクと社会		2	1年以上	
		災害と社会		2	1年以上	
		情報と社会		2	1年以上	
		ボランティア論		2	1年以上	
		福祉ボランティア活動Ⅰ(地域貢献活動を含む)		1	1年以上	
		福祉ボランティア活動Ⅱ(地域貢献活動を含む)		1	2年以上	
		福祉ボランティア活動Ⅲ(地域貢献活動を含む)		1	3年以上	
		福祉ボランティア活動Ⅳ(地域貢献活動を含む)		1	4年以上	
健康知	I 群	スポーツⅠ	全学部必修	2	1年以上	必修2単位
		スポーツⅡ		1	2年以上	
		スポーツⅢ		1	3年以上	
	II 群	健康科学	教育学科初等教育専攻必修	2	1年以上	1科目2単位以上 選択必修。
		食と生活		2	1年以上	
		生涯スポーツ論		2	1年以上	
		レクリエーション論		2	1年以上	
		スポーツ社会学		2	2年以上	
		スポーツの心理学		2	2年以上	
		スポーツ医学		2	2年以上	

※なお、外国語に関して、語学能力検定試験（TOFEL、TOEIC、英検、独検など）を受けている学生は、その点数によって当該外国語の単位を認定する場合がある。

3 総合基礎教育科目の履修方法

(1) 保健看護学科

「教養の基礎知」11単位、「健康知」4単位の他に、異なる「群」から3科目6単位以上の計21単位以上を選択取得してください。

【履修にあたっての留意点等】

■教養の基礎知

○Ⅰ群

- ・「リエゾンゼミⅠ（基礎演習）」および「禅のこころ」は全学部全学科必修科目です。
- ・「リエゾンゼミⅠ（基礎演習）」は、学籍番号によりクラスが指定されます。時間割で授業内容・教室を確認してください。
- ・「禅のこころ」は、学籍番号によりクラスが指定されます。時間割で日程・時間を確認してください。

○Ⅱ群

- ・保健看護学科は英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（合計6単位）が必修に指定されています。その他、実用英語A～Fのいずれか2科目2単位を選択取得し、合計8単位を必修とします。
日本語Ⅰ～Ⅲは留学生対象の科目ですので、留学生以外は受講できません。
- ・外国語科目は履修人数を適正化するため、1・2年次のガイダンス当日に説明会を開催し、履修調整を行いますので、説明会には必ず出席してください。
- ・各外国語のⅠ（2単位）・Ⅱ（2単位）は週2回授業を行います。時間割に注意してください。
- ・なお、外国語に関して、語学能力検定試験（TOFEL、TOEIC、英検、独検など）を受けている学生は、その点数によって当該外国語の単位を認定する場合があります。

■科学知

○Ⅰ群

- ・2年次に保健統計を履修するには、1年次に「統計学の基礎」を履修することが望ましい。
- ・保健看護学科・リハビリテーション学科は「天文学の基礎」は履修できません。

■健康知

○Ⅰ群

- ・「スポーツⅠ」は全学部学科必修科目となります。
- ・「スポーツⅠ」は1年次のガイダンスの日に説明会を開催し、履修登録することになっておりますので必ず出席してください。
- ・開講内容の関係から、受講者数は各授業とも30名に限定されますので、注意してください。
- ・本校地以外で行われる種目は、スクールバスが運行されます（北山キャンパスは除く）。
- ・スポーツⅠを見学授業とする学生は、医師の診断書を提出してください。

○Ⅱ群

- ・保健看護学科・リハビリテーション学科・医療経営管理学科の学生は1科目2単位以上選択し、単位を取得してください。

(2) リハビリテーション学科

「教養の基礎知」 9 単位、「健康知」 4 単位の他に、異なる「群」から 3 科目 6 単位以上の計19単位以上を選択取得してください。

【履修にあたっての留意点等】

■教養の基礎知

○Ⅰ群

- ・「リエゾンゼミⅠ（基礎演習）」および「禅のこころ」は全学部全学科必修科目です。
- ・「リエゾンゼミⅠ（基礎演習）」は、学籍番号によりクラスが指定されます。時間割で授業内容・教室を確認してください。
- ・「禅のこころ」は、学籍番号によりクラスが指定されます。時間割で日程・時間を確認してください。

○Ⅱ群

- ・リハビリテーション学科は英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（合計 6 単位）が必修に指定されています。
- ・日本語Ⅰ～Ⅲは留学生対象の科目ですので、留学生以外は受講できません。
- ・外国語科目は履修人数を適正化するため、1・2 年次のガイダンス当日に説明会を開催し、履修調整を行いますので、説明会には必ず出席してください。
- ・各外国語のⅠ（2 単位）・Ⅱ（2 単位）は週 2 回授業を行います。時間割に注意してください。
- ・なお、外国語に関して、語学能力検定試験（TOFEL、TOEIC、英検、独検など）を受けている学生は、その点数によって当該外国語の単位を認定する場合があります。

■科学知

○Ⅰ群

- ・保健看護学科・リハビリテーション学科は「天文学の基礎」は履修できません。

■健康知

○Ⅰ群

- ・「スポーツⅠ」は全学部学科必修科目となります。
- ・「スポーツⅠ」は 1 年次のガイダンスの日に説明会を開催し、履修登録することになっておりますので必ず出席してください。
- ・開講内容の関係から、受講者数は各授業とも30名に限定されますので、注意してください。
- ・本校地以外で行われる種目は、スクールバスが運行されます（北山キャンパスは除く）。
- ・スポーツⅠを見学授業とする学生は、医師の診断書を提出してください。

○Ⅱ群

- ・保健看護学科・リハビリテーション学科・医療経営管理学科の学生は 1 科目 2 単位以上選択し、単位を取得してください。

(3) 医療経営管理学科

「教養の基礎知」 9 単位、「科学知」 4 単位、「健康知」 4 単位の他に、異なる「群」から 2 科目 4 単位以上の計 21 単位以上を選択取得してください。

【履修にあたっての留意点等】

■教養の基礎知

○Ⅰ群

- ・「リエゾンゼミⅠ（基礎演習）」および「禅のこころ」は全学部全学科必修科目です。
- ・「リエゾンゼミⅠ（基礎演習）」は、学籍番号によりクラスが指定されます。時間割で授業内容・教室を確認してください。
- ・「禅のこころ」は、学籍番号によりクラスが指定されます。時間割で日程・時間を確認してください。

○Ⅱ群

- ・保健看護学科は英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（合計 6 単位）が必修に指定されています。その他、実用英語 A～F のいずれか 2 科目 2 単位を選択取得し、合計 8 単位を必修とします。
- ・リハビリテーション学科は英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（合計 6 単位）が必修に指定されています。
- ・医療経営管理学科は英語・ドイツ語・ハンゲル講座・中国語・日本語（留学生対象）から 1 カ国語を選択し、Ⅰ～Ⅲまで 6 単位必修となります。日本語Ⅰ～Ⅲは留学生対象の科目ですので、留学生以外は受講できません。
- ・外国語科目は履修人数を適正化するため、1・2 年次のガイダンス当日に説明会を開催し、履修調整を行いますので、説明会には必ず出席してください。
- ・各外国語のⅠ（2 単位）・Ⅱ（2 単位）は週 2 回授業を行います。時間割に注意してください。
- ・なお、外国語に関して、語学能力検定試験（TOFEL、TOEIC、英検、独検など）を受けている学生は、その点数によって当該外国語の単位を認定する場合があります。

■科学知

○Ⅰ群

- ・医療経営管理学科は「数学の基礎」「統計学の基礎」が必修です。

■健康知

○Ⅰ群

- ・「スポーツⅠ」は全学部学科必修科目となります。
- ・「スポーツⅠ」は 1 年次のガイダンスの日に説明会を開催し、履修登録することになっておりますので必ず出席してください。
- ・開講内容の関係から、受講者数は各授業とも 30 名に限定されますので、注意してください。
- ・本校地以外で行われる種目は、スクールバスが運行されます（北山キャンパスは除く）。
- ・スポーツⅠを見学授業とする学生は、医師の診断書を提出してください。

○Ⅱ群

- ・保健看護学科・リハビリテーション学科・医療経営管理学科の学生は 1 科目 2 単位以上選択し、単位を取得してください。

※なお、保健看護学科・医療経営管理学科は 21 単位、リハビリテーション学科は 19 単位を超過した単位は卒業単位（専門教育科目関連科目）に加算されます。

(4) 履修上の特例措置

1) 外国語特別単位認定制度（「教養の基礎知」Ⅱ群）

外国語の語学能力検定試験（外部テスト）で、一定のレベルに達している学生は、本人の申請により、所定の手続きを経て、必修の外国語科目の履修を免除される場合があります。

次表に示す各検定試験による単位認定に該当する学生は、1、2年次のガイダンス日の外国語クラス編成の際に申し出るとともに、検定試験の認定書または得点証明書（原本）を提出し、外国語教育連絡会教員の面接と審議を経て、当該外国語の所定の単位を履修したものと見なされた場合、単位が認定されます。

なお、認定を受けた学生は、当該外国語の必修単位の残りを速やかに履修してください。また、外国語の必修科目の全単位（6単位）が認定された場合、当該言語の選択科目の履修が1年次から認められます。

単位認定の基準となる各検定試験の成績は以下の通りです。

科 目	語 学 能 力 検 定 試 験	点数／等級	単位認定される科目
英語	TOEIC	550点以上	英語Ⅰ・Ⅱ
	TOEFL iBT (The Internet-based TOEFL)	52点以上	英語Ⅰ・Ⅱ
	TOEFL PBT (The paper-based TOEFL)	470点以上	英語Ⅰ・Ⅱ
	実用英語技能検定（英検）	適用なし	英語Ⅰ・Ⅱ
	TOEIC	600点以上	英語Ⅲ
	TOEFL iBT (The Internet-based TOEFL)	57点以上	英語Ⅲ
	TOEFL PBT (The paper-based TOEFL)	487点以上	英語Ⅲ
	実用英語技能検定（英検）	準1級以上	英語Ⅲ
ドイツ語	ドイツ語技能検定（独検）	3級	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ
	ドイツ語技能検定（独検）	2級	ドイツ語Ⅲ
中国語	実用中国語技能検定	4級	中国語Ⅰ・Ⅱ
	漢語水平考試（HSK）	初中等3級	中国語Ⅰ・Ⅱ
	中国語コミュニケーション能力検定（TECC）	360点以上	中国語Ⅰ・Ⅱ
	実用中国語技能検定	3級	中国語Ⅲ
	漢語水平考試（HSK）	初中等4級	中国語Ⅲ
	中国語コミュニケーション能力検定（TECC）	440点以上	中国語Ⅲ
ハングル講座	韓国語能力試験	2級	ハングル講座Ⅰ・Ⅱ
	「ハングル」能力検定試験（ハングル検定）	4級	ハングル講座Ⅰ・Ⅱ
	韓国語能力試験	3級	ハングル講座Ⅲ
	「ハングル」能力検定試験（ハングル検定）	3級	ハングル講座Ⅲ

2) 東北福祉大学体育会スポーツ特別履修制度（「健康知」Ⅰ群）

- ① 体育会加盟の所属部員は、課外活動をもって「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」「スポーツⅢ」の単位を下記の条件で取得することができます。
- ② これらの単位認定のために、単位認定委員会を設置します。その構成員は「スポーツⅠ」担当専任教員とします。
- ③ 委員会は、学生生活支援課より提出された各部の資料に基づいて評価認定を行います。
認定単位は、「スポーツⅠ」（2単位）、「スポーツⅡ」（1単位）、「スポーツⅢ」（1単位）とします。
- ④ 評価の対象となる学生は、履修を申請した年度の1年間、各部に継続して在籍活動した部員とします。（途中入部・退部者は対象とはなりません。「スポーツⅠ」は単位未修得の場合は次年度に履修してください。）
- ⑤ 各部部長は、単位認定のために下記の資料を所定の場所に提出することになります。
 - ・履修部員名簿
 - ・特別履修申請書
 - ・活動日誌
 - ・部活動年間出欠表
 - ・特別活動の記録（講習会・講演会・合宿等）
 - ・単位認定申請書
- ⑥ 各部部長は提出する全ての資料を、点検・確認のうえ押印し所定の場所に提出してください。
- ⑦ 虚偽の資料を提出した部は、当該年度単位を取り消し、次年度この制度を利用できません。
- ⑧ この制度の利用は、対象各部・各学生の任意とします。
- ⑨ この制度は平成26年4月1日より一部改正施行します。

第2 卒業所要単位

1 卒業に必要な最低の修得単位は次に示すとおりです。

〔保健看護学科〕

学 科 名	基礎知	科学知	実践知	健康知	計	備 考
総合基礎 教育科目	11	0	0	4	21	21単位を超過した 単位は卒業単位に 加算する。
	3 科目 6 単位以上選択					

専門教育科目区分	専門基礎科目	専門基幹科目	専門発展科目	関連科目	計	卒業所要 総合計単位
保健看護学科	31以上	75以上			106	125

〔リハビリテーション学科〕

学 科 名	基礎知	科学知	実践知	健康知	計	備 考
総合基礎 教育科目	9	0	0	4	19	19単位を超過した 単位は卒業単位に 加算する。
	3 科目 6 単位以上選択					

専門教育科目区分	専門基礎科目	専門基幹科目 (L・C群)	専門基幹科目 A群(作業) B群(理学)	専門基幹科目 C群	関連科目	計	卒業所要 総合計単位
作業療法学専攻	30以上	8 以上	42	23以上		103	124
理学療法学専攻	30以上	8 以上	36	25以上		99	124

〔医療経営管理学科〕

学 科 名	基礎知	科学知	実践知	健康知	計	備 考
総合基礎 教育科目	9	4	0	4	21	21単位を超過した 単位は卒業単位に 加算する。
	2 科目 4 単位以上選択					

専門教育科目区分	専門基礎科目	専門基幹科目	専門発展科目	関連科目	計	卒業所要 総合計単位
医療経営管理学科	24以上	26以上			102	124

※選択必修は、I～IV群中異なる群中から選択履修のこと。

第3 履修方法（履修届）

本学は4学部9学科から構成されており、所属する履修年次区分によって授業科目を適確に履修しなければなりません。授業科目はその年次において単位履修しないと卒業単位に欠けるおそれがあるので注意してください。

卒業の資格を得るには4年以上（8カ年を超えて在学することはできません・学則第18条）在学し、諸条件を満たした卒業単位数を修得しなければなりません。その履修方法は次に述べるとおりです。

※ユニバーサルパスポート（UNIVERSAL PASSPORT）にて Web 履修登録 を実施いたします。

1 履修科目の登録について

本学は年度初めに1年間の授業計画を組むことになっています。従って後期には履修登録期間はありません。

- ① 希望する履修科目の単位を取得するためには、年度始めに行うガイダンスを受け、その年度の履修科目を時間割にそって選択し、Web（UNIVERSAL PASSPORT）上で登録する必要があります。

（※履修登録前に学籍情報の確認と訂正が必要になります）

- ② 指定の期間までに履修登録をしなかった場合、その年度の履修は認められません。

従って、受講および受験してもその科目の単位は取得できませんし、進級・卒業資格取得に支障をきたすことになります。

- ③ 履修科目の登録に際して、上級年次に配当されている科目は履修することができません。
- ④ 同時に重複した科目、時限を誤って登録した科目については、その登録が無効となりますので注意してください。
- ⑤ 履修科目の訂正は、登録期間内に行ってください。
- ⑥ 希望する資格には、必ずチェックマークを入れてください。

※チェックをした資格によっては、課程履修費および実験実習費等の支払いが生じます。

- ⑦ 資格科目で履修登録した場合、卒業要件単位にはなりません。
- ⑧ 副専攻の「臨床美術課程」、「社会貢献活動支援士課程」、「福祉観光課程」、「スポーツマネジメント課程」、「感性デザイン課程」、「デジタルコンテンツアセッサ課程」、「救急救命士課程」の各科目は関連科目としても資格科目としても履修登録できます。ただし、資格科目として履修登録した場合は卒業要件単位にはなりません。

2 履修登録上の注意

登録期間・時間は、UNIVERSAL PASSPORT で確認し、指示に従って下さい。

（登録時間は、平日9：00～19：00、土曜日9：00～15：00、日曜日は登録できません。）

※期間内であれば何度でも登録変更（追加・削除）は可能です。

※期間を過ぎると、登録・訂正・変更は一切できません。

※必ず前期・後期の両方の履修登録を完了させること。

3 履修登録科目の確認について

確認は UNIVERSAL PASSPORT で行い、必ずプリントアウトをし大切に保管して下さい。

※ 登録方法についての詳細は、登録のお知らせ及び登録マニュアルを参照してください。

4 授業科目の履修

授業科目は総合基礎教育科目・専門教育科目・資格科目とに分類されており、それぞれ卒業に必要な授業科目と単位数が定められています。

各年次において履修する科目は次のとおりです。

年次	卒業所要登録単位数	履修方法
1 年次	卒業要件単位として46単位以内まで	総合基礎教育科目・ 専門基礎科目・ 専門基幹科目・ 専門発展科目・ 関連科目・ 資格科目
2 年次	ただし、資格科目履修者は60単位まで登録を認めます。 資格科目には副専攻の「臨床美術課程」、「社会貢献活動支援士課程」、「デジタルコンテンツアセッサ課程」、「救急救命士課程」、「福祉観光課程」、「スポーツマネジメント課程」、「感性デザイン課程」の各科目も含みます。	
3 年次	なお、福祉ボランティア活動Ⅰ～Ⅳ（地域貢献を含む）、インターンシップⅠ・Ⅱ、Study Abroad A～E、地域共創実学教育Ⅰ～Ⅳ、特講（実学臨床教育Ⅰ～Ⅳ）、卒業論文、卒業研究、統合研究は、卒業要件単位として46単位を超えて60単位まで登録を認めます。	
4 年次		

1 年間に履修しなければならない科目数は 4 年次を除き10科目以上とし、原則として 1 年間の修得単位数が33単位以上修得するように努力すること。修得単位が極端に少ない場合、進級を停止することもあるので注意すること。また、次の基準に該当する場合は、アカデミックアドバイザーまたはアカデミックサブアドバイザーの学修面談を受けること。詳しくは UNIVERSAL PASSPORT（学内システムリンクの申請書ダウンロード）をご覧ください。

学年	総修得単位数
1 年生	24単位未満
2 年生	48単位未満
3 年生	78単位未満
4 年生	124単位未満

5 履修科目の取消について

- ①前期及び後期の指定の期間に当該年度の履修科目の取消を行うことができます。
- ②前期科目を後期の指定の期間に取り消すことはできません。
- ③リエゾンゼミは取り消すことができません。
- ④学部学科等により、取消除外科目を指定している場合があります。その場合は、別にお知らせします。
- ⑤安易な取消をしないようご注意ください。そのためには、履修計画をしっかりと立て、学修に真摯に取り組むようにしてください。なお、事由によっては、取消が認められないこともあります。
- ⑥履修科目の取消を希望する場合は、教務課より「履修取消願」の用紙を受け取り、必要事項を記入して、指定の期間内に教務課に提出して下さい。
- ⑦休学する場合は、休学等の願い出を行う際に、教務課で履修科目の取消の手続きをして下さい。
- ⑧その他、病気等のやむを得ない事由により履修科目の取消を希望する場合は、教務課に相談して下さい。
- ⑨履修取消をせずに、履修放棄をすると、GPA が低くなりますので、ご注意下さい。GPA については、「Ⅲ. 履修方法 第8 GPA 制度」をお読み下さい。

6 単位について

単位の設定は、その種類に応じ、次に掲げる基準によって定められた課程を履修した場合に行います。教場における授業時間数は同じであっても、その種類によって単位の計算は異なります。

なお、1単位の授業科目は、授業時間と授業時間外学修を合わせて45時間の学修内容が標準と定められています。

- (1) 講義および演習については、15～30時間の授業をもって1単位となります。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位となります。
- (3) 実技については、30時間の授業をもって1単位となります。
- (4) 実験・実習および実技については、30～45時間の授業をもって1単位となります。

本学では1週に2時間単位の授業を行うので、講義の場合は毎週1回2時間で半年間2単位とすることを原則とします。ただし、科目によっては通年で2単位とするものもあります。

7 科目ナンバリングについて

授業科目の番号と分類により、学修の段階や順序等がわかるようになっています。なお、難易度レベルは必ずしも履修学年と同じではありませんので、ご注意ください。

詳しくは、本学ホームページの「学生生活」の「科目ナンバリング」をご覧ください。

8 シラバスについて

履修に際しては、UNIVERSAL PASSPORT のシラバス照会を用いてその授業のシラバスをよく読んで判断して下さい。

シラバスにより、その授業について何のために何をどのように学び（授業の目的・概要・方法）、何が

できるようになるのか（授業の到達目標）を明確にできます。また、シラバスを通して、教科書・テキスト・参考書・参考資料・参考 URL 等や授業時間外学修（予習・復習等）について事前に知り、学習の準備をします。

なお、シラバスの項目について、次の点にもご留意ください。

- ・「特記事項（資格認定科目等）」は、その科目が関係する資格のすべてを挙げているとは限りません。
- ・「履修上の注意事項」で、欠格条件（試験が受験できない条件、単位が取得できない条件）について明記していない場合であっても、試験規程第6条により、その授業科目につき、2/3以上の出席が必要です。欠格条件について明記がある場合は、それに従います。
- ・「授業計画」の16回目（定期試験）は授業時間には含まれません。
- ・「備考」で、ループリック評価の活用について明記がない場合でも、グループディスカッション、問題解決学習、プレゼンテーション、レポート等の学習にループリックを活用することが望まれます。詳しくは、本学ホームページの「学生生活」の「ループリック」をご覧ください。
- ・「備考」で、「特色ある科目」について記載がある場合、“学修”は全開講回数のうち述べ半数以上の学修をいい、“一部学修”は半数未満の学修をいいます。

9 学内単位互換について

本学では、通信教育部を活用した学内単位互換が可能です。詳しくは、「Ⅲ. 履修方法 第5 通学の課程における学内単位互換に関する規程」をご覧ください。

10 学都仙台単位互換ネットワークについて

協定締結大学で提供される授業科目を履修し修得した単位は、本学の単位として認定されます。詳しくは、「Ⅴ. 学都仙台単位互換ネットワーク」をご覧ください。

11 留学期間中の修得単位の認定について

留学期間中に留学先大学で修得した単位は、所定の単位数まで本学の単位として認定されます。詳しくは、「Ⅲ. 履修方法 第7 学生の海外留学に関する規程」をご覧ください。

なお、協定校との間で交わされている交換留学制度については国際交流センターにお問い合わせください。

12 履修相談・学修相談について

履修について相談したいときや学修について相談したいときは、教務課や学修創造支援室（教務課内）にお越し下さい。また、ゼミ・演習の担当教員も相談に応じています。その際は、ゼミ・演習の担当教員に、直接あるいはコミュニケーションタイムや UNIVERSAL PASSPORT の Q & A 機能を利用して連絡をおとり下さい。

なお、本学ホームページの「履修 Q & A」では、よくある質問と回答を公開しています。

13 長期履修学生の制度について

職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えた一定の期間について履修計画を立て、修学し卒業することを希望する場合に、それを認める制度です。詳しくは、本学ホームページの「学生生活」の「長期履修学生制度」をご覧ください。

14 特色ある科目について

本学の3つの特色（グローバルな視点、地域貢献、感性を育む大学環境）を踏まえた「国際・グローバル化」「地域」「感性・感性福祉」＋「防災・減災・復興支援」「認知症」に関する科目が特色ある科目として数多く開講されており、広く深く学ぶことができます。また、これらについて資格等も取得できます。詳しくは、本学ホームページの「学生生活」の「特色ある学修・資格・科目」をご覧ください。

第4 履修規程

(目的)

第1条 この履修規程（以下「規程」という）は、東北福祉大学（以下「本学」という。）学則第37条第3項に基づき、本学の授業科目の履修に関して必要な事項を定めるものである。

(開講時期による授業科目)

第2条 授業科目のうち、1年間にわたり継続するものを通年科目といい、前期に開講し完結するものを前期科目、後期に開講し完結するものを後期科目という。

(授業時間)

第3条 授業時間は、以下のとおりとする。

1 時限目 8:40～10:10

2 時限目 10:25～11:55

3 時限目 12:35～14:05

4 時限目 14:20～15:50

5 時限目 16:05～17:35

6 時限目 17:50～19:20

(単年度の履修単位)

第4条 単年度の登録単位数は、原則として46単位以内とする。

2 福祉ボランティア活動Ⅰ～Ⅳ（地域貢献を含む）、インターンシップⅠ・Ⅱ、Study Abroad A～E、地域共創実学教育Ⅰ～Ⅳ、特講（実学臨床教育Ⅰ～Ⅳ）、卒業論文、卒業研究、統合研究は、前項の登録単位数を超えて60単位まで登録を認める。

3 資格科目履修者は60単位まで登録を認める。資格科目には副専攻「福祉観光」「感性デザイン」「スポーツマネジメント」「臨床美術」「社会貢献活動支援士」「デジタルコンテンツアセッサ」「救急救命士」の各課程の科目を含めるものとする。

4 1年間に履修しなければならない科目数は4年次を除き10科目以上とし、原則として1年間の修得単位数が33単位以上修得するように努力するものとする。

5 4年次で、やむをえない事由がある場合、適切な指導を受けた上で、本条に定める単位数を越えて履修登録することを認めることがある。

6 編入生、転学部生、転学科生及び再入学生で、やむをえない事由がある場合、適切な指導を受けた上で、本条に定める単位数を越えて履修登録することを認めることがある。

7 総修得単位数又は通算 GPA が通年及び後期終了科目成績発表時に次の基準に該当する場合、原則として、通年及び後期終了科目成績発表後1ヶ月以内と次年度の前期終了科目成績発表後1ヶ月以内に、アカデミックアドバイザー又はアカデミックサブアドバイザーの個別面談を受け、学修面談に関するリエゾンポートフォリオを記入しなければならない。アカデミックアドバイザーは、リエゾンゼミあるいは専門演習の担当教員とし、アカデミックサブアドバイザーは、学修創造支援室の支援員、その他の教

職員（リエゾンゼミ I の副担任、実習指導担当の教員、学生相談員、学生団体の部長、助教など）とする。

学年	総修得単位数	通算 GPA
1 年生	24単位未満	1.00未満
2 年生	48単位未満	
3 年生	78単位未満	
4 年生	124単位未満	

（履修登録）

第 5 条 履修登録は、Web 履修登録の方法により、学年暦の定める期間内にしなければならない。

- 履修登録の所定の期間後は、本規程第 6 条に定める履修取消を除いて、原則として登録、追加、訂正及び変更することができない。
- 後期に復学する場合は、本条第 1 項にかかわらず、復学等の願い出を行う際に、後期科目の履修登録を認める。
- その他、病気等のやむを得ない事由により所定の期間に履修登録ができない場合は、教務課に相談するものとする。

（履修取消）

第 6 条 履修取消は前期及び後期の学年暦の定める期間にしなければならない。

- 履修取消ができる科目は当該年度に履修登録した科目とする。
- 前期科目を後期に取り消すことはできないものとする。
- リエゾンゼミは、原則として取り消すことができないものとする。
- 学部学科等が指定した取消除外科目は、原則として取り消すことができないものとする。
- 履修取消を希望する学生は、教務課に「履修取消願」を提出するものとする。
- 休学する場合は、本条第 1 項にかかわらず、休学等の願い出を行う際に、履修取消を認める。
- その他、病気等のやむを得ない事由により履修取消を希望する場合は、教務課に相談するものとする。

（複数開講の授業科目の履修）

第 7 条 同じ授業科目が複数開講されている場合は、その中の一つの授業科目を選んで履修するものとする。ただし、同じ授業科目であっても、履修条件を設けている場合は、この限りではない。

（履修の制限）

第 8 条 授業科目により、履修条件を設けて履修者の制限をすることがある。

- 同じ時限に複数の科目を同時に履修することはできない。

（再履修）

第 9 条 不合格科目、無資格科目、放棄科目、すでに単位を修得した授業科目と同じ科目（以下「既単位修得科目」という。）を再び履修することができる。ただし、既単位修得科目の再履修は、単位を修得した年度の次年度に開講する科目の場合に限る。

- 既単位修得科目を再履修する場合は、単位を修得した年度の 3 月末までに教務課に「単位取得取消・

再履修願」を提出するものとする。

3 既単位修得科目の再履修を願い出た年度に当該授業科目が開講されなかった場合は、当該授業科目の単位取得取消を行わないものとする。

4 再履修した場合、その科目の成績評価は再履修後のものとする。

(外国語特別単位認定制度)

第10条 外国語の語学能力検定試験(外部テスト)で、一定のレベルに達している学生については、所定の手続きを経て、必修の外国語科目の履修を免除し、単位を認定することができる。単位認定の基準となる各検定試験の成績及び単位認定される科目については別表のとおりとする。

2 所定の手続きは、別に定める。

(本学体育会スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ特別履修制度)

第11条 体育会に加盟する各部に所属する部員については、所定の手続きを経て、課外活動をもって「スポーツⅠ～Ⅲ」の単位を認定することができる。

2 所定の手続きは、別に定める。

(編入学生の履修)

第12条 編入学生の履修は、編入年次が適用されるものとする。

(転学部生、転学科生及び再入学生の履修)

第13条 転学部生、転学科生及び再入学生の履修は、該当年次が適用されるものとする。

(規程の改廃)

第14条 本規程の改廃は、教務部委員会の議を経て、学長が行う。

(補則)

第15条 この規程に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日より施行する。なお、平成25年度まで入学した学生は従前によるものとする。

2 この規程は、平成27年4月1日より一部改正し施行する。なお、第3条、第4条第3項、第4条第7項及び第10条については、全学年に適用するものとする。第4条第2項については、平成27年度入学生より適用するものとする。

別表

科 目	語 学 能 力 検 定 試 験	点数／等級	単位認定される科目
英語	TOEIC	550点以上	英語Ⅰ・Ⅱ
	TOEFL iBT (The Internet-based TOEFL)	52点以上	英語Ⅰ・Ⅱ
	TOEFL PBT (The paper-based TOEFL)	470点以上	英語Ⅰ・Ⅱ
	実用英語技能検定 (英検)	適用なし	英語Ⅰ・Ⅱ
	TOEIC	600点以上	英語Ⅲ
	TOEFL iBT (The Internet-based TOEFL)	57点以上	英語Ⅲ
	TOEFL PBT (The paper-based TOEFL)	487点以上	英語Ⅲ
	実用英語技能検定 (英検)	準1級以上	英語Ⅲ
ドイツ語	ドイツ語技能検定 (独検)	3級	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ
	ドイツ語技能検定 (独検)	2級	ドイツ語Ⅲ
中国語	実用中国語技能検定	4級	中国語Ⅰ・Ⅱ
	漢語水平考試 (HSK)	初中等3級	中国語Ⅰ・Ⅱ
	中国語コミュニケーション能力検定 (TECC)	360点以上	中国語Ⅰ・Ⅱ
	実用中国語技能検定	3級	中国語Ⅲ
	漢語水平考試 (HSK)	初中等4級	中国語Ⅲ
	中国語コミュニケーション能力検定 (TECC)	440点以上	中国語Ⅲ
ハングル講座	韓国語能力試験	2級	ハングル講座Ⅰ・Ⅱ
	「ハングル」能力検定試験 (ハングル検定)	4級	ハングル講座Ⅰ・Ⅱ
	韓国語能力試験	3級	ハングル講座Ⅲ
	「ハングル」能力検定試験 (ハングル検定)	3級	ハングル講座Ⅲ

第5 試験規程

第1章 目 的

第1条（目 的） この規程は東北福祉大学学則第37条2項に基づき、定期試験および追試験の実施に必要な事項を定める。

＜注＞ 試験は、修学中でもっとも重要な事柄に属するものであり、この規程に定める手続き、あるいは掲示には十分に注意すること。

第2章 定 期 試 験

第2条（定期試験の時期） 定期試験は年2回とし、前期試験を7月～8月に、後期試験を1月～2月に行う。ただし、科目によっては年1回とすることがある。

2 各種の演習、実習科目については、出席時間・レポート提出または授業時間中の試験により定期試験にかえることがある。

第3条（試験時間） 試験時間は原則として、全科目50分とし、その試験時刻は次のとおりとする。ただし、土曜日は第3時限で終了するものとする。

時 限	時 間	時 限	時 間
第1時限	8：50～9：40	第5時限	14：10～15：00
第2時限	10：00～10：50	第6時限	15：20～16：10
第3時限	11：10～12：00	第7時限	16：30～17：20
第4時限	13：00～13：50	第8時限	17：40～18：30

2 レポート試験は、次のとおりとする。

用紙・表紙 用紙は特別の指示がない限り本学所定用紙を使用すること。

記述方法 鉛筆での作成は認めない。

提出方法

(1) 専任教員（学内に研究室がある教員）の科目は担当教員へ提出のこと。

(2) 兼任教員（学内に専用の研究室がない教員）より教務部へ提出指示のある科目は、指示期間内に教務部カウンター設置の「レポート受領ボックス」に提出のこと。教務部受付時間は、平日は午後4時、土曜日は正午までとする。

第4条（試験の日時および試験場） 試験の日時および試験場は、試験開始の1週間前に UNIVERSAL PASSPORT および教務部指定の掲示場に掲示する。ただし、後期追試験については3日前に掲示する。

2 科目によっては、入学年度別または学科別もしくは学籍番号別に、それぞれの試験場に分けて実施することがある。

第5条（試験本部） 試験期間中は教務部に試験本部を置く。

2 試験本部は、試験に関する一般業務のほか試験の重複者の処理等も行う。

第6条（無資格者の掲示） 次に該当する者は、定期試験を受けることができない。

- (1) その授業科目につき、開講実回数の $\frac{1}{3}$ 以上を欠席した者
- (2) web履修登録をしなかった者
- (3) 学費未納者

2 上記該当者は掲示で発表する。

第7条（受験資格の証明） 受験にあたっては、学生証を持参し、着席した机上通路側に顔写真が見えるように置くこと。

2 万一学生証を忘れた場合は、一号館教務部前の販売機で300円の証紙を購入のうえ、学生生活支援課より仮学生証の交付を受けること。ただし、「仮学生証」の発行は試験期間中一回限りとし、発行当日のみ有効とする。

第8条（遅刻および退室） 試験開始後20分以上遅刻した者は入室できない。

2 開始後25分を経過し、かつ試験監督者が許可したときは退室することができる。ただし、一旦退室した者は再入室できない。

第9条（着席） 試験場では、前方から空席をおかずに縦一列、横一列置きに着席すること。

- 2 試験監督者が座席の移動を指示したときは、それに従うこと。
- 3 出席用紙が配布されたときは、ただちに学年・学籍番号および氏名を記入のうえ、試験監督者の指示に従うこと。

第10条（持参物およびその貸借） 当該試験において使用を許可されたもの以外は、机上に置いてはならない。

- 2 持込物の貸借はこれを認めない。また下敷きの使用も認めない。
- 3 携帯電話・PHS等はスイッチを切っておくこと。
- 4 計算機能および翻訳記憶機能付の時計等の使用および着用は認めない。

第11条（答案の作成） 答案作成が許可されたときは、ただちに答案用紙の所定の欄に学籍番号および氏名を万年筆またはボールペンで記入すること。

第12条（答案の提出） 試験に出席したものは、すべて答案を提出すること。ただし、受験を放棄する場合は答案用紙に「棄権」と記して提出すること。

第13条（成績および評価） 試験科目の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

2 試験の評価は、秀（90点～100点）・優（80点～89点）・良（70点～79点）・可（60点～69点）を合格とし、不可（59点以下）は不合格とする。

第3章 追 試 験

第14条（追試験の受験資格および受験手続） 追試験は、当該学期の受験資格のある者が次項に該当する場合に限り、当該科目について行う。

- 2 定期試験実施当日に次の事由のひとつに該当し、かつ当日を含めて前期試験の場合は6日以内、後期試験の場合は指定した期日以内に、所定の追試験願書に必要書類を添え、教務部を通じて学長に提出し、その理由が正当と認められた者。

区 分	事 由	必 要 書 類
1	4年生で就職試験のために欠席した者	就職試験の受験証明書
2	天災地変のため欠席した者	被災証明書
3	交通事故のため欠席した者	交通事故証明書
4	急病で受験不可能となって当日教学部へ連絡した者	医師の診断書
5	その他止むを得ない事情で受験不可能となった者	受験不可能を証する書類

- 3 例えば、次のような場合は正当な欠席事由として認めない。

- (1) 明らかに自己の不注意による場合（朝寝坊、試験時間割の見間違い等）
- (2) 交通渋滞による場合
- (3) 稼業またはアルバイトの都合による場合

第15条（追試験の実施） 追試験の実施は、定期試験の例にならって行う。ただし、試験場では学生証のほかに追試験許可書を提示しなければならない。

第16条（追試験の成績および評価） 追試験の成績および評価は第13条に準ずる。

第4章 不 正 行 為

第17条（不正行為） 各試験にあたり不正行為があった場合は、即時処分として一部または全科目を無効とし、その他の処分は教授会で決定しこれを発表する。

第18条（懲戒の手続） 不正行為者に対する懲戒は、学則によるが、まず教務部委員会において原案を審議作成し、教授会の審議を経て、学長が決定しこれを発表する。

第19条（懲戒の種類） 不正行為者に対する懲戒の種類は学則第50条に準ずる。

第20条（記録および通知） 不正行為者の懲戒は、学籍簿に記録し、これを保護者に通知する。

第21条（事務処理） 不正行為に関わる事務処理は教務部で行う。

附 則

1. この規程は昭和61年4月1日より施行する。
2. この改正規程は、平成3年4月1日より施行する。
3. この改正規程は、平成18年4月1日より施行する。
4. この改正規程は、平成22年4月1日より施行する。

第 6 4 年次特別再試験規則

1. (実 施 科 目) 当該年度かつ卒業要件科目で担当教員が特別再試験を実施すると発表した科目。
2. (受 験 資 格) 定期試験を受験し不合格になった者。
3. (受 験 手 続) 特別再試験を希望する学生は、2月下旬に当年度履修科目の成績表を受領し、各自確認の上、所定用紙に受験料分の証紙を添付し、指定期日までに教務部で手続きすること。
4. (受 験 料) 特別再試験の受験料（レポート科目も含む）は、1科目につき3,000円とする。
5. (試験の評価) 特別再試験の合格者の評価は65点を限度とする。
6. (試験の実施) 特別再試験の実施は、定期試験の例にならって実施する。ただし、試験場では学生証の外に特別再試験受験許可書を提示すること。
7. (附 則) この規則は平成7年4月1日より施行する。
この規則は平成11年1月1日より改正施行する。

注意 特別再試験は例外措置であることを充分認識して合格するよう努力すること。

特別再試験の受験者が不合格となった場合、これ以上の措置は行わない。



第7 通学の課程における学内単位互換に関する規程

(目 的)

第1条 この規程は、学則第37条第3項に基づき、通学の課程の学生が通信教育部において、通信教育部の授業科目を履修し単位を修得する場合の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(出 願)

第2条 通信教育部の授業科目を履修し単位の修得を希望する通学の課程の学生は、通信教育部に「学内単位互換による授業科目履修願」を所定の期日まで提出するものとする。また、教務部に「学内単位互換願」を所定の期日まで提出するものとする。

2 前項の所定の期日は、通信教育部における4月生又は10月生の出願の受付期間とする。

(履修登録)

第3条 履修登録は、通信教育部の科目等履修生に準じるものとする。

(履修単位数)

第4条 単年度内の履修単位数は、10単位までとする。ただし、学外の地域で3ヶ月以上の長期滞在の地域貢献及び地域共創学修を行う者（以下「長期地域学修学生」という。）、3ヶ月以上の海外留学及び交換留学を行う者（以下「長期留学学生」という。）、3ヶ月以上のインターンシップを行う者（以下「長期インターンシップ学生」という。）については、単年度内の履修単位数は32単位までとする。また、長期滞在地域学修学生のうち、被災地に居住して復興支援に取り組む学生については単年度内の履修単位数は、本学履修規程第4条に定める上限までとする。

2 学内単位互換の履修単位数は、学則に定める登録単位数の上限に含めることとする。

3 学内単位互換で修得できる単位数は60単位までとする。ただし、他大学の単位互換を利用する場合は、他大学で修得した単位を含めて60単位とする。

(履修が可能な科目)

第5条 履修が可能な科目は、科目等履修生の履修可能科目とする。ただし、「レクリエーション事業」以外の実習・演習科目を除く。

(履修の制限)

第6条 授業科目により、履修の制限をすることがある。

2 通学の課程と通信教育部で同じ授業科目（転換可能な科目を含む）が開講されており、通学の課程で履修が可能な場合は、通信教育部の科目を履修することはできない。ただし、レクリエーション・インストラクター資格に関する科目は除く。

3 長期滞在地域学修学生、長期留学学生及び長期インターンシップ学生は、前項にかかわらず、通信教育部の科目を履修することができるものとする。

4 すでに通学の課程で単位を修得した授業科目を通信教育部で履修することはできない。

(履修期間)

第7条 履修期間は、通信教育部の科目等履修生の履修期間に準じるものとする。

(科目履修及び単位修得の方法)

第8条 科目履修の方法は、通信教育部の定めにより行われる授業を受講するものとする。

(成績の評価及び通知)

第9条 通信教育部部長は、通信教育部の定める科目修了試験その他の方法で履修科目の認定をした者について、「学内単位互換学生成績通知書」により科目名、単位数及び成績評価等を所定の期日までに教務部部長に通知するものとする。

2 前項の所定の期日は、履修科目の認定後、2週間以内とする。

(通信教育部で修得した単位の認定)

第10条 学生が通信教育部において修得した単位の認定については、通信教育部からの通知に基づき、教務部が行うものとする。

2 名称及び単位数が、通学の課程の総合基礎科目、各学部学科の専門教育科目又は資格科目に該当及び充当する場合は、通学の課程の同じ科目として認定する。

3 前項以外の科目は、専門教育科目（関連科目）として認定する。

(授業料等)

第11条 通信教育部においては授業料等を徴収しない。ただし、実験実習及び実技等に係る費用については、必要に応じて実費を徴収する。

2 通信教育部の授業科目の履修を認められた者は、当該期間中においても、通学の課程における所定の授業料等を納入しなければならない。

(学則の準用)

第12条 この規程に定めるもののほか、学年、学期、休業日、休学、復学、退学、除籍、単位履修及び算定基準、学習の評価、賞罰等については、学則並びに通信教育部学則を準用する。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日より施行する。なお、平成26年度入学者から適用し、平成25年度までに入学した学生は、長期滞在地域学修学生の履修又はレクリエーション・インストラクター資格に関する科目の履修に限り、認める。

2 この規程は、平成26年5月1日から一部改正施行し、平成26年度入学生に遡及して実施する。

3 この規程は、平成27年4月1日から一部改正施行する。なお、長期留学学生及び長期インターンシップ学生の履修は、全学年に適用するものとする。

第8 学生の海外留学に関する規程

(目 的)

第1条 この規程は、東北福祉大学（以下「本学」という。）学則第43条に基づく本学学生の海外留学に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(留学の種類)

第2条 本学における海外留学（以下「留学」という。）の種類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 協定留学 本学と外国の大学、又はそれに相当する高等教育機関との留学に関する相互交流の協定に基づくものをいう。
- (2) 認定留学 外国の大学、又はそれに相当する高等教育機関若しくは研究機関で正規の授業を受けるか研究に従事するものをいう。

(留学の対象機関)

第3条 留学の対象機関は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 本学と協定を結んでいる大学
- (2) 学士号及び学位の授与権を持つ大学であつて、本学学長が認定した大学
- (3) 高等教育機関又は研究機関であつて、本学学長が認定した機関

(留学の志願)

第4条 留学を志願する者は、所定の留学願に次に掲げる書類を添えて、学長に提出しなければならない。

- (1) 留学計画書（留学先大学、学部学科、留学目的、留学期間、滞在予定住所等）
- (2) 受け入れ機関の入学許可証
- (3) その他語学能力を示す書類及び健康診断

(留学の審査及び許可)

第5条 前条により志願した者の留学の許可は、本学国際交流センター（以下「センター」という。）又は学内関係機関が行う書類審査、必要に応じ、筆記又は面接に基づいて審査し、教授会の議を経て学長が行う。

(留学の期間)

第6条 留学の期間は、1年以内とする。ただし、センター委員会が発議し、部長学科長会議又は研究科委員会、及び教授会の議を経て学長が認めた場合は、この限りではない。

- 2 留学期間は、1年以内に限って修業年限及び在学期間に算入することができる。ただし、センター委員会が発議し、部長学科長会議又は研究科委員会、及び教授会の議を経て学長が認めた場合は、この限りではない。

(留学中の報告)

第7条 留学中の学生は、留学中の学習、生活、所要経費等について、本学が指定した期間ごとに、センターに報告するものとする。

(留学報告書)

第8条 留学した学生は、留学期間終了後、1ヵ月以内に所定の留学報告書をセンターを経て、学長に提

出しなければならない。

(修得単位の認定)

第9条 留学期間中に留学先大学で修得した単位は、次に掲げる書類を留学報告書に添えて提出した者に限り、所定の手続により、学部にあつては30単位、大学院にあつては10単位を限度として卒業又は課程修了に必要な単位に振替し、又は換算して認定することができる。

(1) 所定の単位認定願

(2) 留学先で発行した履修科目の成績証明書

(3) 履修科目の時間数、単位数及び学習内容を証明する文書

(4) その他必要と認められるもの

(履修科目の登録等)

第10条 履修科目の登録は、原則として通常の手続による。ただし、留学中は代理人による登録を認めるものとする。

2 学年暦の差異によつて生じる通年科目の履修手続上の取扱いは、次に掲げる方法によるものとする。

(1) 第1学期終了後に留学する場合は、当該年度の第1学期に通年科目も履修し、留学終了後の第2学期にこれを継続して履修することができる。

(2) 5月末までに留学報告書を提出できる者は、通年科目を履修することができる。

(留学許可の取消し)

第11条 学長は、次の各号の一に該当する留学生については、センターが本学関係機関との密接な協力のもとに事務手続を行い、留学の許可を取消することができる。

(1) 修学の実が上がらないと認められた者

(2) この規程の定める義務を怠つた者

(3) 学生証が取り消された者

(4) その他、学生としての本分に反した者

(留学中の学生納付金)

第12条 この規程に基づいて留学する学生は、本学学則に定める学生納付金を納めなければならない。

(留学生奨学金)

第13条 この規程に基づいて留学する学生に対しては、留学生奨学金を給付することができる。

2 前項による留学生奨学金に関する規程は、別に定める。

(事務)

第14条 学生の海外留学に関する事務は、本学関係機関との緊密な協力のもとにセンターが行う。

(補則)

第15条 この規程に定めるもののほか、学生の海外留学について必要な事項は、学長が別に定める。

附則

この規程は、平成18年6月1日から施行する。

この規程は、平成21年11月1日から一部改正施行する。

第9 GPA 制度

本学は、学生の皆さんが主体的に学ぶことを支援するとともに、教育の質を保証するために、GPA (Grade Point Average) を全学的に導入しています。

1 GPA とは

GPA は、世界的に用いられている成績評価です。

GPA は、成績評価基準に基づく評定を GP (Grade Point) に換算し、所定の計算式を用いて算出した1単位あたりの GP 平均値のことをいいます。成績の評定、点数、評価基準、および GP の関係は次のとおりです。

評定	点数 (100点満点)	評価基準			GP (科目の評点)
		到達目標	成績	判定	
秀	90点～100点	ほぼ完全に達成	きわめて優秀	合格	4
優	80点～ 89点	十分に達成	優秀		3
良	70点～ 79点	概ね達成	良好		2
可	60点～ 69点	最低限達成	最低の合格可		1
不可	59点以下	達成していない	合格不可	不合格	0

※「無資格」「放棄」の科目は GP=0 とする。

2 GPA の対象科目と適用除外科目

GPA の対象科目は、適用除外科目を除く卒業要件で履修登録した科目になります（不合格科目および無資格・履修放棄科目を含む）。資格要件で履修登録した科目は含まれません。

適用除外科目は以下になります。

- ①認定科目（「認定・不認定」等で評価する科目）
- ②編入学又は転入学した際の単位認定科目
- ③本学入学前に修得した単位認定科目
- ④留学により修得した単位認定科目
- ⑤外国語特別単位認定制度により修得した単位認定科目
- ⑥「学都仙台単位互換ネットワークに関する協定」により他大学で修得した科目
- ⑦履修取消期間中に履修取消願の手続きをし、取消を認められた科目
- ⑧成績提出期限までに成績の評価をすることができない科目
- ⑨学部学科等が指定した科目（ある場合は、別にお知らせします）

3 GPA の計算式について

$$\text{GPA} = \frac{\text{「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1 + \text{「不可」の単位数} \times 0}{\text{履修登録した科目の単位数合計（「不可」「無資格」「放棄」を含む）}}$$

4 GPAの種類

GPAには、在学中の全期間を通算して算出する通算のGPAと各年度の各学期で算出する学期のGPAがあります。前期のGPAは当該年度の前期履修科目を用いて算出され、後期のGPAは当該年度の後期履修科目及び通年履修科目を用いて算出されます。

5 履修登録上の注意

履修放棄をした科目も、GP=0ポイントとしてGPA算出の対象となります。したがって、安易な履修放棄をしないように、シラバスや時間割等を踏まえてよく考えて履修計画を立てた上で、履修登録をしましょう。

6 履修取消について

履修放棄によりGPAが低くならないよう、指定の履修取消期間中に当該年度の履修を取り消すことができます。履修取消については、「Ⅲ. 履修方法」の「第2履修方法（履修届）」の「5 履修科目の取消について」をご覧ください。

7 再履修について

GPAを高めるよう、すでに単位を修得した授業科目を単位を修得した年度の次年度に開講する科目の場合に限り、再び履修することができます。ただし、その科目の成績評価は再履修後のものとなりますので、慎重に考えた上で再履修してください。

再履修する場合は、単位を修得した年度の3月末までに教務課に「単位取得取消・再履修願」を提出してください。

8 GPAの確認について

自分のGPAは、UNIVERSAL PASSPORTの成績照会で確認することができます。通常表示では、通算のGPAが表示され、年度学期別表示では学期のGPAが表示されます。本学は、通年制ですので、学期のGPAは参考としてご活用ください。

9 GPAの活用、学修面談、卒業試験

- ① GPAは、自らの学修状況（学修の到達目標の達成レベルやその推移等）をふり返り、自己管理して学んでいくために活用します。詳しくは、本学ホームページの「リエゾンナビ『学びとの出会い』」の「その他の資料」の「GPAの活用について」をご覧ください。また、GPAを活用した学修状況のふり返りには、UNIVERSAL PASSPORTのマイステップをご利用ください。
- ② 通算GPAが1.00未満の場合は、アカデミックアドバイザーまたはアカデミックサブアドバイザーの学修面談を受けることが必要です。詳しくは、UNIVERSAL PASSPORT（学内システムリンクの申請書ダウンロード）をご覧ください。
- ③ 本学を卒業するためには、所定の授業科目および単位数の取得と卒業時の通算GPAが1.50以上であることが必要です。通算GPAが1.50未満の場合は、学部学科で行う卒業試験を受け、卒業試験に合格することが必要です。

第10 授業受講上の留意事項

1 授業に関する連絡について

休講・補講・教室変更・試験時間割、授業等の情報は UNIVERSAL PASSPORT の「授業関連」、「お知らせ」に掲載されます。なお、休講・補講・教室変更の情報、授業の担当教員によるお知らせは原則的に掲示のみとなりますので、毎日、UNIVERSAL PASSPORT で確認するようにしてください。

2 台風・大雪等による気象警報等が発令された場合の授業措置について

「暴風警報と大雨警報（両方が同時に）」「大雪警報」「気象特別警報」（以下「気象警報」という。）が仙台市東部（東部仙台）に発令されている場合、本学の通学課程における授業の休講措置は、原則として次のとおりとします。

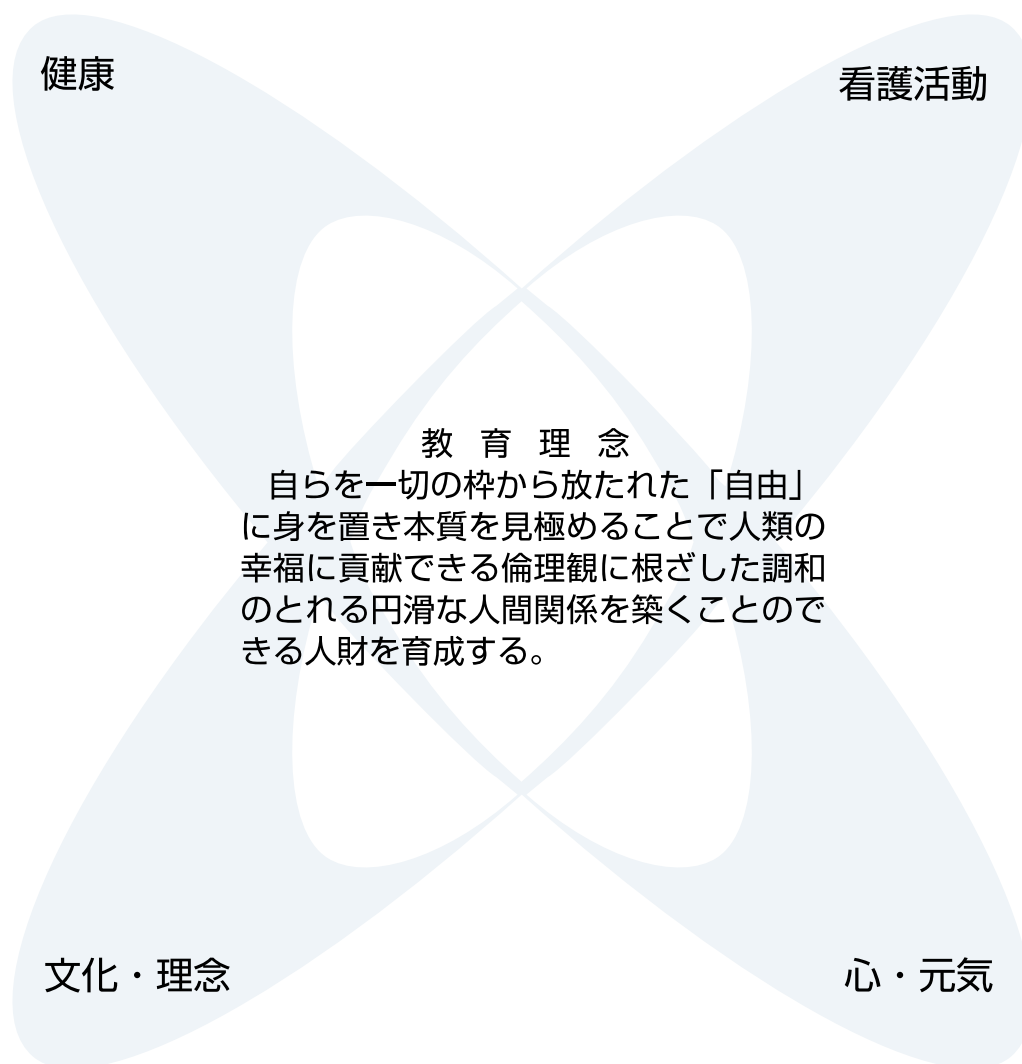
1. 午前7時までに気象警報が解除された場合、平常どおりの授業を行う。
2. 午前7時から午前10時までの間に気象警報が解除された場合、1時限と2時限の授業は休講とし、3時限以降の授業は平常どおりの授業を行う。
3. 午前10時を過ぎても気象警報が発令中の場合、全日休講とする。
4. 授業の開始後に気象警報が発令された場合は、次の時限以降の授業を休講とする。
5. その他の災害や事故、緊急事態、特別な事情等が生じた場合は、前4項にかかわらず、状況に応じて、教務部長が授業措置を決定する。
6. 前5項の措置により、休講となった授業の補講については、別途指示する。
7. 授業の休講措置は本学の学内ポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT）で速やかに周知する。
8. 実習、インターンシップ、ボランティア活動等の場合は、前7項によらず、実習先、インターンシップ先、ボランティア活動先等の指示に従うものとする。

保健看護学科

TOHOKU UNIVERSITY

(H) 保健看護学科

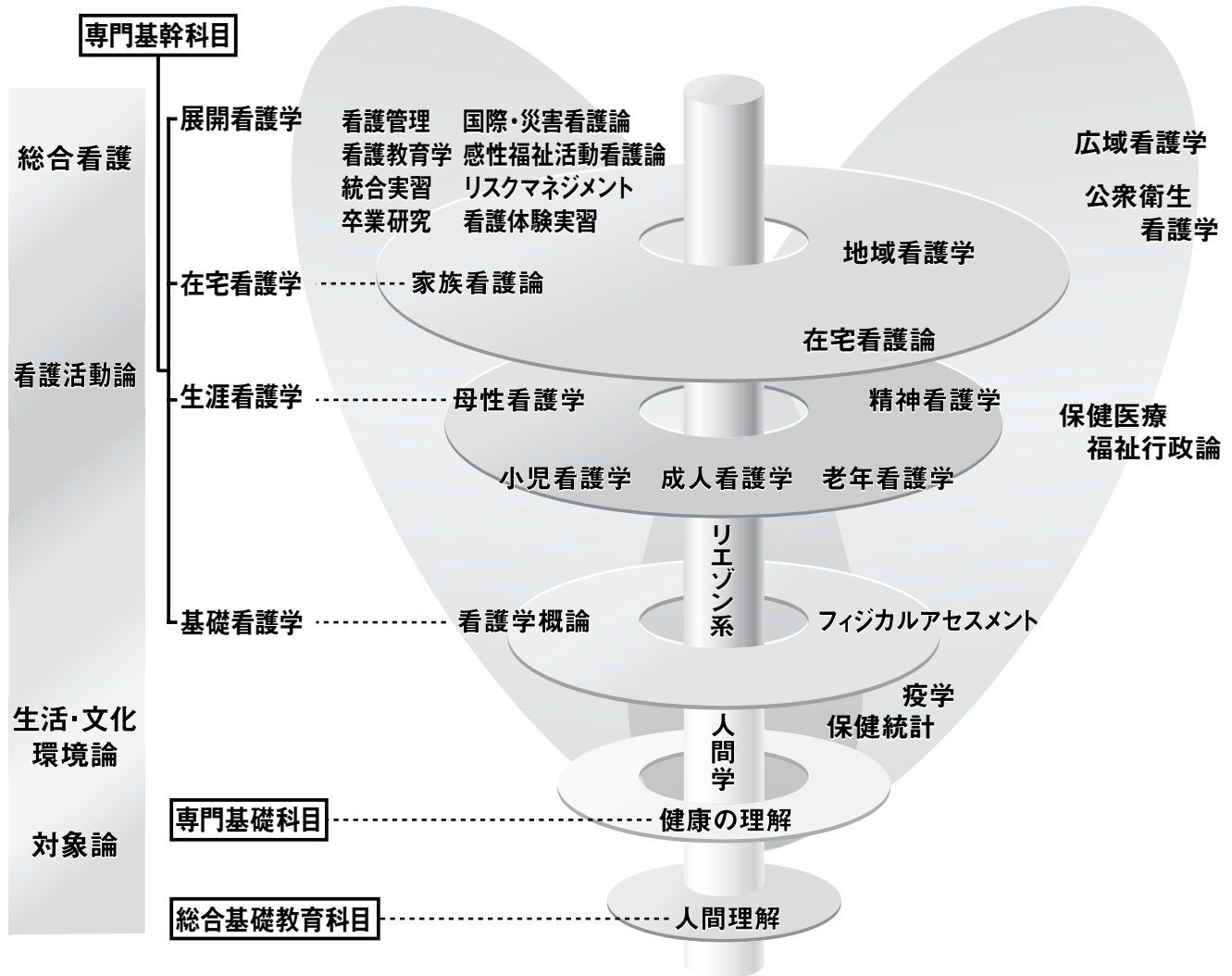
教育理念と教育目標



教 育 目 標

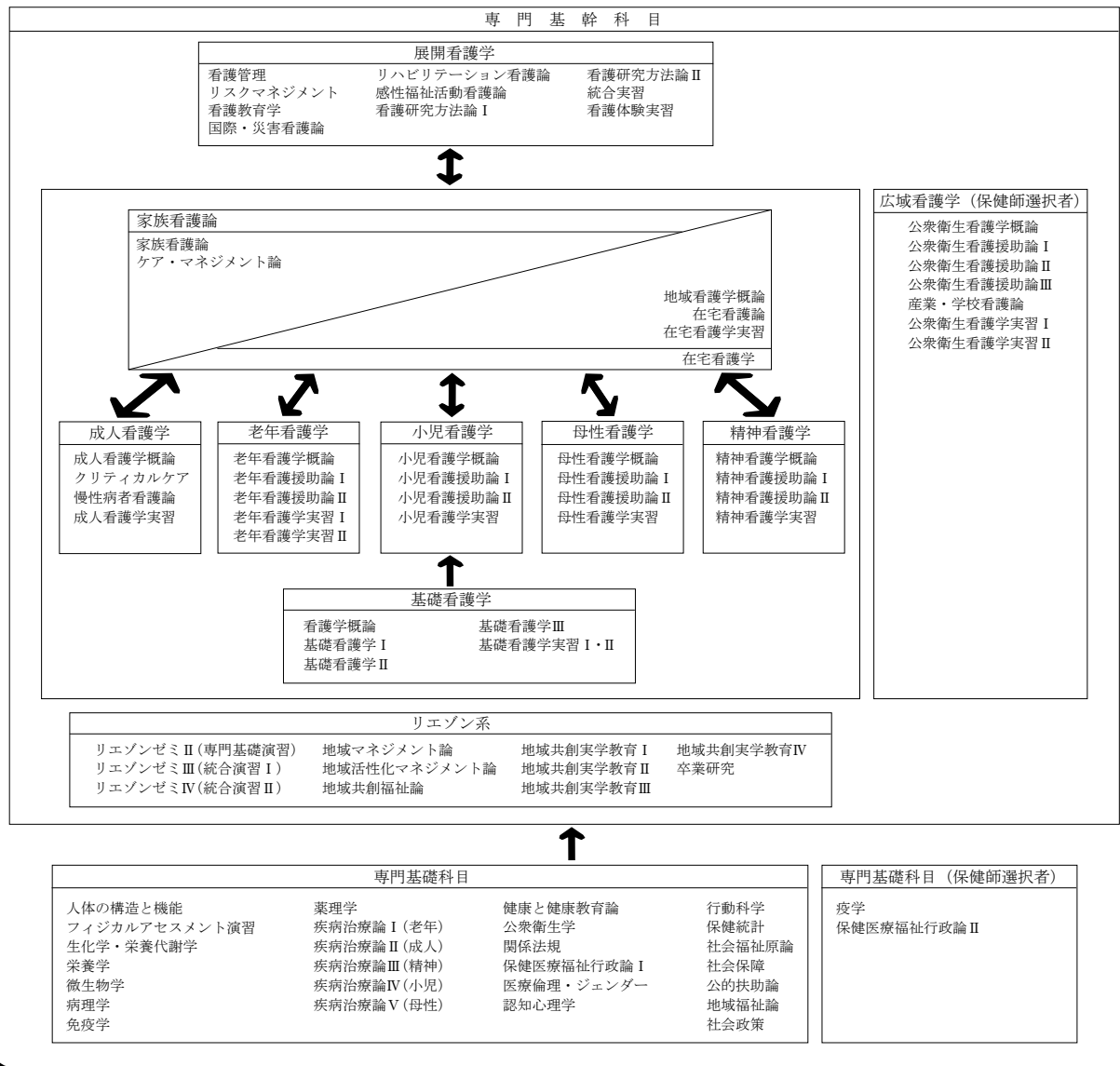
- ① 豊かな人間性を養う。
- ② 命の尊厳を看る。
- ③ 自立性、主体性を発揮する。
- ④ 科学的根拠に基づく専門知識と技術を備える。

教育課程の構造



教育体系

●専門教育科目



●総合基礎教育科目

教養の基礎知

I 群	
リエゾンゼミⅠ（基礎演習） 禅のこころ 仏教入門（建学の精神・理念を含む） 哲学入門 倫理学入門	宗教学入門 文学入門 芸術入門 ことばと表現
II 群	
英語Ⅰ（コミュニケーションを含む） 英語Ⅱ 英語Ⅲ 実用英語 A 実用英語 B 実用英語 C 実用英語 D 実用英語 E 実用英語 F ドイツ語Ⅰ（コミュニケーションを含む） ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ 実用ドイツ語 A 実用ドイツ語 B ハングル講座Ⅰ（コミュニケーションを含む） ハングル講座Ⅱ ハングル講座Ⅲ	実用ハングル講座 A 実用ハングル講座 B 中国語Ⅱ（コミュニケーションを含む） 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ 実用中国語 A 実用中国語 B 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 実用日本語 A 実用日本語 B グローバルコミュニケーションⅠ グローバルコミュニケーションⅡ 異文化コミュニケーション アジア共同体に向けて

科学知

I 群
生物学の基礎 化学の基礎 物理学の基礎 天文学の基礎 数学の基礎 統計学の基礎 心理学の基礎 地理学の基礎
II 群
現代社会を見る眼 現代福祉の基礎 法の基礎 政治学の基礎 経済学の基礎 社会学の基礎 歴史学の基礎 教育学の基礎

実践知

I 群
情報処理論 情報処理実習 情報処理応用実習 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ インターンシップⅠ インターンシップⅡ
II 群
リスクと社会 災害と社会 情報と社会 ボランティア論 福祉ボランティア活動Ⅰ（地域貢献活動を含む） 福祉ボランティア活動Ⅱ（地域貢献活動を含む） 福祉ボランティア活動Ⅲ（地域貢献活動を含む） 福祉ボランティア活動Ⅳ（地域貢献活動を含む）

健康知

I 群
スポーツⅠ スポーツⅡ スポーツⅢ
II 群
健康科学 食と生活 生涯スポーツ論 レクリエーション論 スポーツ社会学 スポーツの心理学 スポーツ医学

保健看護学科専門教育科目

専門基礎科目

(別表 8)

授業科目名		指示事項	必修	選択	開設期間	履修年次	履修方法
基礎医学系	人体の構造と機能		3		通年	1年以上	必修29単位を含め、31単位以上選択修得のこと ※看護師国家試験受験資格のみ取得をめざす方は「認知心理学」、「行動科学」、「社会保障」、「公的扶助論」、「地域福祉論」、「社会政策」より1科目以上選択修得してください。
	フィジカルアセスメント演習		1		後期	1年以上	
	生化学・栄養代謝学		1		後期	1年以上	
	栄養学		1		後期	1年以上	
	微生物学		1		前期	1年以上	
	病理学		1		後期	1年以上	
	免疫学		1		前期	2年以上	
	薬理学		2		前期	2年以上	
	疫学	*保健師選択者必修		2	後期	2年以上	
臨床医学系	疾病治療論Ⅰ（老年）		1		後期	1年以上	※保健師選択者は「疫学」、「保健医療福祉行政論Ⅱ」および選択科目より1科目以上を履修すること。（計35単位以上の単位修得が必要）
	疾病治療論Ⅱ（成人）		4		通年	2年以上	
	疾病治療論Ⅲ（精神）		1		前期	2年以上	
	疾病治療論Ⅳ（小児）		1		後期	2年以上	
	疾病治療論Ⅴ（母性）		1		後期	2年以上	
保健学系	健康と健康教育論		1		前期	3年以上	
	公衆衛生学		2		後期	1年以上	
	関係法規		1		後期	4年	
	保健医療福祉行政論Ⅰ		1		前期	3年以上	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	*保健師選択者必修		2	前期	3年以上	
	医療倫理・ジェンダー		1		後期	4年	
	認知心理学			2	前期	2年以上	
	行動科学			2	後期	2年以上	
福祉学系	保健統計		2		前期	2年以上	
	社会福祉原論		2		前期	3年以上	
	社会保障			2	前期	3年以上	
	公的扶助論			2	前期	3年以上	
	地域福祉論			2	後期	4年	
	社会政策			2	前期	2年以上	

専門基幹科目

授業科目名		指示事項	必修	選択	開設期間	履修年次	履修方法
リエゾン系	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）		2		通年	2年以上	リエゾン関連必修6単位
	リエゾンゼミⅢ（統合演習Ⅰ）		2		通年	3年以上	
	リエゾンゼミⅣ（統合演習Ⅱ）		2		通年	4年	
	地域マネジメント論			2	前期	2年以上	※保健師選択者は「卒業研究」の履修も必要
	地域活性化マネジメント論			2	前期	2年以上	
	地域共創福祉論			2	後期	2年以上	
	地域共創実学教育Ⅰ			4	通年	1年以上	
	地域共創実学教育Ⅱ			4	通年	2年以上	
	地域共創実学教育Ⅲ			4	通年	3年以上	
	地域共創実学教育Ⅳ			4	通年	4年	
	卒業研究	保健師選択者必修		4	通年	4年	

基礎看護学	看護学概論		2		前期	1年以上	必修12単位
	基礎看護学Ⅰ		4		通年	1年以上	
	基礎看護学Ⅱ		2		後期	1年以上	
	基礎看護学Ⅲ		1		前期	2年以上	
	基礎看護学実習Ⅰ		1		後期	1年以上	
	基礎看護学実習Ⅱ		2		前期	2年以上	
生涯看護学	成人看護学概論		2		前期	2年以上	必修12単位
	クリティカルケア		2		前期	3年以上	
	慢性病者看護論		2		前期	2年以上	
	成人看護学実習		6		後期	3年以上	
	老年看護学概論		2		後期	2年以上	必修8単位
	老年看護援助論Ⅰ		1		前期	3年以上	
	老年看護援助論Ⅱ		1		前期	3年以上	
	老年看護学実習Ⅰ		3		後期	3年以上	
	老年看護学実習Ⅱ		1		前期	4年	
	小児看護学概論		2		前期	2年以上	必修6単位
	小児看護援助論Ⅰ		1		前期	3年以上	
	小児看護援助論Ⅱ		1		前期	3年以上	
	小児看護学実習		2		後期	3年以上	
	母性看護学概論		2		前期	2年以上	必修6単位
	母性看護援助論Ⅰ		1		前期	3年以上	
	母性看護援助論Ⅱ		1		前期	3年以上	
	母性看護学実習		2		後期	3年以上	
	精神看護学概論		2		前期	2年以上	必修6単位
	精神看護援助論Ⅰ		1		後期	2年以上	
	精神看護援助論Ⅱ		1		前期	3年以上	
	精神看護学実習		2		前期	4年	
広域看護学	公衆衛生看護学概論	保健師選択者必修	2		前期	2年以上	保健師選択者は必修15単位
	公衆衛生看護援助論Ⅰ	*保健師選択者必修	2		後期	2年以上	
	公衆衛生看護援助論Ⅱ	*保健師選択者必修	2		後期	2年以上	
	公衆衛生看護援助論Ⅲ	保健師選択者必修	2		前期	3年以上	
	産業・学校看護論	保健師選択者必修	2		前期	3年以上	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	*保健師選択者必修	1		前期	3年以上	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	*保健師選択者必修	4		前期	4年	
在宅看護学	地域看護学概論		1		後期	1年以上	必修8単位
	在宅看護論		2		前期	2年以上	
	家族看護論		2		後期	1年以上	
	ケア・マネジメント論		1		後期	2年以上	
	在宅看護学実習		2		前期	4年	
展開看護学	看護体験実習		1		前期	1年以上	必修8単位を含め、9単位以上を選択修得のこと
	看護管理		2		後期	1年以上	
	リスクマネジメント		1		後期	1年以上	
	看護教育学		1		後期	1年以上	
	国際・災害看護論		1		後期	1年以上	
	感性福祉活動看護論		1		後期	1年以上	

リハビリテーション看護論			1	後期	1年以上
看護研究方法論Ⅰ		1		前期	3年以上
看護研究方法論Ⅱ		1		前期	3年以上
統合実習		2		前期	4年

※「展開看護学」の選択科目は1単位以上を看護教育学、国際・災害看護論、感性福祉活動看護論、リハビリテーション看護論から選択する。

※※印の科目は保健師選択者のみ履修可。

関連科目

授業科目名	指示事項	必修	選択	開設期間	履修年次	履修方法
児童福祉			2	前期	1年以上	
高齢者福祉			2	前期	1年以上	
障害者福祉			2	前期	1年以上	
日本国憲法			2	前・後期	1年以上	
知的障害者福祉論			2	後期	2年以上	
予防科学論			2	後期	2年以上	
健康科学論			2	後期	2年以上	
看護基礎統計			1	前期	1年	
保健看護学特殊講義Ⅰ			1	後期	3年	
保健看護学特殊講義Ⅱ			1	後期	4年	
災害概論			4	通年	2年以上	
原子力災害論			2	前期	2年以上	
災害情報論			2	後期	2年以上	
地域減災論Ⅰ			2	前期	2年以上	
災害復興支援論			4	通年	2年以上	
災害福祉論Ⅰ			2	前期	2年以上	
災害福祉論Ⅱ			2	前期	2年以上	
災害マネジメント特講（地域調査を含む）			4	通年	2年以上	
特講			2		2年以上	

※本学を卒業し、看護師国家試験受験資格を得るためには「卒業所要単位」に記載の要件を満たし、かつ125単位以上修得することが必要です。

※保健師国家試験受験資格（選択学生のみ）を得るためには148単位以上を選択修得することが必要です。

■ 履修方法

専門教育科目は、専門基礎科目、専門基幹科目、関連科目に分類されています。

専門基礎科目で、必修29単位、選択2単位以上、計31単位以上の履修が必要です。

専門基幹科目は、リエゾン系、基礎看護学、生涯看護学、在宅看護学、展開看護学から、必修74単位、選択1単位以上の計75単位以上の履修が必要となります。総合基礎科目とあわせて合計125単位以上の修得が卒業要件となり、同時に看護師国家試験受験資格に必要な指定単位の修得となります。

なお、平成24年度入学者より保健師選択制を導入することとなりました。(定員20名) 保健師国家試験受験資格取得希望者は「第3 看護師・保健師国家試験受験資格」をご覧ください。

上記について、基礎看護学は看護全体の基盤をなす内容で構成されており、生涯看護学は、成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学から、在宅看護学は、地域看護学・家族看護論の各分野から構成されています。

展開看護学は、変化する時代のニーズにあった現場の問題に対応できることを意図して考えられた本学独自のカリキュラムです。それまでに学んだ看護の専門分野を、実習を含めて、総合的・縦断的に把握し、その学年の学習進度に応じて内容を深めていくことのできる科目群をさします。具体的には、1つの科目について学習内容を積み上げていけるよう、学年毎に履修できるように編成し、その科目の満了する最終学年（多くは4年次）にそれまでの履修分をまとめて単位として認定します。1年次から開講する科目、3年次から開講する科目と開始時期は科目によって異なります。

関連科目は他学部開講科目と、保健看護学科だけに開講する科目があり、いずれも卒業所要単位として認定します。



履 修 モ デ ル

健康科学部保健看護学科（看護師）

○印は履修科目を示す。

授 業 科 目 の 名 称				単位数		履修モデル			
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合基礎科目	教養の基礎知	Ⅰ 群	リエゾンゼミⅠ（基礎演習）	2		○			
			禅のこころ	1		○			
			ことばと表現		2	○			
		Ⅱ 群	英語Ⅰ（コミュニケーションを含む）	2		○			
			英語Ⅱ	2		○			
			英語Ⅲ	2			○		
			実用英語 A	1			○		
			実用英語 B	1			○		
	科学知	Ⅰ 群	数学の基礎		2	○			
			統計学の基礎		2	○			
		Ⅱ 群	現代社会を見る眼		2	○			
	実践知	Ⅰ 群							
		Ⅱ 群	災害と社会		2	○			
	健康知	Ⅰ 群	スポーツⅠ	2		○			
		Ⅱ 群	健康科学		2	○			
総合基礎科目 履修単位数						21	4	0	0
						25			
専門基礎科目	基礎医学系		人体の構造と機能	3		○			
			フィジカルアセスメント演習	1		○			
			生化学・栄養代謝学	1		○			
			栄養学	1		○			
			微生物学	1		○			
			病理学	1		○			
			免疫学	1			○		
			薬理学	2			○		
	臨床医学系		疾病治療論Ⅰ（老年）	1		○			
			疾病治療論Ⅱ（成人）	4			○		
			疾病治療論Ⅲ（精神）	1			○		
			疾病治療論Ⅳ（小児）	1			○		
			疾病治療論Ⅴ（母性）	1			○		
	保健学系		健康と健康教育論	1				○	
			公衆衛生学	2		○			
			関係法規	1					○
			保健医療福祉行政論Ⅰ	1				○	
			医療倫理・ジェンダー	1					○
			行動科学		2		○		
			保健統計	2			○		
	福祉学系	社会福祉原論	2				○		
専門基礎科目 履修単位数						11	14	4	2
						31			
専門基幹科目	リエゾン系		リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2			○		
			リエゾンゼミⅢ（統合演習Ⅰ）	2				○	
			リエゾンゼミⅣ（統合演習Ⅱ）	2					○
			卒業研究		4				○

統 合 分 野	基礎看護学	看護学概論	2		○			
		基礎看護学Ⅰ	4		○			
		基礎看護学Ⅱ	2		○			
		基礎看護学Ⅲ	1			○		
		基礎看護学実習Ⅰ	1		○			
		基礎看護学実習Ⅱ	2			○		
	生涯看護学	成人看護学概論	2			○		
		クリティカルケア	2				○	
		慢性病者看護論	2			○		
		成人看護学実習	6				○	
		老年看護学概論	2			○		
		老年看護援助論Ⅰ	1				○	
		老年看護援助論Ⅱ	1				○	
		老年看護学実習Ⅰ	3				○	
		老年看護学実習Ⅱ	1					○
		小児看護学概論	2			○		
		小児看護援助論Ⅰ	1				○	
		小児看護援助論Ⅱ	1				○	
		小児看護学実習	2				○	
		母性看護学概論	2			○		
		母性看護援助論Ⅰ	1				○	
		母性看護援助論Ⅱ	1				○	
		母性看護学実習	2				○	
		精神看護学概論	2			○		
		精神看護援助論Ⅰ	1			○		
		精神看護援助Ⅱ	1				○	
		精神看護学実習	2					○
統 合 分 野	在宅看護学	地域看護学概論	1		○			
		在宅看護論	2			○		
		家族看護論	2		○			
		ケア・マネジメント論	1			○		
		在宅看護学実習	2					○
	展開看護学	看護体験実習	1		○			
		看護管理	2					○
		リスクマネジメント	1					○
		看護教育学		1				○
		国際・災害看護論		1				○
		看護研究方法論Ⅰ	1				○	
		看護研究方法論Ⅱ	1				○	
		統合実習	2					○
	関連科目	看護基礎統計		1	○			
専 門 基 幹 科 目 履 修 単 位 数					14	21	26	18
					79			
履 修 単 位 数 合 計					46	39	30	20
					135			

※進級した際に、下の学年において単位修得ができなかった必修科目は、優先して履修すること。

履 修 モ デ ル

健康科学部保健看護学科（保健師）

○印は履修科目を示す。

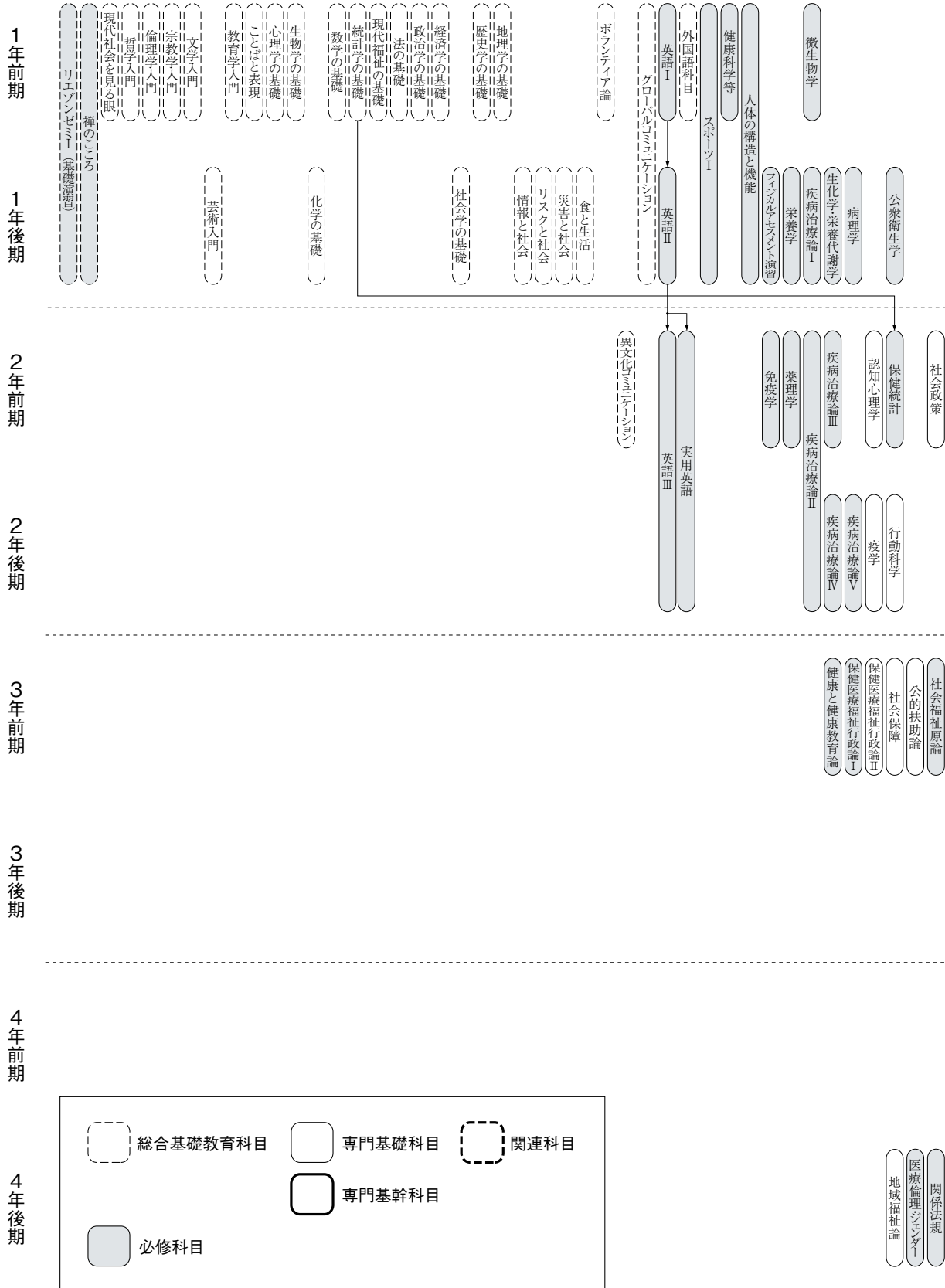
授 業 科 目 の 名 称				単位数		履修モデル			
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合基礎科目	教養の基礎知	Ⅰ 群	リエゾンゼミⅠ（基礎演習）	2		○			
			禅のこころ	1		○			
			ことばと表現		2	○			
		Ⅱ 群	英語Ⅰ（コミュニケーションを含む）	2		○			
			英語Ⅱ	2		○			
			英語Ⅲ	2			○		
			実用英語 A	1			○		
		実用英語 B	1			○			
	科学知	Ⅰ 群	数学の基礎		2	○			
		Ⅱ 群							
	実践知	Ⅰ 群	情報処理論		2	○			
			情報処理実習		2	○			
		Ⅱ 群	災害と社会		2	○			
	健康知	Ⅰ 群	スポーツⅠ	2		○			
		Ⅱ 群	健康科学		2	○			
総合基礎科目 履修単位数						21	4	0	0
						25			
専門基礎科目	基礎医学系	人体の構造と機能	3		○				
		フィジカルアセスメント演習	1		○				
		生化学・栄養代謝学	1		○				
		栄養学	1		○				
		微生物学	1		○				
		病理学	1		○				
		免疫学	1			○			
		薬理学	2			○			
		疫学	2			○			
	臨床医学系	疾病治療論Ⅰ（老年）	1		○				
		疾病治療論Ⅱ（成人）	4			○			
		疾病治療論Ⅲ（精神）	1			○			
		疾病治療論Ⅳ（小児）	1			○			
		疾病治療論Ⅴ（母性）	1			○			
	保健学系	健康と健康教育論	1				○		
		公衆衛生学	2		○				
		関係法規	1					○	
		保健医療福祉行政論Ⅰ	1				○		
		保健医療福祉行政論Ⅱ	2				○		
		医療倫理・ジェンダー	1					○	
		認知心理学		2			○		
		保健統計	2			○			
	福祉学系	社会福祉原論	2				○		
専門基礎科目 履修単位数						11	14	8	2
						35			
専門基幹科目	リエゾン系	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2			○			
		リエゾンゼミⅢ（統合演習Ⅰ）	2				○		
		リエゾンゼミⅣ（統合演習Ⅱ）	2					○	
		卒業研究	4					○	

基礎看護学	看護学概論	2		○			
	基礎看護学Ⅰ	4		○			
	基礎看護学Ⅱ	2		○			
	基礎看護学Ⅲ	1			○		
	基礎看護学実習Ⅰ	1		○			
	基礎看護学実習Ⅱ	2			○		
生涯看護学	成人看護学概論	2			○		
	クリティカルケア	2				○	
	慢性病者看護論	2			○		
	成人看護学実習	6				○	
	老年看護学概論	2			○		
	老年看護援助論Ⅰ	1				○	
	老年看護援助論Ⅱ	1				○	
	老年看護学実習Ⅰ	3				○	
	老年看護学実習Ⅱ	1					○
	小児看護学概論	2			○		
	小児看護援助論Ⅰ	1				○	
	小児看護援助論Ⅱ	1				○	
	小児看護学実習	2				○	
	母性看護学概論	2			○		
	母性看護援助論Ⅰ	1				○	
	母性看護援助論Ⅱ	1				○	
	母性看護学実習	2				○	
	精神看護学概論	2			○		
	精神看護援助論Ⅰ	1			○		
	精神看護援助Ⅱ	1				○	
	精神看護学実習	2					○
広域看護学	公衆衛生看護学概論	2			○		
	公衆衛生看護援助論Ⅰ	2			○		
	公衆衛生看護援助論Ⅱ	2			○		
	公衆衛生看護援助論Ⅲ	2				○	
	産業・学校看護論	2				○	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	1				○	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4					○
在宅看護学	地域看護学概論	1		○			
	在宅看護論	2			○		
	家族看護論	2		○			
	ケア・マネジメント論	1			○		
	在宅看護学実習	2					○
展開看護学	看護体験実習	1		○			
	看護管理	2					→ ○
	リスクマネジメント	1					→ ○
	看護教育学		1				→ ○
	リハビリテーション看護論		1				→ ○
	看護研究方法論Ⅰ	1				○	
	看護研究方法論Ⅱ	1				○	
	統合実習	2					○
関連科目	看護基礎統計		1	○			
専門基幹科目履修単位数				16	27	31	22
関連科目				96			
履修単位数合計				46	42	39	24
				154			

※進級した際に、下の学年において単位修得ができなかった必修科目は、優先して履修すること。

健康科学部保健看護学科 授業科目の流れ

総合基礎教育科目	専門基礎科目
----------	--------



専 門 基 礎 科 目					関 連 科 目
リエゾン系	基礎看護学	生涯看護学	広域看護学	在宅看護学	展開看護学
リエゾンゼミ（専門基礎演習）	看護学概論 基礎看護学Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護学Ⅲ	老年看護学概論 慢性病者看護論 成人看護学概論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ	小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 公衆衛生看護学概論	地域看護学概論 家族看護論 在宅看護論 ケア・マネジメント論	看護体験実習 情報処理論 看護基礎統計 日本国憲法 障害者福祉 高齢者福祉 児童福祉 健康科学論 予防科学論 知的障害者福祉論 日本国憲法
リエゾンゼミⅢ（統合演習Ⅰ）			精神看護援助論Ⅰ 公衆衛生看護援助論Ⅰ 公衆衛生看護援助論Ⅱ 公衆衛生看護援助論Ⅲ 産業・学校看護論		
リエゾンゼミⅣ（統合演習Ⅱ）		クリティカルケア 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 母性看護援助論Ⅰ 母性看護援助論Ⅱ	精神看護援助論Ⅱ 公衆衛生看護援助論Ⅲ 産業・学校看護論		看護研究方法論Ⅰ 看護研究方法論Ⅱ 保健看護学時限講義Ⅰ 保健看護学時限講義Ⅱ 特講 統合実習
卒業研究		成人看護学実習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習	精神看護学実習 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	在宅看護学実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	看護管理 リスクマネジメント 看護教育学 リハビリテーション看護論 国際災害看護論 感性福祉活動看護論 統合実習

第 1 実習

保健看護学科では、臨地実習として24単位を必修とします。臨地実習は1単位45時間を要します。

また、保健師選択者は臨地実習として29単位の履修が必要となります。

なお、各分野の実習受講の可否は下記要件のほかに単位修得・成績・授業への参加状況等をもとに実習判定会議で総合的に判断いたします。

(1) 看護体験実習

様々な看護や介護の提供される場において様々な対象を実際に知り、対象の日常生活を看護の視点で確認する。第1学年の Early Clinical Exposure（早期臨床体験学習）としてこの実習の重要な目的は、相手の立場に立って考え、それを実行することにある。相手が何を欲しているのかを知るには自己の体験を介した試行錯誤も重要である。このような試行錯誤を通して、また、援助者の活動の見学を通し援助者の目線を体験することで、援助者としての態度を養う。

(2) 基礎看護学実習Ⅰ

人間の社会生活を重視した看護の進め方の具体的な方法論について学ぶ。看護技術の基本的な考え方について理解し、看護を受ける人に看護技術を提供することの意味と、根拠に基づいた看護技術について学習する。基本的な日常生活援助技術については、臨床実践への活用をふまえながらその水準を示し、各自が理解した上で身につける。さらに、今後の臨地実習、実践の場において技術を獲得し、磨いてゆけるための自己学習力を身につける素地を養う。

本実習の履修に当たっては、看護学概論の単位修得を要件とする。

(3) 基礎看護学実習Ⅱ

基礎看護学実習Ⅱでは、主体的に看護援助を展開し、評価することを体験する。実際に看護の対象となる人々の日常生活を自分で把握し、援助のニーズを明確にする。そこに既習の知識・技術を統合しながら、看護援助を計画、実施する。さらに、対象の反応を確かめながら評価し、自己の援助を吟味するまでの一連のプロセスを踏むことで、看護援助とは何かを学ぶ。この経験をふまえ、援助者としての自己のあり方について深め、専門職業人としての素地を養う。

本実習の履修に当たっては、基礎看護学Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅰの単位修得を要件とする。

(4) 成人看護学実習

成人看護学実習では、周手術期を中心としたクリティカルケアと慢性病者看護論が展開されている実践の場において、看護の思考過程にもとづきながら、成人期にある対象に必要な看護の基本的な知識と技術、および態度を養うことを目的とする。対象のアセスメントと看護上の問題の抽出と優先順位の決定、目標設定、看護計画の立案と評価、成人看護学に必要な基本的看護技術を学びながら看護介入を実施する。また、自己の実践を評価し、吟味することを通して成人看護学の理解を深め、専門職を目指す上での課題を明確にすること、ならびにチームアプローチを含めた看護の総合的能力を養うことも目的とする。

本実習の履修に当たっては、成人看護学概論、クリティカルケア及び慢性病者看護論の単位修得を要件とする。

(5) 老年看護学実習Ⅰ

既習の知識を生かして高齢者の特徴をふまえ、健康障害を有する高齢者についてアセスメントする能力と対象に必要な看護を考え実践する能力を養う。また、認知症高齢者の看護の実際を知ることで、人と生への理解を深め、必要な看護を考える機会とする。高齢者や老年看護に関する様々な視点からの学習とその学びの共有を図り、老年看護の視野を拓ける。超高齢社会で看護を実践するものとして、主体的かつ創造的に看護を実践し、高齢者との関わりに必要な態度を習得する。

本実習の履修に当たっては、老年看護学概論及び老年看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位修得を要件とする。

(6) 老年看護学実習Ⅱ

回復期病棟や介護老人保健施設等において、身体的障害あるいは認知症により日常生活に支援を要する高齢者を対象とする施設ケアの特徴及び看護職や他職種の役割や連携による支援活動を理解する。また、医療保険や介護保険制度との関わり等幅広く理解を深め、看護の総合的能力を養う。

本実習の履修に当たっては、老年看護学実習Ⅰの単位修得を要件とする。

(7) 小児看護学実習

小児看護学実習では、こどもの成長発達段階と健康レベル、および環境の影響を理解したうえで、こどもと家族のニーズを把握し、根拠に基づいた看護を実践するための知識・技術・態度を学ぶことを目的とする。さらに、こどもとその家族への援助を通して、小児看護の特徴を理解し、小児医療チームにおける看護師の役割と責任、小児医療におけるこどもの最善の利益について考える。

本実習の履修に当たっては、小児看護学概論及び小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位修得を要件とする。

(8) 母性看護学実習

母性の一生にかかわる健康の維持増進と健康回復における看護の役割について学習する。妊娠・分娩・産褥・子育て各期の女性とこどもの健康に焦点を当て、その家族を含めた看護について実践的に学ぶ。具体的には、妊娠・分娩・産褥・新生児期における母子を受け持ち、その家族を含めて健康問題を的確にとらえ、個別的な看護過程が展開できるように学習する。生命の誕生、命の尊厳について体験的に学び、母性看護の役割について理解を深める。

本実習の履修に当たっては、母性看護学概論及び母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位修得を要件とする。

(9) 精神看護学実習

精神疾患をもつ対象およびその家族に対する理解を深めながら看護を実践する能力を養う。また、患者－看護者関係のもつ治療的意味と自己洞察の重要性を理解する。さらには、治療の場や構造が患者にどのような影響を及ぼしているのか倫理的側面について考え、看護者に必要な態度を習得する。

本実習の履修に当たっては、精神看護学概論及び精神看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位修得を要件とする。

(10) 在宅看護学実習

各ライフステージ及び健康段階の方々が、健康上の問題を持って家庭で生活する療養者とその家族の生活のありようを理解し、その人らしい生活を尊重した訪問看護の機能と役割を学ぶとともに、看護職が自立して経営できる事業所として訪問看護ステーションの特徴を理解するため体験を通して学ぶ。

本実習の履修に当たっては、地域看護学概論・在宅看護論の単位修得を要件とする。

(11) 公衆衛生看護学実習Ⅰ

個人や家族、グループやコミュニティの健康課題の解決に向け組織的に展開されている公衆衛生看護活動に参加し、それらの実際を見学し、公衆衛生看護活動のコアとなる役割を理解する。

本実習の履修に当たっては、公衆衛生看護学概論及び公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位修得を要件とする。

(12) 公衆衛生看護学実習Ⅱ

ヘルスプロモーションの概念に基づき、地域住民・関係機関・関係職種との協働のあり方及びその基盤となる保健・医療・福祉システムの現状と課題についてどのように展開されるのかについて理解を深める。

さらに、少子高齢化や人口構造等の変化に伴い労働・社会保障・産業構造・経済情勢等が地域の人々のライフスタイルや健康、意識などと密接に関連していることを捉え、安全と健康を守る方策について考え、これらに関する現実的な課題を見据えながら、地域の生命・生活・人生の質（QOL）の向上に資する看護活動の本質について理解を深める。

本実習の履修に当たっては、公衆衛生看護援助論Ⅲ及び公衆衛生看護学実習Ⅰの単位修得を要件とする。

(13) 統合実習

統合実習では、これまでに学んできた看護の理論的知識と技術を活用して主体的な看護実践を行う中で、チームアプローチや看護実践上の問題の探求、および解決能力を習得し、看護実践能力の育成を図ることを目的とする。実習は個々の学生が関心を持つ領域を中心としたフィールドにおいて行う。この一連の過程は、自らの看護の知識、技術、経験を統合することで実践力を高め、専門職業人として生涯学び続けてゆく自らに課題を見いだすことを支援する。

本実習の履修に当たっては、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習、老年看護学実習Ⅰ、小児看護学実習、母性看護学実習の単位修得及び精神看護学実習、在宅看護学実習、老年看護学実習Ⅱについては単位修得見込み者であることを要件とする。

第2 卒業研究

卒業研究は、看護研究方法論Ⅰ、Ⅱと、統合演習の履修のもとに論文としてまとめられる。

看護研究方法論Ⅰ・Ⅱにおいて学んだ学術的な視点・態度をもとに、各自研究テーマに沿ってデータ収集・分析を行い、その成果を論文としてまとめる。この一連の過程を通して、看護の統合を図り、看護の現象から研究テーマを探索し、追求する能力を養い、自己の課題を論理的に明確にすることで実践的能力を高める。さらに、人間理解を深め、看護の可能性を広げる視点と、保健・医療・福祉の融合についての視点とを養うことを目的とする。同時に自己の看護観の形成、職業人としての倫理観の形成を支援する。

※ 保健師選択者は卒業研究の履修が必須となります。

実 習 計 画 進 行 表

学年	科 目	月	4 月					5 月					6 月					7 月					8 月					9 月					10 月					11 月					12 月					1 月					2 月					3 月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	週		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
1	看護体験実習 (1W)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

※保健師選択者は公衆衛生看護学実習 I・II が必修です。

第3 看護師・保健師国家試験受験資格

本学科にて取得可能な資格は、**看護師国家試験受験資格**と**保健師国家試験受験資格**（選択学生のみ）です。

■ 看護師とは

看護師とは、昭和23年制定 保健師助産師看護師法 第一章第五条に「厚生労働大臣の免許を受けて、傷病者もしくははじょく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう」と規定された国家資格の専門職です。

看護師には、昨今の医療現場を取り巻く環境の変化で、より高度化専門化した知識と技術が求められる反面、在院日数の減少、医療依存度の高い在宅療養者の増加や、高齢者保健施設でのサービスの実施に、自立した専門職としての役割が期待されています。

■ 保健師とは

保健師とは、昭和23年制定 保健師助産師看護師法 第一章第二条に「厚生労働大臣の免許を受けて、保健師の名称を用いて、保健指導に従事することを業とする者をいう」と規定された国家資格の専門職です。なお、平成19年度より看護師の資格を有することが必要となっています。

保健師には、プライマリヘルスケアの専門職として、少子高齢社会に対応した保健医療福祉の分野を越え、個人や地域社会の健康生活を守る仕組みづくりの一端を担うことや感染症や環境問題など公衆に及ぼす影響を予防するなど看護の機能を十分に発揮して対応できる人材が期待されています。

1 カリキュラムの特色

国家試験の受験に必要な授業科目を設け、体系的に教育課程を編成しています。これにより高度専門職業人養成の機能を持つ大学教育として、高度な専門的知識や技術及び社会的視野を備えた看護専門職として育つことを支援します。

看護師・保健師国家試験受験資格に関しては、文部科学省、厚生労働省の定める平成9年4月1日改正の「看護職員の養成に関するカリキュラム」に沿う教育課程を編成し、必要となる学外実習（臨地実習）として、看護体験実習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学実習、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習、統合実習をいずれも必修科目として課す。

なお、平成24年度入学者より保健師選択制を導入いたします（定員20名）。保健師選択者は上記実習のほかに、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱが必修となります。

2 保健師選択制

平成24年度入学者より保健師選択制を導入いたします。

選抜時期、選抜方法等は以下の通りです。

〔選抜時期〕

1 年次終了時（1 年次後期定期試験終了後）にガイダンスを実施いたします。

保健師選択者は、別途実習費を徴収いたします。なお、選考については2月下旬から3月上旬を予定しています。

〔選抜方法〕

書類審査（志望理由書・成績証明書）、面接等を実施いたします。

〔定 員〕

20名

※看護師国家試験受験資格のみ取得をめざす方も広域看護学の講義科目の受講は可能です。ただし、疫学、保健医療福祉行政論Ⅱ、公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱは保健師選択者のみの受講となります。

3 履修方法

履修方法は、総合基礎教育科目から科学的思考の基礎、人間と人間生活の理解として計21単位を取得します。専門教育科目からは専門基礎科目で必修が29単位、選択2単位の計31単位を、専門基幹科目から必修72単位、選択1単位の計73単位を取得します。合計125単位が卒業要件となり、同時に看護師国家試験受験資格に必要な指定単位の取得となります。

保健師選択者は上記にくわえて、実習科目を含む23単位の取得が必須となります。保健師国家試験受験資格も取得する場合には148単位以上の取得が必要となります。

※進級した際に、下の学年において単位修得ができなかった必修科目は、優先して履修すること。

※前期集中講義の期間は専門教育科目や実習と重なる可能性があるため履修にあたっては留意すること。

リハビリテーション学科

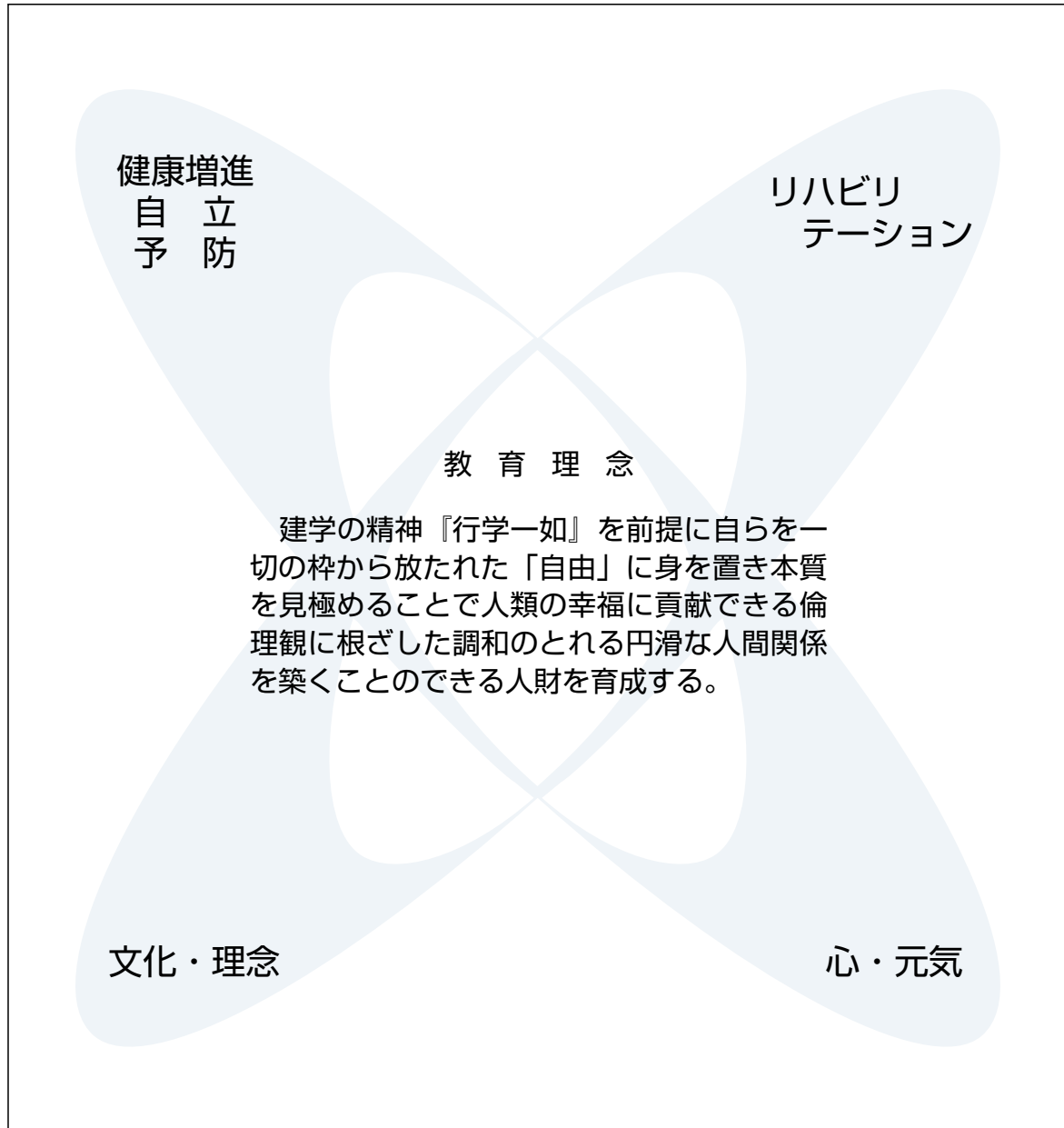


TOHOKU UNIVERSITY
FUKUSHIMA

Ⅱ リハビリテーション学科

教育理念と教育目標

教育理念

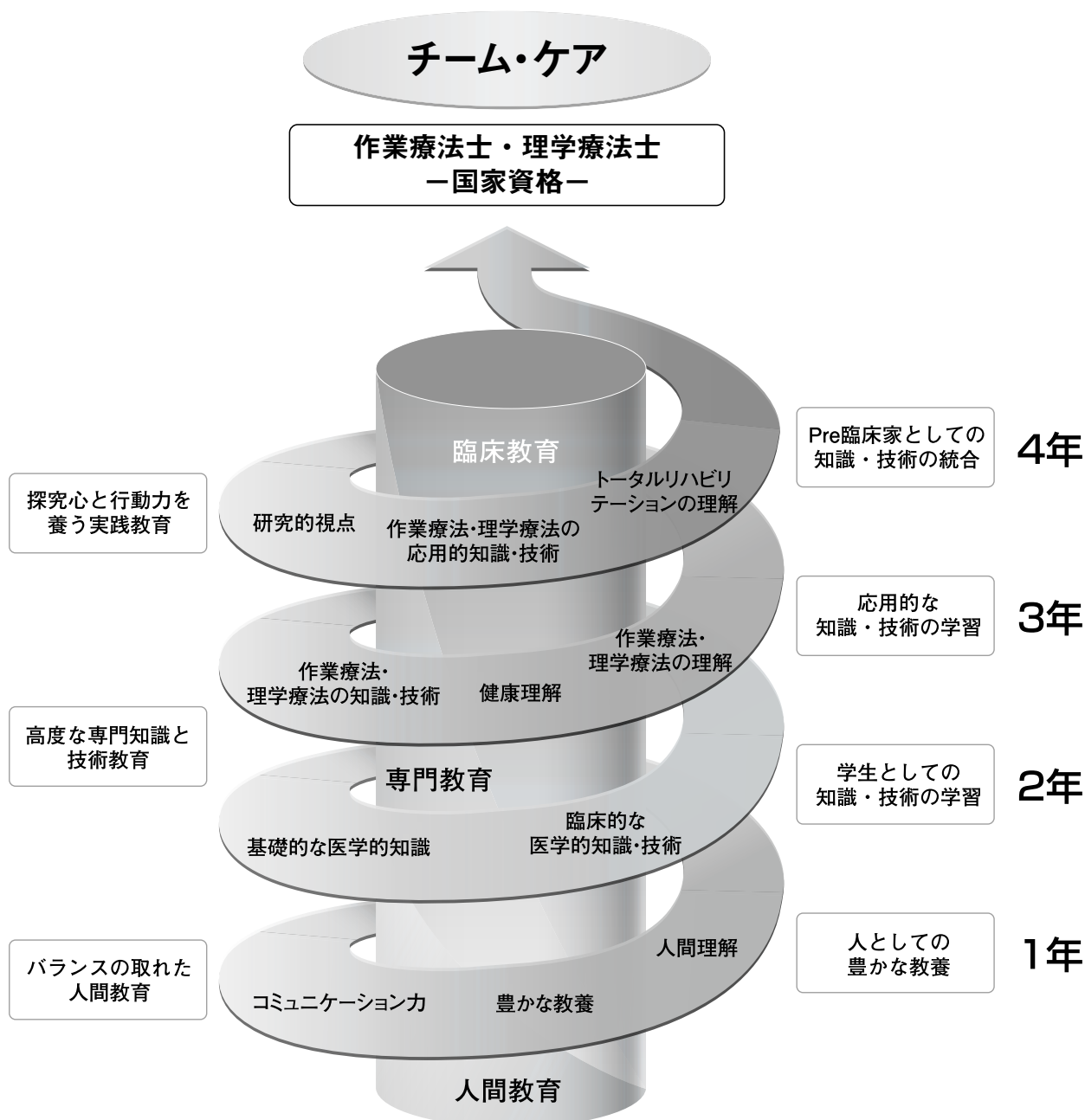


教育目標

- ① 人間性…個人の尊厳と基本的人権の尊重に基づく人間性と倫理性を養う。
- ② 専門性…保健・医療・福祉の諸問題に対して実践的に対応する能力を養う。
- ③ 社会性…自らの役割と責任を担う能力を養う。
- ④ 協調性…広い視野をもち、他の専門職と連携・協働する能力を養う。
- ⑤ 創造性…既成概念にとらわれることなく、主体かつ創造的な能力を養う。
- ⑥ 主体性…自ら評価をおこない、絶えず向上とする自己研鑽する能力を養う。

教育課程の構造

リハビリテーションの専門職として、
保健・医療・福祉分野のフィールドで活躍できるセラピストを育成します



第1 作業療法学専攻

作業療法学専攻 教育体系

● 専門基幹科目 ●

臨床実習とリハビリテーション関連科目

ボランティア実習A・評価実習Ⅰ・評価実習Ⅱ・実践実習Ⅰ・実践実習Ⅱ・
医学英語・救命救急法・地域生活と住環境、介護予防と健康増進、国際・災害リハビリテーション

専門基幹科目L・C群	基礎作業療法学	作業療法評価学	作業療法治療学		地域作業療法学	作業療法特別関連科目
リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	作業療法概論	作業療法評価学総論	作業療法の介入と適用	精神障害と作業療法学Ⅰ	地域作業療法学Ⅰ	作業療法研究法
リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	作業科学Ⅰ	作業療法評価学Ⅰ	身体障害と作業療法学Ⅰ	精神障害と作業療法学Ⅱ	地域作業療法学Ⅱ	作業療法総合特論
リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	作業科学Ⅱ	作業療法評価学Ⅱ	身体障害と作業療法学Ⅱ	発達障害と作業療法学	作業療法支援実践	
地域マネジメント論	作業Ⅰ（健康と作業）	作業療法評価学Ⅲ	身体障害と作業療法学Ⅲ	老年期障害と作業療法学		
地域活性化マネジメント論	作業Ⅱ（生活と作業）		高次脳機能障害と作業療法学	生活技術学		
地域共創福祉論	作業の評価と実践		生活技術学実習	テクノロジーと代償学		
地域共創実学教育Ⅰ						
地域共創実学教育Ⅱ						
地域共創実学教育Ⅲ						
地域共創実学教育Ⅳ						
卒業研究						

● 専門基礎科目 ●

人体の構造と機能		疾患と障害学		保健医療福祉とリハビリテーションの理念
解剖学Ⅰ（筋骨格系）	解剖学実習	疾病と障害総論Ⅰ	疾病と障害総論Ⅱ	リハビリテーションの理念と概要
解剖学Ⅱ（神経系・内臓系）	人体生理学	神経系障害とリハビリテーション	骨・関節障害とリハビリテーション	リハビリテーション実践
人体生理学実習	運動学Ⅰ	内部障害とリハビリテーション	発達障害とリハビリテーション	公衆衛生学
運動学Ⅱ	人間発達学	老年期障害とリハビリテーション	精神障害とリハビリテーション	保健福祉論
人間発達学演習	臨床運動学	臨床心理学		地域保健活動

関連科目

福祉社会学、社会福祉原論、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、人権と現代福祉、特講A(作業療法学)、
災害概論、原子力災害論、災害情報論、地域減災論Ⅰ、災害復興支援論、災害福祉論Ⅰ、災害福祉論Ⅱ

● 総合基礎教育科目

教養の基礎知

I 群	II 群
リエゾンゼミⅠ (基礎演習)	英語Ⅰ (コミュニケーションを含む)
禅のこころ	英語Ⅱ
仏教入門 (建学の精神・理念を含む)	英語Ⅲ
哲学入門	実用英語 A
倫理学入門	実用英語 B
	実用英語 C
	実用英語 D
	実用英語 E
	実用英語 F
	ドイツ語Ⅰ (コミュニケーションを含む)
	ドイツ語Ⅱ
	ドイツ語Ⅲ
	実用ドイツ語 A
	実用ドイツ語 B
	ハンブル講座Ⅰ (コミュニケーションを含む)
	ハンブル講座Ⅱ
	ハンブル講座Ⅲ
	宗教学入門
	文学入門
	芸術入門
	ことばと表現
	実用ハンブル講座 A
	実用ハンブル講座 B
	中国語Ⅰ (コミュニケーションを含む)
	中国語Ⅱ
	中国語Ⅲ
	実用中国語 A
	実用中国語 B
	日本語Ⅰ
	日本語Ⅱ
	日本語Ⅲ
	実用日本語 A
	実用日本語 B
	グローバルコミュニケーションⅠ
	グローバルコミュニケーションⅡ
	異文化コミュニケーション
	アジア共同体に向けて

科学知

I 群	II 群
生物学の基礎	現代社会を見る眼
化学の基礎	現代福祉の基礎
物理学の基礎	法の基礎
天文学の基礎	政治学の基礎
数学の基礎	経済学の基礎
統計学の基礎	社会学の基礎
心理学の基礎	歴史学の基礎
地理学の基礎	教育学の基礎

実践知

I 群	II 群
情報処理論	リスクと社会
情報処理実習	災害と社会
情報処理応用実習	情報と社会
キャリアデザインⅠ	ボランティア論
キャリアデザインⅡ	福祉ボランティア活動Ⅰ (地域貢献活動を含む)
キャリアデザインⅢ	福祉ボランティア活動Ⅱ (地域貢献活動を含む)
インターンシップⅠ	福祉ボランティア活動Ⅲ (地域貢献活動を含む)
インターンシップⅡ	福祉ボランティア活動Ⅳ (地域貢献活動を含む)
Study Abroad A (アジア)	
Study Abroad B (北米)	
Study Abroad C (オセアニア)	
Study Abroad D (ヨーロッパ)	
Study Abroad E (その他の地域)	

健康知

I 群	II 群
スポーツⅠ	健康科学
スポーツⅡ	食と生活
スポーツⅢ	生涯スポーツ論
	レクリエーション論
	スポーツ社会学
	スポーツの心理学
	スポーツ医学

リハビリテーション学科 作業療法学専攻 専門教育科目

専門基礎科目

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
人体の構造と機能	解剖学Ⅰ（筋骨格系）		1		1年以上	12単位以上履修すること
	解剖学実習		2		1年以上	
	解剖学Ⅱ（神経系・内臓系）		1		1年以上	
	人体生理学		2		1年以上	
	人体生理学実習		1		1年以上	
	運動学Ⅰ		2		1年以上	
	運動学Ⅱ		1		2年以上	
	人間発達学		2		1年以上	
	人間発達学演習			1	2年以上	
	臨床運動学			1	2年以上	
疾患と障害学	疾病と障害総論Ⅰ		2		1年以上	16単位履修すること
	疾病と障害総論Ⅱ		2		2年以上	
	神経系障害とリハビリテーション		2		2年以上	
	骨・関節障害とリハビリテーション		2		2年以上	
	内部障害とリハビリテーション		2		2年以上	
	発達障害とリハビリテーション		1		2年以上	
	老年期障害とリハビリテーション		1		2年以上	
	精神障害とリハビリテーション		2		2年以上	
	臨床心理学		2		2年以上	
リハビリテーションの理念と保健医療福祉と	リハビリテーションの理念と概要		1		1年以上	2単位以上履修すること
	リハビリテーション実践		1		2年以上	
	公衆衛生学			1	1年以上	
	保健福祉論			1	2年以上	
	地域保健活動			1	2年以上	

専門基幹科目 L・C 群

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）		2		2年以上	6単位以上履修すること
	リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）		2		3年以上	
	リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）		2		4年	
	地域マネジメント論			2	2年以上	
	地域活性化マネジメント論			2	2年以上	
	地域共創福祉論			2	2年以上	
	地域共創実学教育Ⅰ			4	1年以上	
	地域共創実学教育Ⅱ			4	2年以上	
	地域共創実学教育Ⅲ			4	3年以上	
	地域共創実学教育Ⅳ			4	4年	
	卒業研究			4	4年	

専門基幹科目 A 群

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
基礎作業療法学	作業療法概論		2		1 年以上	8 単位以上履修すること
	作業科学Ⅰ		2		1 年以上	
	作業科学Ⅱ		1		3 年以上	
	作業Ⅰ（健康と作業）		1		1 年以上	
	作業Ⅱ（生活と作業）		1		1 年以上	
	作業の評価と実践		1		2 年以上	
作業療法評価学	作業療法評価学総論		2		1 年以上	6 単位履修すること
	作業療法評価学Ⅰ		2		2 年以上	
	作業療法評価学Ⅱ		1		2 年以上	
	作業療法評価学Ⅲ		1		2 年以上	
作業療法治療学	作業療法の介入と適用		1		2 年以上	20 単位以上履修すること
	身体障害と作業療法学Ⅰ		2		2 年以上	
	身体障害と作業療法学Ⅱ		2		2 年以上	
	身体障害と作業療法学Ⅲ		2		3 年以上	
	精神障害と作業療法学Ⅰ		1		2 年以上	
	精神障害と作業療法学Ⅱ		2		2 年以上	
	発達障害と作業療法学		2		3 年以上	
	老年期障害と作業療法学		2		2 年以上	
	高次脳機能障害と作業療法学		2		3 年以上	
	生活技術学		2		2 年以上	
	生活技術学実習		1		2 年以上	
	テクノエイドと代償学		1		3 年以上	
地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ		2		3 年以上	4 単位以上履修すること
	地域作業療法学Ⅱ		2		3 年以上	
	作業療法支援実践			1	4 年	
特別関連科目	作業療法研究法		2		3 年以上	4 単位履修すること
	作業療法総合特論		2		4 年	

専門基幹科目 C 群

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
臨床実習	ボランティア実習 A		1		1 年以上	23 単位以上履修すること
	評価実習Ⅰ		3		2 年以上	
	評価実習Ⅱ		3		3 年以上	
	実践実習Ⅰ		8		3 年以上	
	実践実習Ⅱ		8		4 年	

リハビリテーション 関連科目	医学英語			2	2 年以上
	救命救急法			2	4 年
	地域生活と住環境			2	4 年
	介護予防と健康増進			2	4 年
	国際・災害リハビリテーション			2	4 年

関連科目

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
	福祉社会学			2	1 年以上	
	社会福祉原論			2	2 年以上	
	児童福祉			2	2 年以上	
	高齢者福祉			2	2 年以上	
	障害者福祉			2	2 年以上	
	人権と現代福祉			2	3 年以上	
	災害概論			4	2 年以上	
	原子力災害論			2	2 年以上	
	災害情報論			2	2 年以上	
	地域減災論Ⅰ			2	2 年以上	
	災害復興支援論			4	2 年以上	
	災害福祉論Ⅰ			2	2 年以上	
	災害福祉論Ⅱ			2	2 年以上	
	特講 A（作業療法学）			2	4 年	

■ 履修方法

- 専門基礎科目では、人体の構造と機能として必修12単位以上、疾患と障害学として必修16単位、保健医療福祉とリハビリテーションの理念として必修2単位以上履修することとする。
- 専門基幹科目（L・C群）はリエゾン関連必修6単位以上とする。
- 専門基幹科目（A群）は基礎作業療法学として必修8単位、作業療法評価学として必修6単位、作業療法治療学として必修20単位、地域作業療法学として必修4単位、作業療法特別関連科目必修4単位をそれぞれ履修し、合計42単位を修得する。
- 専門基幹科目（C群）は臨床実習とリハビリテーション関連科目として、学外臨床実習5科目中心に合計23単位以上修得する。

総合基礎科目19単位以上、専門基礎科目30単位以上、専門基幹科目71単位以上を含む総計124単位以上が卒業要件最低単位数となり、同時に国家試験受験資格に必要な指定単位の修得となります。

履 修 モ デ ル

健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 (例)

○印は履修科目を示す。

授 業 科 目 の 名 称				単位数		履修モデル			
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合基礎科目	教養の基礎知	Ⅰ	リエゾンゼミⅠ	2		○			
			禅のこころ	1		○			
		Ⅱ	英語Ⅰ	2		○			
			英語Ⅱ	2		○			
			英語Ⅲ	2			○		
	科学知	Ⅰ	物理学の基礎		2	○			
		Ⅱ	教育学の基礎		2	○			
	実践知	Ⅱ	ボランティア論		2	○			
	健康知	Ⅰ	スポーツⅠ	2		○			
		Ⅱ	スポーツ医学		2		○		
総合基礎科目 履修単位数						15	4	0	0
						19			
専門基礎科目	人体の構造と機能		解剖学Ⅰ（筋骨格系）	1		○			
			解剖学実習	2		○			
			解剖学Ⅱ（神経系・内臓系）	1		○			
			人体生理学	2		○			
			人体生理学実習	1		○			
			運動学Ⅰ	2		○			
			運動学Ⅱ	1			○		
			人間発達学	2		○			
			人間発達学演習		1		○		
	疾患と障害学		疾病と障害総論Ⅰ	2		○			
			疾病と障害総論Ⅱ	2			○		
			神経系障害とリハビリテーション	2			○		
			骨・関節障害とリハビリテーション	2			○		
			内部障害とリハビリテーション	2			○		
			発達障害とリハビリテーション	1			○		
			老年期障害とリハビリテーション	1			○		
			精神障害とリハビリテーション	2			○		
			臨床心理学	2			○		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーションの理念と概要	1		○			
			リハビリテーション実践	1			○		
			公衆衛生学		1	○			
専門基礎科目 履修単位数						15	17	0	0
						32			
専門基礎科目 L・C 群			リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2			○		
			リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2				○	
			リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2					○
			卒業研究		4				○

専門基幹科目 A 群	基礎作業療法学	作業療法概論	2		○			
		作業科学Ⅰ	2		○			
		作業科学Ⅱ	1				○	
		作業Ⅰ（健康と作業）	1		○			
		作業Ⅱ（生活と作業）	1		○			
		作業の評価と実践	1			○		
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	2		○			
		作業療法評価学Ⅰ	2			○		
		作業療法評価学Ⅱ	1			○		
		作業療法評価学Ⅲ	1			○		
	作業療法治療学	作業療法の介入と適用	1			○		
		身体障害と作業療法学Ⅰ	2			○		
		身体障害と作業療法学Ⅱ	2			○		
		身体障害と作業療法学Ⅲ	2				○	
		精神障害と作業療法学Ⅰ	1			○		
		精神障害と作業療法学Ⅱ	2			○		
		発達障害と作業療法学	2				○	
		老年期障害と作業療法学	2			○		
		高次脳機能障害と作業療法学	2				○	
		生活技術学	2			○		
		生活技術学実習	1			○		
		テクノエイドと代償学	1				○	
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	2				○	
		地域作業療法学Ⅱ	2				○	
		作業療法支援実践		1				○
	作業療法特別関連科目	作業療法研究法	2				○	
		作業療法総合特論	2					○
専門基幹科目 C 群	臨床実習	ボランティア実習 A	1		○			
		評価実習Ⅰ	3			○		
		評価実習Ⅱ	3				○	
		実践実習Ⅰ	8				○	
		実践実習Ⅱ	8					○
	リハビリテーション関連科目	医学英語		2		○		
		地域生活と住環境		2				○
		介護予防と健康増進		2				○
	専門基幹科目 履修単位数				9	25	27	21
					86			
	関連科目	特講 A（作業療法学）		2				○
	関連科目 履修単位数				0	0	0	2
					2			
	履修単位数総合計				39	46	27	23
				135				

健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 授業科目の流れ

総合基礎科目									
教養の基礎知				科学知				実践知	
I群		II群		I群		II群		I群	II群
1 年前期	リハビリテーション入門	健康科学の基礎	英語I	中国語I	ドイツ語I	ハンゲル講座I	異文化コミュニケーション	キャリアデザインI	ボランティア論
1 年後期	リハビリテーション入門	健康科学の基礎	英語II	中国語II	ドイツ語II	ハンゲル講座II	異文化コミュニケーション	キャリアデザインII	ボランティア論
2 年前期	リハビリテーション入門	健康科学の基礎	英語III	中国語III	ドイツ語III	ハンゲル講座III	異文化コミュニケーション	キャリアデザインIII	ボランティア論
2 年後期	リハビリテーション入門	健康科学の基礎	英語III	中国語III	ドイツ語III	ハンゲル講座III	異文化コミュニケーション	キャリアデザインIII	ボランティア論
3 年前期	リハビリテーション入門	健康科学の基礎	英語III	中国語III	ドイツ語III	ハンゲル講座III	異文化コミュニケーション	キャリアデザインIII	ボランティア論
3 年後期	リハビリテーション入門	健康科学の基礎	英語III	中国語III	ドイツ語III	ハンゲル講座III	異文化コミュニケーション	キャリアデザインIII	ボランティア論
4 年前期	リハビリテーション入門	健康科学の基礎	英語III	中国語III	ドイツ語III	ハンゲル講座III	異文化コミュニケーション	キャリアデザインIII	ボランティア論
4 年後期	リハビリテーション入門	健康科学の基礎	英語III	中国語III	ドイツ語III	ハンゲル講座III	異文化コミュニケーション	キャリアデザインIII	ボランティア論

☐ 総合基礎教育科目
 ☐ 専門基礎科目
 ☐ 関連科目

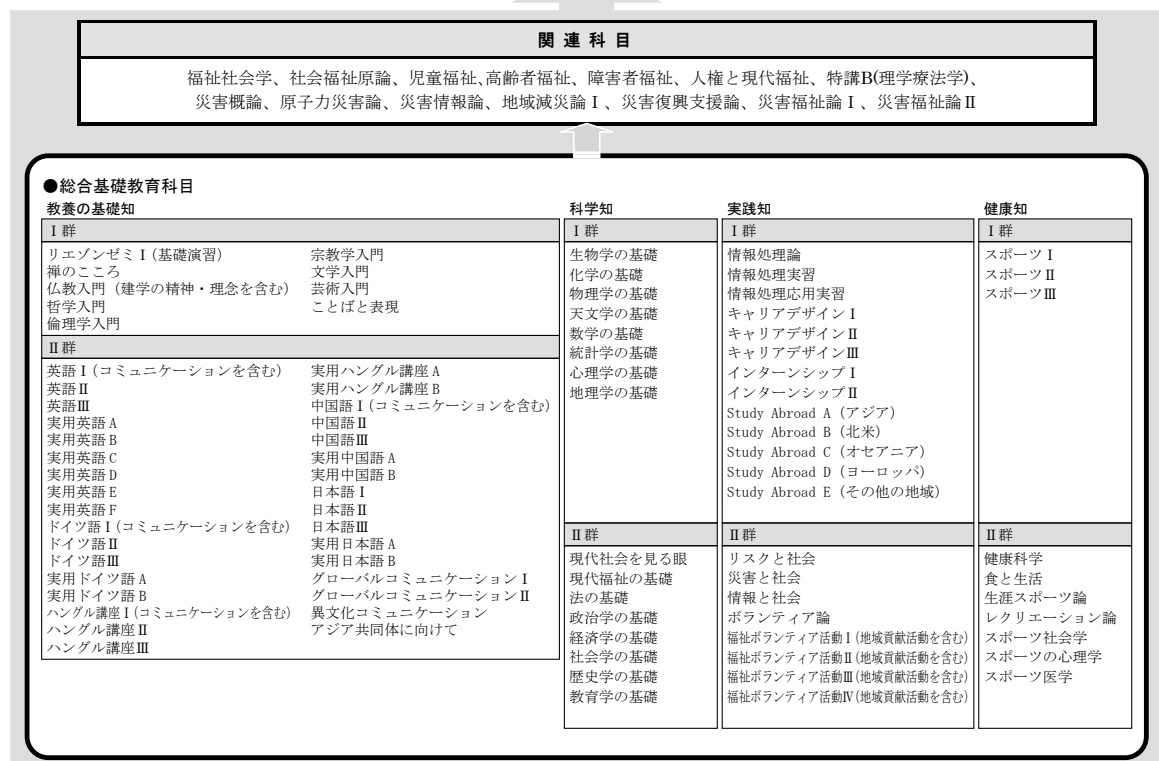
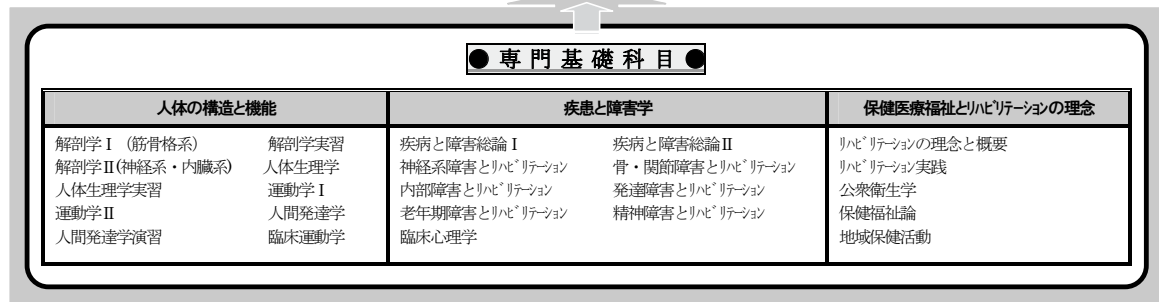
☐ 専門基幹科目

☒ 必修科目

[illegible]

第2 理学療法学専攻

理学療法学専攻 教育体系



リハビリテーション学科 理学療法学専攻 専門教育科目

専門基礎科目

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
人体の構造と機能	解剖学Ⅰ（筋骨格系）		1		1年以上	12単位以上履修すること
	解剖学実習		2		1年以上	
	解剖学Ⅱ（神経系・内臓系）		1		1年以上	
	人体生理学		2		1年以上	
	人体生理学実習		1		1年以上	
	運動学Ⅰ		2		1年以上	
	運動学Ⅱ		1		2年以上	
	人間発達学		2		1年以上	
	人間発達学演習			1	2年以上	
	臨床運動学			1	2年以上	
疾患と障害学	疾病と障害総論Ⅰ		2		1年以上	16単位履修すること
	疾病と障害総論Ⅱ		2		2年以上	
	神経系障害とリハビリテーション		2		2年以上	
	骨・関節障害とリハビリテーション		2		2年以上	
	内部障害とリハビリテーション		2		2年以上	
	発達障害とリハビリテーション		1		2年以上	
	老年期障害とリハビリテーション		1		2年以上	
	精神障害とリハビリテーション		2		2年以上	
	臨床心理学		2		2年以上	
リハビリテーションの理念と保健医療福祉と	リハビリテーションの理念と概要		1		1年以上	2単位以上履修すること
	リハビリテーション実践		1		2年以上	
	公衆衛生学			1	1年以上	
	保健福祉論			1	2年以上	
	地域保健活動			1	2年以上	

専門基幹科目 L・C 群

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）		2		2年以上	6単位以上履修すること
	リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）		2		3年以上	
	リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）		2		4年	
	地域マネジメント論			2	2年以上	
	地域活性化マネジメント論			2	2年以上	
	地域共創福祉論			2	2年以上	
	地域共創実学教育Ⅰ			4	1年以上	
	地域共創実学教育Ⅱ			4	2年以上	
	地域共創実学教育Ⅲ			4	3年以上	
	地域共創実学教育Ⅳ			4	4年	
	卒業研究			4	4年	

専門基幹科目 B 群

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
基礎理学療法学	理学療法概論		2		1 年以上	6 単位履修すること
	基礎理学療法		2		1 年以上	
	理学療法研究法		2		3 年以上	
理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ		2		1 年以上	5 単位履修すること
	理学療法評価学Ⅱ		2		2 年以上	
	運動動作分析学		1		2 年以上	
理学療法治療学	基礎運動療法学		2		2 年以上	21 単位履修すること
	運動器系理学療法学Ⅰ		2		2 年以上	
	運動器系理学療法学Ⅱ		1		3 年以上	
	発達系理学療法学Ⅰ		2		3 年以上	
	発達系理学療法学Ⅱ		1		3 年以上	
	神経系理学療法学Ⅰ		2		2 年以上	
	神経系理学療法学Ⅱ		1		3 年以上	
	神経系理学療法学Ⅲ		1		3 年以上	
	内部障害系理学療法学Ⅰ		2		3 年以上	
	内部障害系理学療法学Ⅱ		1		3 年以上	
	高齢者・生活系理学療法学		1		3 年以上	
理学療法技術学	義肢装具学		1		2 年以上	
	義肢装具学実習		1		3 年以上	
	物理療法学		1		2 年以上	
	物理療法学実習		1		2 年以上	
	日常生活活動		1		2 年以上	
地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ		2		3 年以上	4 単位履修すること
	地域理学療法学Ⅱ		2		3 年以上	

専門基幹科目 C 群

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
臨床実習	ボランティア実習 B			1	1 年以上	25 単位以上履修すること (うち臨床実習 19 単位)
	見学実習		1		1 年以上	
	評価実習		4		2 年以上	
	実践実習Ⅰ		6		3 年以上	
	実践実習Ⅱ		8		4 年	
リハビリテーション 関連科目	医学英語			2	2 年以上	
	救命救急法			2	4 年	
	地域生活と住環境			2	4 年	
	介護予防と健康増進			2	4 年	
	国際・災害リハビリテーション			2	4 年	
	理学療法総合特論		2		4 年	

関連科目

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
	福祉社会学			2	1年以上	
	社会福祉原論			2	2年以上	
	児童福祉			2	2年以上	
	高齢者福祉			2	2年以上	
	障害者福祉			2	2年以上	
	人権と現代福祉			2	3年以上	
	災害概論			4	2年以上	
	原子力災害論			2	2年以上	
	災害情報論			2	2年以上	
	地域減災論Ⅰ			2	2年以上	
	災害復興支援論			4	2年以上	
	災害福祉論Ⅰ			2	2年以上	
	災害福祉論Ⅱ			2	2年以上	
	特講 B (理学療法学)			2	4年	

■ 履修方法

- (1) 専門基礎科目では、人体の構造と機能として必修12単位以上、疾患と障害学として必修16単位、保健医療福祉とリハビリテーションの理念として必修2単位以上履修することとする。
- (2) 専門基幹科目（L・C群）はリエゾン関連必修6単位以上とする。
- (3) 専門基幹科目（B群）は、基礎理学療法学として必修6単位、理学療法評価学として必修5単位、理学療法治療学と理学療法技術学として必修21単位、地域理学療法学として必修4単位をそれぞれ履修し、合計36単位を修得する。
- (4) 専門基幹科目（C群）は臨床実習とリハビリテーション関連科目として、学外臨床実習4科目中心に合計25単位以上修得する。

総合基礎科目19単位以上、専門基礎科目30単位以上、専門基幹科目67単位以上を含む総計124単位以上が卒業要件最低単位数となり、同時に国家試験受験資格に必要な指定単位の修得となります。

履 修 モ デ ル

健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 (例)

○印は履修科目を示す。

授 業 科 目 の 名 称				単位数		履修モデル			
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合基礎科目	教養の基礎知	Ⅰ	リエゾンゼミⅠ	2		○			
			禅のこころ	1		○			
		Ⅱ	英語Ⅰ	2		○			
			英語Ⅱ	2		○			
			英語Ⅲ	2			○		
	科学知	Ⅰ	物理学の基礎		2	○			
		Ⅱ	経済学の基礎		2	○			
	実践知	Ⅱ	ボランティア論		2	○			
	健康知	Ⅰ	スポーツⅠ	2		○			
Ⅱ		スポーツ医学		2		○			
総合基礎科目 履修単位数						15	4	0	0
						19			
専門基礎科目	人体の構造と機能		解剖学Ⅰ（筋骨格系）	1		○			
			解剖学実習	2		○			
			解剖学Ⅱ（神経系・内臓系）	1		○			
			人体生理学	2		○			
			人体生理学実習	1		○			
			運動学Ⅰ	2		○			
			運動学Ⅱ	1			○		
			人間発達学	2		○			
			人間発達学演習		1		○		
			臨床運動学		1		○		
	疾患と障害学		疾病と障害総論Ⅰ	2		○			
			疾病と障害総論Ⅱ	2			○		
			神経系障害とリハビリテーション	2			○		
			骨・関節障害とリハビリテーション	2			○		
			内部障害とリハビリテーション	2			○		
			発達障害とリハビリテーション	1			○		
			老年期障害とリハビリテーション	1			○		
			精神障害とリハビリテーション	2			○		
			臨床心理学	2			○		
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーションの理念と概要	1		○		
			リハビリテーション実践	1			○		
			公衆衛生学		1	○			
			保健福祉論		1		○		
			地域保健活動		1		○		
専門基礎科目 履修単位数						15	20	0	0
						35			
専門基幹科目 L・C 群			リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2			○		
			リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2				○	
			リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2					○
			卒業研究		4				○

専門基幹科目 B群	基礎理学療法学	理学療法概論	2		○			
		基礎理学療法	2		○			
		理学療法研究法	2				○	
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2		○			
		理学療法評価学Ⅱ	2			○		
		運動動作分析学	1			○		
	理学療法治療学	基礎運動療法学	2			○		
		運動器系理学療法学Ⅰ	2			○		
		運動器系理学療法学Ⅱ	1				○	
		発達系理学療法学Ⅰ	2				○	
		発達系理学療法学Ⅱ	1				○	
		神経系理学療法学Ⅰ	2			○		
		神経系理学療法学Ⅱ	1				○	
		神経系理学療法学Ⅲ	1				○	
		内部障害系理学療法学Ⅰ	2				○	
		内部障害系理学療法学Ⅱ	1				○	
		高齢者・生活系理学療法学	1				○	
	理学療法技術学	義肢装具学	1			○		
		義肢装具学実習	1				○	
		物理療法学	1			○		
		物理療法学実習	1			○		
		日常生活活動	1			○		
	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	2				○	
		地域理学療法学Ⅱ	2				○	
専門基幹科目 C群	臨床実習	見学実習	1		○			
		評価実習	4			○		
		実践実習Ⅰ	6				○	
		実践実習Ⅱ	8					○
	リハビリテーション関連科目	医学英語		2		○		
		救命救急法		2				○
		地域生活と住環境		2				○
		介護予防と健康増進		2				○
		国際・災害リハビリテーション		2				○
		理学療法総合特論	2					○
	専門基幹科目 履修単位数				7	21	25	24
					79			
	関連科目	特講 B（理学療法学）		2				○
	関連科目 履修単位数				0	0	0	2
					2			
	履修単位数総合計				37	45	25	26
					134			

健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 授業科目の流れ

総合基礎科目				科学知				実践知				健康知																				
教養の基礎知				科学知				実践知				健康知																				
I群		II群		I群		II群		I群		II群		I群	II群																			
リエンゼミ	禅のこころ	宗教学入門	倫理学入門	哲学入門	仏教入門	英語I	ハンガール講座I	中国語I	ドイツ語I	キャリアデザインI	教育学の基礎	歴史学の基礎	社会学の基礎	経済学の基礎	政治学の基礎	法の基礎	現代社会を見る眼	地理学の基礎	心理学の基礎	統計学の基礎	数学の基礎	物理学の基礎	生物学の基礎	アジア共同体に向けて	グローバルコミュニケーション	天文学の基礎	化学の基礎	野外活動論	健康科学	スポーツI	レクリエーション論	生涯スポーツ論
		芸術入門	文学入門	英語II	ハンガール講座II	中国語II	ドイツ語II	キャリアデザインII	教育学の基礎	歴史学の基礎	社会学の基礎	経済学の基礎	政治学の基礎	法の基礎	現代福祉の基礎	地理学の基礎	心理学の基礎	統計学の基礎	数学の基礎	物理学の基礎	生物学の基礎	アジア共同体に向けて	グローバルコミュニケーション	天文学の基礎	化学の基礎	野外活動論	健康科学	スポーツI	レクリエーション論	生涯スポーツ論		
こころと表現	英語III	中国語III	ドイツ語III	ハンガール講座III	実用英語ABC	実用ドイツ語ABC	実用中国語ABC	異文化コミュニケーション	グローバルコミュニケーション	キャリアデザインII	インターシップI	福祉ボランティア活動II	スポーツII	スポーツ社会学	スポーツ心理学	スポーツ医学																
キャリアデザインIII	インターシップII	福祉ボランティア活動III	スポーツIII	福祉ボランティア活動IV																												

専門基礎科目		新設科目	専門基幹科目B群			専門基幹科目C群		関連科目
人体の構造と機能	疾患と障害学	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法学	理学療法治療学	理学療法技術学	臨床実習 リハビリテーション関連科目	

解剖学Ⅰ
人体生理学

解剖学実習
解剖学Ⅱ
人体生理学実習
運動学Ⅰ
疾病と障害総論Ⅰ
人間発達学

リハビリテーションの理念と概要

公衆衛生学

理学療法概論
基礎理学療法

理学療法評価学Ⅰ

ボランティア実習B
見学実習

運動学Ⅱ
人間発達学演習
疾病と障害総論Ⅱ
骨関節障害とリハビリテーション
神経系障害とリハビリテーション
内臓障害とリハビリテーション
精神障害とリハビリテーション

臨床発達学
臨床心理学
臨床運動学

リハビリテーション実践
地域保健活動
保健福祉論

基礎運動療法学
理学療法評価学Ⅱ

運動器系理学療法学Ⅰ
運動動作分析学

日常生活活動
物理療法学

物理療法学実習
義肢装具学

医学英語

評価実習

災害福祉論
地域減災論
災害精神福祉論
原子力災害
災害概論

災害福祉論
災害復興支援論

リエンゼムⅡ

リエンゼムⅢ(専門演習Ⅰ)

運動器系理学療法学Ⅱ
発達系理学療法学Ⅰ
神経系理学療法学Ⅱ
神経系理学療法学Ⅲ
高齢者生活系理学療法学
内部障害系理学療法学Ⅰ
義肢装具学実習

発達系理学療法学Ⅱ
理学療法研究法

内部障害系理学療法学Ⅱ

地域理学療法学Ⅰ

地域理学療法学Ⅱ

実践実習Ⅰ

福祉社会学

障害者福祉
高齢者福祉
児童福祉
社会福祉概論
社会福祉学原論

人権と現代福祉

特講B(理学療法学)

実践実習Ⅱ

救命救急法
地域生活と住環境
介護予防と健康増進
国際災害リハビリテーション
理学療法総合特論

卒業研究
リエンゼムⅣ(専門演習Ⅱ)

第3 実習

■ 作業療法学専攻

健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻では学外での実習として、ボランティア実習 A（1 単位）、評価実習 I（3 単位）・評価実習 II（3 単位）・実践実習 I（8 単位）・実践実習 II（8 単位）、合計23単位を必修とする。臨床実習は1 単位45時間を要する。

各実習を履修するための要件は以下のとおりとする。

1) 評価実習について

- ① 「評価実習 I」を履修するときは、原則として、当該臨床実習までに開講されている全ての、専門基礎科目（必修科目）と専門基幹科目（必修科目）を履修し、修得見込み（修得済みを含む）でなければならない。
- ② 「評価実習 II」を履修するときは、原則として、2 年次までに開講されている専門基礎科目（必修科目）と専門基幹科目（必修科目）を修得し、3 年次前期に開講されている科目は履修してなければならない。
- ③ 評価実習の開講時期は、「評価実習 I」は2 年次後期、「評価実習 II」は3 年次前期とする。ただし、開講時期を問わず初めて修得する実習を「評価実習 I」とし、次に修得する実習を「評価実習 II」とする。
- ④ 評価実習 I・IIを履修するときは、実習の前後に開催される複数回のオリエンテーションやセミナー（報告会）に必ず出席しなければならない。

2) 実践実習について

- ① 「実践実習 I」および「実践実習 II」を履修するときは、原則として、当該臨床実習までに開講されている全ての専門基礎科目（必修科目）と専門基幹科目（必修科目）を修得していなければならない。
- ② 実践実習の開講時期は、「実践実習 I」は3 年次後期、「実践実習 II」は4 年次前期に開講する。ただし、開講時期を問わず初めて修得する実習を「実践実習 I」とし、次に修得する実習を「実践実習 II」とする。
- ③ 実践実習 I・IIを履修するときは、実習の前後に開催される複数回のオリエンテーションやセミナー（報告会）に必ず出席しなければならない。
- 3) 「作業療法支援実践」を履修するときは、「実践実習 I」または「実践実習 II」のうち1 科目以上を修得していなければならない。

1 ボランティア実習 A（必修）

対象者への基本的姿勢（態度や礼儀、対応等）およびコミュニケーションについて、視聴覚教材やグループワークによる PBL を活用し互いに学びあい、社会人および職業人としての自覚を促す。早期の体験実習として、大学関連施設でのボランティア実習を経験し、対象者個々人を尊重し、自身が貢献で

きることを主体的に考え、行動できることをねらう。さらに報告会を開催し、学生の学びを共有し、臨床実習への発展的な学びにつなげる。

2 評価実習Ⅰ（必修）

2年次後期に臨床実習施設において3週間の評価実習を実施する。施設での臨床実習を通して、作業療法の実施内容を見学するとともに、実習生としての態度や資質を身につける。さらに臨床実習指導者のもとで実践的な情報収集活動、面接や行動観察、検査・測定などの作業療法の評価の一部を実際に体験する。

学生は、これらの経験を基に実践家としての資質を学ぶとともに、学内で学んだ知識技術を実践の中で再確認する機会とする。

3 評価実習Ⅱ（必修）

3年次前期に、評価実習Ⅰとは異なる施設または領域で臨床実習指導者のもとで3週間の評価実習を実施する。評価実習Ⅰで学んだ経験を基に、更に作業療法士としての役割や責任について学ぶ。対象者や施設が異なることから、評価実習Ⅰと相互補完関係となる科目である。学生は臨床実習指導者のもとで実践的な情報収集活動、面接や行動観察、検査・測定など、対象者に必要な作業療法評価を実施し、対象者の状態像や障害像を考慮した作業療法計画立案を経験する。

4 実践実習Ⅰ（必修）

3年次後期に臨床実習施設で8週間の総合実習を実施する。評価実習Ⅰ・Ⅱでの経験を踏まえ、作業療法の展開（介入）に必要な情報収集能力の習得やその情報の整理、解釈の仕方、治療プログラムの立案、基本的な作業療法の実施（介入）の視点と技術を習得すべく、実習指導者の指導や援助のもとで対象者に関わりながら学生として備えるべき知識と技術、視点の習得に努めるようにする。

5 実践実習Ⅱ（必修）

臨床実習の総仕上げとして、4年次前期に臨床実習施設において8週間の総合的な実習を実施する。実践実習Ⅰで学んだ経験を基に、さらに成長できるように、自らが実施した作業療法評価を基に実習指導者の指導を受けながら作業療法計画を立案し実施する。長期的に実施する最後の臨床実習として、作業療法士としての資質を高めるとともに、専門職としての知識・技術・態度を深化し統合する機会とする。加えて、対象者の機能回復を目的とした対応だけでなく、対象者の生活を重視した観点から作業療法を考え実施する機会とする。

6 作業療法支援実践（選択）

4年次通年で開講する学外での実習科目である。地域作業療法学Ⅰ・Ⅱなど学内で学んだ視点を基に、リハビリテーションの実践家としての資質を高めるため、地域リハビリテーションに関わる施設や機関

で実施する。作業療法は対象者の社会生活や実活動に参加することを支援していく。そのためには、高齢者・障害者（児）が、その人らしく地域で暮らすための多様な課題や期待について意識を高め、解決策（知識や技術）について理解を深める。本科目では、地域生活を支援する保健・福祉・医療・教育領域での実践体験（1週間）を通し、地域生活支援における作業療法士が担う機能や役割を考え（推測）・学ぶことを目的とする。

7 臨床実習の進め方

- ① 臨床実習は学生の自ら学ぶ姿勢が重視される。
- ② ボランティア実習 A は、本学の関連施設で実施する。
- ③ 学外での実習は、評価実習Ⅰ、評価実習Ⅱ、実践実習Ⅰ、実践実習Ⅱの順に本学の関連施設の他に、県内外の実習協力施設で実施する。
- ④ 作業療法支援実践は実践実習ⅠまたはⅡを修得した後に実施する。
- ⑤ 評価実習Ⅰ・Ⅱ、実践実習Ⅰ・Ⅱでは、リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）、リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）、リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）などで、実習前に実習オリエンテーションや技術チェックを行い、実習後にはセミナー（報告会）を実施する。
- ⑥ 実習中の訪問面接指導は、実習期間の適切な時期に行い、更に必要とする学生には、その都度臨床実習指導者と調整の上、訪問面接指導を行う。
- ⑦ 実習施設における指導は臨床実習指導者が中心となり具体的な指導に当たるが、実習の目的、内容、方法などは教員と臨床実習指導者の綿密な連携・調整により行う。
- ⑧ 実習における様々な課題を整理し、学生がよりよい実習を体験できるように実習前に「臨床実習指導者会議」を開催し、教員と実習指導者の協力体制を保ちつつ効果的な教育を行う。

健康科学部 リハビリテーション学科〔作業療法学専攻〕

年次	科目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	ボランティア実習 A (必修)	週	1 2 3 4	1 2 3 4 5 1	2 3 4 1 2 3 4	1 2 3 4 1 2 3 4	1 2 3 4 5 1 2 3 4	1 2 3 4 1 2 3 4	1 2 3 4 5 1 2 3 4	1 2 3 4 1 2 3 4	1 2 3 4 1 2 3 4	1 2 3 4 1 2 3 4	1 2 3 4 1 2 3 4	1 2 3 4
			← → (前期は講義・演習) ← → (施設実習 5 回、講義・演習)											
2	評価実習 I (必修)		← → (期間：3 週間 /15 日間)											
3	評価実習 II (必修)		← → (期間：3 週間 /15 日間)											
3	実践実習 I (必修)		← → (期間：8 週間 /40 日間)											
4	実践実習 II (必修)		← → (期間：8 週間 /40 日間)											

■ 理学療法学専攻

健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻では臨床実習として、見学実習（1単位）・評価実習（4単位）・実践実習Ⅰ（6単位）・実践実習Ⅱ（8単位）、合計19単位を必修とする。臨床実習は1単位45時間を要する。

各実習を履修するための要件は以下のとおりとする。

1) 見学実習について

- ① 「見学実習」を履修するときは、原則として、当該臨床実習までに開講されている全ての専門基礎科目（必修科目）と専門基幹科目（必修科目）を履修していなければならない。
- ② 「見学実習」の開講時期は1年次後期とする。
- ③ 「見学実習」を履修する場合は、実習の前後に開催されるオリエンテーションやセミナー（報告会）に必ず出席しなければならない。

2) 評価実習について

- ① 「評価実習」を履修するときは、原則として、当該臨床実習までに開講されている全ての専門基礎科目（必修科目）と専門基幹科目（必修科目）を修得していなければならない。
- ② 「評価実習」の開講時期は2年次後期とする。
- ③ 「評価実習」を履修する場合は、実習の前後に開催されるオリエンテーションやセミナー（報告会）に必ず出席しなければならない。

3) 実践実習について

- ① 「実践実習Ⅰ」および「実践実習Ⅱ」を履修するときは、原則として、当該臨床実習までに開講されている全ての専門基礎科目（必修科目）と専門基幹科目（必修科目）を修得していなければならない。
- ② 実践実習の開講時期は、「実践実習Ⅰ」は3年次後期、「実践実習Ⅱ」は4年次前期に開講する。
- ③ 「実践実習Ⅰ」および「実践実習Ⅱ」を履修する場合は、実習の前後に開催されるオリエンテーションやセミナー（報告会）に必ず出席しなければならない。

1 ボランティア実習B（選択）

グループワークを中心とした演習学習等により対象者への基本的姿勢およびコミュニケーションを学び、態度や礼儀、対応について互いに学び合い、社会人および職業人としての自覚を促す。早期の体験実習として、大学関連施設での少人数によるボランティア実習を経験し、それぞれ異なる年代、地域、文化、生活機能などに触れながら対象者個々人を尊重し、自身が貢献できることを主体的に考え、行動できることをねらう。ボランティア実習の終了後には、報告会を開催し、それぞれの経験からの学びを共有し、臨床実習への発展的な学びにつなげる。

2 見学実習（必修）

1年次後期に各臨床実習施設で1週間の実習を実施する。リハビリテーションの実際の見学を通し、対象疾患を知り障害の概念を把握する。また、理学療法部門の位置づけ（他部門との関わり方）や臨床業務全般、組織（病院・施設）の運営についての実践を学び理学療法士の役割を体系的に理解する。リハビリテーションの対象者が何らかの問題を持つ方たちであり、傾聴し共感的態度で接し良好な関係を構築できるようなコミュニケーション能力や専門職として求められる素地を養い、理学療法士になるこ

との動機づけを高めることを目的とする。

3 評価実習（必修）

2 年次後期に、臨床実習指導者のもとで 4 週間の評価実習を実施する。具体的には、理学療法の対象者の一般的情報をもとに系統立てて問診を実施し情報の収集を行う。評価に必要な検査・測定項目を行い、その結果やその他の医学的情報をもとに対象者の病態・障害について分析・解釈し、対象者の問題点を列挙することを目的に 4 週間の期間で各臨床実習施設で実習を経験する。

4 実践実習Ⅰ（必修）

3 年次後期に各臨床実習施設で 6 週間の総合実習を実施する。対象者の検査・測定を通し統合・解釈から抽出した問題点に対し具体的な理学療法の目標設定ができ、問題点、治療目標に対する理学療法プログラムの立案と、立案した理学療法プログラムを指導者の指示のもと実施・経験することを目的に行われる。また、実際の実践内容の経過を記録し、報告することを学ぶ機会とする。

5 実践実習Ⅱ（必修）

臨床実習の総仕上げとして、4 年次前期に各臨床実習施設で 8 週間の総合実習を実施する。基本的な理学療法の実践にむけ、問題点及び目標設定から優先性を考慮し理学療法プログラムを立案し、理学療法治療・指導計画に基づき、指導者の指導のもと基本的な理学療法を経験することを目的に行われる。また、対象者の変化をとらえ、治療計画の変更ならびに計画した治療プログラムの、安全への配慮が行え、さらに社会的資源・援助についても調査し、医学的側面だけでなく対象者を包括的にとらえる機会とする。

6 臨床実習の進め方

- ① 実習指導施設は、本学の関連施設の他、県内外施設（実習承諾施設）の協力を得て行うことで、効果的な実習を行える体制を整えている。
- ② 実習中の訪問面接指導は、実習期間の適切な時期に行い、更に必要とする学生には、その都度訪問面接指導を行う。
- ③ 実習施設における指導は、臨床実習指導者が中心となり具体的な指導に当たるが、実習の目的、内容、方法などは教員と臨床実習指導者が綿密な連携・調整により行う。
- ④ 実習前に実習指導者との調整・確認および、基礎理学療法、リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）、リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）、リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）を通して学生へのオリエンテーション、技術チェックを行うとともに、臨床事例や学生がこれまで経験した事例等について学ぶ機会を設ける。

さらに、実習後は、実習で得た経験を他の学生と共有し教育効果を高めるためにセミナー（報告会）を開催し実習効果を高める。

- ⑤ 実習におけるさまざまな課題を整理し、学生がよりよい実習を体験することができるよう「臨床実習指導者会議」を開催するなど教員と実習指導者の協力体制を保ちつつ効果的な教育を行う。

健康科学部 リハビリテーション学科（理学療法専攻）

[illegible]

第4 卒業研究

リハビリテーション学科では、作業療法研究法（作業療法学専攻）、理学療法研究法（理学療法学専攻）で履修した内容をもとに、自身の研究テーマを選択し、研究計画を立て、文献検索、研究活動に取り組む、そして、今後作業療法学や理学療法学を学問としての体系化や専門領域としての発展性に寄与することも含め、生涯学習教育の基盤を作る。

さまざまな問題に対する研究課題を知識・技術をフルに動員して取り組んで貰い、個別あるいは、グループの開発・研究としてまとめ上げることとなる。学科教員は学生の取り組みを一丸となってサポートを行い、「卒業研究」にふさわしい特段の配慮を行うと共に、口頭発表の場も準備している。

なお、卒業研究は選択科目であることを十分に認識し、専門領域についても担当する教員に確認することとする。

第5 作業療法士・理学療法士国家試験受験資格

リハビリテーション学科の取得可能な資格は、作業療法学専攻において「作業療法士」国家資格受験資格、理学療法学専攻においては「理学療法士」国家試験受験資格である。

「理学療法士」・「作業療法士」国家試験受験資格に関しては、理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号。以下「法」という。）第10条の規定による。

法の施行の際（昭和40年8月28日）現に文部大臣又は厚生大臣が指定した学校又は施設において、理学療法士・作業療法士となるのに必要な知識及び技能を養成するカリキュラムは教育課程として編成されている。

■ 作業療法士とは

作業療法士（Occupational Therapist（略称 OT））は医療資格（コ・メディカル）の一つである。

作業療法士は、常に対象者（身体または精神に障害のある者、それが予測される者）中心の対応を行い、対象者が主体的な生活の獲得を図るため心身の機能の回復や維持を促す作業を用い、あるいは、対象者が種々の作業が行えるようになるために、治療、指導、援助を行っていくものであり、その実践が作業療法である。作業療法士が重視する作業とは、身の回りの事を行うセルフケア、楽しむ活動としてのレジャー、勉強や仕事などの生産的活動など、人が生活するために必要な目的的活動全てを指している。

■ 理学療法士とは

理学療法士（Physical Therapist または Physio Therapist（略称 PT））は、医療資格（コ・メディカル）の一つである。

理学療法士は、一般に考えられている高齢者、交通事故などにより発生した身体機能障害の回復のための理学療法のみならず、脳卒中での片麻痺、新生児の運動能力の発達の遅れ等、身体的な障害を持つ人に対して、医師の指示の下、その基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、及び電気刺激、運動療法、温熱その他の物理的手段を加える者であり、その活動を理学療法という。

〈カリキュラムの特色〉

リハビリテーション学科の教育理念を「生命の尊重」「人としての尊厳」を中核とする、保健・医療・福祉および教育の実践による融合、および理論の研究開発と、そこに貢献できる人財の育成にある。これにより、21世紀にふさわしい専門職者の在り方として実践と研究の確立を目指し、その成果は、既存の施設での実践を通して、または、公開講座等を活用しながら市民に問い、そのフィードバックから新たな研究課題を得てゆく活動も重ねて行おうとするものである。

- (1) 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次にバランスよく配当し編成する。
- (2) 授業科目は、総合基礎教養科目（教養の基礎知～健康知）と専門教育科目に分け、さらに専門教育

科目を専門基礎科目と専門基幹科目に分ける。

- (3) 総合基礎科目は、知性を重んじた人間形成の上で、また、学際化が進む現代の学問を理解する上で不可欠な科目である。これを「人間の理解」「生命と環境の理解」「現代社会の理解」から構成した。このうち、「人間の理解」では「禅のこころ」を必修科目としている。また、国際化の観点から外国語の英語 6 単位を必修とし、英語カルテを読み取り、診療に役立てる「医学英語」は、専門基幹科目に加え、今後国際化の中で国際的活躍を踏まえて組み入れた構成とした。また、「健康知」のスポーツと健康に関する講義科目では、スポーツ I の必修の他、健康科学、スポーツ心理学、スポーツ医学など 1 科目以上選択履修科目を設けている。
- (4) 専門基礎科目は、基礎医学系、臨床医学系、保健学系、福祉学系から編成し、保健・医療・福祉の連携に必要な基盤を網羅できることを意図した。これに専門科目としてリハビリテーション学を積み重ねる構成とした。
- (5) 専門基幹科目（L 群）では、将来のキャリアにつながる学習を継続して行うためにリエゾンゼミの専門演習科目が設置されている。
- (6) 専門基幹科目（A 群・B 群）は、指定規則にあるリハビリテーション専門分野を網羅し、これらを統合した科目を設定した。特色としては、1 つは教育的効果を高めるためのオムニバス方式の設定である。2 つ目は、リハビリテーションの理念や本学が目指す教育の目標を重視した教育とする。3 つ目は疾患と障害学を各領域別にリハビリテーションの基盤づくりができる編成とし、公衆衛生・保健福祉論・地域保健活動など「地域支援」に焦点をあてたカリキュラム編成とし、疾病や障害にもたらし対象を生活者として捉え QOL の向上を意識しつつ支援活動のできる内容とした。このことで、より、時代のニーズにあった、現場の問題に対応できることを意図した。
- (7) 専門基幹科目 C 群として、指定規則にある実習等の他に医学英語・救急救命法や地域生活と住環境を設け、さらに本大学の特色でもある実践を通した介護予防と健康増進、そして、国際・災害リハビリテーションの科目を設置し、社会福祉の視点とする特徴を加えている。
- (8) 専門科目では、1 年次にボランティア実習を設置し、関連施設等での体験を踏まえることで、主体的な学習意欲に結び付ける内容としている。また、リハビリテーションの各専攻の基礎科学から評価学、治療学へ積み上げ、知識や演習によって得られた知識・技術を段階的に実習の場を通して統合し学習効果を高める構成とした。
- (9) 保健・医療・福祉の統合を見据えた学習が可能になるように 3 年次には、既習の知識と技術を統合し、研究内容を吟味し取り組めるように理学療法研究法および作業療法研究法を位置づけ、4 年次には卒業論文に結びつく構成として、卒業研究を構成している。
- (10) 演習および実習は、関係する指定規則に基づいて行うものであるほか、各科目履修に併せて繰り返して学ぶことができるよう多く設定した。これは作業療法研究や理学療法研究に絡めて学生自身が将来を見据えて専門性を高める素地をつくるための場を提供するものとしてリハビリテーション学の統合を試みる構成とした。同時にこれは自立性、主体性の発揮を意図している。これにより、自らの体験や活動による「行」が先行しつつ、感動や実感を伴う深い学びとしての「学」につながることをねが

いとするものである。このため、対象者の身体に直接触れることの重み、責任を熟慮しながら、援助することでのリハビリテーションの相互性の体感などの経験を共有できるように、学生、環境、教員の連関による相乗効果を目指し、少人数のグループ学習を用いた構成とした。

※両専攻の教育体系を十分に理解し、卒業要件に必要な単位数、および国家試験受験資格の指定単位を計画的に取得すること。

特に臨床実習では、将来のセラピスト（医療専門職業人）として評価されるため、普段からのキャンパスライフや生活習慣をしっかりと身に付けることが重要である。

医療経営管理学科



TOHOKU UNIVERSITY

医療経営管理学科

医療経営管理学科 教育体系

● 専門基幹科目 ●

L・C 群	A 群	B 群	C 群
リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習） リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ） リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ） 地域マネジメント論 地域活性化マネジメント論 地域共創福祉論 地域共創実学教育Ⅰ 地域共創実学教育Ⅱ 地域共創実学教育Ⅲ 地域共創実学教育Ⅳ 卒業研究	臨床医学各論Ⅰ 臨床医学各論Ⅱ 臨床医学各論Ⅲ 臨床医学各論Ⅳ 臨床医学各論Ⅴ 臨床医学各論Ⅵ 臨床医学各論Ⅶ 臨床医学各論Ⅷ 国際疾病分類概論 医療統計学 病理学 精神医学 分類法Ⅰ 分類法Ⅱ e-ヘルスケア論 病院組織論 病院建築論 薬理学 医薬品学	ヘルスマネジメント論 医療管理各論Ⅰ 医療管理各論Ⅱ 診療情報管理論Ⅰ 診療情報管理論Ⅱ 会計学 財務管理論 人事管理論 労働法（労働組合法を含む） 医療経営戦略論 雇用関係論 医事会計概論 社会保険論 人材マネジメント論 医療機関実習事前指導 医療機関実習	データ構造とアルゴリズムⅠ データ構造とアルゴリズムⅡ プログラミング基礎Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ 情報処理応用実習Ⅰ 情報処理応用実習Ⅱ データベース論 ソーシャルメディア論 情報ネットワーク論 インフォメーションデザイン論 情報ネットワーク基礎実習 医療情報システム運用実習 情報処理資格対策Ⅰ 情報処理資格対策Ⅱ

Ⅱ
履修
方法

● 専門基礎科目 ●

医療概論	人体構造・機能論	臨床医学総論	医学用語
医療情報学	医療経営概論	医療管理総論	医療社会学
経営学総論	経営管理論	簿記	情報倫理
情報処理論Ⅰ	情報処理論Ⅱ	情報処理基礎実習Ⅰ	情報処理基礎実習Ⅱ

関連科目

医療福祉概論	社会保障論	人権と現代具櫛	環境衛生学	災害福祉論Ⅱ
医療・福祉の第三者評価論	福祉社会学	福祉施設管理論	災害概論	特講
医療経営論	社会福祉原論	国際福祉論	原子力災害論	徳知体美修練Ⅰ
医師事務作業補助業務講座	児童・家庭福祉論	地球環境論	災害情報論	徳知体美修練Ⅱ
診療報酬請求業務講座	高齢者福祉論	救急処置論	地域減災論Ⅰ	徳知体美修練Ⅲ
国際協力論	障害者福祉論	公衆衛生学	災害復興支援論	徳知体美修練Ⅳ
心理学概論	地域福祉論	生理学	災害福祉論Ⅰ	

医療経営管理学科

● 総合基礎教育科目

教養の基礎知

I 群	科学知	実践知	健康知
リエゾンゼミⅠ（基礎演習） 禅のこころ 仏教入門（建学の精神・理念を含む） 哲学入門 倫理学入門	生物学の基礎 化学の基礎 物理学の基礎 天文学の基礎 数学の基礎 統計学の基礎 心理学の基礎 地理学の基礎	情報処理論 情報処理実習 情報処理応用実習 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ インターンシップⅠ インターンシップⅡ Study Abroad A（アジア） Study Abroad B（北米） Study Abroad C（オセアニア） Study Abroad D（ヨーロッパ） Study Abroad E（その他の地域）	スポーツⅠ スポーツⅡ スポーツⅢ
II 群	II 群	II 群	II 群
英語Ⅰ（コミュニケーションを含む） 英語Ⅱ 英語Ⅲ 実用英語 A 実用英語 B 実用英語 C 実用英語 D 実用英語 E 実用英語 F ドイツ語Ⅰ（コミュニケーションを含む） ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ 実用ドイツ語 A 実用ドイツ語 B ハングル講座Ⅰ（コミュニケーションを含む） ハングル講座Ⅱ ハングル講座Ⅲ	宗教学入門 文学入門 芸術入門 ことばと表現 実用ハングル講座 A 実用ハングル講座 B 中国語Ⅰ（コミュニケーションを含む） 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 実用中国語 A 実用中国語 B 日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 実用日本語 A 実用日本語 B グローバルコミュニケーションⅠ グローバルコミュニケーションⅡ 異文化コミュニケーション アジア共同体に向けて	現代社会を見る眼 現代福祉の基礎 法の基礎 政治学の基礎 経済学の基礎 社会学の基礎 歴史学の基礎 教育学の基礎	リスクと社会 災害と社会 情報と社会 ボランティア論 福祉ボランティア活動Ⅰ（地域貢献活動を含む） 福祉ボランティア活動Ⅱ（地域貢献活動を含む） 福祉ボランティア活動Ⅲ（地域貢献活動を含む） 福祉ボランティア活動Ⅳ（地域貢献活動を含む）
			健康科学 食と生活 生涯スポーツ論 レクリエーション論 スポーツ社会学 スポーツの心理学 スポーツ医学

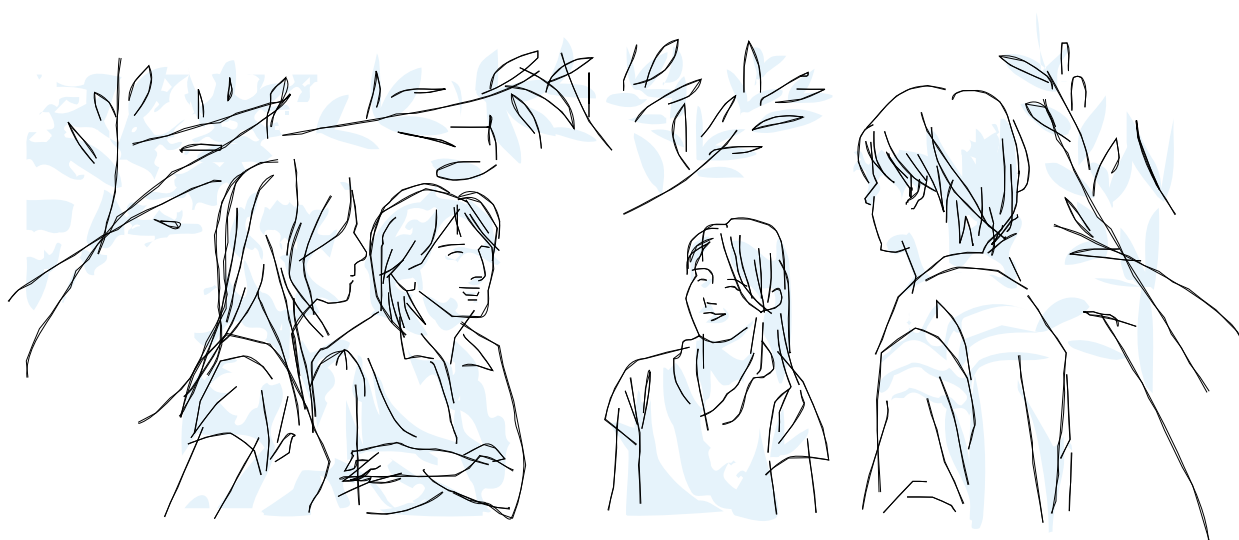
医療経営管理学科 専門教育科目

(別表10)

授 業 科 目 名		指 示 事 項	必修	選択	履修年次	履修方法
専 門 基 礎 科 目	医療概論	診療情報管理士資格必修	4		1年以上	必修16単位を含め、 24単位以上を選択取得のこと
	人体構造・機能論	診療情報管理士資格必修	4		1年以上	
	臨床医学総論	診療情報管理士資格必修	2		1年以上	
	医学用語	診療情報管理士資格必修	2		2年以上	
	医療情報学	診療情報管理士資格必修	2		2年以上	
	医療経営概論		2		2年以上	
	医療管理総論	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	医療社会学			4	2年以上	
	経営学総論			4	2年以上	
	経営管理論			4	2年以上	
	簿記			2	1年以上	
	情報倫理			2	1年以上	
	情報処理論Ⅰ			2	1年以上	
	情報処理論Ⅱ			2	1年以上	
	情報処理基礎実習Ⅰ			2	1年以上	
	情報処理基礎実習Ⅱ			2	1年以上	
	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）		2		2年以上	リエゾン関連科目必修6単位
	リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）		2		3年以上	
	リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）		2		4年	
	地域マネジメント論			2	2年以上	
	地域活性化マネジメント論			2	2年以上	
	地域共創福祉論			2	2年以上	
	地域共創実学教育Ⅰ			4	1年以上	
	地域共創実学教育Ⅱ			4	2年以上	
	地域共創実学教育Ⅲ			4	3年以上	
	地域共創実学教育Ⅳ			4	4年	
	卒業研究			8	4年	
専 門 基 幹 科 目 A 群	臨床医学各論Ⅰ	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	14単位以上を選択取得のこと
	臨床医学各論Ⅱ	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅲ	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅳ	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅴ	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅵ	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅶ	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅷ	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	国際疾病分類概論	診療情報管理士資格必修		2	3年以上	
	医療統計学	診療情報管理士資格必修		2	2年以上	
	病理学			2	2年以上	
	精神医学			4	2年以上	
	分類法Ⅰ	診療情報管理士資格必修		4	2年以上	

専門基幹科目B群	分類法Ⅱ	診療情報管理士資格必修	4	3年以上	6単位以上を選択取得のこと
	e-ヘルスケア論		2	2年以上	
	病院組織論		2	2年以上	
	病院建築論		2	2年以上	
	薬理学		2	3年以上	
	医薬品学		2	3年以上	
	ヘルスマネジメント論		2	2年以上	
	医療管理各論Ⅰ	診療情報管理士資格必修	2	3年以上	
	医療管理各論Ⅱ	診療情報管理士資格必修	2	3年以上	
	診療情報管理論Ⅰ	診療情報管理士資格必修	2	2年以上	
	診療情報管理論Ⅱ	診療情報管理士資格必修	2	3年以上	
	会計学		2	2年以上	
	財務管理論		2	2年以上	
	人事管理論		2	2年以上	
	労働法（労働組合法を含む）		4	2年以上	
	医療経営戦略論		4	2年以上	
	雇用関係論		2	2年以上	
	医事会計概論		2	2年以上	
	社会保険論		2	3年以上	
	人材マネジメント論		2	3年以上	
専門基幹科目C群	医療機関実習事前指導	診療情報管理士資格必修	2	2年	6単位以上を選択履修取得のこと
	医療機関実習	診療情報管理士資格必修	4	3年	
	データ構造とアルゴリズムⅠ		4	1年以上	
	データ構造とアルゴリズムⅡ		2	1年以上	
	プログラミング基礎Ⅰ		2	1年以上	
	プログラミング基礎Ⅱ		2	1年以上	
	情報処理応用実習Ⅰ		2	1年以上	
	情報処理応用実習Ⅱ		2	1年以上	
	データベース論		2	2年以上	
	ソーシャルメディア論		2	2年以上	
	情報ネットワーク論		2	2年以上	
	インフォメーションデザイン論		2	2年以上	
	情報ネットワーク基礎実習		2	2年以上	
	医療情報システム運用実習		4	3年以上	
	情報処理資格対策Ⅰ		2	2年以上	
	情報処理資格対策Ⅱ		2	3年以上	
関連科目	医療福祉概論		4	2年以上	
	医療・福祉の第三者評価論		2	2年以上	
	医療経営論		2	4年以上	
	医師事務作業補助業務講座		2	3年以上	
	診療報酬請求業務講座		2	3年以上	
	国際協力論		2	3年以上	

心理学概論			2	1 年以上
社会保障論			4	3 年以上
福祉社会学			2	1 年以上
社会福祉原論			2	2 年以上
児童・家庭福祉論			4	1 年以上
高齢者福祉論			4	1 年以上
障害者福祉論			4	1 年以上
地域福祉論			2	2 年以上
人権と現代福祉			2	3 年以上
福祉施設管理論			2	3 年以上
国際福祉論			2	2 年以上
地球環境論			2	2 年以上
救急処置法			2	2 年以上
公衆衛生学			2	2 年以上
生理学			2	2 年以上
環境衛生学			4	3 年以上
災害概論			4	2 年以上
原子力災害論			2	2 年以上
災害情報論			2	2 年以上
地域減災論 I			2	2 年以上
災害復興支援論			4	2 年以上
災害福祉論 I			2	2 年以上
災害福祉論 II			2	2 年以上
特講			2	2 年以上
特講			4	1 年以上
徳知体美修練 I			2	1 年
徳知体美修練 II			2	2 年
徳知体美修練 III			2	3 年
徳知体美修練 IV			2	4 年



履 修 モ デ ル

〈医事管理系〉診療情報管理士・医療情報技師

○印は履修科目を示す。

授 業 科 目 の 名 称				単位数		履修モデル			
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合基礎科目	教養知	Ⅰ	リエゾンゼミⅠ	2		○			
			禅のこころ	1		○			
		Ⅱ	外国語Ⅰ	2		○			
			外国語Ⅱ	2		○			
			外国語Ⅲ	2			○		
	科学知	Ⅰ	数学の基礎	2		○			
			統計学の基礎	2		○			
		Ⅱ	経済学の基礎		2	○			
	実践知	Ⅰ	キャリアデザインⅠ		2	○			
		Ⅱ	リスクと社会		2	○			
	健康知	Ⅰ	スポーツⅠ	2		○			
		Ⅱ	健康科学		2	○			
総合基礎科目 履 修 単 位 数						21	2	0	0
						23			
専門基礎科目			医療概論	4		○			
			人体構造・機能論	4		○			
			臨床医学総論	2		○			
			医学用語	2			○		
			医療情報学	2			○		
			医療経営概論	2			○		
			医療管理総論		2		○		
			簿記		2	○			
			情報処理論Ⅰ		2	○			
			情報処理論Ⅱ		2	○			
			情報処理基礎実習Ⅰ		2	○			
			情報処理基礎実習Ⅱ		2	○			
	専門基礎科目 履 修 単 位 数						20	8	0
28									
専門基幹科目 L・C 群			リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2			○		
			リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2				○	
			リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2					○
			卒業研究		8				○
専門基幹科目 L・C 群 履 修 単 位 数							2	2	10
						14			
専門基幹科目 (A)			臨床医学各論Ⅰ		2		○		
			臨床医学各論Ⅱ		2		○		
			臨床医学各論Ⅲ		2		○		
			臨床医学各論Ⅳ		2		○		
			臨床医学各論Ⅴ		2		○		

	臨床医学各論Ⅵ		2		○		
	臨床医学各論Ⅶ		2		○		
	臨床医学各論Ⅷ		2		○		
	国際疾病分類概論		2			○	
	医療統計学		2		○		
	分類法Ⅰ		4		○		
	分類法Ⅱ		4			○	
	薬理学		2			○	
	医薬品学		2			○	
専門基幹科目 (A) 履修単位数				0	22	10	0
				32			
専門基幹科目 (B)	医療管理各論Ⅰ		2			○	
	医療管理各論Ⅱ		2			○	
	診療情報管理論Ⅰ		2		○		
	診療情報管理論Ⅱ		2			○	
	社会保険論		2			○	
	医療機関実習事前指導		2		○		
	医療機関実習		4			○	
	医事会計概論		2			○	
専門基幹科目 (B) 履修単位数				0	4	14	0
				18			
専門基幹科目 (C)	データベース論		2			○	
	情報処理応用実習Ⅰ		2		○		
	情報処理応用実習Ⅱ		2		○		
	医療情報システム運用実習		4			○	
	情報ネットワーク論		2		○		
	インフォメーションデザイン論		2			○	
	ソーシャルメディア論		2		○		
専門基幹科目 (C) 履修単位数				0	8	6	0
				14			
関連科目	医師事務作業補助業務講座		2			○	
	診療報酬請求業務講座		2			○	
関連科目 履修単位数				0	0	4	0
				4			
履修単位数総合計				41	46	36	10
				133			

履 修 モ デ ル

〈医療情報系〉 基本情報技術者・IT パスポート・医療情報技師

○印は履修科目を示す。

授 業 科 目 の 名 称				単位数		履修モデル			
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合基礎科目	教養知	Ⅰ	リエゾンゼミⅠ	2		○			
			禅のこころ	1		○			
		Ⅱ	外国語Ⅰ	2		○			
			外国語Ⅱ	2		○			
			外国語Ⅲ	2			○		
	科学知	Ⅰ	数学の基礎	2		○			
			統計学の基礎	2		○			
		Ⅱ	法の基礎		2	○			
	実践知	Ⅰ	キャリアデザインⅠ		2	○			
		Ⅱ	ボランティア論		2	○			
健康知	Ⅰ	スポーツⅠ	2		○				
	Ⅱ	健康科学		2	○				
総合基礎科目 履 修 単 位 数						21	2	0	0
						23			
専門基礎科目				医療概論	4		○		
				人体構造・機能論	4		○		
				臨床医学総論	2		○		
				医学用語	2			○	
				医療情報学	2			○	
				医療経営概論	2			○	
				医療管理総論		2		○	
				簿記		2		○	
				情報倫理		2			○
				情報処理論Ⅰ		2	○		
				情報処理論Ⅱ		2	○		
				情報処理基礎実習Ⅰ		2	○		
				情報処理基礎実習Ⅱ		2	○		
専門基礎科目 履 修 単 位 数						18	10	2	0
						30			
専門基幹科目 L・C 群				リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2			○	
				リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2				○
				リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2				○
				卒業研究		8			○
専門基幹科目 L・C 群 履 修 単 位 数							2	2	10
						14			

専門基幹科目 (A)	臨床医学各論Ⅰ		2		○		
	臨床医学各論Ⅱ		2		○		
	臨床医学各論Ⅴ		2		○		
	臨床医学各論Ⅵ		2		○		
	医療統計学		2		○		
	e - ヘルスケア論		2		○		
	病院組織論		2		○		
	病院建築論		2			○	
専門基幹科目 (A) 履修単位数				0	14	2	0
				16			
専門基幹科目 (B)	財務管理論		2			○	
	人事管理論		2			○	
	医療経営戦略論		4		○		
	労働法 (労働組合法を含む)		4			○	
	人材マネジメント論		2			○	
専門基幹科目 (B) 履修単位数				0	4	10	0
				12			
専門基幹科目 (C)	データ構造とアルゴリズムⅠ		4			○	
	データ構造とアルゴリズムⅡ		2			○	
	プログラミング基礎Ⅰ		2	○			
	プログラミング基礎Ⅱ		2	○			
	データベース論		2			○	
	ソーシャルメディア論		2			○	
	情報ネットワーク論		2		○		
	インフォメーションデザイン論		2			○	
	情報ネットワーク基礎実習		2		○		
	情報処理応用実習Ⅰ		2		○		
	情報処理応用実習Ⅱ		2		○		
	医療情報システム運用処理実習		4			○	
	情報処理資格対策Ⅰ		2		○		
	情報処理資格対策Ⅱ		2			○	
専門基幹科目 (C) 履修単位数				4	10	18	0
				32			
関連科目	医療経営論		2				○
関連科目 履修単位数				0	0		2
				2			
履修単位数総合計				43	42	34	12
				131			

履 修 モ デ ル

〈企業系〉

○印は履修科目を示す。

授 業 科 目 の 名 称				単位数		履修モデル			
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合基礎科目	教養知	I	リエゾンゼミⅠ	2		○			
			禅のこころ	1		○			
		II	外国語Ⅰ	2		○			
			外国語Ⅱ	2		○			
			外国語Ⅲ	2			○		
	科学知	I	数学の基礎	2		○			
			統計学の基礎	2		○			
		II	法の基礎		2	○			
	実践知	I	キャリアデザインⅠ		2	○			
			キャリアデザインⅡ		2		○		
			キャリアデザインⅢ		2			○	
		II	ボランティア論		2	○			
	健康知	I	スポーツⅠ	2		○			
II		健康科学		2	○				
総合基礎科目 履修単位数						21	4	2	0
						27			
専門基礎科目		医療概論		4		○			
		人体構造・機能論		4		○			
		臨床医学総論		2		○			
		医学用語		2			○		
		医療情報学		2			○		
		医療経営概論		2			○		
		医療管理総論			2		○		
		経営学総論			2		○		
		経営管理論			2		○		
		簿記			2		○		
		情報処理論Ⅰ			2	○			
		情報処理論Ⅱ			2	○			
		情報処理基礎実習Ⅰ			2	○			
		情報処理基礎実習Ⅱ			2	○			
		専門基礎科目 履修単位数						18	12
32									
専門基幹科目 L・C 群		リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）		2			○		
		リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）		2				○	
		リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）		2					○
		卒業研究			8				○
専門基幹科目 L・C 群 履修単位数							2	2	10
						14			

専門基幹科目 (A)	医療統計学		2		○		
	病理学		2		○		
	精神医学		4			○	
	e - ヘルスケア論		2			○	
	病院組織論		2		○		
	病院建築論		2			○	
	医薬品学		2				○
専門基幹科目 (A) 履修単位数				0	6	8	2
				16			
専門基幹科目 (B)	ヘルスマネジメント論		2			○	
	会計学		2		○		
	財務管理論		2		○		
	人事管理論		2			○	
	雇用関係論		2			○	
	医療経営戦略論		4		○		
	医事会計概論		2			○	
	人材マネジメント論		2			○	
専門基幹科目 (B) 履修単位数				0	8	10	0
				20			
専門基幹科目 (C)	情報ネットワーク論		2			○	
	情報ネットワーク基礎実習		2			○	
	情報処理応用実習Ⅰ		2	○			
	情報処理応用実習Ⅱ		2	○			
	医療情報システム運用実習		4			○	
	情報処理資格対策Ⅰ		2		○		
	情報処理資格対策Ⅱ		2			○	
専門基幹科目 (C) 履修単位数				4	2	10	0
				16			
関連科目	心理学概論		2		○		
	児童家庭福祉論		4			○	
	福祉経営論		2			○	
関連科目 履修単位数				0	2	6	0
				12			
履修単位数総合計				45	38	38	12
				133			

健康科学部 医療経営管理学科 授業科目の流れ

総 合 基 礎 科 目		科学知		実践知		健康知	
教養の基礎知		科学知		実践知		健康知	
I群	II群	I群	II群	I群	II群	I群	II群
リエンゼミⅠ	禅のころ	現代社会を見る眼	キャリアデザインⅠ	ボランティア論	スポーツⅠ	野外活動論	健康科学
宗教学入門	外国語Ⅰ	地理学の基礎	教育学の基礎	福祉ボランティア活動Ⅰ		レクリエーション論	生涯スポーツ論
倫理学入門	グローバルコミュニケーション	心理学の基礎	歴史学の基礎	情報と社会			
哲学入門	外国語Ⅱ	統計学の基礎	社会学の基礎	災害と社会			
仏教入門	芸術入門	数学の基礎	経済学の基礎	リスクと社会			
	文学入門	物理学の基礎	政治学の基礎				
		生物学の基礎	法の基礎				
		天文学の基礎	現代福祉の基礎				
		化学の基礎					

専門基幹科目				関連科目	
専門基幹科目HL-C群	専門基幹科目A	専門基幹科目B	専門基幹科目C		
			情報処理応用実習Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ データ構造とアルゴリズムⅠ 情報処理応用実習Ⅱ プログラミング基礎Ⅱ データ構造とアルゴリズムⅡ	福祉社会学 心理学概論 障害者福祉論 高齢者福祉論 児童・家庭福祉論	徳知体美修練Ⅰ
	リエゾンゼミⅡ(専門基礎演習) 臨床医学各論Ⅰ 臨床医学各論Ⅱ 臨床医学各論Ⅲ 臨床医学各論Ⅳ 臨床医学各論Ⅴ 臨床医学各論Ⅵ 臨床医学各論Ⅶ 臨床医学各論Ⅷ 病理学 精神医学 医療統計学 分類法Ⅰ 病院建築論 病院組織論 eヘルスケア論	会計学 診療情報管理論Ⅰ ヘルスマネジメント 人事管理論 財務管理論 労働法(労働組合法を含む) 医療経営戦略論 雇用関係論 医事会計概論 医療機関実習事前指導	データベース論 ソーシャルメディア論 情報ネットワーク論 イラオーションデザイン論 情報ネットワーク基礎実習 情報処理資格対策Ⅰ 医療福祉概論 医療福祉の第三者評価 地域福祉論 国際福祉論 地球環境論 生理環境論 災害復興支援論 災害福祉論Ⅰ 災害福祉論Ⅱ	災害復興支援論 災害福祉論Ⅰ 災害福祉論Ⅱ 徳知体美修練Ⅱ 特講 公衆衛生学 救急処置法	
	国際疾病分類概論 分類法Ⅱ 薬理学 医薬品化学	診療情報管理論Ⅱ 医療管理各論Ⅰ 医療管理各論Ⅱ 医療管理各論Ⅲ	人材マネジメント論 社会保険論 医療機関実習 情報処理資格対策Ⅱ 医療情報システム運用実習	徳知体美修練Ⅲ 特講 環境衛生学 福祉経営論	
	卒業研究			医療経営論	徳知体美修練Ⅳ

第1 演習

(1) 演習

演習とは、担当教員の指導のもとに、あるテーマについて文献等を講読したり、あるいは調査を行うなどして、これを発表し討議し合う訓練を積むことによって、学生の自主的な研究態度を養成し、研究方法を体得することを目的としています。

演習担当教員の登録説明会は、毎年2月に実施します。必ず説明会に出席し、演習内容を確認してから登録してください。

医療経営管理学科 リエゾンゼミⅠ（基礎演習）〔1年〕・リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）〔2年〕・
リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）〔3年〕・リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）〔4年〕

第2 実習

(1) 医療機関実習（診療情報管理士資格取得希望者のみ）

医療機関実習では、診療情報管理士資格試験の要件として、医療機関における基本的な事務機能を理解することを目的とします。

実習期間は4月から9月までの2週間～4週間、主に東北地区の医療機関で行います。

実習では、外来では患者の動線を知り、診療録の具体的な管理状況を習得し、特に診療録がどのようなものを具体的に理解することを目指します。

そのため、診療録の管理・点検・収納・検索等の方法を学び、また、それらと病院経営との関わりについても学びます。

※医療機関実習には、別途実習費がかかります。

第3 資格等

1. 診療情報管理士

医療において診断・治療・保健・予防などさまざまな分野が高度化し、チーム医療として各種の専門職が患者を中心に医療を展開し、安全で質の高い医療を遂行するためには、「診療情報」を互いに共有しあうことが必要です。医療の現場において、「データ」をチーム医療に活用して「診療情報」としてことが「診療情報管理」です。すなわち、個々の患者のデータをデータベース化し、医療情報として活用していくのが診療情報管理であり、その仕事を担うのが「診療情報管理士」です。すなわち、「診療情報管理士」は、患者中心とする多職種参加のチーム医療の中で診療情報を正しく活用し、医療の質の向上に寄与する責務を担っています。

診療に関わる情報としては「診療録（カルテ）」があります。これに診療報酬請求（会計）に関する情報をあわせて「診療情報」といえます。診療情報は、患者の個人記録による診療録だけでなく、病院、公衆衛生、医学研究への価値があります。診療情報を解析することは、病院などの医療施設の診療の実態や診療報酬実績を明らかにし、医療の質評価および医療経営と運営に関する重要な資料を提供することになります。その仕事を担うのが「診療情報管理士」です。診療情報の管理部門は医療施設の経営管理から医療の質の向上に関わる重要な部門であり、資格を有する診療情報管理士が専任する部署です。さらに特定機能病院の要項に、診療録管理には専任職員が必要とされており、平成20年診療報酬改定において「医師事務作業補助体制加算」が設定され、診療情報に関する専門職である「診療情報管理士」の必要性と、多忙を極める医師業の業務軽減を担う新たな方向性が今後期待できます。

診療情報管理の専門職の教育に関しては、本学科は、平成20年から日本病院会が認定する「診療情報管理士資格認定試験」の指定校となり、第1期生が平成23年2月に初めて受験し、現在に至っています。

[基礎課程として指定されている科目]

科目群	授業科目名	種別	単位	履修年次	本学での履修方法
専門基礎	医療概論	講義	4	1年以上	必修12単位
	人体構造・機能論	講義	4	1年以上	
	臨床医学総論	講義	2	1年以上	
	医学用語	講義	2	2年以上	
専門基幹 A	臨床医学各論Ⅰ	講義	2	2年以上	必修16単位
	臨床医学各論Ⅱ	講義	2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅲ	講義	2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅳ	講義	2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅴ	講義	2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅵ	講義	2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅶ	講義	2	2年以上	
	臨床医学各論Ⅷ	講義	2	2年以上	

[専門課程として指定されている科目]

科目群	授業科目名	種別	単位	履修年次	本学での履修方法
専門基礎	医療情報学	講義	2	2年以上	必修4単位
	医療管理総論	講義	2	2年以上	
専門基幹 A	国際疾病分類概論	講義	2	3年以上	必修12単位
	医療統計学	講義	2	2年以上	
	分類法Ⅰ	演習	4	2年以上	
	分類法Ⅱ	演習	4	3年以上	
専門基幹 B	医療管理各論Ⅰ	講義	2	3年以上	必修12単位
	医療管理各論Ⅱ	講義	2	3年以上	
	診療情報管理論Ⅰ	講義	2	2年以上	
	診療情報管理論Ⅱ	講義	2	3年以上	
	医療機関実習	実習	4	3年以上	

2. 社会福祉主事（任用資格）

(1) 社会福祉主事とは

社会福祉主事とは、社会福祉法で定められた「任用資格」と呼ばれる資格で、仕事内容は、福祉六法（生活保護法、児童福祉法、老人福祉法、知的障害者福祉法、身体障害者福祉法、母子及び寡婦福祉法の6つの法律をまとめた呼称）に基づいて、各種行政機関で保護・援助を必要とする人のために相談・指導・援助を行います。

(2) 社会福祉主事任用資格に関する科目

（別表30）

厚生労働省指定科目	本学開設授業科目名	単位	履修年次	履 修 方 法
社 会 福 祉 概 論	社会福祉原論（職業指導を含む）	4	2 年以上	厚生労働省指定科目別に 3 科目以上選択して取得 のこと。 ※社会福祉史（日本）と 社会福祉史（西洋）、お よび社会福祉援助技術 論Ⅰ・Ⅱについては2 科 目を履修して1 科目と計 算する（2 科目セットで 1 科目扱い）
社 会 福 祉 事 業 史	社会福祉史（日本）	4	2 年以上	
	社会福祉史（西洋）	4	2 年以上	
社会福祉援助技術論	社会福祉援助技術総論	4	1 年以上	
	社会福祉援助技術論Ⅰ	4	2 年以上	
	社会福祉援助技術論Ⅱ	4	3 年以上	
社 会 福 祉 調 査 論	社会調査の基礎	2	2 年以上	
	社会調査法（社会調査統計を含む）	4	2 年以上	
社会福祉施設経営論	福祉経営論	2	3 年以上	
社 会 福 祉 行 政 論	社会福祉行財政論	2	2 年以上	
社 会 保 障 論	社会保障論	4	3 年以上	
公 的 扶 助 論	公的扶助論	2	3 年以上	
児 童 福 祉 論	児童・家庭福祉論	4	1 年以上	
家 庭 福 祉 論				
保 育 理 論	保育原理	2	1 年以上	
身体障害者福祉論	障害者福祉論	4	1 年以上	
知的障害者福祉論	知的障害者福祉論	2	2 年以上	
精神障害者保健福祉論	精神保健福祉の理論	2	2 年以上	
老 人 福 祉 論	高齢者福祉論	4	1 年以上	
医 療 社 会 事 業 論	医療福祉概論	4	2 年以上	
地 域 福 祉 論	地域福祉論	4	2 年以上	
法 学	福祉法学	4	1 年以上	
	社会福祉法制論	4	3 年以上	
民 法	民法総則	4	1 年以上	
行 政 法	行政法	4	2 年以上	
経 済 学	経済原論（国際経済を含む）	4	2 年以上	
社 会 政 策	社会政策論	4	2 年以上	
経 済 政 策				
心 理 学	福祉心理学	2	1 年以上	
	心理学概論	2	1 年以上	
社 会 学	社会学原論	4	2 年以上	
	福祉社会学	2	1 年以上	

教 育 学	教育学概論 B	2	1 年以上
	教育史	4	2 年以上
倫 理 学	倫理学概論	4	2 年以上
公 衆 衛 生 学	公衆衛生学	2	2 年以上
医 学 一 般	医学一般 I	2	2 年以上
リハビリテーション論	リハビリテーション論	2	2 年以上
看 護 学	看護学	4	2 年以上
介 護 概 論	介護概論	4	1 年
	介護論	2	2 年以上
栄 養 学	栄養学（食品学を含む）	2	2 年以上
家 政 学	家政学概論	4	2 年

3. 福祉用具専門相談員

福祉用具専門相談員とは、福祉用具貸与事務所や福祉用具販売事務所で、居宅要介護者や居宅要支援者が福祉用具を選定するに当たり、福祉用具に関する専門的知識に基づく助言を行うものをいいます。介護保険制度のなかで高齢者や障害者、家族に適した福祉用具を導入し、導入後のサポートを行います。

下記の指定科目全ての単位を取得すると、修了証明書（福祉用具専門相談員指定講習）を受けることができます。

介護保険制度では、福祉用具貸与が保険給付の対象となっているため、指定居宅サービスとして福祉用具貸与を行う場合、各事業所に 2 名以上の専門相談員を配置することが定められています。

(1) 履修上の留意事項

以下の必修 3 科目全てを、2 年次に取得してください。

(別表38)

本学開講授業科目名	単位	履修年次	履修方法
福祉用具と生活支援Ⅱ	2	2 年	必修
高齢者の保健福祉とリハビリテーション	2	2 年	必修
福祉用具活用実習	1	2 年	必修

※「福祉用具と生活支援Ⅱ」を履修するためには、1 年次に「福祉用具と生活支援Ⅰ」を履修してください。

※介護福祉士等の有資格者については、本講習を受講しなくても福祉用具専門相談員として、福祉用具貸与事業所等で勤務することができます（介護保険法施行令第四条）。

※福祉用具活用実習は実習費（20,000円）が別途必要となります。

※履修登録の前に実施されるガイダンスに必ず参加してください。

4. 図書館司書

(1) 図書館司書資格とは

司書は英語で表現すると librarian です。司書は図書館で働く人すべてを意味するのではなく、専門職としての仕事に相応しい知識と訓練を受けた有資格者を指します。この資格を取得するには、図書館・情報学の専門課程を設置してある大学を卒業する方法、夏期講習等を受ける方法、その他があります。本学では図書館司書課程を開設し、在学中に必要修得単位を満たせば取得できます。必要修得単位については、別表28を参照してください。なお、司書資格を取得するには、2～3年間を要します（1年間では無理が生じます）。

図書館への就職率は全国的に低い状況にあります。しかし、地方自治体の司書職の採用試験に合格し、公共図書館に勤務している人や大学図書館に勤めたりしている人もいます。これからの情報化社会において、司書の仕事は実り多いものです。

(2) 履修上の留意事項

図書館司書資格取得希望者は所属する学科の卒業所要科目が図書館司書資格取得科目（別表28）と重複している科目は卒業所要科目として履修登録し、単位取得した場合には卒業所要単位と資格所要単位の両方に認定されます。卒業所要科目と重複していない科目は資格要件で登録して取得してください。

(3) 図書館司書資格に関する専門科目

(別表28)

区 分		本学開講授業科目名	単位	履修年次	履 修 方 法
必修科目	基礎科目	生涯学習概論	4	1年以上	必修24単位
		図書館概論	2	2年以上	
		図書館情報技術論	2	3年以上	
		図書館制度・経営論	2	3年以上	
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2	2年以上	
		情報サービス論	2	2年以上	
		児童サービス論	2	2年以上	
		情報サービス演習	2	3年以上	
	図書館情報資源に関する科目	図書館情報資源概論	2	3年以上	
		情報資源組織論	2	2年以上	
		情報資源組織演習	2	3年以上	
選択科目	2科目選択	図書館基礎特論	1	3年以上	2科目2単位以上選択して取得のこと
		図書館サービス特論	1	3年以上	
		図書館情報資源特論	1	3年以上	
		図書・図書館史	1	3年以上	
		図書館施設論	1	3年以上	
		図書館総合演習	1	3年以上	
		図書館実習	1	3年以上	

5. 博物館学芸員

(1) 博物館学芸員とは

博物館とは「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、合わせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とした機関」（博物館法第2条）のことです。博物館には、これらの仕事に携わる専門職員を置くことが法律で義務づけられています。この専門職員のことを学芸員といいます。

学芸員資格を取得するには、「学士の学位を有し、大学において文部省令で定める博物館に関する科目の単位を修得する」（博物館法第5条第1項第1号）ことが必要とされています。本学では、「博物館学芸員」で必要な科目の単位を修得し、卒業すれば博物館学芸員の資格を取得することができます。

(2) 履修上の留意事項

博物館学芸員資格取得希望者は所属する学科の卒業所要科目が博物館学芸員資格取得科目（別表29）と重複している科目は卒業所要科目として履修登録し、単位取得した場合には卒業所要単位と資格所要単位の両方に認定されます。卒業所要科目と重複していない科目は資格要件で登録して取得してください。

(3) 博物館学芸員に関する専門科目

(別表29)

本学開講授業科目名			単位	履修年次	履修方法
必修科目	生涯学習概論		4	1年以上	必修29単位
	博物館概論		2	2年以上	
	博物館経営論		2	3年以上	
	博物館資料論		2	2年以上	
	博物館資料保存論		2	3年以上	
	博物館展示論		2	3年以上	
	博物館教育論		2	3年以上	
	博物館情報・メディア論		2	3年以上	
	博物館実習		3	3年以上	
	文化財概論		2	2年以上	
	文化財各論（文化財保護法を含む）		2	2年以上	
	日本文化史		4	2年以上	
	A	考古学概論	2	2年以上	A～D群より1群（6単位）を選択して単位取得のこと
		考古学各論	2	2年以上	
		考古学実習 ※考古学概論・各論履修前提	2	3年以上	
	B	古文書学概論	2	2年以上	
		古文書学各論 ※古文書学概論履修前提	2	2年以上	
		古文書学実習 ※古文書学概論・各論履修前提	2	3年以上	
	C	民俗学概論	2	2年以上	
		民俗学各論 ※民俗学概論履修前提	2	2年以上	
		民俗学実習（調査法を含む）※民俗学概論・各論履修前提	2	3年以上	
	D	日本美術史	2	3年以上	
		西洋美術史	2	3年以上	
		美術実習	2	3年以上	
	E	文化人類学	2	2年以上	E群より1科目（2単位以上）を選択して単位取得のこと
		考古学特殊講義	2	3年以上	
		日本史特殊講義	2	3年以上	
		民俗学特殊講義	2	3年以上	
		美術史特殊講義	2	3年以上	

6. 日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員資格

1 障がい者スポーツ指導員とは

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会はわが国における障がい者スポーツ振興と競技力向上にあたる障がい者スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図り、指導活動の促進と指導体制を確立するため「日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度」を制定しています。

協会が公認する障がい者スポーツ指導者は次に示す種類に分けられ、指導者の適性に応じたスポーツ・レクリエーションを通じて、健康・体力の維持・増進と競技力の向上に寄与することを任務としています。

① 初級障がい者スポーツ指導員

地域で活動する18歳以上の指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者。また、障がいの基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視した指導ができる者。さらに、地域の大会や行事に参加すると共に、指導員組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支える者。

② 中級障がい者スポーツ指導員

地域における障がい者スポーツのリーダーとしての役割を持ち、指導現場では、十分な知識、技術と経験に基づいた指導ができ、指導員の模範となる者。また、地域のスポーツ大会や行事の企画・運営に参加すると共に、全国障がい者スポーツ大会に参加する選手団のコーチとして、選手選考やその強化・育成の役割を担う者。さらに、指導員の組織化や運営にも関わり、地域の障がい者スポーツ振興を進める者。

③ 上級障がい者スポーツ指導員

県レベルのリーダーとして、指導現場では障がい者スポーツの高度な専門的知識を有し、指導技術と豊富な経験に基づいた指導と指導員を取りまとめる指導的立場になる者。また、県レベルのスポーツ大会や行事の企画・運営の中心的役割を持ち、全国障害者スポーツ大会に参加する選手団の監督として、選手選考やその強化・育成の責任を担う者。さらに、指導者の組織運営に積極的にかかわり、地域のスポーツ振興のキーパーソンとなる者。

2 資格取得認定校とは

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度に基づき、申請によって資格取得を認定された学校のことをいいます。平成12年度より、修業年限4年以上の大学において、初級および中級障がい者スポーツ指導員の資格取得に必要な講習内容を含む科目を履修し、卒業までに3年間計80時間以上の指導経験を積んだ者については卒業をもって中級障がい者スポーツ指導員の研修を修了したものとみなされるようになりました。

※本学では初級・中級障がい者スポーツ指導員資格のみ取得可能です。

3 履修方法

本学在学中に資格を取得するためには、次の科目をすべて履修し、単位を取得しなければなりません。

また、卒業までに中級障がい者スポーツ指導員資格を取得するためには、1年次に初級に必要な科目の単位を取得し、2年次から中級に必要な科目を履修することができますが、2～4年次の3年間で「80時間以上」の実践ボランティア活動が義務づけられているために、その活動を証明するものが必要となります。活動を証明するためには、大学が指定する各障がい者スポーツ大会・講習会・教室等のボランティア活動に参加し、所定の活動実績証明用手帳に主催者より認印を押印してもらうことが必要です。

課程履修費は「IX. 諸手続」により各自負担していただきます。

※初級・中級障がい者スポーツ指導員に関する科目は卒業単位科目（関連科目）として履修可能です。

4 初級障がい者スポーツ指導員に関する科目

(別表34)

本 学 開 設 授 業 科 目 名	種別	単位	履修年次	履修方法
障害者スポーツ指導法Ⅰ	講義	2	1年以上	必修
ユニバーサルスポーツ	実技	2	1年以上	必修

5 中級障がい者スポーツ指導員に関する科目

(別表35)

本 学 開 設 科 目 名	種別	単位	履修年次	履修方法
障害者スポーツ指導法Ⅱ	講義	2	2年以上	必修
障害者スポーツ指導法Ⅲ	講義	1	2年以上	必修

* 2科目を単位取得する他に2～4年次の3年間で「80時間以上」の実践ボランティア活動が必要です。

6 実践ボランティア活動について

中級の資格取得要件として規定されています「卒業までの3年間、計80時間以上の指導経験」のことをいい、次に指定する活動の実績をもってそれに当てます。

- ① 宮城県および仙台市障害者スポーツ協会が実施する各種障がい者スポーツ事業
- ② その他、大学が認定する障害者関連の各種事業

7 資格申請の手続き

- ① 初級・中級ともに「卒業」を要件とします。4年次の年度末にガイダンスを実施し、申請書類に必要事項を記入してもらい、大学がまとめて申請手続きをします。
- ② 中級の申請には、障害者スポーツ指導者手帳による実践ボランティア活動実績証明を添付し、申請することになります。
- ③ 申請には課程履修費とは別に申請費用が掛かります。（認定料・申請料・当該年度登録料）

7. 介護職員初任者研修課程

(1) 介護職員初任者研修とは

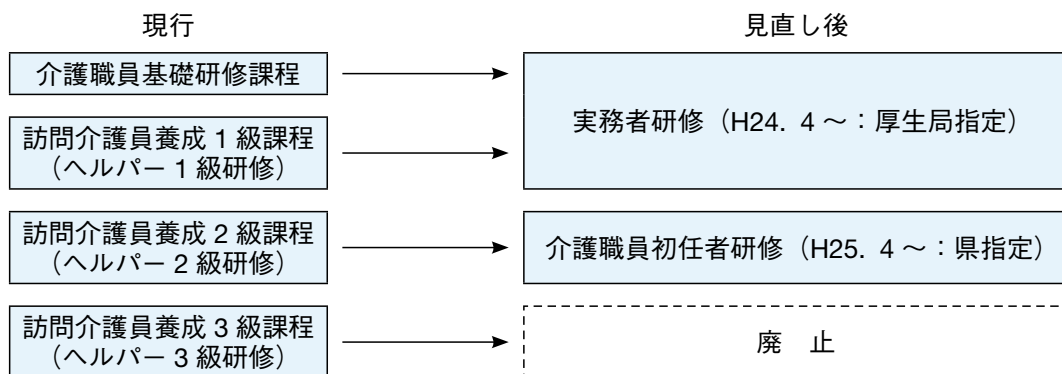
介護保険法施行令（平成10年政令第412号。以下「政令」という。）第3条第1項の規定に基づく介護職員初任者研修（以下「研修」という。）の実施については、政令、介護保険法施行規則（平成11年厚生省令第36号。以下、「省令」という。）、介護保険法規則第22条の23第2項の規定する厚生労働大臣が定める基準（平成18年厚生労働省告示第219号）及び「介護員養成研修の取扱細則について（介護職員初任者研修関係）」（平成24年3月28日付け老振発0328号9号厚生労働省老健局振興課長通知。以下「取扱細則」という。）に定めています。

介護職員初任者研修は、介護に携わる者が、業務を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにすることを目的として行われるものです。

我が国においては高齢化率の進展と共に、要介護高齢者が増加傾向にあります。介護は要介護高齢者の生活を支えるものであり、人間の尊厳にかかわる大変重要な役割を担っております。高齢期に安心できる社会保障として社会福祉の中心的な課題の1つだと言えます。また、近年の介護・福祉ニーズの多様化・複雑化に対応し、質の高い人材が求められております。介護人材の養成としてキャリアパスが導入され最初のステップとして介護職員初任者研修は位置づけられております。一人ひとりの生活を個別的に捉えるために理論と実践を体系的に学んでいきます。

【概要】

介護保険法施行規則の改正により、これまでの訪問介護員養成研修2級課程が介護職員初任者研修に移行しました。



【経緯】

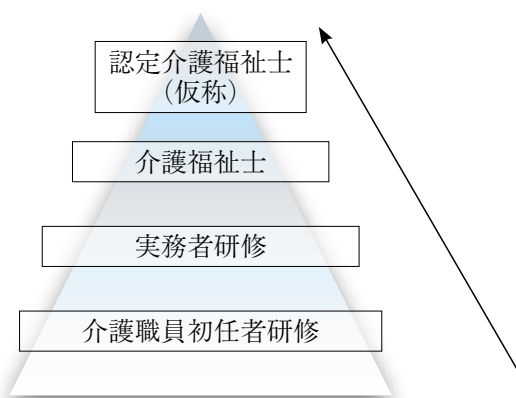
H23. 1. 20 「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」

今後の介護人材キャリアパスを分かりやすくするため、複雑だった介護福祉士の養成体系を明確化することが提言

H24. 3. 2 介護保険法施行規則改正

H24. 3. 28 介護職員初任者研修の取扱細則通知

【今後のキャリアパス】



(2) 履修方法

介護職員初任者研修は、宮城県介護職員初任者研修実施要綱に基づいて実施されます。本学でこの課程を履修できる学生は、総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科3年次在籍学生のみとなります。

介護職員初任者研修の課程を修了するためには、宮城県介護職員初任者研修実施要綱により、下記の表の科目をすべて3年次までに単位修得しなければなりません。介護職員初任者研修の課程を希望するものは、3年次に希望届の提出が必要です。また、修了認定においては「おおむね7割以上の理解度を目安」とされていることから、単位修得の成績が要綱に示されている成績に満たない（可：60～69点）科目については、別途レポート等の提出が求められます。なおかつ、指定専門科目の「基礎介護技術」及び「特講（介護実践の理論と実際）」については、出席時間数が実施要綱に定める時間数を満たすことが必要です。なお、履修定員は60名とします。

(3) 介護職員初任者研修の課程に関する指定専門科目

(別表36)

授 業 科 目 名	単位	履修年次	履修方法
介護論	2	2年以上	必修26単位取得のこと
高齢者福祉論	4	1年以上	
障害者福祉論	4	1年以上	
老年心理学	4	3年以上	
認知症の理解と支援Ⅰ	2	3年	
認知症の理解と支援Ⅱ	2	3年	
医学一般Ⅰ	2	2年以上	
基礎介護技術	2	3年	
介護過程論	2	2年	
特講（介護実践の理論と実際）	2	3年	

※課程履修費および実習費等は、「Ⅸ. 諸手続」により各自負担していただきます。

8. レクリエーション・インストラクター資格

1 レクリエーション・インストラクターとは

公益財団法人日本レクリエーション協会制定の公認指導者資格です。

さまざまな遊びのメニューと、技術を持ち、楽しさの体験を多くの人に提供していきます。

人と人との交流促進や、楽しさの体験に主眼をおいた技術指導や継続的に楽しむクラブ・教室・「市民サービス型事業」の企画・運営・実施を具体的に進める指導者です。

本学は（公財）日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校に指定されています。

活動の場は幼児保育、学校教育の現場や福祉施設、医療機関の専門スタッフ、地域のボランティア活動など場面はますます広がっています。

就職していく分野において『楽しい人間関係』の技術は、必ずや役に立つでしょう。

2 履修方法

「レクリエーション・インストラクター」の養成課程を履修できる学生は、総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科3・4年次在籍生のみです。

履修課程の修業年限は1年間と定められており、両学年ともにそれぞれ3・4年次在籍中となります。履修定員は50名とします。

「レクリエーション・インストラクター」養成課程を修了するためには、(別表37)に掲げる専門科目「レクリエーション概論2単位」「アクティビティ・レクリエーション2単位」「コミュニケーション・ワーク1単位」「大学が認める実習1単位」「レクリエーション事業1単位」の合計5科目の7単位をすべて在籍年度内（1年以内）に取得しなければなりません。

本学養成課程を修了することにより、(公財)日本レクリエーション協会公認のレクリエーション・インストラクターの資格が取得できます。

レクリエーション事業については、認定要件として「事業参加」として規定されているために、その事業参加を証明するものが必要となります。

事業の参加を証明するには、課程認定された事業に参加し、所定の事業参加記録カードに主催者より認印を押印してもらうことが必要です。

なお、履修方法等詳細については授業およびガイダンスで指示します。

3 資格申請の条件

養成課程の認定専門科目（理論・実技・実習（活動）・レクリエーション事業）のすべての単位を修業年限1年（年度内）に取得または「取得見込み」を（公財）日本レクリエーション協会に資格申請をします。また、申請時の満年齢が20歳以上と定められています。

4 その他

資格申請および登録の具体的手続きは、教務部福祉実習指導室が授業およびガイダンスで指示します。課程履修費および実験実習費等は「IX. 諸手続き」により各自負担してください。

※課程履修費 30,000円（教材、学内審査料、諸経費含む）

※公認料及び登録料 16,457円

レクリエーション・インストラクター資格取得に関する認定専門科目

(別表37)

系 列	大学の開設科目	種別	単位	履修年次	履修方法
1 理論科目	レクリエーション概論	講義	2	3 年以上	必修 2 単位
2 実技科目	アクティビティ・レクリエーション	実技	2	3 年以上	必修 3 単位取得のこと
	コミュニケーション・ワーク	講義	1	3 年以上	
2-1 実習(活動)	社会福祉援助技術実習	実習	4	4 年	1 科目選択取得のこと
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	実習	1	3 年以上	
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	実習	4	4 年	
	保育実習Ⅰ	実習	4	3 年以上	
	保育実習Ⅱ	実習	2	3 年以上	
	教育実習(中・高)	実習	4	3 年以上	
	福祉ボランティア活動Ⅲ(地域貢献活動を含む)	実習	1	3 年	
	福祉ボランティア活動Ⅳ(地域貢献活動を含む)	実習	1	4 年	
2-2 事業参加	レクリエーション事業	実習	1	3・4年次	1 科目必修(3 回参加することにより単位認定)

○レクリエーション・インストラクター養成課程(理論科目・実技科目・実習(活動)・事業参加)の履修方法および資格取得について

- 1 上記の理論・実技・実習(活動)・事業参加のすべての指定科目を資格取得年度に履修してください。
注) 前年度までの上記科目の単位取得は認めません。
- 2 実習(活動)は1科目選択必修です。該当する実習(活動)や履修方法はガイダンス時に説明します。
- 3 レクリエーション事業(事業参加)は必修です。事業内容や履修方法はガイダンス時に説明します。

※レクリエーション・インストラクター資格に関する科目は卒業単位科目(関連科目)として履修可能です。

○履修年限および修了認定

履修年限は規定により1年間と定められています。そのため上記の指定科目「理論・実技・実習(活動)・レクリエーション事業」のすべての単位を在籍年度内に取得しなければ修了認定できません。

○資格取得

すべての指定科目を履修年限に修了することにより資格取得できます。

○資格登録申請

すべての指定科目を修了した者を、公認指導者として(公財)日本レクリエーション協会に登録申請します。申請の手続きは大学が一括申請します。

詳細については、授業の時に説明します。

※レクリエーション事業の単位認定については、下記の事業のいずれかに3回参加しなければなりません。(参加時間は1回8時間程度)

- ① 日本、都道府県、市区町村レクリエーション協会主催事業並びに加盟団体主催事業
- ② 行政や民間等の主催する事業で、レクリエーション協会が共催、後援、受託等で関係している事業
- ③ 大学が指定する各種の事業等(レクリエーション・インストラクター養成課程にふさわしいと認める事業)

但し、③に該当する事業は、原則として3回のうち2回までとします。

※レクリエーション事業については(通年)で行います。事業内容・参加人数・日程・会場等を含めて主催者等と協議が必要なために授業及び掲示により随時指示します。

○レクリエーション・インストラクター養成課程（理論科目・実技科目・実習（活動）・事業参加）の履修方法および資格取得について

1 上記の理論・実技・実習（活動）・事業参加のすべての指定科目を資格取得年度に履修してください。
注）前年度までの上記科目の単位取得は認めません。

2 実習（活動）は1科目選択必修です。該当する実習（活動）や履修方法はガイダンス時に説明します。

3 レクリエーション事業（事業参加）は必修です。事業内容や履修方法はガイダンス時に説明します。

※レクリエーション・インストラクター資格に関する科目は卒業単位科目（関連科目）として履修可能です。

○履修年限および修了認定

履修年限は規定により1年間と定められています。そのため上記の指定科目「理論・実技・実習（活動）・レクリエーション事業」のすべての単位を在籍年度内に取得しなければ修了認定できません。

○資格取得

すべての指定科目を履修年限に修了、学内審査に合格することにより資格取得できます。

○資格登録申請

学内審査に合格した者を、公認指導者として（公財）日本レクリエーション協会に登録申請します。申請の手続きは大学が一括申請します。

詳細については、授業の時に説明します。

※レクリエーション事業の単位認定については、下記の事業のいずれかに3回参加しなければなりません。（参加時間は1回8時間程度）

① 日本、都道府県、市区町村レクリエーション協会主催事業並びに加盟団体主催事業

② 行政や民間等の主催する事業で、レクリエーション協会が共催、後援、受託等で関係している事業

③ 大学が指定する各種の事業等（レクリエーション・インストラクター養成課程にふさわしいと認める事業）

但し、③に該当する事業は、原則として3回のうち2回までとします。

※レクリエーション事業については（通年）で行います。事業内容・参加人数・日程・会場等を含めて主催者等と協議が必要なために授業及び掲示により随時指示します。

9. 「臨床美術」課程について

設置の目的

老人性疾患（認知症）の症状を改善する試みとして、臨床美術という技法が注目されています。臨床美術はアートによって脳を刺激して活性化し、認知症予防や認知症の進行抑制に役立てるものです。1996年から臨床に取り入れられている方法で、現在では発達が気になる子どもやメンタルヘルスとして社会人にも実施されるようになってきました。臨床美術は造形美術全般を楽しみながら脳の活性化を促しますが、ただ絵を描いて貰ったりするだけでは効果は得られません。そこで本課程では、造形美術を用いた系統的なカリキュラムに沿って学習・訓練することで、認知症などの人たちの力を引き出す専門的なスキルを養成することを目的としています。そのようなスキルを一層充実させるためには、医学関連の知識や種々の造形の方法の修得、また、美術の持つ心理的効果についても知っておくことが望ましいでしょう。

教育概要

教育課程の内容は、臨床美術概論、臨床美術入門（制作）、コミュニケーショントレーニング、画材について学ぶ教材研究、ロールプレイを中心とした実践研究など多岐にわたり、臨床美術の基本的な知識と技術を習得することができます。

臨床美術課程は、総合福祉学部・総合マネジメント学部・健康科学部医療経営管理学科の学生が選択できます、臨床美術士はその技能に応じて1級から5級までの資格があり、特定非営利活動法人日本臨床美術協会の試験を受けて認定されます。

本課程を修めた者については、臨床美術士5・4級の認定試験受験資格が与えられます。

各認定級の位置づけは以下のとおりです。

資 格	説 明
臨床美術士 5 級	臨床美術の入門的内容を理解している。養成講座のテキスト掲載のアートプログラム、および協会認定のアートプログラム使用に限り、無償で臨床美術を実施することができる。 * 臨床美術実施による報酬を受けることはできない。
臨床美術士 4 級	臨床美術を実践する基礎知識を修得している。養成講座のテキスト掲載のアートプログラム、および協会認定のアートプログラムを使用する場合に限り、臨床美術を実施することができる。
臨床美術士 3 級	臨床美術の運営を理解し、幅広く活動することができる。臨床美術を深く理解することにより、多様な対象者や場面での確に臨床美術を的確に臨床美術を実践する技量がある。
臨床美術士 2 級	臨床美術士として多くの実務経験と深い専門性を持つ。講師として後進を育成し、臨床美術の講演や講義を行うだけの技量がある。美術表現の力量が充分にある。
臨床美術士 1 級	臨床美術士の代表として、数多くの講演経験を持つ。臨床美術関連の書籍を執筆、編纂するなどして臨床美術を広く社会に紹介、拡大する役割を担えるだけの力量がある。

臨床美術課程に関する科目

(別表44)

本学開設科目名	指示事項	種別	単位	履修年次	履修方法
臨床美術論Ⅰ		講義	2	1年以上	必修12単位取得のこと
臨床美術論Ⅱ	臨床美術論Ⅰ履修前提	講義	2	1年以上	
臨床美術論Ⅲ	臨床美術論Ⅱ履修前提	講義	2	2年以上	
臨床美術論Ⅳ	臨床美術論Ⅲ履修前提	講義	2	2年以上	
陶芸制作Ⅰ		講義・演習	2	2年以上	
陶芸制作Ⅱ		講義・演習	2	2年以上	
認知症介護論		講義	2	2年以上	2科目4単位以上選択して取得のこと
認知症病態論		講義	2	3年以上	
表現技術Ⅲ（美術）		演習	1	2年以上	
陶芸制作Ⅲ		講義	2	3年以上	
感性心理学		講義	2	2年以上	
精神医学		講義	4	3年以上	

臨床美術士資格取得について

○臨床美術士とは

臨床美術士は、1人ひとりの高齢者の状態を把握しながら、脳の活性化のためにどのような美術的アプローチが効果的かを見極め、根気よく指導する専門家です。美術に関する知識だけでなく、高齢者の意欲を引き出す方法や、認知症の方とのコミュニケーションなどについても、専門的トレーニングを積んでいます。臨床美術士はその技能に応じて1級から5級までの資格があり、特定非営利活動法人日本臨床美術協会の試験を受けて認定されています。現在、日本国内には約3,000人の臨床美術を学んだ人がおり、高齢者の認知症予防・進行抑制のほか、子どもの感性教育や社会人のメンタルヘルスケアなど多方面で活躍しています。

東北福祉大学において「臨床美術論Ⅰ、Ⅱ」を修めた者は臨床美術士5級の認定試験受験資格が、「臨床美術論Ⅲ、Ⅳ」を修めた者は、臨床美術士4級の認定試験受験資格が与えられます。

※3級までは仙台において臨床美術士養成講座を受講することで受験資格が得られます。詳しくは特定非営利活動法人日本臨床美術協会事務局（電話03-5282-0226）までお問い合わせ下さい。

○特定非営利活動法人日本臨床美術協会とは

特定非営利活動法人日本臨床美術協会は臨床美術士の育成と社会的地位の確立を目指すとともに臨床美術の専門知識と普及を支援し、健康で豊かな社会を構築することを目的に設立されました。臨床美術士の認定をはじめ、講師の派遣事業を推進し、協会主催の福祉、医療等の多角的な内容の講演会、研修会による社会的認知と水準保持の活動を行っています。

○5級・4級認定をご希望の方は下記の要領でご申請ください。

認定費用一覧

取得級	試験料	入会登録費用	受講時徴収合計	備 考
5 級	21,600円	12,800円 内訳：入会金2,000円、年会費10,800円	34,400円	以後、継続して協会員であることを資格保持の条件とする。
4 級	48,600円	臨床美術士5級及び日本臨床美術協会員であることが前提。	48,600円	同上

審査方法：認定試験。筆記と実技の課題提出型。

申請方法 1. 認定申請書に記入の上、日本臨床美術協会事務局にご郵送ください。

2. 下記の郵便振替口座に認定試験料をお振込みください。振替用紙の「通信欄」に「5級認定希望」または「4級認定希望」と明記してください。

口座番号 00150-4-740354

加入者氏名 特定非営利活動法人日本臨床美術協会

※振込手数料は申請者負担となります。

○申請書送付・問い合わせ先

特定非営利活動法人 日本臨床美術協会 事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-10CC ビル 7F

TEL 03-5282-0226 / FAX 03-5282-0231

URL <http://www.arttherapy.gr.jp>（問い合わせフォームあり）

10. 「デジタルコンテンツアセッサ課程」について

1 設置目的

デジタルコンテンツアセッサ課程は、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構（I-ROI）の定めるデジタルコンテンツアセッサ（DCA）の2級或いは3級資格取得を目的とします。インターネットやSNSの発達した高度情報社会の現代を生きるには、その利便性や可能性を活かし、同時にそのリスクに備えられる能力が求められます。しかし、近年のSNSやインターネットの炎上事件、ネット依存症やプライバシー侵害、知的所有権のトラブル等を見るに、大学生がその十分な能力を有しているとは言えません。

本課程では、そのために必要な「i コンプライアンス」「インターネット&デジタルコンテンツテクノロジー」「ネットワークリテラシー」の三つの知識領域毎に配置された科目を学び、必要なコンピテンシーを修得します。本資格は、あらゆる分野における社会人としての基礎能力証明であると同時に、企業や公務員、各種医療・福祉施設等で情報発信を担える人材の基礎資格でもあります。DCA 3級は、ユーザーレベルでのこのコンピテンシーを証明するもので、DCA 2級の前提資格です。DCA 2級は、テクノロジー面を中心にコンピテンシーを更に高め、企業や各種施設等で青少年インターネット環境整備法等が定める「特定サーバー管理者」たりうる能力を保証する資格になります。

また、近年の青少年のネットトラブルやネットいじめ等に対応するためには、教員も高度情報社会のツールを把握する必要があります。その意味で本課程は、教員を目指す者にとっても重要な資格となります。

2 教育概要

本課程は、総合福祉学部、総合マネジメント学部、教育学部、健康科学部医療経営管理学科の学生が選択可能です。カリキュラムはDCA 2級、3級取得に必要な3つの知識ドメイン毎に配置された科目から構成され、定められた履修条件をクリアすると**DCA 2級、3級の申請資格**が与えられます。

3級の資格を取得するには、全ての領域からそれぞれ最低1科目を履修することが必要です。申請資格を取得後、情報福祉研究室を通じてI-ROIに所定の登録手数料を添えて申請することで、資格を得られます。

DCA 2級資格を希望する学生は、3級を取得していることが前提となります。3級取得学生は、DCA 課程の2級カリキュラムに定められた3つの知識ドメイン毎定められた履修条件をクリアするとDCA 2級の受験資格が与えられます。その後、I-ROIの実施する共通テストに合格し、情報福祉研究室を通じてI-ROIに所定の登録手数料を添えて申請することでDCA 2級資格が授与されます。

3 デジタルコンテンツアセッサ (DCA) 課程に関する科目

■デジタルコンテンツアセッサ 3 級

(別表46)

領域	本学開設科目	単位	履修年次	本学での履修方法
i コンプライアンス	情報と社会	2	1 年以上	必修 * オムニバス形式の指定クラスを履修すること
インターネット&デジタル コンテンツテクノロジー	ソーシャルメディア論	2	2 年以上	1 科目 2 単位以上を選択して単位取得のこと
	ネットワークコミュニケーション論	2	2 年以上	
ネットワーク リテラシー	情報社会学	2	1 年以上	1 科目 2 単位以上を選択して単位取得のこと
	情報倫理	2	1 年以上	

※各領域より最低 1 科目ずつ、合計 3 科目以上を履修してください。

※「情報と社会」は、オムニバス形式の指定クラスを履修してください（「情報と社会」のシラバスを確認し、履修登録してください）。

※指定クラスを履修しなかったなど履修登録ミスがあると資格取得できませんのでご注意ください。

※デジタルコンテンツアセッサ課程の科目が所属学科のカリキュラム表にない場合でも、卒業要件単位（関連科目）として履修可能です。

■デジタルコンテンツアセッサ 2 級

領域	本学開設科目	単位	履修年次	本学での履修方法
i コンプライアンス	特講 (i コンプライアンス)	2	2 年以上	必修 2 単位
インターネット&デジタル コンテンツテクノロジー	情報ネットワーク論	2	2 年以上	必修 4 単位
	情報ネットワーク基礎実習	2	2 年以上	
ネットワーク リテラシー	情報社会学	2	1 年以上	DCA 3 級申請の際に用いていない方の科目を選択して単位取得のこと
	情報倫理	2	1 年以上	
専門	インターンシップ I	4	2 年以上	1 科目 2 単位以上を選択して単位取得のこと
	ユニバーサルデザイン論	4	3 年以上	
	インフォメーションデザイン論	2	2 年以上	
	地域減災論 I	2	2 年以上	
	情報セキュリティ管理論	2	3 年以上	

※ 4 つの領域より、履修方法に応じて履修してください。

※デジタルコンテンツアセッサ課程の科目が所属学科のカリキュラム表にない場合でも、卒業要件単位（関連科目）として履修可能です。

※「情報ネットワーク基礎実習」は、情報マネジメント学科学生が優先されますので希望年次に履修できない可能性もあります。早めに履修してください。

11. 「救急救命士」課程について

本「救急救命士」課程を修めた者については救急救命士の受験資格が与えられます。

本学において副専攻として、本受験資格コースを履修可能なのは、医療経営管理学科・福祉行政学科・産業福祉マネジメント学科・情報福祉マネジメント学科の選択学生のみです。

■救急救命士とは

救急救命士とは、病院への搬送途上に限り傷病者に対し救急車等にて救急救命処置を施し、速やかに病院へ搬送することを目的とした国家資格の名称です。救急救命士法第2条にて「厚生労働大臣の免許を受けて、医師の指示の下に、救急救命処置を行うことを業とする者」と記されています。すなわち、救急救命士法における救急救命士は、救急現場ならびに搬送の途上において医師の指示の下に特定の医行為を行う医療従事者です。

救急救命士国家試験とは、国家資格である、救急救命士の免許を取得するための国家試験です。救急救命士として必要な知識および技能を修得して有するものは、試験を受けることができるとされています。

救急救命士の仕事は、専門職として限定されており、応急処置と搬送が主な内容です。大災害の後、被災地での救助活動に救急救命士は多大な貢献をしており、救急救命士の存在感が大きく取り上げられてきました。そのため、現在救急救命士国家資格試験受験を希望するものの数は増加しています。

救急救命士法で定められている救急救命士の医療に関する特定行為は、静脈路の確保、医療器具を使用した気道確保、薬剤投与であるが、平成26年4月からは、心肺機能停止前の重症傷病者に対する静脈路確保及び輸液・血糖測定及び低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与の処置範囲が拡大されました。

救急救命士には、仕事現場が緊急を要する状態であるため、どんな状況にあっても冷静に行動できる判断力と、人の命を助けたいという気持ちを強く持ち、あきらめずに行動できる使命感・責任感が必要とされます。生死の現場に立ち会うため、精神力の強さも求められます。

1. カリキュラムの特徴

国家試験の受験に必要な授業科目を設け、体系的に教育課程を編成しています。指定科目は、公衆衛生学、解剖学、生理学、薬理学、病理学、生化学、微生物学、内科学、外科学、小児科学、産婦人科、整形外科、脳外科学、精神医学、放射線医学および臨床実習（医療機関実習・救急車搭乗実習・シミュレーション実習）が必修となります。とくに、救急現場を想定したシミュレーション実習を1年次から繰り返し行い、臨床実習を履修します。本学における救急救命士は指定科目だけでなく、本学における言語系、スポーツ系、福祉など医療従事者としての素養に関連する特色あるカリキュラムとなっています。各地方自治体における公務員採用試験対策も基礎から計画的、徹底的にサポートします。

2. 救急救命士コース選択制

平成27年度入学者より救急救命士コースの選択制を導入いたします。

選択時期、選抜方法は以下の通りです。

[選抜時期]

1年次入学時にガイダンスを実施します。

[選抜方法]

入学時に、希望者に対して面接を実施して決定します。

[定員]

20名

[試験]

受験は4年次の3月となります。試験科目は、基礎医学（社会保障・社会福祉、患者搬送を含む）・臨床救急医学総論・臨床救急医学各論（一）（臓器器官別臨床医学）・臨床救急医学各論（二）（病態別臨床医学）・臨床救急医学各論（三）の5分野です。

3. 履修方法

資格取得に必要な単位数は80単位です。本学では救急救命士課程に関する31科目、80単位を履修します。実習科目を含む受験に必要な単位の取得が必須となります。指定科目は必修となり、指定教科書を使用します（後日案内します）。ただし、学科により学科科目として取得可能な単位数に加え、副専攻として取得可能な単位数が異なります。1年次により実習を含む、指定科目があるため、履修計画にあたっては留意が必要です。

なお、多くの履修者は先に消防官採用試験（地方公務員試験）を受験することになるため、公務員対策の科目を履修することが望ましい。救急救命士の勤務先はほとんどが消防署ですが、そのほか自衛隊・警察・海上保安庁・民間病院などです。消防学校・専門学校の講師の選択肢もあります。

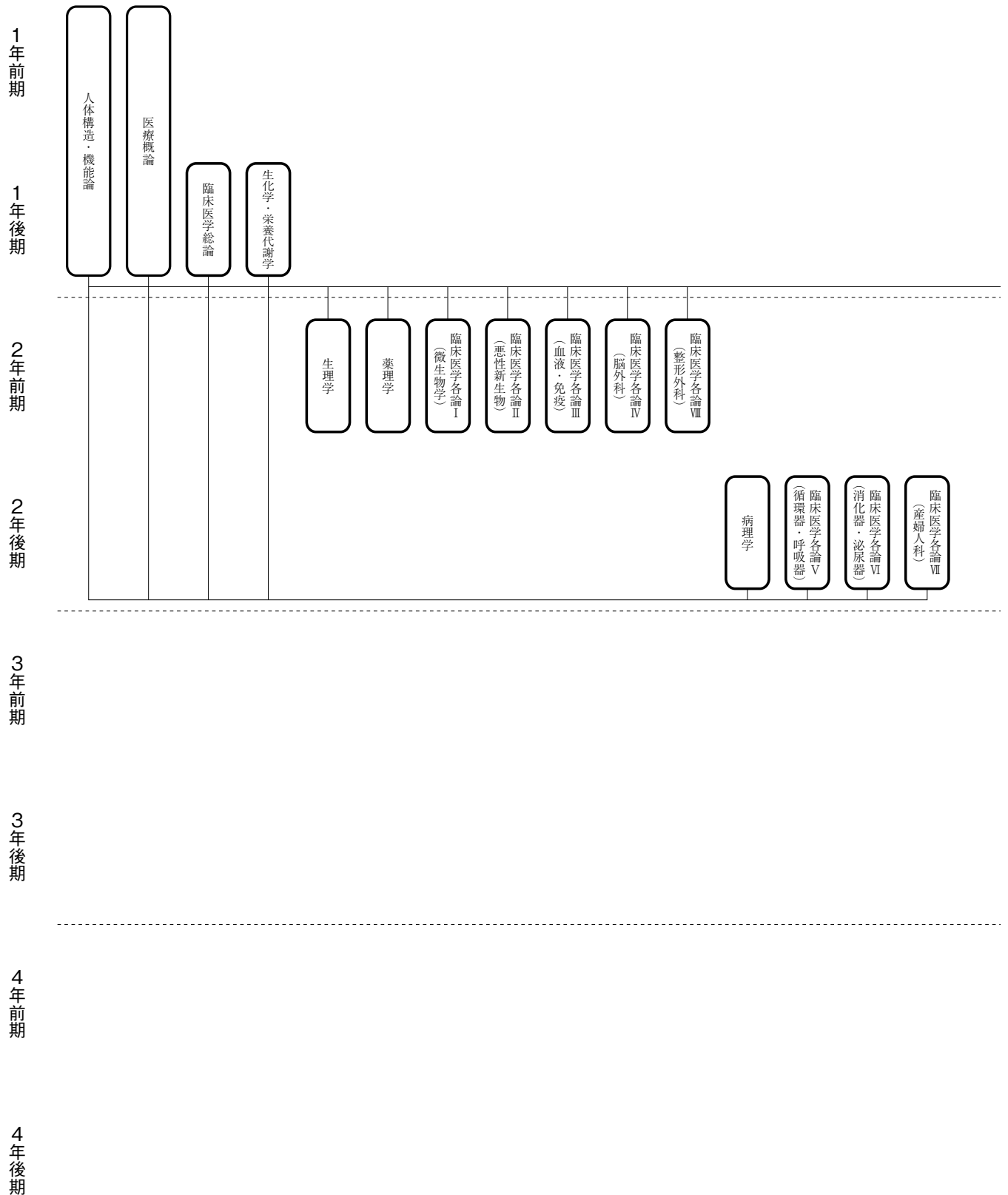
なお、別途実習費を徴収いたします。詳しくは、ガイダンス時に説明いたします。

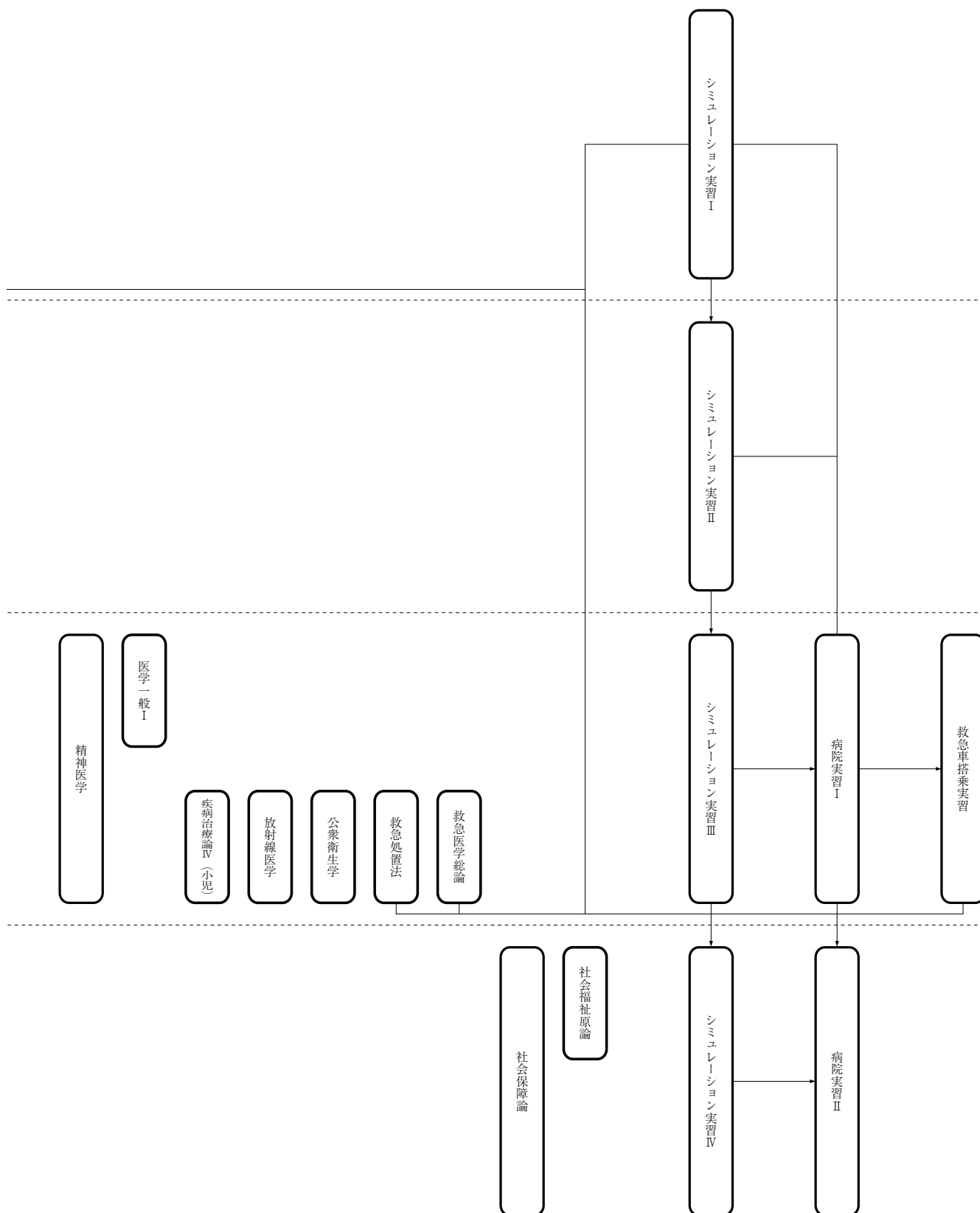
救急救命士課程に関する科目

(別表47)

本学開設科目名	指示事項	単位	履修年次	履修方法
公衆衛生学		2	2年以上	必修80単位
人体構造・機能論		4	1年以上	
生理学		2	2年以上	
薬理学		2	2年以上	
病理学		2	2年以上	
生化学・栄養代謝学		1	1年以上	
医療概論		4	1年以上	
臨床医学総論		2	1年以上	
臨床医学各論Ⅰ		2	2年以上	
臨床医学各論Ⅱ		2	2年以上	
臨床医学各論Ⅲ		2	2年以上	
臨床医学各論Ⅳ		2	2年以上	
臨床医学各論Ⅴ		2	2年以上	
臨床医学各論Ⅵ		2	2年以上	
臨床医学各論Ⅶ		2	2年以上	
臨床医学各論Ⅷ		2	2年以上	
救急処置法		2	2年以上	
救急医学総論		2	2年以上	
疾病治療論Ⅳ（小児）		1	2年以上	
精神医学		4	2年以上	
放射線医学		2	2年以上	
病院実習Ⅰ		4	3年以上	
病院実習Ⅱ		4	4年	
救急車搭乗実習		2	3年以上	
シミュレーション実習Ⅰ		4	1年以上	
シミュレーション実習Ⅱ		4	2年以上	
シミュレーション実習Ⅲ		4	3年以上	
シミュレーション実習Ⅳ		4	4年	
医学一般Ⅰ		2	2年以上	
社会保障論		4	3年以上	
社会福祉原論		2	2年以上	

救急救命士課程（別表47）授業科目の流れ





12. 仏教専修科規程（曹洞宗二等教師資格）

第1条 曹洞宗教育規程に基づき、東北福祉大学に仏教専修科を置く。

第2条 仏教専修科は、在学中に無試験で二等教師の補任の資格を得させるために本宗子弟・徒弟に対して宗門の教師として必要な事項（①宗乗・余乗の知識の修得。②本宗僧侶としての使命を自覚せしめる。③宗門の行持・威儀・作法）について修得させることを目的とする。

第3条 仏教専修科に入学できる者は次の通りとする。

本学の各学部にて在学する本宗寺院の子弟・徒弟。

第4条 仏教専修科の履修学科目及び単位数は次の通りとする。

学科目名	種別	単位数	履修方法	学科目名	種別	単位数	履修方法
仏教概論	講義	4	1年生	仏教史	講義	4	1年生
禅学概論	講義	4	2年生	経論講読	講義	4	2年生
中国禅宗史	講義	4	3年生	宗義概説	講義	4	3年生
日本禅宗史	講義	4	4年生	宗典講読	講義	4	4年生
参禅	実技	2	1～4年	法式声明	実技	2	1～4年
布教	実技	2	1～4年	教化	実技	2	1～4年
				計		40	

第5条 仏教専修科在籍者は、東北福祉大学在学中に第4条の学科目及び宗制による特殊安居を3回以上了じなければならない。

第6条 仏教専修科修了者は、東北福祉大学卒業の際に修了証書を授与する。

第7条 仏教専修科に次の職員を置く。

主任（1名）並びに教授、准教授、講師又は助教、助手（必要職位につき若干名）。

(1) 主任は学長の命を受け、仏教専修科を総理する。

(2) 主任、教授、准教授、講師、助教及び助手は講義及び実習を担当する。

第8条 主任並びに教授、准教授、講師、助教及び助手の任免は、梅檀学園教職員の中から学長が行う。

2 仏教専修科専任の教授、准教授及び講師は、東北福祉大学教授会の構成員とはならない。

附 則

1. この規程は昭和46年4月1日から施行する。
2. この規程は昭和50年4月1日から一部改正して施行する。
3. この規程は平成3年4月1日から一部改正して施行する。
4. この規程は平成11年4月1日から一部改正して施行する。
5. この規程は平成12年4月1日から一部改正して施行する。
6. この規程は平成18年4月1日から一部改正して施行する。
7. この規程は平成19年4月1日から一部改正して施行する。

曹洞宗僧侶教師分限規程（参考）

1. 無試験による正教師の補任 本学仏教専修科を修了し、本山僧堂等において4年以上安居した者。
2. 無試験による1等教師の補任 本学仏教専修科を修了し、本山僧堂等において2年以上安居した者。
3. 無試験による2等教師の補任 本学仏教専修科を修了し、在学中に特殊安居を3回以上了じた者又は本山僧堂等において6ヵ月以上安居した者。

仙台単位互換 ネットワーク

学都仙台単位互換ネットワーク

～本学学生のための履修から単位修得までの流れ～

〈学都仙台単位互換ネットワークとは〉

仙台圏の国公私立の大学、短期大学及び高等専門学校21校が、大学間の交流と協力を推進し、大学教育の活性化と充実をめざし、意欲ある学生に対して多様な学習機会を提供することを目的として設立された単位互換協定です。(本学学則第33条及び第57条)

単位互換とは、協定締結大学で提供される授業科目を履修し修得した単位が、本学の単位として認定される制度です。所属大学(本学)を派遣大学、聴講先大学を受入大学といいます。

協定締結大学

大学…石巻専修大学、尚絅学院大学、仙台大学、仙台白百合女子大学、東北大学、
東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北福祉大学、
東北文化学園大学、東北薬科大学、宮城大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学
短大…尚絅学院大学女子短期大学部、聖和学園短期大学、東北生活文化大学短期大学部、
宮城誠真短期大学、仙台青葉学院短期大学
高専…仙台高等専門学校、放送大学宮城学習センター(有料)

〈出願手続〉

1. 受入大学等の「出願要項」及び「授業概要」等から、提供科目の学習内容や時間割を確認してください。受入大学等の要項は3月中旬に本学に送付されます。教務部カウンターで公開します。授業料等は無料(ただし実験や実習等で実費を徴収する場合があります)です。
2. 本学での履修科目の時間割や通学時間等を考慮し、履修科目を決定してください。
(ア) 単年度内の履修単位数は、10単位程度までとします。
(イ) 1年生は、後期開講の科目から履修できます。
(ウ) 4年生は、本学の卒業要件を満たすとき提供科目の認否が関わる履修はできません。
3. 「単位互換学生(特別聴講学生)願書」を本学教務部に提出してください。願書は教務部にあります。(教学部では学長の推薦を得て、受入大学に受入依頼書等を一括送付します。)
4. 出願期間は、前期が4月中旬、後期が9月中旬となります。(年1回の大学もあります。)
5. 受入大学の選考の結果、入学が許可されると、前期は4月下旬、後期は9月下旬までに「受入決定通知」が教務部に届きます。

〈授業の聴講〉

1. 受入大学のスケジュールにより授業を聴講してください。担当教員のシラバス等に従い教科書等入手してください。
2. 受入大学の担当部局より単位互換学生証が発行されます。

〈定期試験〉

1. 定期試験は、受入大学の試験日程に従い受験してください。
2. 止むを得ない理由で受験できなかった場合、受入大学にて追試験を受験することができます。

〈追試験〉

1. 以下の理由で定期試験を受験できなかった場合、本学教務部を経由の上、受入大学に「理由書」を提出し、受入大学で許可を得ることで、追試験を受験することができます。
 - (ア) 本学と受入大学の定期試験日程が重複した場合
 - (イ) 本学が追試験の対象として認めている理由の場合（提出書類等あり）（第3－第3章 追試験参照）

〈成績の評価〉

1. 成績の評価は、受入大学の定めるところにより行われます。
2. 80点以上を「優」、70～79点までを「良」、60～69点までを「可」、60点未満を「不可」とし、「可」以上を合格点とします。

〈単位の認定・成績の通知〉

1. 受入大学から送付される「成績通知書」に基づいて、教授会の議を経て、本学の授業科目として履修により修得したものと見なします。
2. 修得単位は、本学における「関連科目」として認定されます。
3. 成績の通知は、本学の成績表の配布時期とします。

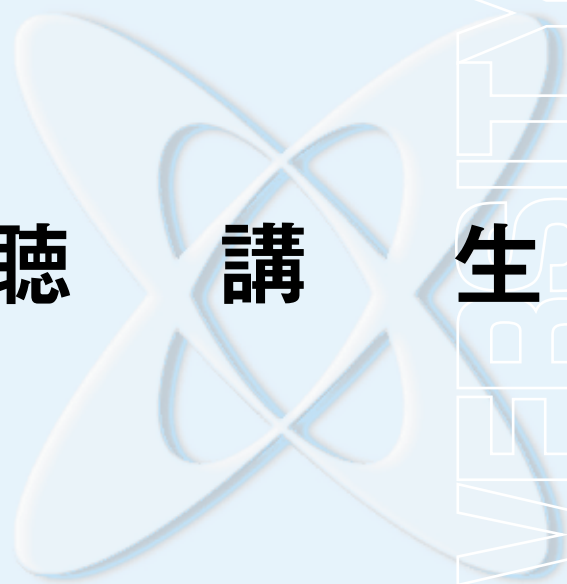
〈単位互換学生（特別聴講学生）に関する履修規程〉

- 第1条（趣旨）この規程は、本学学則第33条及び第57条の規定に基づく、単位互換学生（特別聴講学生）について必要な事項について定める。
- 第2条（受入又は派遣）単位互換協定に基づき、他の大学等に在学する学生が本学の授業科目の履修及び単位修得を希望するとき、又は本学に在学する学生が他の大学等の授業科目の履修及び単位修得を希望するときは、当該他の大学等の学長と協議の上、単位互換学生（特別聴講学生）として受入又は派遣することができる。
- 第3条（入学の時期）入学の時期は、受入及び派遣とも、学年又は学期の始めとする。
- 第4条（入学志願）単位互換学生（特別聴講学生）として入学を志願する者は、所定の期日までに、願書に必要書類を添えて、入学を志願する者が在学する学長に願い出なければならない。
- 第5条（入学又は派遣の許可）他の大学等の学長が推薦する学生で、本学の選考に合格した者、又は本学の学生で学内選考並びに他の大学等における選考に合格した者について、入学又は派遣を許可する。
- 第6条（履修期間）履修期間は、半年又は1年とする。但し、1年次については後期からの履修とする。
- 第7条（履修単位）履修単位は、単年度内で10単位程度を限度とする。
- 第8条（授業料等）授業料等は徴収しない。但し、実験実習及び実技等に係る費用については、必要に応じて実費を徴収する。
- 2 納付した費用は、原則として返還しない。
- 第9条（科目履修の方法）科目履修の方法は、単位互換協定による当該他の大学等の定めにより行われる授業を聴講するものとする。
- 第10条（単位修得の方法）単位修得の方法は、単位互換協定による当該他の大学等の定める試験等によるものとする。
- 第11条（成績の評価及び通知）単位互換協定による当該他の大学等の定める試験等で履修科目の単位を認定した者については、「成績通知書」により科目名、単位数、成績評価等について、所定の期日までに当該他の大学等の学長に通知するものとする。
- 第12条（学則の準用）この規程に定めるもののほかは、本学並びに他の大学等の学則を準用する。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日より施行する。

IV. 聽 講 生



聴講生規程

第1条 学則第55条の規程に基づく聴講生の入学の時期、その他必要な事項は、この規程の定めるところによる。

(入学の時期)

第2条 入学の時期は、学年または学期の始めとする。

(入学志願)

第3条 聴講生として入学を志願する者は、大学・短期大学・高等専門学校卒業生で次に掲げる書類に検定料3,000円を添えて願い出なければならない。

- 1 本学所定の入学願書
- 2 履 歴 書
- 3 健康診断書（本学所定）
- 4 最終学校の卒業証明書
- 5 勤務先を有する者は、その所属長の承諾書

(入学の許可)

第4条 選考に合格した者で、所定の日まで入学金5,000円を納付し、誓約書およびその他の指定書類を提出した者について入学を許可する。

- 2 入学許可は教授会の議を経て、学長が行う。

(聴講期間)

第5条 聴講期間は1年以内とする。ただし、講義を継続したいときは許可を得て、1年以内の期間を延長することができる。

(授業料)

第6条 授業料は1単位5,000円とし、当該学期の始めの月の末日までに、当該分の授業料を納付しなければならない。

(授業料の返付)

第7条 納付した学費等の返戻に関しては、消費者契約法及びその他関係法規に基づき処理する。

(聴講証明書の授与)

第8条 授業科目を聴講した者については、聴講証明書を与えることができる。

(学則の準用)

第9条 この規程に定めるもののほか、学期、休業日、休学、復学、退学、除籍、教育課程、履修方法等については、学則を準用する。

附 則

1. この規程は、昭和37年4月1日より施行する。
2. この規程は、昭和56年12月1日より施行する。
3. この規程は、平成2年12月1日より施行する。
4. この規程は、平成6年4月1日より施行する。
5. この規程は、平成8年4月1日より施行する。
6. この規程は、平成9年4月1日より施行する。
7. この規程は、平成10年4月1日より施行する。
8. この規程は、平成18年4月1日より施行する。

聴講生修学上の注意事項

聴講生を志願するにあたっては「聴講生規程」の定めるところによるほか、下記の事項に留意のうえ、手続をしてください。

1 聴講科目および単位

聴講科目は講義科目を原則とします。なお、聴講科目の単位の合計は、1年につき20単位を超えることができません。

2 聴講期間

授業は原則として学年または学期単位ですので、通常4月入学の場合は9月または翌年3月まで、9月入学の場合は翌年3月までとなります（具体的には、「授業時間表」によって承知してください）。なお、聴講期間満了後、引続き特定の科目を聴講しようとする場合、または聴講期間満了前に退学しようとする場合には、それぞれ所定の手続を経て許可を受けてください。

3 入学願書の提出期限

4月入学の場合 3月31日

9月入学の場合 9月5日

聴講を継続しようとする場合に提出する「聴講継続願い」の提出期限は、聴講期間が満了する20日前です。

4 入学手続

選考に合格すると、次の書類・学納金が必要ですので、あらかじめ準備しておいてください。

- (1) 写真（カラー、4 cm×3 cm 2枚）
- (2) 誓約書・在学保証書（本学所定のもの）
- (3) 入学金（5,000円）
- (4) 授業料

入学手続等についてわからない場合には、教務部にお問い合わせください。

5 その他

(1) 授業料

授業料の納付については、「聴講生規程」に定めますが、納付期限は厳守してください。なお、授業料は財務部に納付してください。

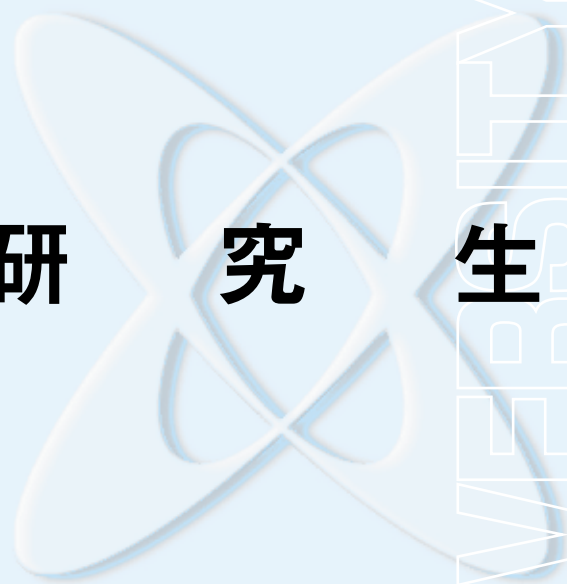
(2) 諸連絡

授業、その他に関して聴講生に連絡すべき事項は、通常掲示をもってお知らせします（掲示の場合は一般学生と共通）。

(3) 入学後の身上変更

履歴事項、住所、本籍、保証人、そのほかの身分上に関して変更が生じた場合には、すみやかに学生生活支援課に届け出てください。

V. 研 究 生



研 究 生 規 程

第1条 学則第54条第2項に基づき、研究生に関する規程を次のとおりとする。

第2条 研究生の定員は各学科に若干名とする。

第3条 研究生の入学の時期は学年または学期の始めとする。

第4条 研究生として入学を志願する者は、あらかじめ指導教員の承諾を得て、次の書類を添えて願出なければならない。

- (1) 願 書 (4) 卒業証明書 (7) 勤務先を有する者はその所属長の承諾書
- (2) 履 歴 書 (5) 成績証明書 (8) 誓 約 書
- (3) 健康診断書 (6) 写真(カラー、4 cm×3 cm) 2枚 (9) その他本学が必要とする書類

第5条 研究生の入学許可は、選考の上教授会の議を経て学長がこれを行う。

第6条 研究生の在学期間は原則として1年以内とする。ただし、継続したいときは許可を得て1年以内の期間を延長することができる。

第7条 研究生は専任教員の指導の下で研究を行わなければならない。

必要がある場合は指導教員を経て、関連科目担当教員の承諾を得て授業を聴くことができる。

第8条 研究生の学費は次のとおりとする。

区 分	検 定 料	研 究 料 (月 額)	入 学 金
本学卒業生	3,000円	10,000円	5,000円
一 般	3,000円	15,000円	5,000円

(1) 諸納金は前納とする。納付した学費等の返戻に関しては、消費者契約法及びその他関係法規に基づき処理する。

(2) 実験、実習費は別に徴収する。

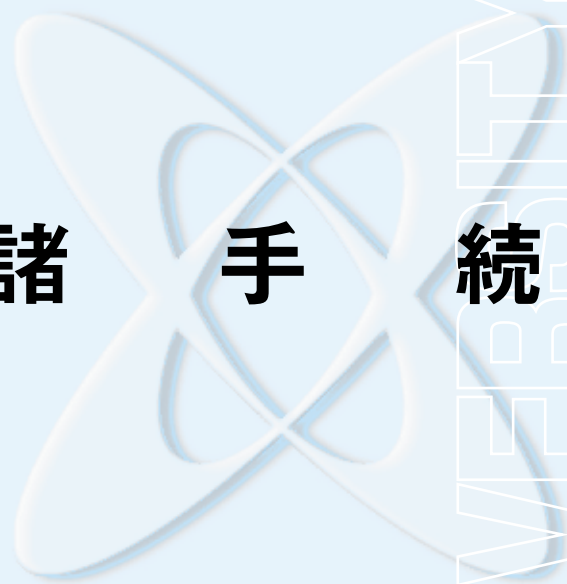
第9条 研究生には、研究期間在籍証明書を発行することができる。

第10条 研究生には、本規則のほか一般学生に関する規程を準用する。

附 則

- この規程は昭和53年10月1日から施行する。
- この規程は平成2年12月1日から施行する。
- この規程は平成10年4月1日から施行する。
- この規程は平成18年4月1日から施行する。

VI. 諸 手 続



第1 学費等納付細則

- (1) この細則は学則第60条、第61条に定める学費・課程履修費・任意の実験実習費等の納付手続きについて定めたものです。
- (2) 学費等は、毎年度始めに全額を納入することが原則です。ただし、都合によっては授業料を前期・後期の二期に分割して納入することができます（納付期限が銀行休業日の場合は翌営業日を期限とします）。

分割納入の場合 納入期限	前期分	:	5月10日
	後期分	:	10月10日

- (3) 課程履修に伴う実験実習費等は、教務部および財務部の指示に従って授業料と同様に納入期限を厳守してください。

実習・演習に関わる費用

I) 保健看護学科臨地実習科目

1. 看護体験実習
2. 基礎看護学実習Ⅰ
3. 基礎看護学実習Ⅱ
4. 成人看護学実習
5. 老年看護学実習Ⅰ
6. 老年看護学実習Ⅱ
7. 小児看護学実習
8. 母性看護学実習
9. 精神看護学実習
10. 在宅看護学実習
11. 統合実習

II) 保健看護学科臨地実習納入金額

1年次 100,000円 2年次 200,000円 3年次 200,000円 4年次 200,000円

※保健師選択者の「公衆衛生看護学実習Ⅰ」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の実習費は50,000円となります。

III) リハビリテーション学科実習科目等

1. ボランティア実習
2. 見学実習
3. 評価実習
4. 評価実習Ⅰ
5. 評価実習Ⅱ
6. 実践実習Ⅰ

7. 実践実習Ⅱ

8. 作業療法支援実践

Ⅳ) リハビリテーション学科 臨床実習等納入金額

1 年次 100,000円 2 年次 300,000円 3 年次 300,000円 4 年次 300,000円

Ⅴ) 課程履修に関わる費用（原則として履修初年度）

1. 教職課程（2 年次納入）	20,000円
2. 学校図書館司書教諭（3 年次納入）	10,000円
3. 博物館学芸員課程（1 年次納入）	20,000円
4. 図書館司書課程（1 年次納入）	20,000円
5. 社会教育主事任用資格課程（社会教育学科を除く）	10,000円
6. 障害者スポーツ指導者課程	10,000円
7. 介護職員初任者研修課程（3 年次納入）	25,000円
8. レクリエーション・インストラクター養成課程（3 年次又は 4 年次納入）	30,000円
9. 臨床美術論Ⅰ・Ⅱ履修費	10,000円
10. 臨床美術論Ⅲ・Ⅳ履修費	10,000円

Ⅵ) 任意の実習・演習に関わる費用

1. 社会教育実習	20,000円
2. 博物館実習	13,000円
3. 教育実習（3 週間の場合）	37,000円
4. 介護実習（福祉の教員免許状）	30,000円

以上の任意の実習・演習に関わる費用は平成18年4月1日現在の金額です。

Ⅶ) 免許、資格申請に関わる費用

1. 教育職員免許状授与申請	1 免許状 5,000円
2. レクリエーション・インストラクター申請登録費	16,000円

※ 臨床美術士の審査料及び認定料については「臨床美術」課程の項を参照してください。

以上に要する費用は別途徴収となります。

(4) 入学後の学費等の納入方法は、本学指定の振込用紙を使用して銀行振込により納入してください。

(5) 各期の学費を滞納した場合には、定期試験の受験ができません。

第2 東北福祉大学私費外国人留学生学費等減免規程

(目 的)

第1条 この規程は、本学の私費外国人留学生（以下「留学生」という）の学費を減免することによって、留学生の経済的負担を軽減し、本学における教育の国際化に寄与することを目的とする。

(減免の対象者)

第2条 減免の対象者は、本学の学部もしくは大学院の正規課程に入学し又は在籍する留学生で経済的理由により学業の継続が困難な状況にある者とする。ただし、次に該当する者は除く。

(1) 成業の見込みがないと認められる者

(2) 留年した者。ただし、病気その他やむを得ない事由により留年した者は除く。

(減免の復活)

第3条 前条第2号の留年により減免の対象者から除外された者が、その後進級した場合、及び休学した者が復学した場合には、再度減免の対象者としてすることができる。

(減免の期間)

第4条 減免の期間は1年とし、通算した期間が学部においては4年、大学院においては修士課程2年、博士課程3年をこえないものとする。

(減免の額)

第5条 減免の額は、原則として、学部又は大学院の学費の5割以内とする。

(減免の申請)

第6条 減免の申請をする者は、経済状況等を詳細に記載した所定の申請書等を提出しなければならない。

(面接の実施)

第7条 減免選考にあたっては、面接を実施する。

(減免の選考)

第8条 減免の選考は、提出された申請書、添付書類及び面接の結果等を総合的に斟酌して行う。

(減免対象者および減免額の決定)

第9条 減免対象者の数と減免額は、申請者数や事業執行年度の予算との相関、内外諸状況勘案し、その都度決定するものとする。

2 前項の決定は、部長学科長会議の議を経て学長が行う。

(細則)

第10条 この規程の実施に必要な事項は別に定める。

(規程の改正)

第11条 この規程の改正は、部長学科長会議の議を経て学長が行う。

附 則

1. この規程は、平成14年4月1日より施行する。

2. この規程は、平成16年4月1日より一部改正施行する。

3. この規程は、平成25年4月1日より一部改正施行する。

第3 留年学生に対する取扱い

- (1) 本学に4年以上在学した者で卒業に必要な単位が不足しているために留年する学生の取扱いは、この内規の定めるところによります。
- (2) 留年した学生の卒業時期は不足科目の単位充足時とし、原則として9月末および3月末の年2回とします。
- (3) 留年した学生が不足単位を履修する方法は当該学部学科の履修方法によるものとします。
- (4) 留年した学生が卒業のための不足単位を履修する場合の学費は次のとおりです。
 - 1) 卒業に必要な単位数が30以下の学生の学費は次のようになります。
 - ①授業料は1単位につき15,000円とします。
 - ②施設設備資金・教育環境整備費はそれぞれ半額としますが、厚生費・後援会費は減額されません。
 - ③実験施設維持費・実習費については別途算出されます。
 - 2) 卒業に必要な単位数が31以上の学生の学費は次のようになります。
 - ①卒業に必要な不足単位が前期のみで習得できる場合の授業料は前期分とします。
 - ②卒業に必要な不足単位の修得に1年を要する場合の授業料は1年分とします。
 - ③施設設備資金・教育環境整備費はそれぞれ半額としますが、厚生費・後援会費は減額されません。
 - ④実験施設維持費・実習費については別途算出されます。

第4 願書および証明書

修学上の事項に関する願書および届出等はさまざまにありますが、欠席、休学、退学、復学等をあらかじめ学則に従って学長宛に保証人連署で提出し、許可を受けることになっております。その際の手続および書式については、次のように定められていますので間違いがないよう努めてください。

なお、用紙は取扱いの部課で受領してください。

1 願 書

名 称	取扱の部課	備 考
休学許可願書 誓 約 書	教 務 部	様式1-(1)(2) 用紙は交付
退学願書 転学願書 復学願書	教 務 部	様式2 用紙は交付
追試験願書	教 務 部	用紙は交付
4年次特別 再試験願書	教 務 部	用紙は交付

2 届 出

名 称	取扱の部課	備 考
履修届	教 務 部	用紙は交付
欠席届	教 務 部	様式4 ユニバーサルパスポートより ダウンロードして使用
改姓届 籍届	学生生活 支援課	様式5 用紙は交付
保証人 変更届	学生生活 支援課	保証人連署 様式6 用紙は交付
住所 変更届	学生生活 支援課	様式3 用紙は交付

様 式 例

様式1

(1)

休 学 許 可 願 書			
学部 学籍番号	学科 号	年次 () 氏 名	年入学)
住 所			
下記のとおり休学いたしたく誓約書を添えて許可申請いたします。			
記			
1. 休学期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日		
2. 休学事由	(休学には疾病、その他特別の理由が必要です。復学には休学理由の消滅が必要となりますので、具体的に記載してください。)		

3. 休学事由に対する保証人の所見（保証人自書のこと）			

4. 過去に休学・留年があれば記載してください。			
休学 留年	年次	事 由	休学 留年 年月日
			自 年 月 日
			自 年 月 日
			自 年 月 日
			自 年 月 日
平成 年 月 日			
本人氏名			印
保証人住所			
保証人氏名			印
保証人電話			
東北福祉大学			
学 長 萩 野 浩 基 殿			

(2)

誓 約 書			
休学許可のうえは、本人ならびに保証人とも休学事由の早期解消に最善の努力をいたします。また、休学期間中は保証人の責任において指導教育し、指定の現況報告書を提出いたします。			
以上、御誓約申し上げます。			
本人氏名		印	
保証人氏名		印	
教務部部長		殿	
教務部所見		教務部受付日	
部長			
教務部委員会		平成 年 月 日	保留承認
教 授 会		平成 年 月 日	承認

様式 2

平成 年 月 日

東北福祉大学
学 長 萩 野 浩 基 殿

本 人 _____ 印
保証人 _____ 印
保証人住所 〒 _____

TEL () _____

(退・転・復)学 願

私は下記により(退・転・復)学いたしたいので御許可願います。

記

学部 _____
学科 第 _____ 年次 (平成 _____ 年入学)
学籍番号 第 _____ 号
氏名 _____

1. 事由

様式 3

平成 年 月 日

学長 萩 野 浩 基 殿

学籍番号 _____ 第 _____ 学年
学生氏名 _____ 印
保証人氏名 _____ 印

身 上 変 更 届

次のとおり変更がありましたのでお届け致します。

記

【変更理由】 _____

【変更事項】 ※該当に○をつけて下さい

学生氏名変更(改姓・改名)	【1】をご記入の上、戸籍抄本を添付し提出して下さい。
本籍地変更	【2】をご記入の上、戸籍抄本を添付し提出して下さい。
保証人変更	【3】をご記入の上、戸籍抄本を添付し提出して下さい。
保証人住所等変更	【4】をご記入下さい。

【1】氏名変更(改姓・改名)

改姓・改名前氏名 _____ 改姓・改名後氏名 _____

カ ナ	_____	→	カ ナ	_____
氏 名	_____		氏 名	_____

【2】本籍地変更

旧本籍	都道 府県
新本籍	都道 府県

様式 3 (裏面)

【3】保証人変更

旧保証人

氏 名	_____	続 柄	_____	電話番号	_____
住 所	〒 _____				

新保証人

氏 名	_____	続 柄	_____	電話番号	_____
住 所	〒 _____				

【4】保証人住所等変更

旧住所	〒 _____				
変更後住所	〒 _____				
電話番号	自宅:	_____	携帯:	_____	_____
勤務先	_____	勤務先電話	_____	_____	_____

様式 4

(病気の場合は医師の診断書を添付のこと)

欠 席 届

平成 年 月 日

先生 _____

私事、下記理由により欠席させていただきますので書面をもってお届けいたします。

記

I、理 由

II、欠席する曜日、時限、科目等

曜日	時限	科目名	_____
----	----	-----	-------

III、欠席期間 自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日

学部	学科	年	学籍番号	_____
----	----	---	------	-------

本人氏名 _____ 印
住 所 _____
T E L _____

3 各種証明書の交付

各種証明書は、証明書自動発行機による交付と各証明書申請書による交付があります。詳細については CAMPUS2015 を参照してください。

証明書自動発行機による発行は、学生証を投入しタッチパネル操作により即時発行されます（1号館1階エレベータ前およびステーションキャンパス）。

各証明書申請書による発行は、教務部前（1号館1階）の証紙販売機で求めた証紙を「各証明書申込用紙」に貼付し、各証明書発行部署に直接申し込み、交付を受けてください。なお、交付は申込日の即日または翌日に交付されますので早めに申し込むようにしてください。

種 別	手数料（円）	申 込 先
在 学	100	証 明 書 自動発行機
単 位 取 得 学 業 成 績	300	
任 用 資 格 取 得 見 込	100	
卒 業 見 込	100	
保 育 士 資 格 取 得 見 込	100	
図 書 館 司 書 資 格 取 得 見 込	100	
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 取 得 見 込	100	
第 一 種 衛 生 管 理 者 免 許 取 得 見 込	100	
博 物 館 学 芸 員 資 格 取 得 見 込	100	
社 会 教 育 主 事 任 用 資 格 取 得 見 込	100	
社 会 福 祉 士 受 験 資 格 取 得 見 込	100	
精 神 保 健 福 祉 士 受 験 資 格 取 得 見 込	100	
介 護 福 祉 士 資 格 取 得 見 込	100	
食 品 衛 生 管 理 者 任 用 資 格 取 得 見 込	100	
食 品 衛 生 監 視 員 任 用 資 格 取 得 見 込	100	
身 体 障 害 者 福 祉 司 任 用 資 格 取 得 見 込	100	
保 健 師 ・ 看 護 師 受 験 資 格 取 得 見 込 証 明 書	100	
理 学 療 法 士 受 験 資 格 取 得 見 込 証 明 書	100	
作 業 療 法 士 受 験 資 格 取 得 見 込 証 明 書	100	
教 員 免 許 状 取 得 見 込	100	
健 康 診 断 書	300	
学 割 証	無料	
修 了 見 込	100	教 務 部
卒 業	200	
指 定 保 育 士 養 成 施 設 卒 業	200	
保 育 士 資 格 取 得	200	
介 護 福 祉 士 資 格 取 得	200	
訪 問 介 護 員 養 成 2 級 課 程 修 了	200	
図 書 館 司 書 取 得	200	
博 物 館 学 芸 員 資 格 取 得	200	
食 品 衛 生 管 理 者 任 用 資 格 取 得	200	
食 品 衛 生 監 視 員 任 用 資 格 取 得	200	
社 会 教 育 主 事 任 用 資 格 取 得	200	
社 会 福 祉 士 指 定 科 目 履 修（国家試験受験用）	500	
社 会 福 祉 士 指 定 科 目 履 修 見 込（国家試験受験用）	300	
社 会 福 祉 士 受 験 資 格 取 得	200	
社 会 福 祉 士 基 礎 科 目 履 修	300	

種 別	手数料 (円)	申 込 先
精神保健福祉士指定科目履修 (国家試験受験用)	500	教 務 部
精神保健福祉士指定科目履修見込 (国家試験受験用)	300	
精 神 保 健 福 祉 士 受 験 資 格 取 得	200	
精 神 保 健 福 祉 士 基 礎 科 目 履 修	300	
任 用 資 格 取 得	200	
身 体 障 害 者 福 祉 司 任 用 資 格 取 得	200	
認 定 心 理 士 資 格 取 得 見 込	100	
基 礎 資 格 (社 会 科)	600	
基 礎 資 格 (福 祉 科)	600	
基 礎 資 格 (地 理 歴 史 科)	600	
基 礎 資 格 (公 民 科)	600	
基 礎 資 格 (情 報 科)	600	
基 礎 資 格 (特 別 支 援 学 校)	600	
基 礎 資 格 (養 護 教 諭)	600	
臨 床 美 術 士 5 級 取 得 見 込	100	
臨 床 美 術 士 4 級 取 得 見 込	100	
レクリエーション・インストラクター取得見込	100	
仏 教 専 修 科 単 位 取 得 成 績	300	
学 生 証 再 発 行	1,000	学生生活 支援センター ※科目等履修生・聴 講生・研究生のJR 通学証明書は不可
仮 学 生 証	300	
奨 学 生 推 薦 証 書	100	
通 学*	無料	
人 物	100	キ ャ リ ア セ ン タ ー
人 物 (卒 業 生)	200	
推 薦 書	100	
希 望 実 習 依 頼 状	100	

注) ① 申し込み後1カ月を経過した場合は破棄いたします。

② 授業料その他納付金未納者には証明書の発行はいたしません。

③ 一旦納入した証明書料等は事由の如何にかかわらず返金いたしません。

④ 英字の証明書は1通600円とし、発行は約1週間後になります。

4 学生証 (身分証明書)

学生証は、東北福祉大学の学生である身分を証明するもっとも大切なものです。常に学生証を携帯し、学生証記載の注意事項を守り、試験は勿論、各種証明書の申し込み時には必ず提示してください。

学生証の紛失、盗難等の場合はただちに教務部へ届け出、財務部で所定の料金を納入し、再発行の手続きをとってください。学生証は在学期間中使用し、毎年度更新いたします。

5 在学証明書

在学証明書は、健康保険証 (遠隔地被扶養者証) の新規作成や継続をする時、あるいは保護者の勤務先の所得税控除等に使用される場合があります。

1号館1階エレベータ前およびステーションキャンパスに設置されている証明書自動発行機を利用し、発行を受けてください。

6 成績証明書

成績証明書は就職する場合や、奨学生の申請をする場合に必要になります。

1号館1階エレベータ前およびステーションキャンパスに設置されている証明書自動発行機を利用し、発行を受けてください。

7 卒業見込証明書

卒業見込証明書は、4年生で卒業要件を90単位以上修得済みでなければ発行できません。

1号館1階エレベータ前およびステーションキャンパスに設置されている証明書自動発行機を利用し、発行を受けてください。

8 人物証明書

人物証明書は、就職試験を受ける場合等に必要になることがある書類で、原則として直接本人と面接したうえで作成、発行されます。

教務部前（1号館1階）の証紙販売機で求めた証紙を、「各種証明書申込用紙」に貼付し、キャリアセンターキャリア支援課に申し込んでください。

9 通学証明書

通学証明書は、通学に必要なJR、地下鉄、市営バス、民間バスの定期乗車券を購入するために交付される証明書で、学生生活支援センター学生生活支援課で必要な学生に発行します。JR定期券をその年度で初めて購入する際には、『通学定期乗車券発行控』と学生証を持参のうえ、定期券発売所で購入してください。仙台市営バス・宮城交通バス・仙台市営地下鉄を利用する場合、本人が購入する場合に限り、学生証を提示して、定期券発売所で購入してください。

10 実習用定期乗車券発売申請書

本学の指定学校等への実習のために、実習用定期乗車券を購入する場合は、この申請書が必要になります。

手続きについては、学生生活支援センター学生生活支援課までお問い合わせください。

11 学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）

① 学割証は、学生の修学上の経済負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度です。JRを利用し、乗車区間が片道100kmを超えて、原則として次の目的をもって旅行する必要があると認めた場合に発行されます。

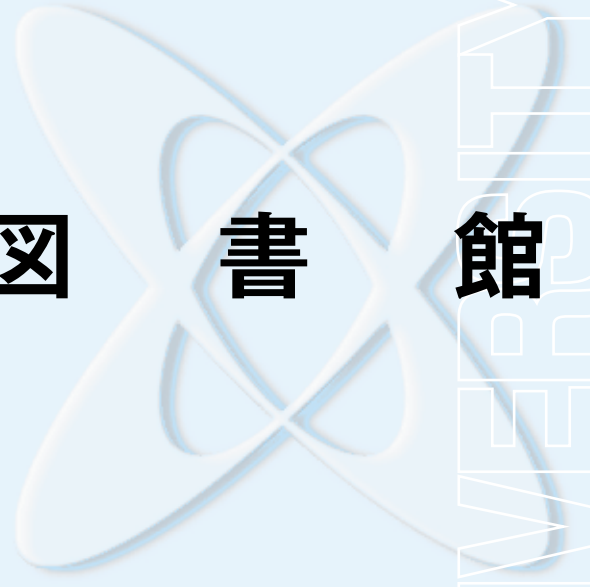
- ・ 休暇、所用による帰省。
- ・ 実験実習等の正課の教育活動。
- ・ 大学から認められた特別教育活動または体育、文化に関する正課外の実習活動。
- ・ 就職または進学のための受験等。
- ・ 大学から認められた見学または行事への参加。
- ・ 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理。
- ・ 保護者の旅行の随行。

- ② 学割証は、1号館1階エレベータ前およびステーションキャンパスに設置されている証明書自動発行機を利用してください。
- ③ 不正使用（他人への譲渡、貸与等）および誤用（有効期限切）等は、本学学生全体に対する信用にかかわり、以後の発行に支障をきたしますので十分注意して利用してください。
また、長期休業前は混雑が予想されますので余裕をもって交付を受けてください。

12 学生団体旅行割引

学生団体旅行割引は、ゼミ、課外活動等の15名以上の団体で、教職員に引率され、合宿または遠征等の場合に利用できます。申し込みには、学長の証明が必要です。駅、旅行センター等の窓口で「団体旅行申請書」用紙の交付を受け、合宿、遠征計画書を添えて学生生活支援課に提出し、証明を受けてください。なお、割引率は普通旅客運賃の50%引き（引率者は30%引き）です。

X. 図 書 館



図書館の利用方法

開館日および開館時間

■ 本館（国見キャンパス）

【 平 日 】 9：00 ～ 20：00

【土・日・祝日】 10：30 ～ 18：30

＊ただし、授業期間外において学務行事のない日は

【 平 日 】 9：00 ～ 17：00

【土・日・祝日】 休館

■ 分室（wellcom 21）

【 平 日 】 11：00 ～ 19：00

＊ただし、授業期間外において学務行事のない日は

【 平 日 】 11：00 ～ 17：00

■ 休館・休室日

- ・授業期間外において学務行事のない土・日・祝日
- ・入学式、卒業式
- ・入学試験日
- ・夏季・冬季・春季各休業中の一定日

・臨時休館日等はホームページ、図書館掲示板に掲載します。

入退館（本館）

入館には学生証が必要です。皆さんに安心して図書館を利用していただくために入退館システムを採用しているためです。

入館は学生証をカードリーダーにタッチし、バーを押してください。

退館はそのままバーを押してください。

・退館時にアラームが鳴った場合は図書館員までお申し出ください。



図書館

資料の探し方

利用したい資料を探すには、コンピュータ検索が不可欠です。

■ OPAC（オーパック）システムでの検索

OPACとはOnline Public Access Catalogの略です。

書名・著者名などをキーワードとして検索し、

詳細画面で、その資料のある場所（所在）を知ることができます。

検索例）フィンランド福祉国家の形成：社会サービスと地方分権改革／山田 眞知子 著／木鐸社

検索画面

検索結果一覧画面

詳細画面

巻次	所在	請求記号	資料番号	状態	コメント	ISBN
	学生閲覧図書	369.023/ヤマ/学開	0000108578	貸出中		4833223775
	書庫	369.023/ヤマ	0000135825			4833223775

●所在と請求記号を頼りに資料を探しましょう。

●雑誌は誌名順に配架してあります。

■ 資料の利用方法

資料は自由に利用することができますが、“書庫”や“AV資料”のように利用に手続きが必要なものもあります。

貸出・返却

■ 貸 出

《貸出冊数と期間》

10冊 14日間

(この他にベストセラー 1 冊を14日間借りられます。)

《貸出方法》

学生証と借りたい資料をカウンターに提示してください。

- ・返却期限日を過ぎた貸出図書がある場合は貸出できません。

《貸出できない資料》

- AV 資料 (ビデオ・DVD など)
- 雑誌 - - - - - 最新号はコピーできません。
- 禁帯出ラベルの貼ってある資料

■ 返 却

カウンターまたは返却ポストに資料を返却してください。

- ・その日のうちに他の資料の貸出を希望する場合は、カウンターに返却してください。
- ・返却ポストは図書館 1 F 入口、1 号館 1 F および分室前にあります。

■ 予 約

借りたい資料が貸出中の場合、その資料を予約し、優先的に利用することができます。

《予約方法》

必要事項を記入した「図書予約票」を 3 F カウンターに提出してください。

※「図書予約票」は 3 F カウンターにあります。

予約した資料が貸出可能になりましたら、図書館 3 F の掲示板に学籍番号・氏名を記載した呼出票を掲示しますので、その呼出票を持って 3 F カウンターにお越しください。

- ・返却期限日を過ぎた貸出図書がある場合は、予約できません。

■ 貸出の延長

貸出の延長を希望する場合は、カウンターへ資料と学生証を持参してください。

- ・予約されている資料や利用の多い資料は、延長できません。

AV 資料（ビデオ・DVD）の利用

AV 資料の貸し出しはできませんので、2F カウンターで手続きをして指定された AV ブースで利用してください。

- 持込み資料は利用できません。

《利用方法》

学生証、利用したい AV 資料、必要事項を記入した「AV ブース利用票」を 2F カウンターに提出して下さい。

※「AV ブース利用票」は 2F カウンターにあります。

パソコンの利用

■ 2F パソコンコーナーでの利用

図書館備え付けのパソコンを利用するには、2F カウンターで手続きをして、指定されたブースで利用してください。利用時間は原則として 1 人 1 時間です。

印刷を希望する方は A4 サイズの用紙を持参してください。

《利用方法》

学生証と必要事項を記入した「PC ブース利用票」を 2F カウンターに提出してください。

※「PC ブース利用票」は 2F カウンターにあります。

■ 持ち込みパソコン

2F 閲覧室では無線 LAN が使用できますので、大学配付のパソコンの持ち込みが可能です。

- 無線LAN からの印刷はできません。

レファレンス・サービス

調査・研究を進める中で何らかの情報を求めている人に、図書館員がその問題に対し情報源（資料など）を提供するなど、助言や援助を行うことをレファレンスといい、大学図書館の重要なサービスのひとつです。 ※課題の回答そのものは提供しません。

〈レファレンス・サービスの種類とその例〉

- | | |
|---------|--|
| ①事実調査 | 全国のホームヘルパーの総数を知りたい。 |
| ②書誌事項調査 | 丸山哲央著『社会学の理論』の「第 1 章 社会的行為の構造」の頁を知りたい。 |
| ③所蔵調査 | 中川英一著『子どもの福祉』という本を所蔵しているか確認したい。 |
| ④文献リスト | 「予防福祉」に関する論文にはどんなものがあるか知りたい。 |
| ⑤その他問合せ | 他の大学図書館を利用したい。 |

《利用方法》

3F カウンターにお問合せください。

相互利用サービス

本学図書館に所蔵のない資料でも利用することができるサービスです。

- 他の大学図書館の利用
 - 資料そのものの取り寄せ - - - - - 現物貸借（有料）
 - 論文などのコピーの取り寄せ - - - - - 文献複写（有料）
- ※依頼館によって料金は異なります。

《利用方法》

3 F カウンターにお問合せください。

資料をコピーする

図書館内で資料を複写する場合は「複写申込書（館内）」に必要事項を記入し、カウンターに提出してください。

※「複写申込書（館内）」はカウンターおよびコピー機付近にあります。

- ・ 雑誌・新聞の最新号はコピーできません。
- ・ コピーできる範囲は、雑誌は論文単位、図書は一部分（半分以下）、いずれも1部のみです。

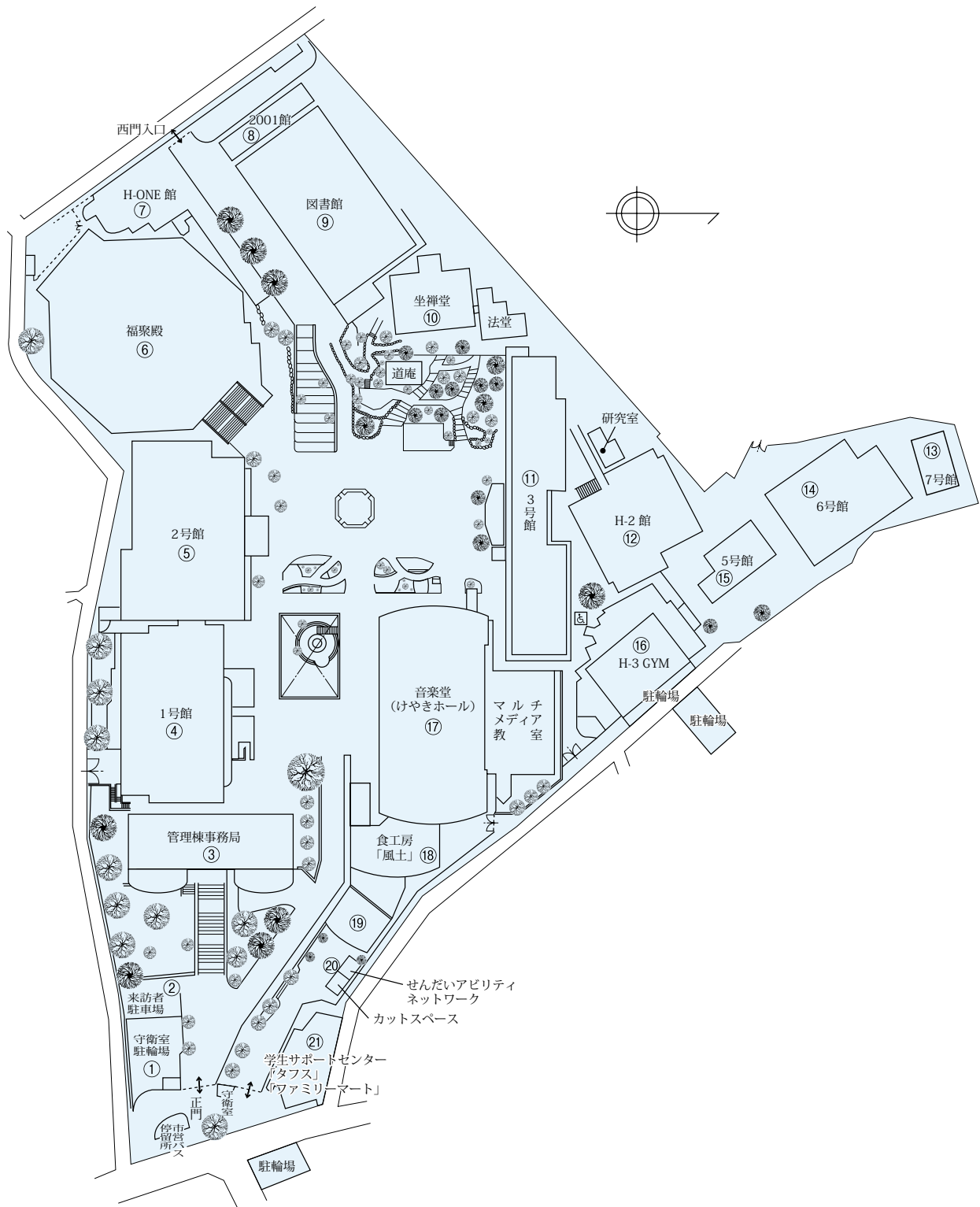
利用の心得

- 図書館ホームページを活用しましょう
休館、開館時間の変更などのお知らせや図書館カレンダーなど、最新の情報が入手できます。
- 資料は大切に使いましょう
- 返却期限を必ず守りましょう
- マナーを守り、他の利用者の迷惑にならないようにしましょう
- 携帯電話の電源は OFF にしましょう
- 館内では、所定の場所以外での飲食は禁止です

XI. 東北福祉大学 校地・校舎等配置図



1 国見キャンパス(本校地)



①正門守衛室・駐輪場

②来訪者駐車場

③管理棟事務局

- 1階 総務局 総務部（タイムレコーダー）、企画部、入試センター、資料室
 2階 総務局長室、財務部、資料室、国際交流センター言語文化交流推進室
 3階 学長室、副学長室、秘書室、子ども科学部長室、健康科学部長室、応接室、第1・第2・第3会議室、法人室、電話交換室
 4階 大会議室、中会議室、小会議室、監査室、ラウンジ、資料室

④1号館

- 地下 キャリアセンター（キャリア支援課・キャリア開発課）、就職資料室、就職面談室、就職セミナー室、公務員受験対策室
 1階 教務部（教務課・兼任教員出勤等）、証明書自動発行機、証紙販売機
 2階 120教室、121教室、122教室、外国語自習室、教員研究室
 3階 130教室、131教室、教員研究室
 4階 140教室、第1～第4演習室、教員研究室
 5階 教員研究室
 6階 大教室

⑤2号館

- 1階 美術工芸館展示ホール、美術工芸研究室、美術工芸館ミュージアムショップ、収蔵庫、兼任教員控室、印刷室、学生相談室、保健室、ウェルネス支援室、障がい学生支援室、教員研究室、学習ホール
 2階 220教室、221教室、第11～第15演習室、観察室、面接実習室、面接治療室1・2、ビデオ学習室、公務員受験対策室、教員研究室
 3階 230教室、231教室、232教室、第16～第22演習室
 4階 集団実験室1・2、行動実験室、行動観察室、実験準備室、工作室、情報処理室、実験室1～5、臨床面接室、ポリグラフ室1・2、防音室1・2、印刷室、暗室1・2、資料室1～4、機材室、空調室、教員研究室
 5階 美術工芸館展示室1・2、ティーラウンジ、ロビー、芹沢長介記念室、収蔵庫
 6階 美術工芸館展示室3～5、美術工芸研究室、収蔵庫

⑥福聚殿

- 1階 ホール（食堂・軽食コーナー）、自習室、ピアノレッスン室、ピアノ練習室、アリーナ、トレーニングルーム、ミーティングルーム、教員研究室
 3階 トレーニングルーム

⑦H-ONE館

- 1階 ステージ、ホール、部室、部庫
 2階 守衛室、部活動室、部庫、考古学資料室、教員研究室
 3階 教員研究室、部活動室、部庫、文化部本部、体育会本部
 4階 教員研究室、部庫

⑧2001館

- 2階 2121教室、2122教室
 3階 2131教室、2132教室
 4階 教員研究室

⑨図書館

- 1階 ホール、ブラウジングルーム、書庫、積層書庫（1階～4階）、書籍売店（国見堂）
 2階 事務室、閲覧室、AVブースコーナー、パソコンコーナー
 3階 閲覧室、貴重書庫

⑩坐禅堂・法堂（1階 / 臨床美術実習室）・道庵

⑪3号館

- 1階 310教室（入浴実習室・介護実習室）、311教室、312教室、CALL準備室、313教室（リトミック室）、男子・女子更衣室、学生自習室、ロッカー室、学習ホール
 2階 320教室（コンピュータ実習室Ⅰ）、321教室、322教室（小児保健実習室）、323教室
 3階 330教室（コンピュータ実習室Ⅱ）、331教室、332教室、333教室
 4階 340教室（図画・工作室）、341教室、342教室（美術室）

⑫H-2館

- 1階 家政実習教室（調理・被服教室）、更衣室、ロッカー室
 2階 基礎看護実習室、基礎看護準備室、ピアノ実習室、ピアノレッスン室、教員研究室、医療経営管理学科実習室
 3階 成人看護実習室、老年・地域・在宅看護実習室、母性・小児看護実習室、教員研究室

⑬7号館

⑭6号館

- 1階～3階 教員駐車場
 4階 641教室、642教室、教員研究室
 5階 651教室、652教室、教員研究室

⑮5号館

- 1階 理科実験室、実験準備室、第6・第7演習室
 2階 教員研究室、第8演習室
 3階 教員研究室、第9演習室

⑯H-3GYM

- 地下 男子更衣室
 1階 教員研究室、女子更衣室、トレーニングルーム

⑰音楽堂（けやきホール）

- 地下2階 教職員駐車場
 地下1階 学生生活支援センター（学生生活支援課、ボランティア支援課）、各部・各課掲示板、けやきホール（客席・事務室・音楽室・楽屋・控室）、実学臨床教育推進室、防災士研修室、Fショップ、地下広場
 1階 けやきホール（客席）、マルチメディア教室
 2階 調光・映像室、音響調整室、倉庫

⑱食工房「風土」

（感性福祉研究所・食科学応用研究施設）

⑲情報センター

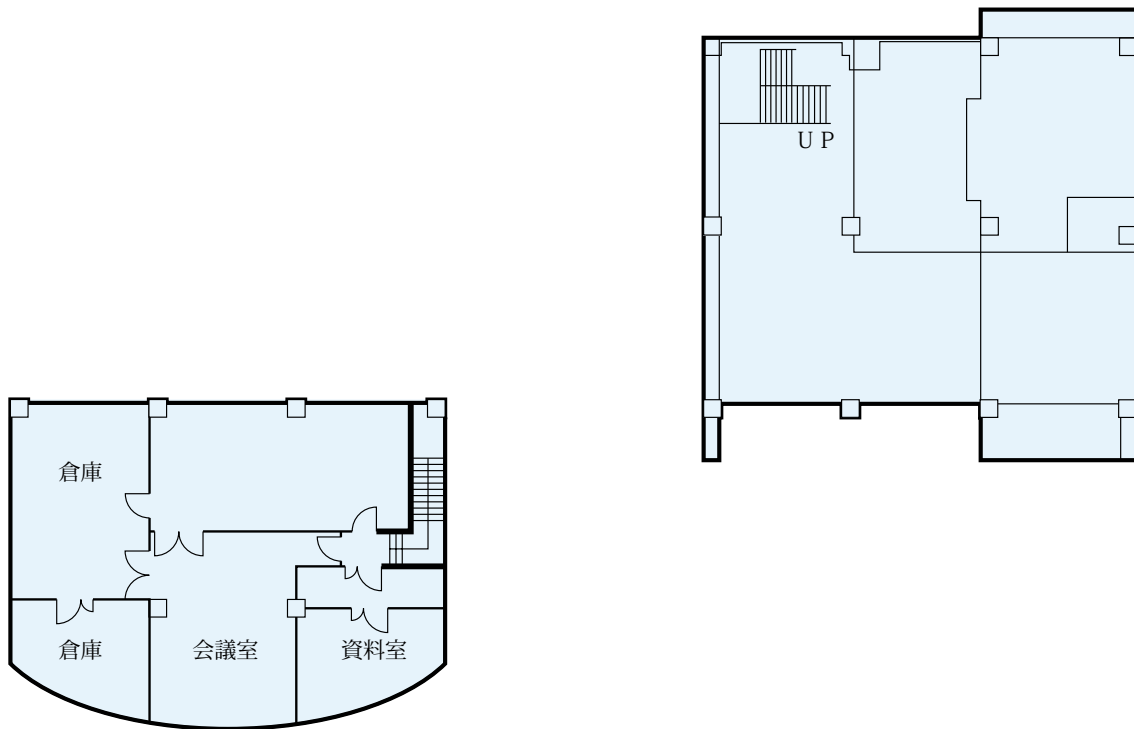
⑳カットスペース、せんだいアビリティネットワーク

㉑学生サポートセンター

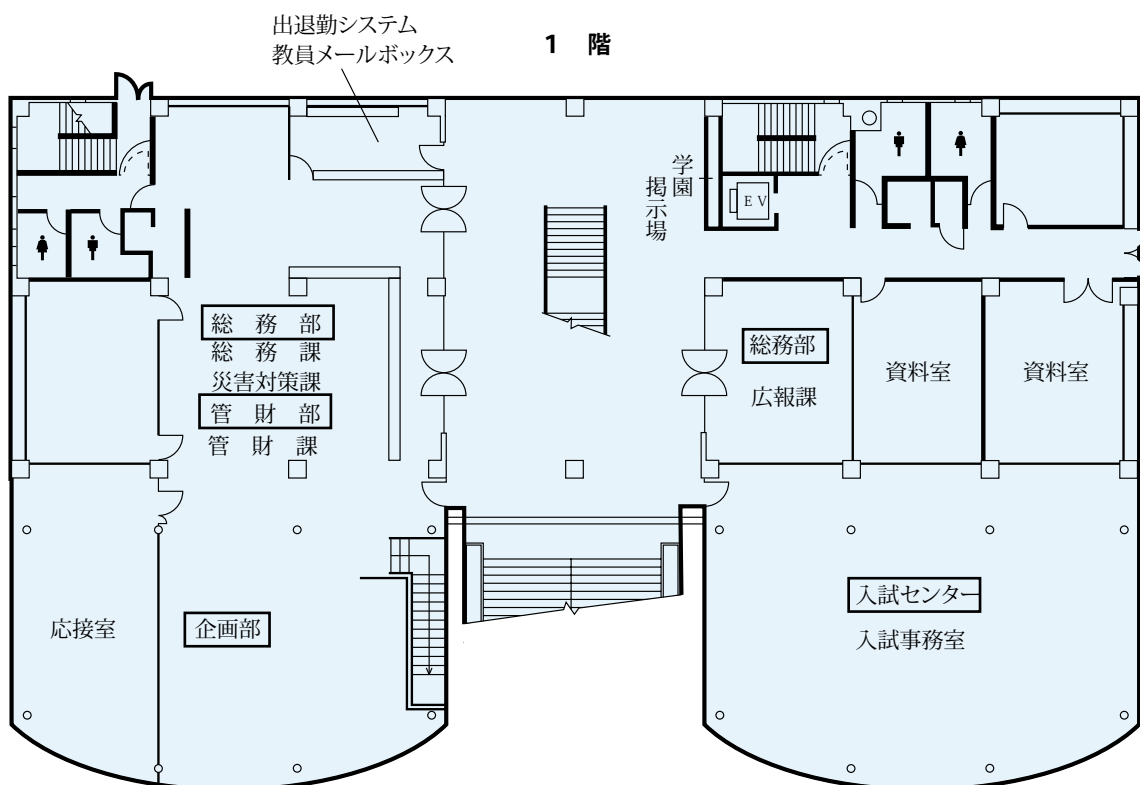
「タフス」「ファミリーマート」

管理棟事務局

地 階

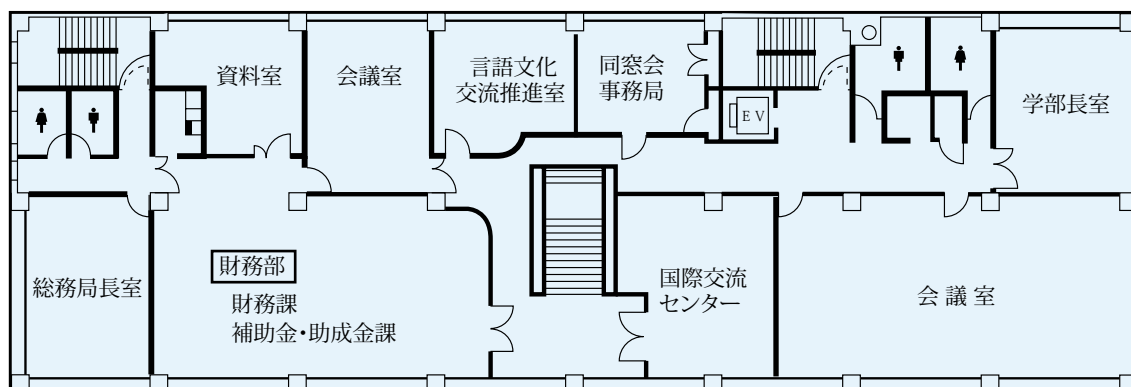


1 階



管理棟事務局

2 階



3 階

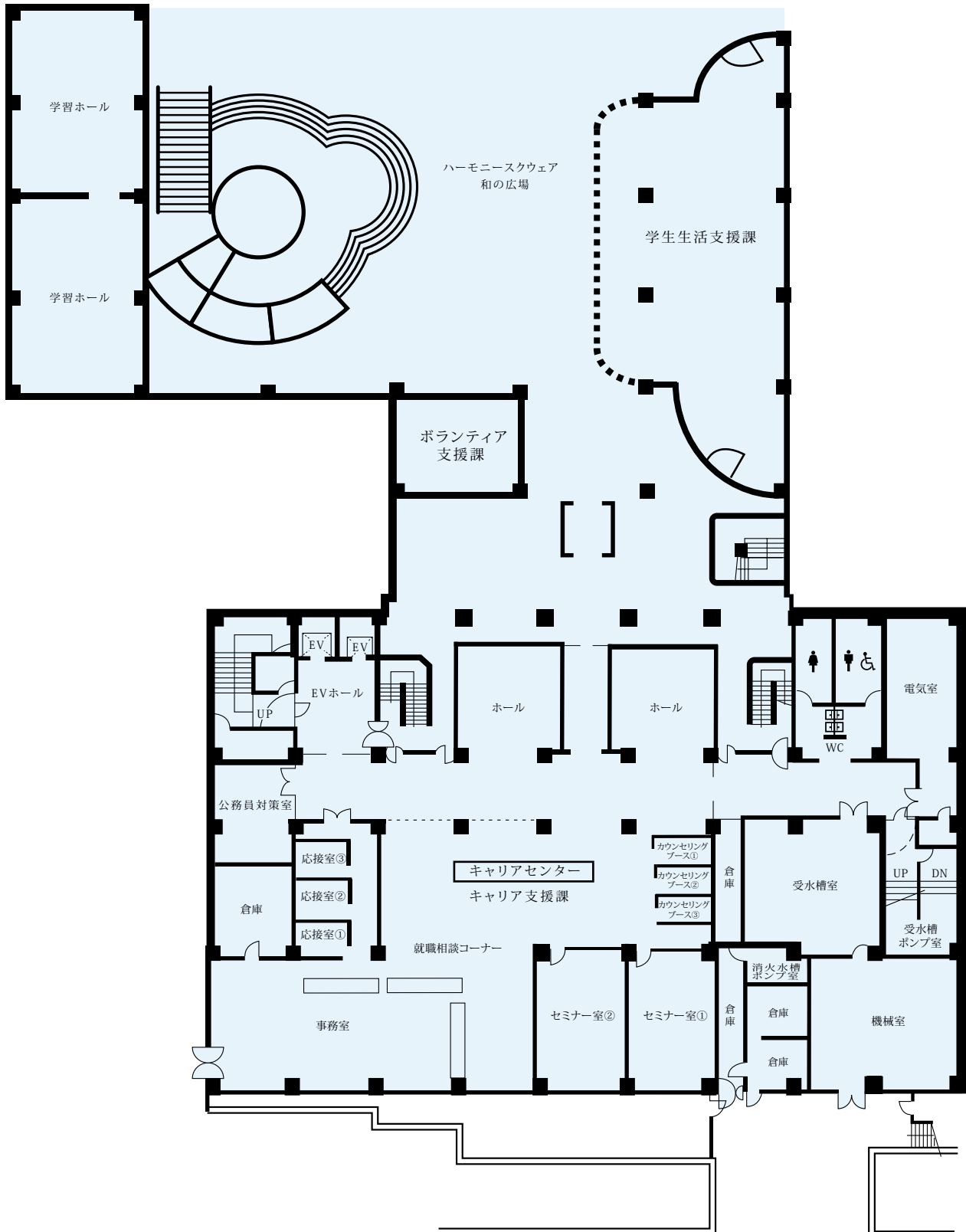


4 階



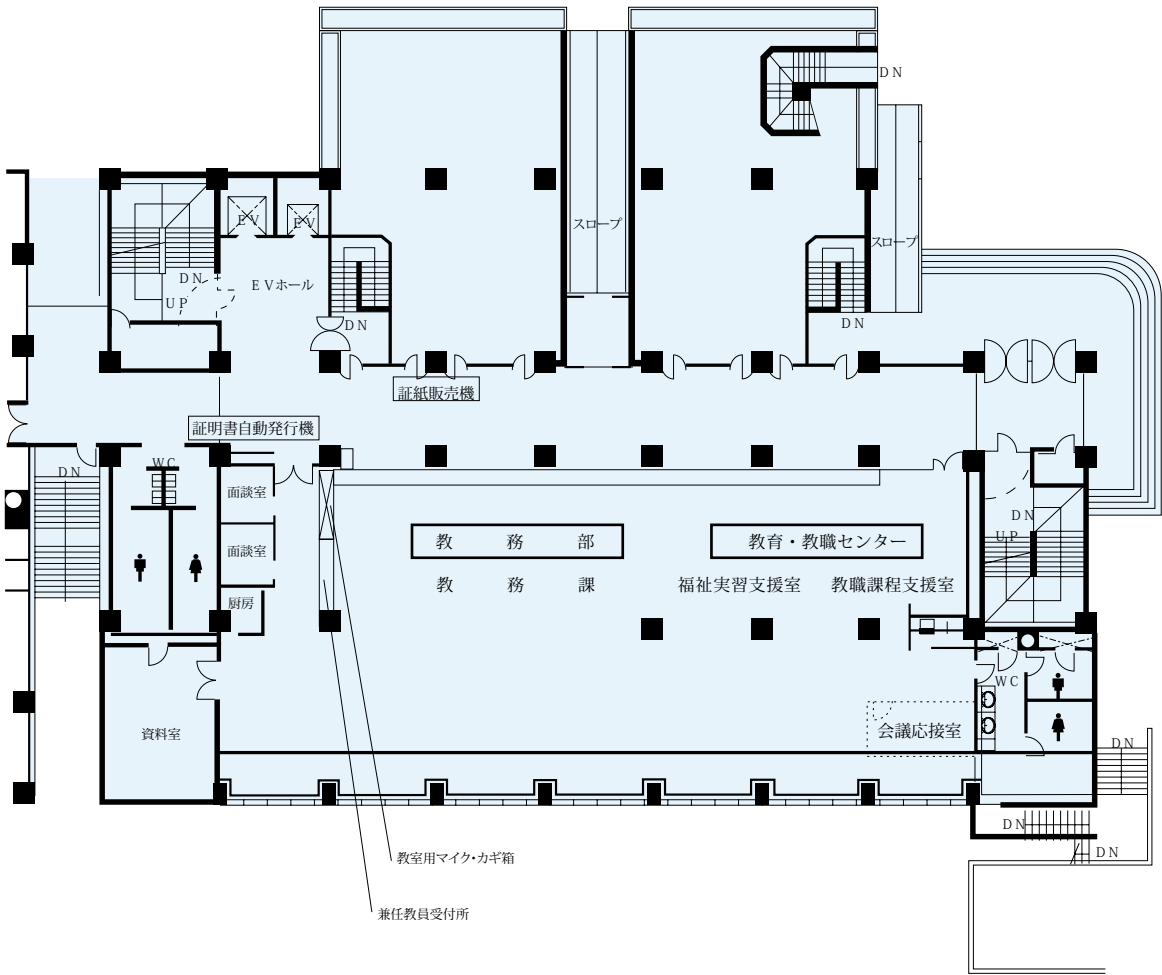
1 号 館

地 下



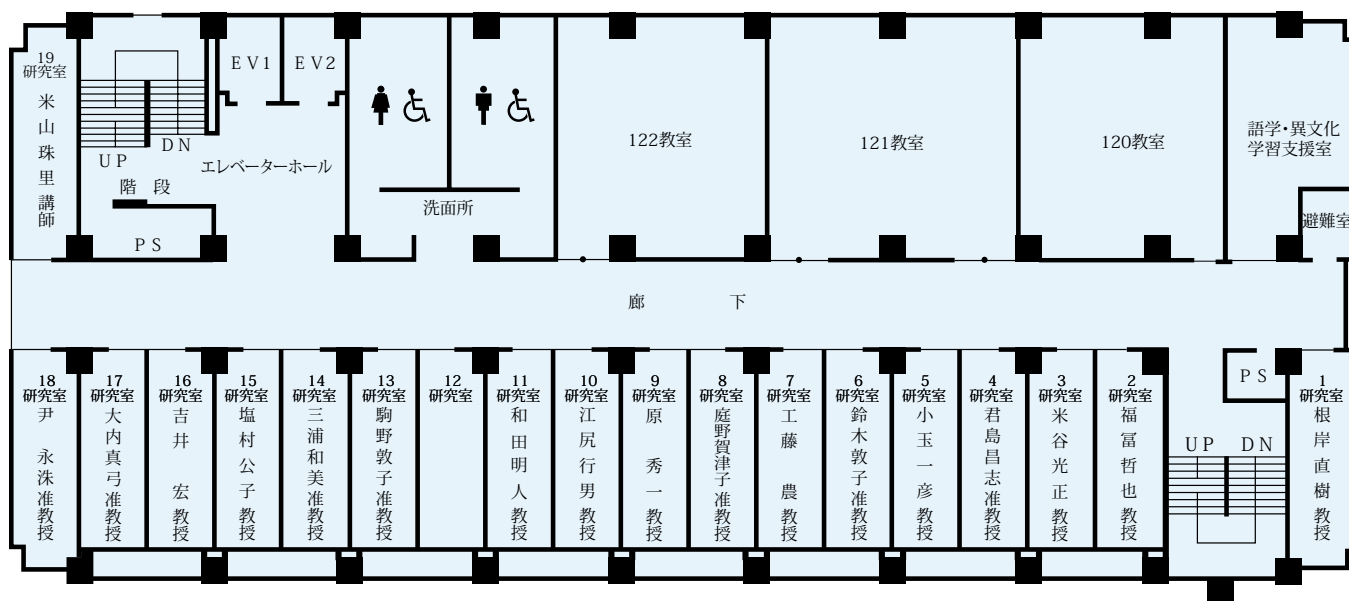
1 号 館

1 階

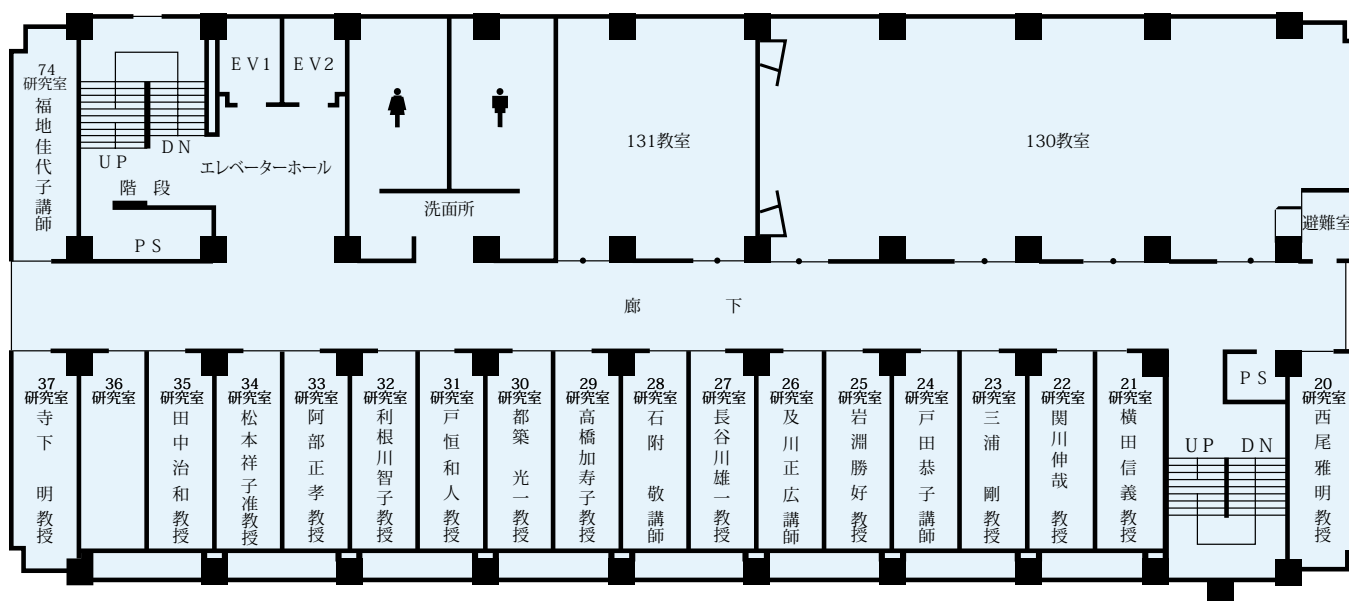


1 号 館

2 階

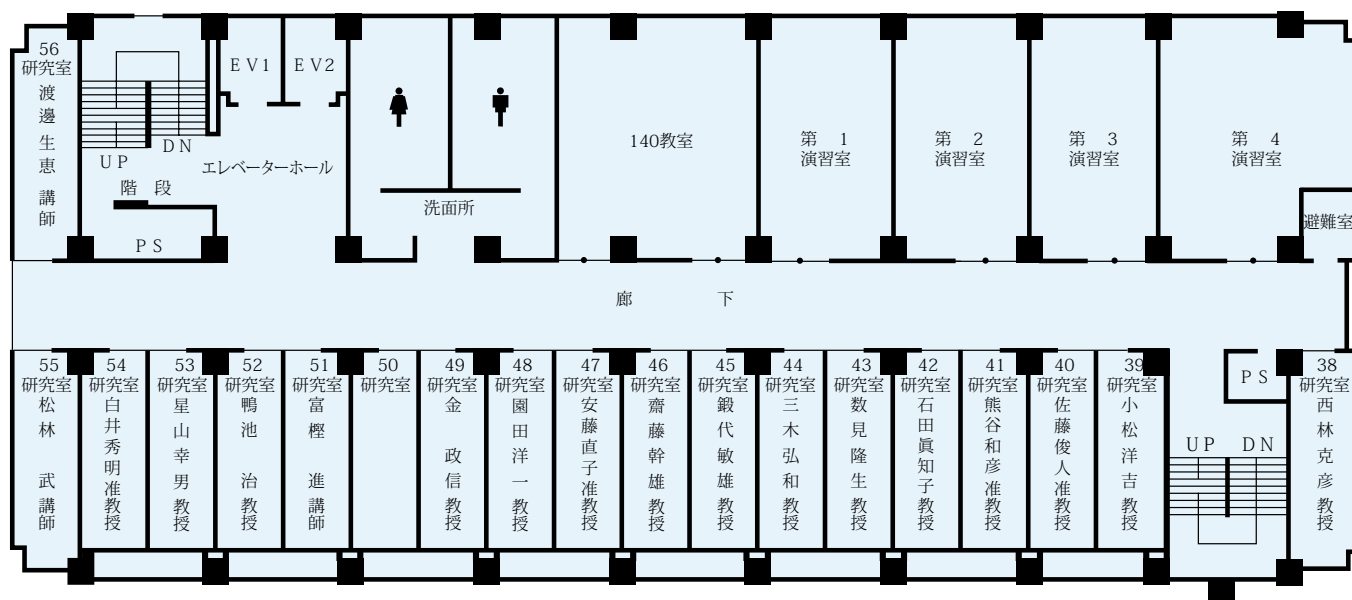


3 階

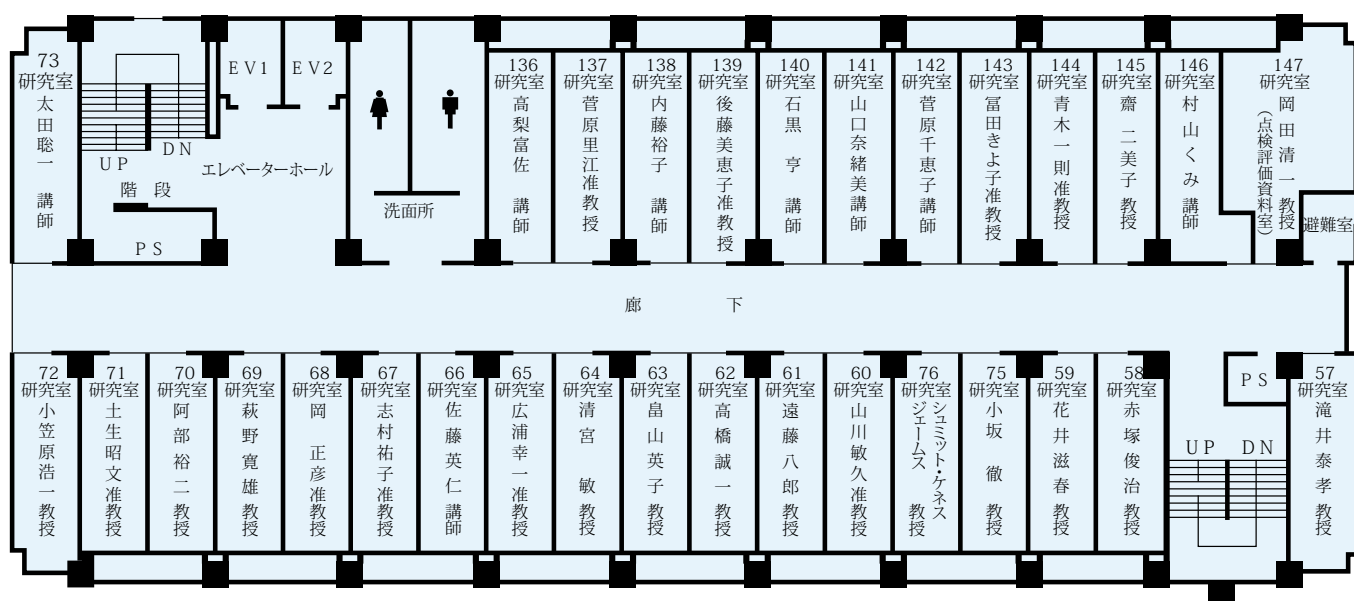


1 号 館

4 階

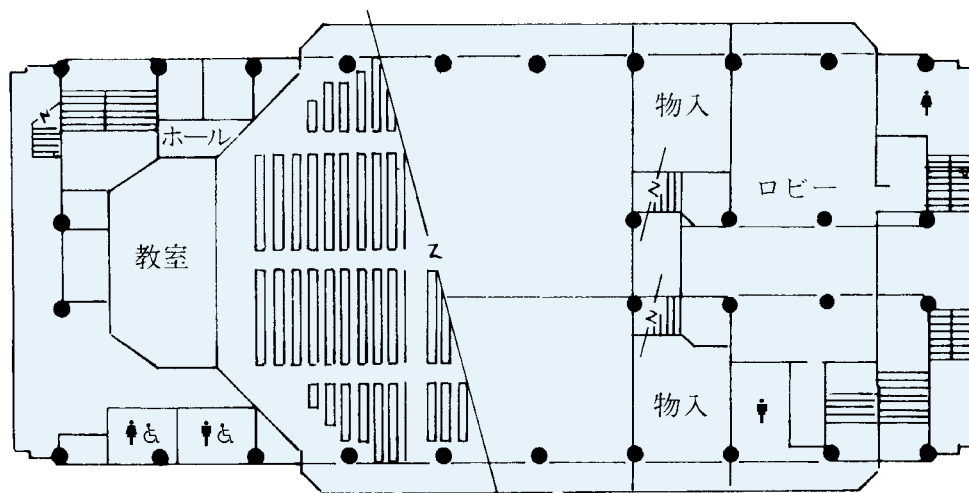


5 階

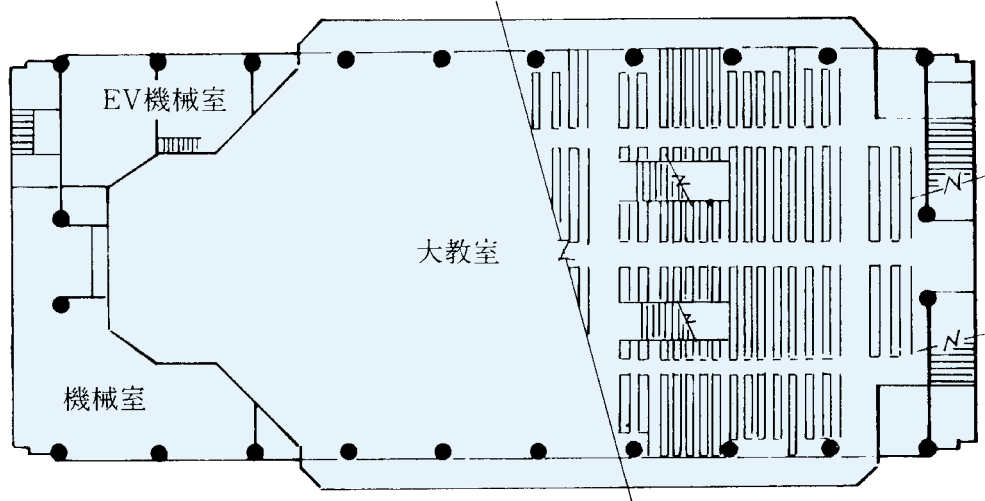


1 号 館

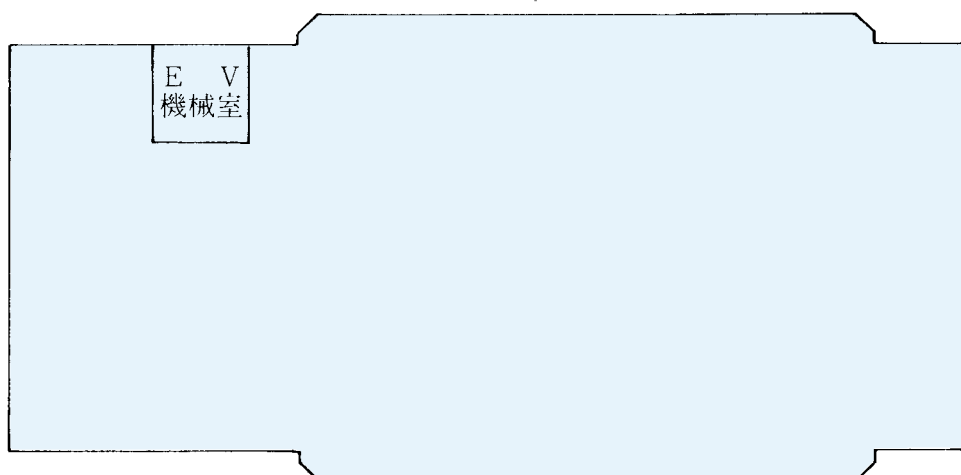
6 階



7 階

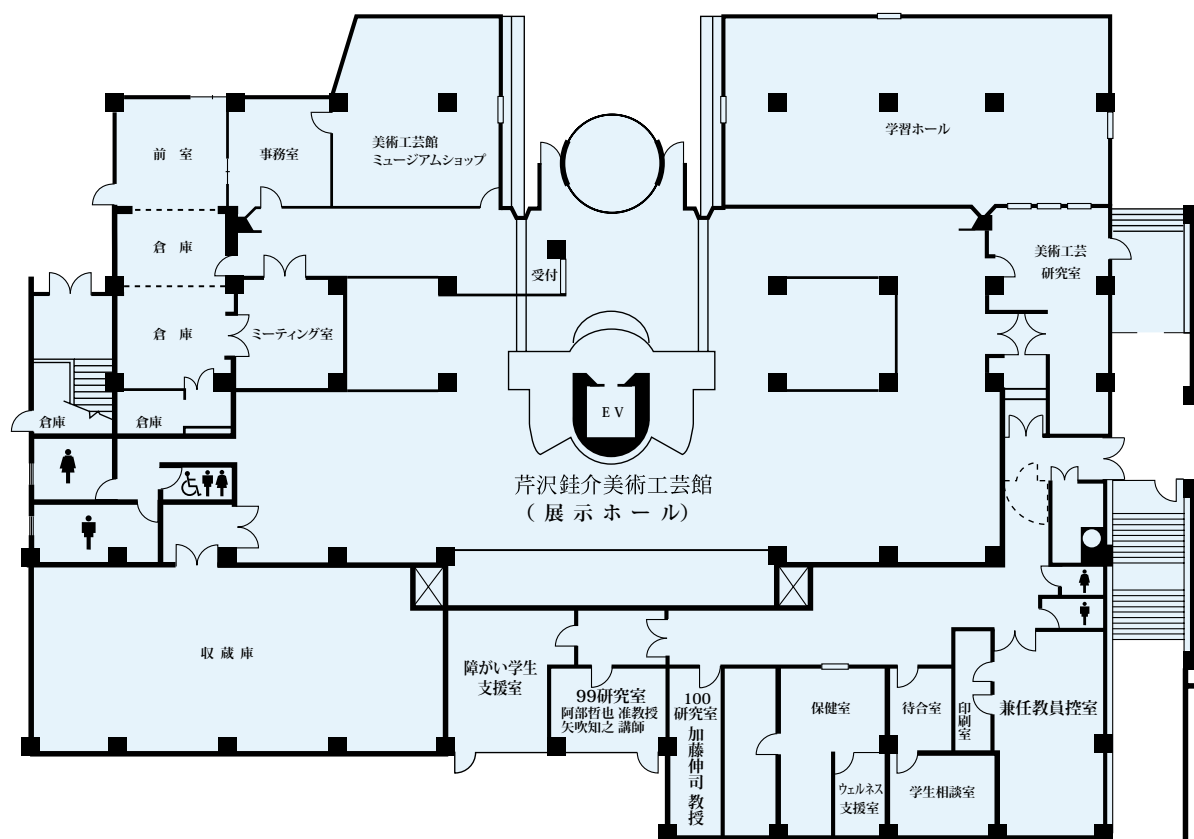


R 階

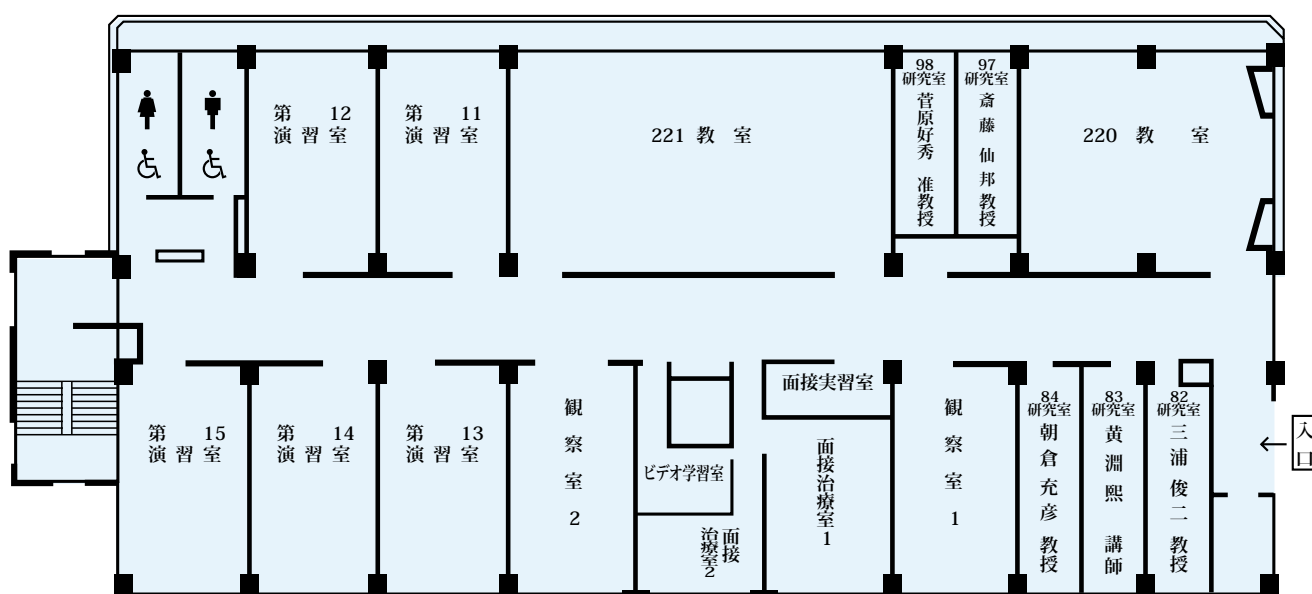


2 号 館

1 階

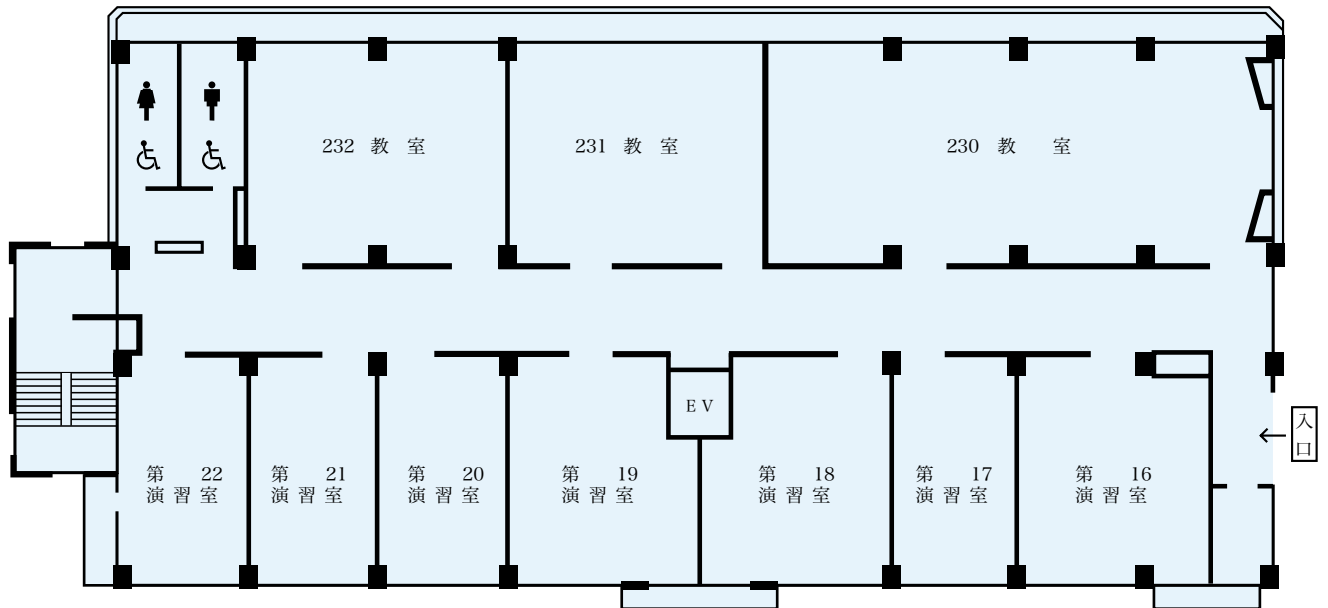


2 階

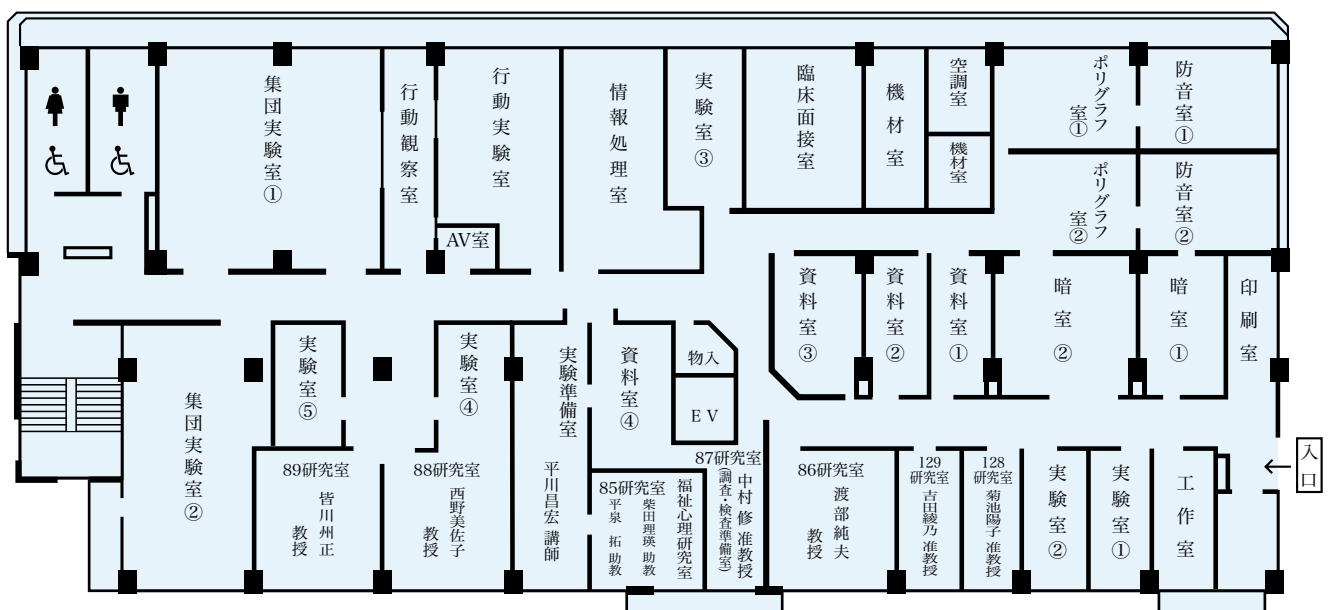


2 号 館

3 階

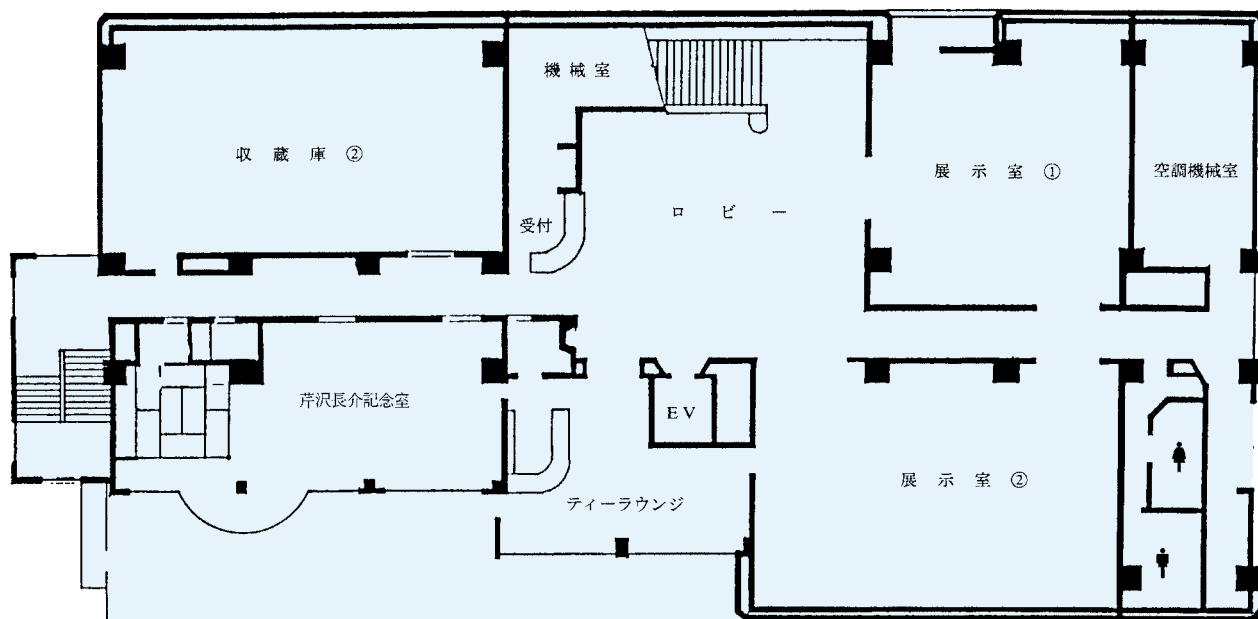


4 階

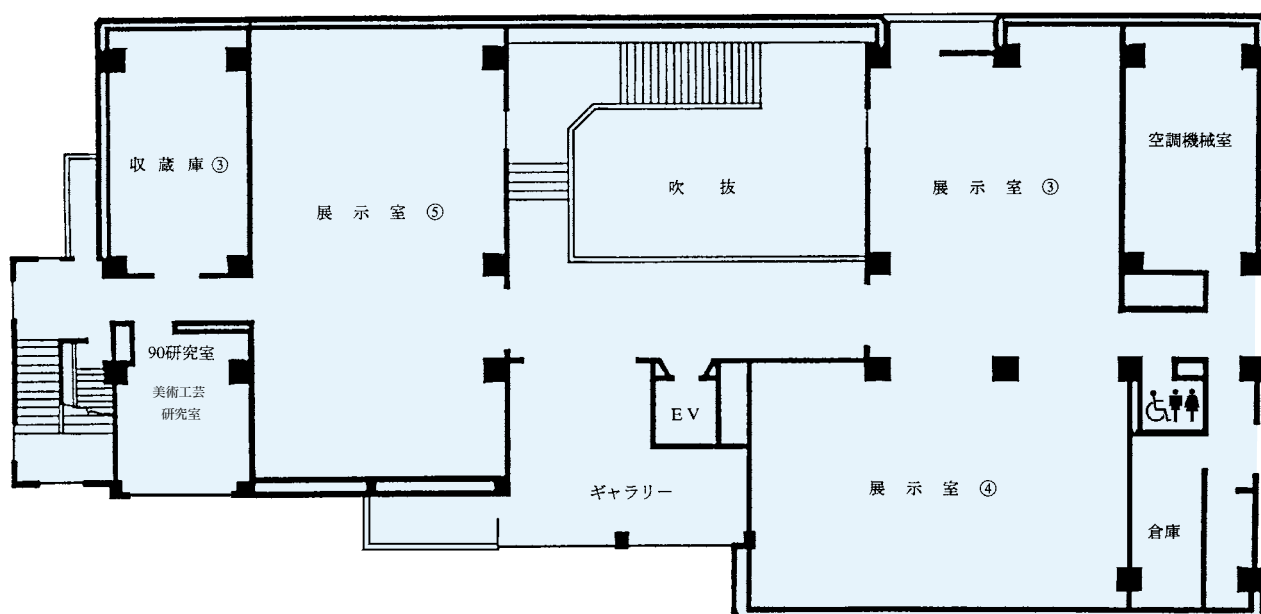


2 号 館

5 階 (芹沢銈介美術工芸館)

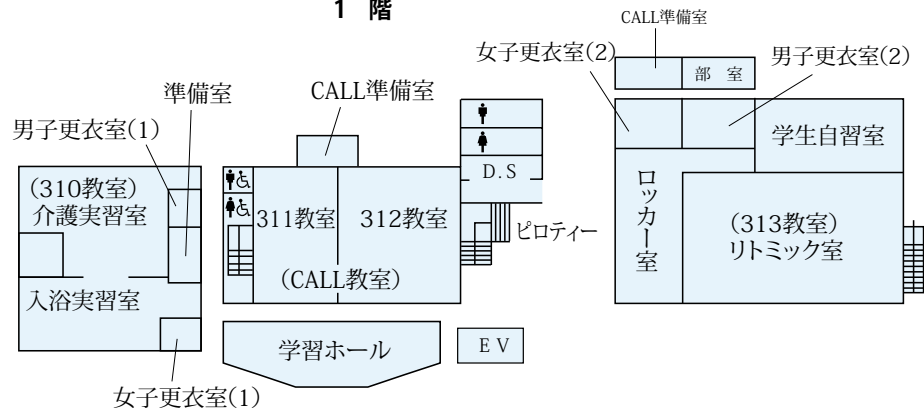


6 階 (芹沢銈介美術工芸館)

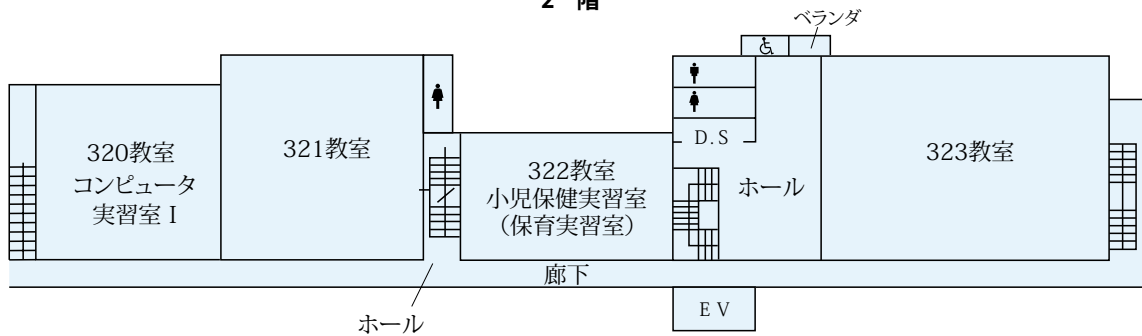


3 号 館

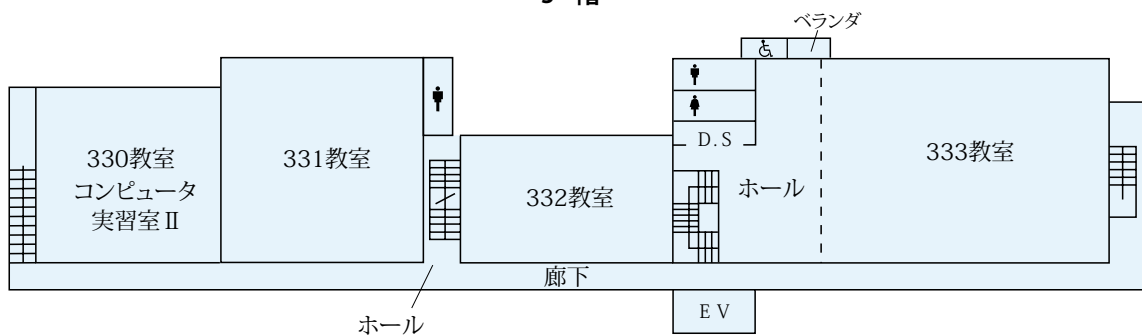
1 階



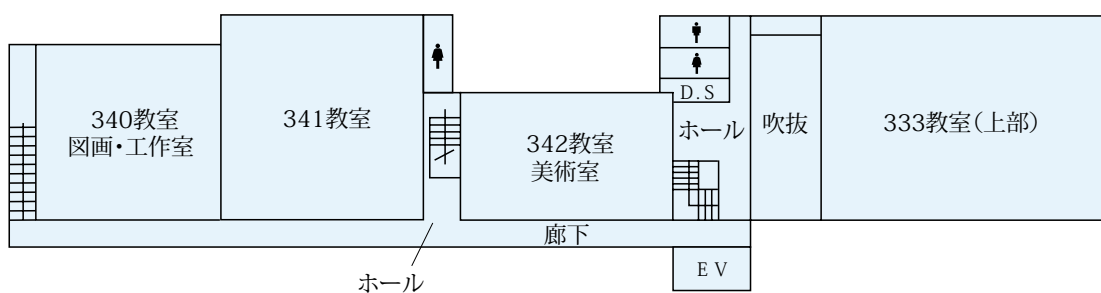
2 階



3 階



4 階



5 号 館

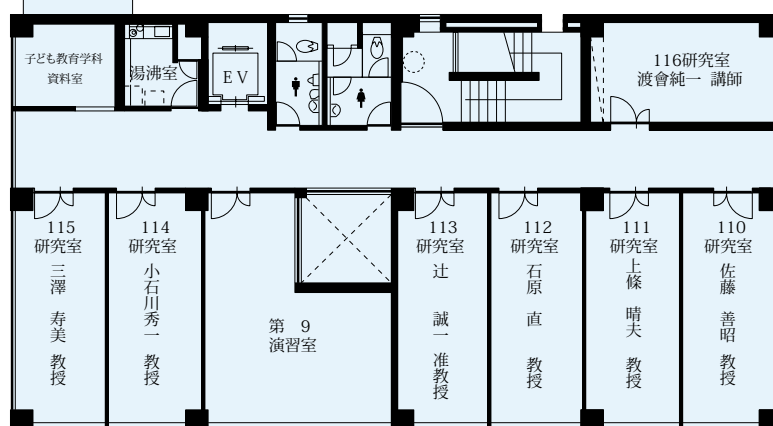
1 階



2 階

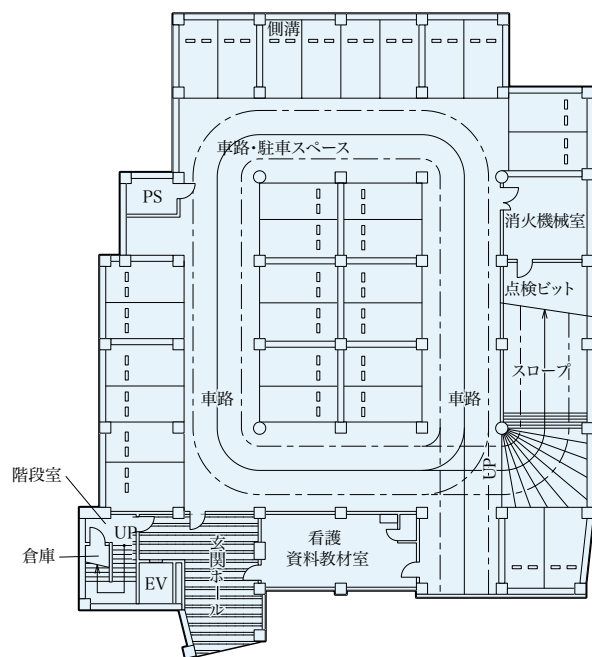


3 階

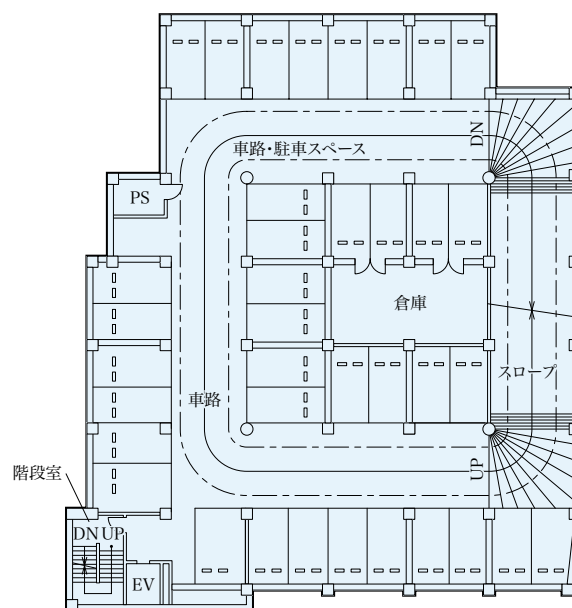


6 号 館

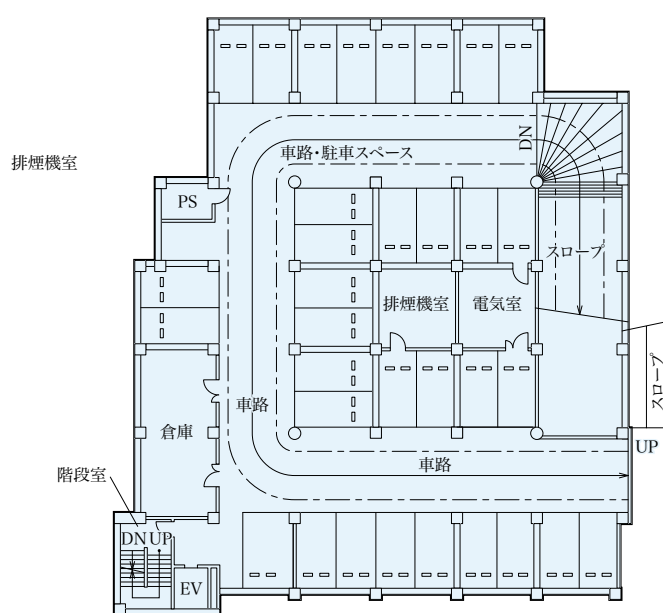
1 階



2 階

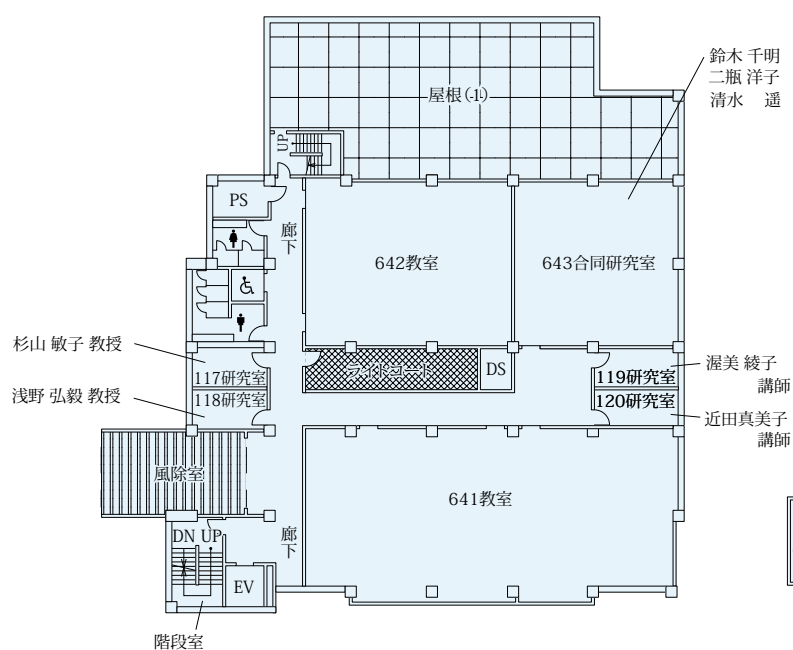


3 階

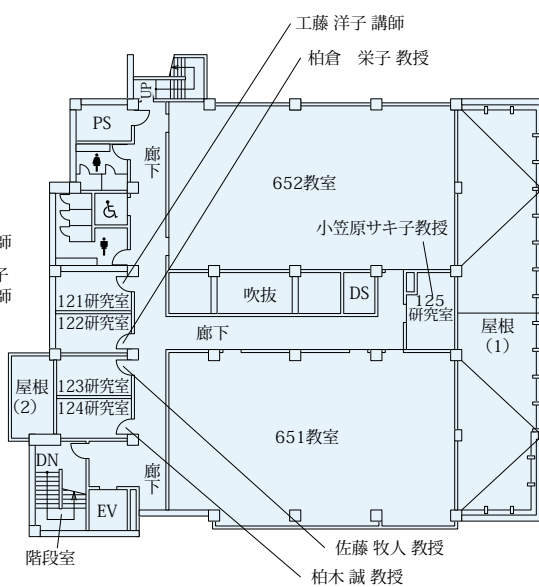


6 号 館

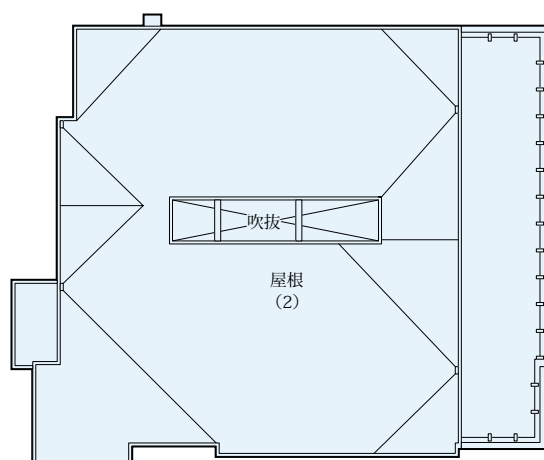
4 階



5 階

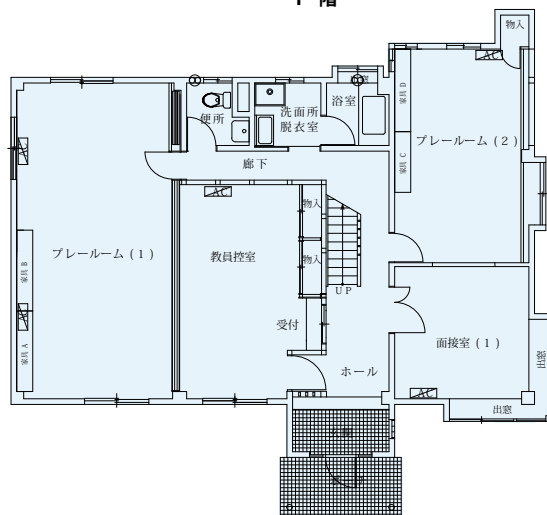


屋 根

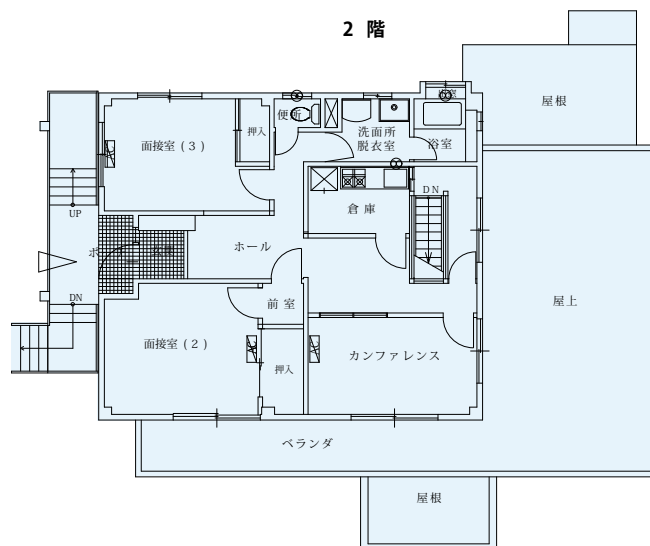


7号館

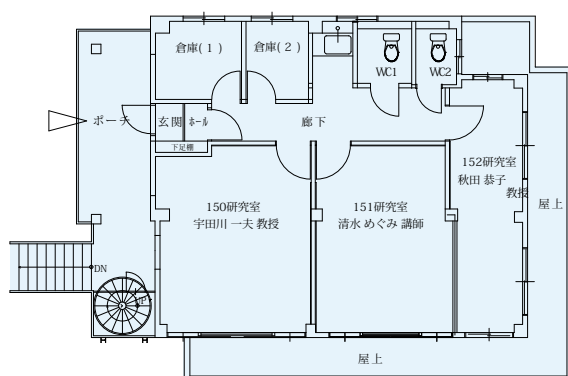
1 階



2 階

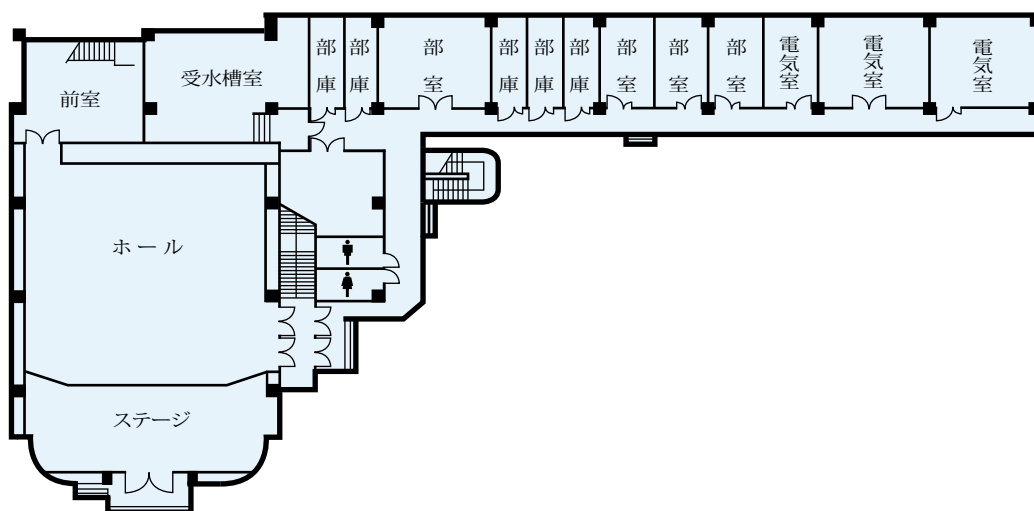


3 階

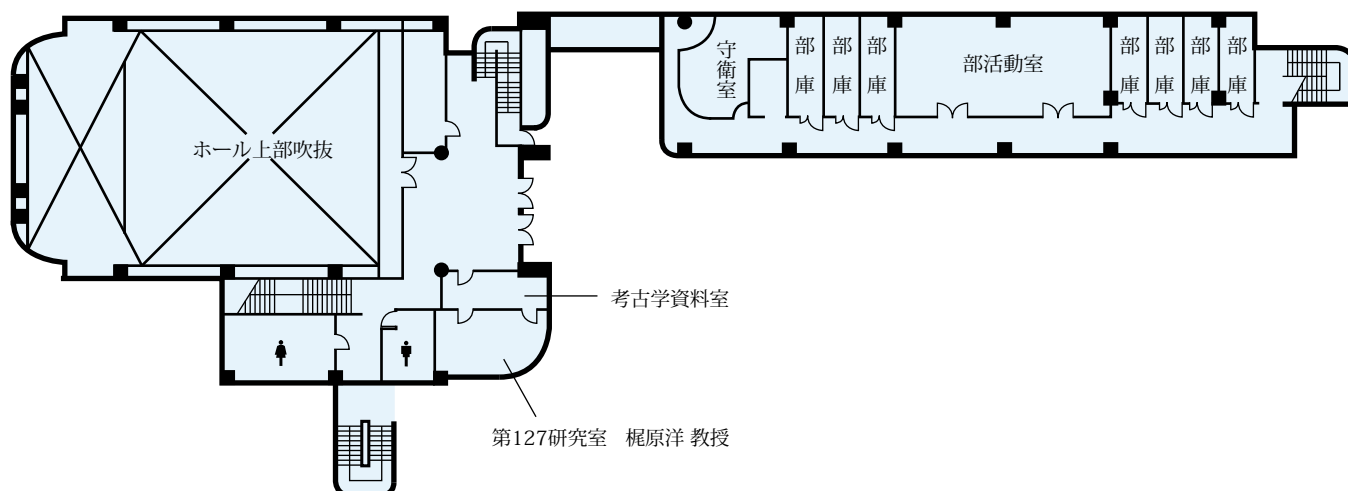


H-ONE館(課外活動棟)

1 階



2 階

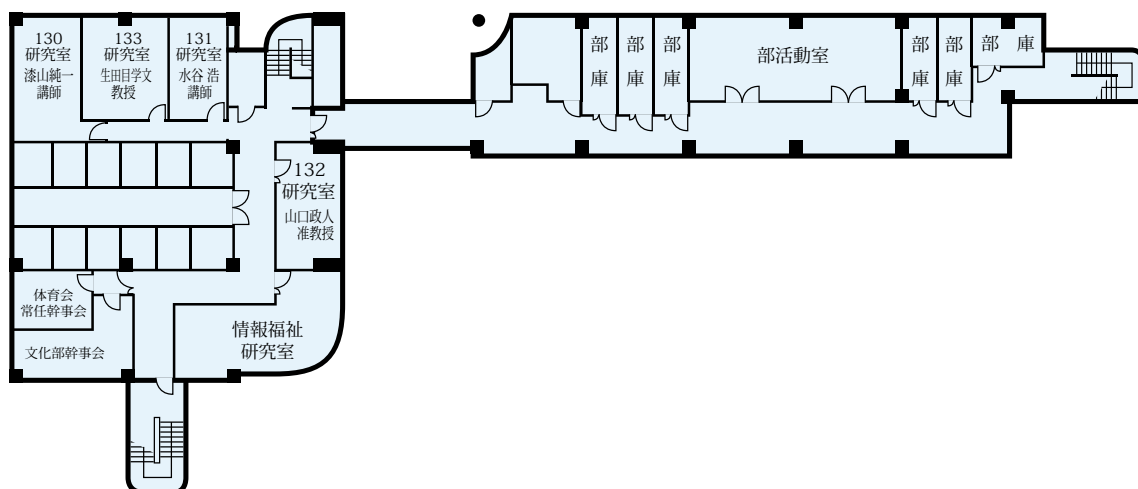


考古学資料室

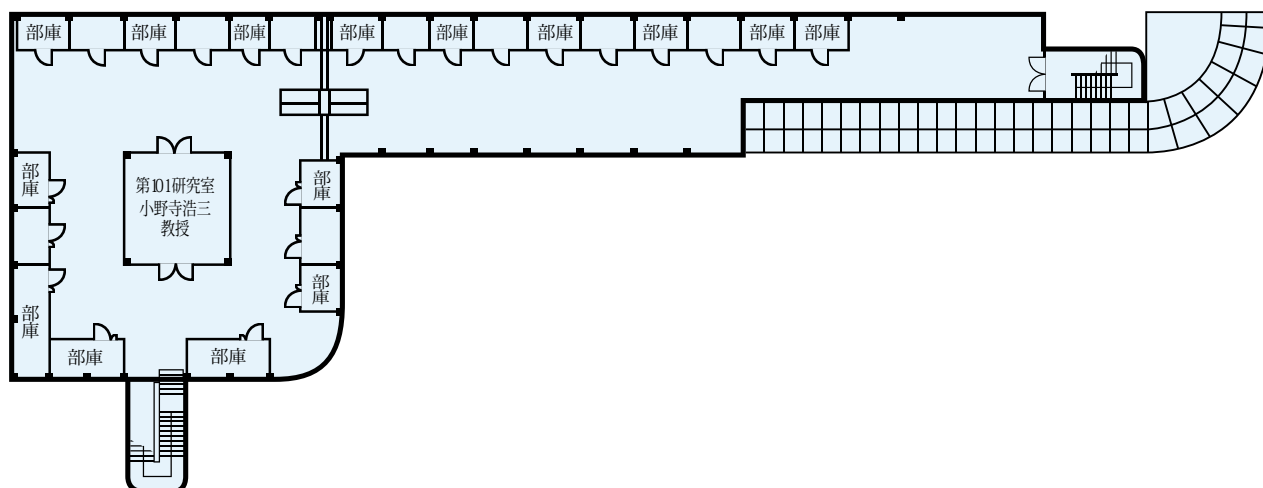
第127研究室 梶原洋 教授

H-ONE 館 (課外活動棟)

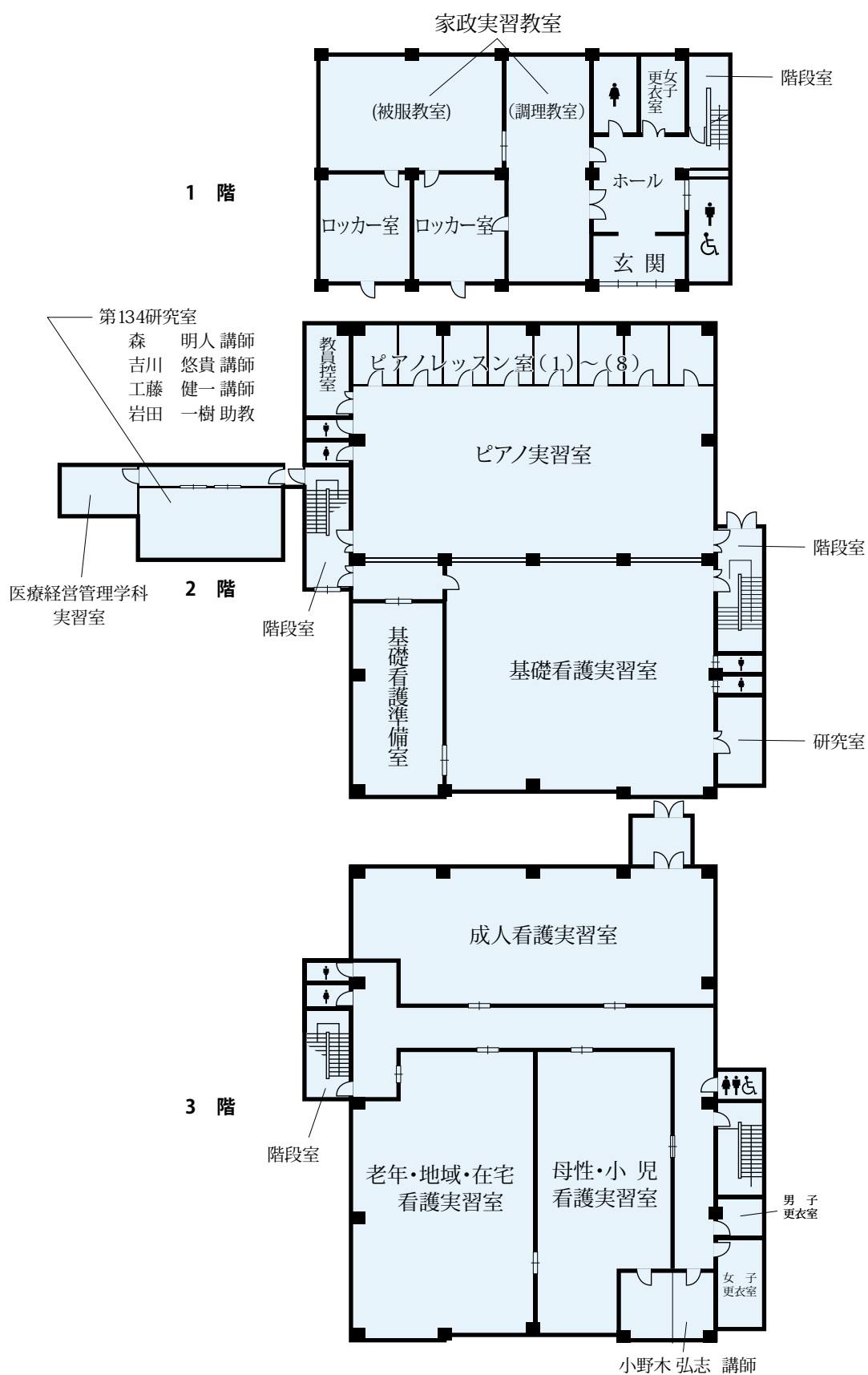
3 階



4 階

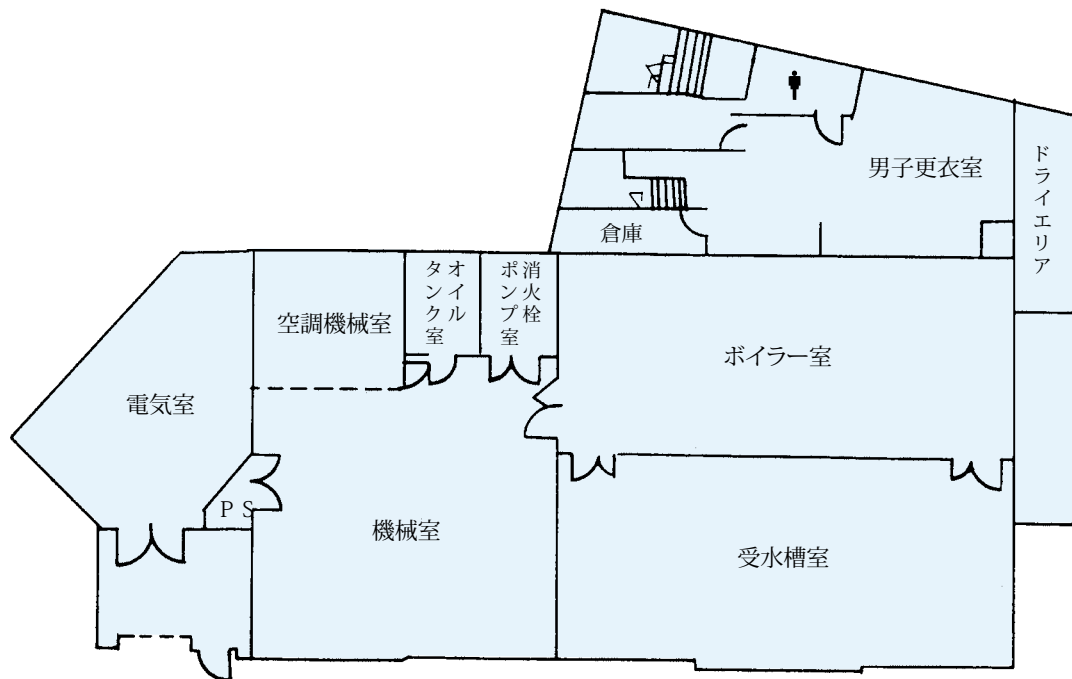


H - 2 館

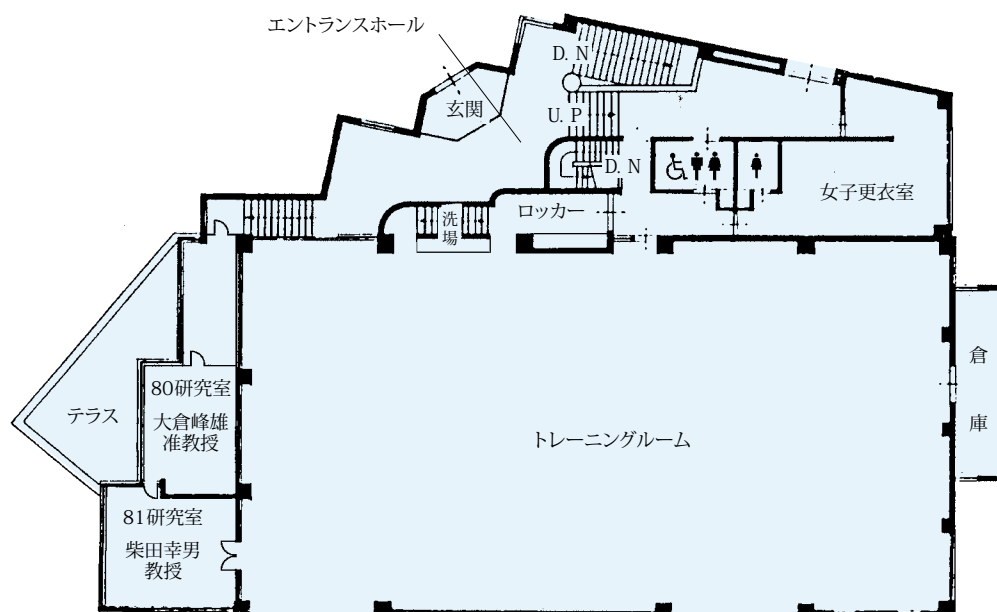


H-3 GYM

地 階

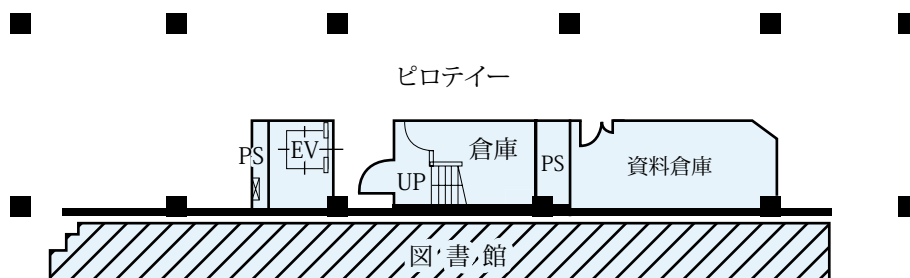


1 階

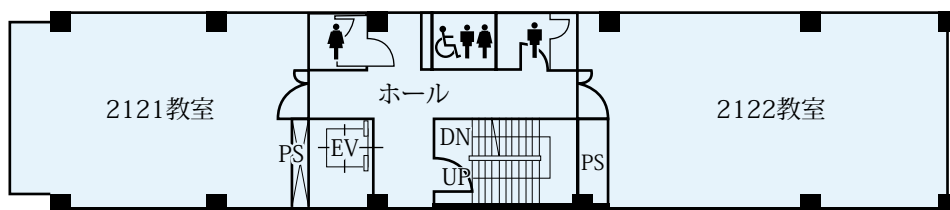


2001 館

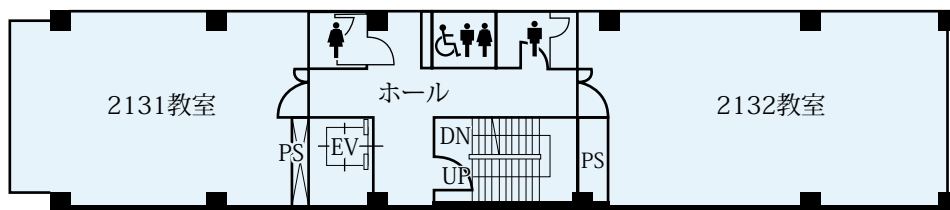
1 階



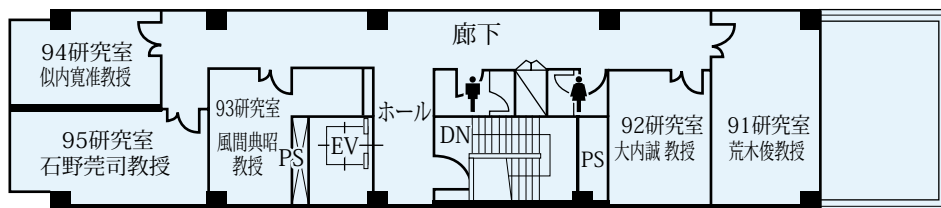
2 階



3 階

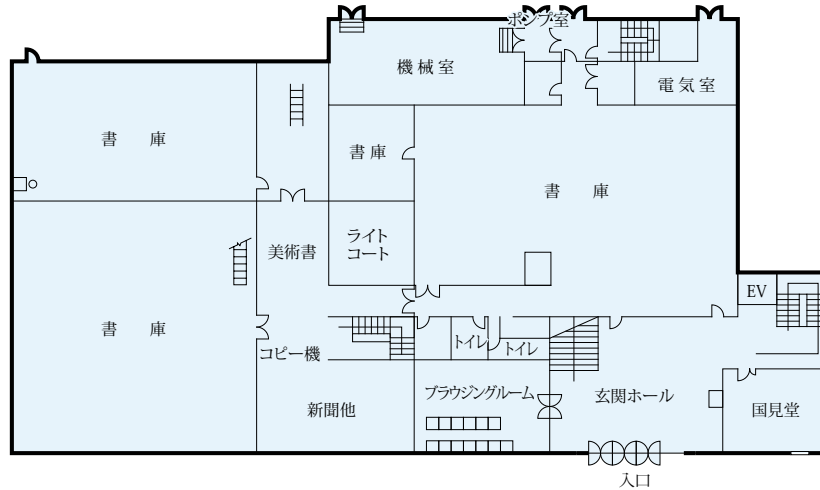


4 階

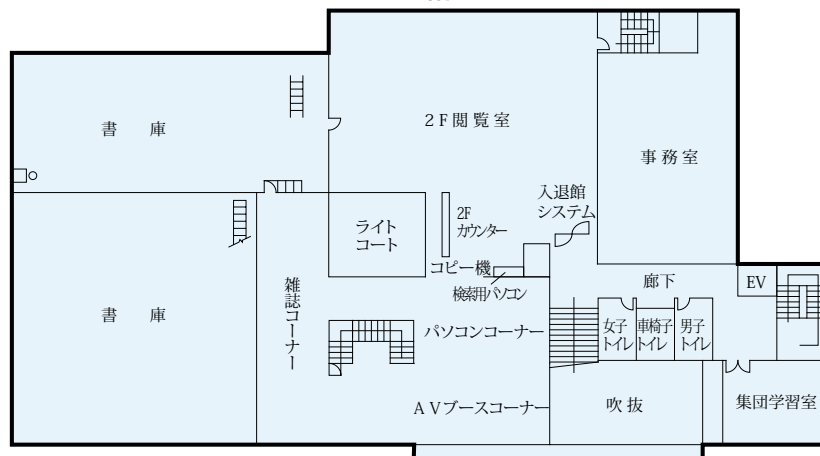


図書館棟

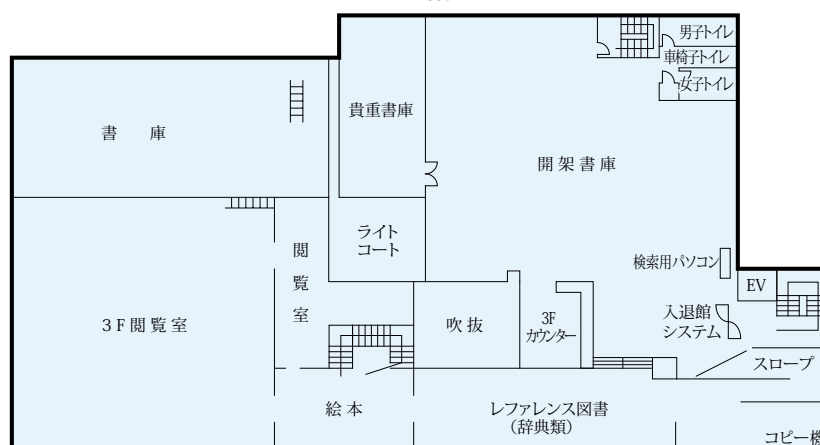
1 階



2 階



3 階



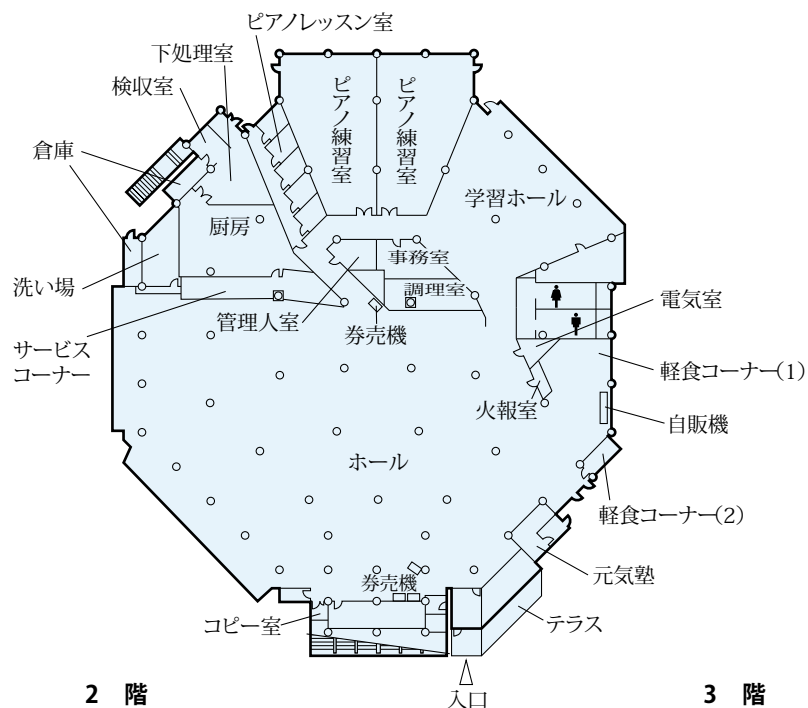
4 階



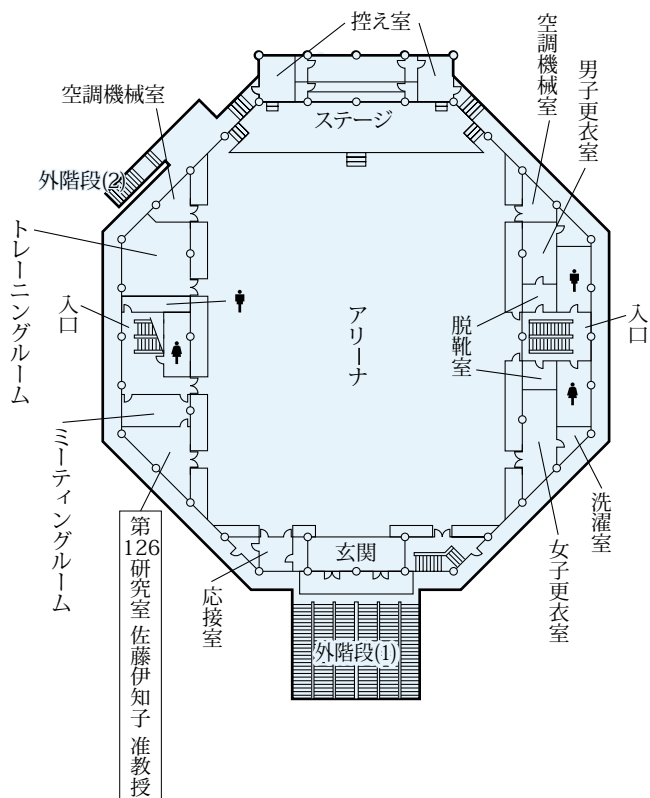
福 聚 殿

(講堂兼体育館・教員研究室・ピアノレッスン室・ピアノ練習室
学生自習室・食堂・軽食コーナー)

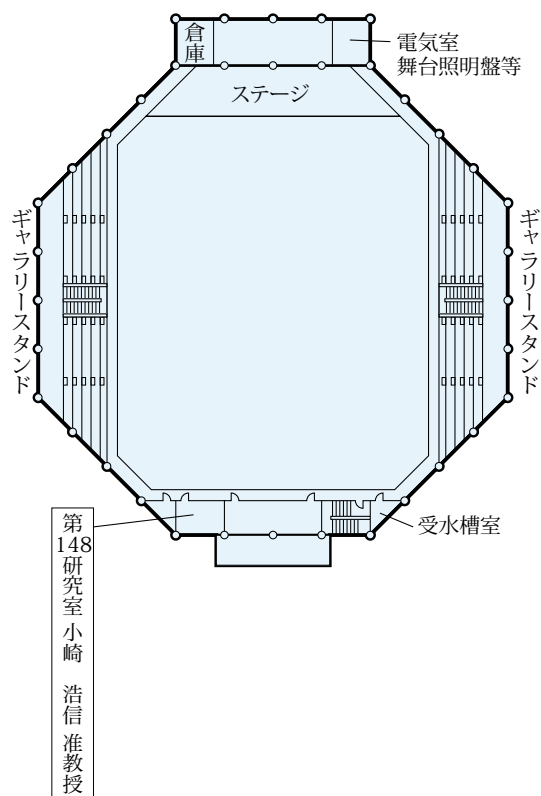
1 階



2 階

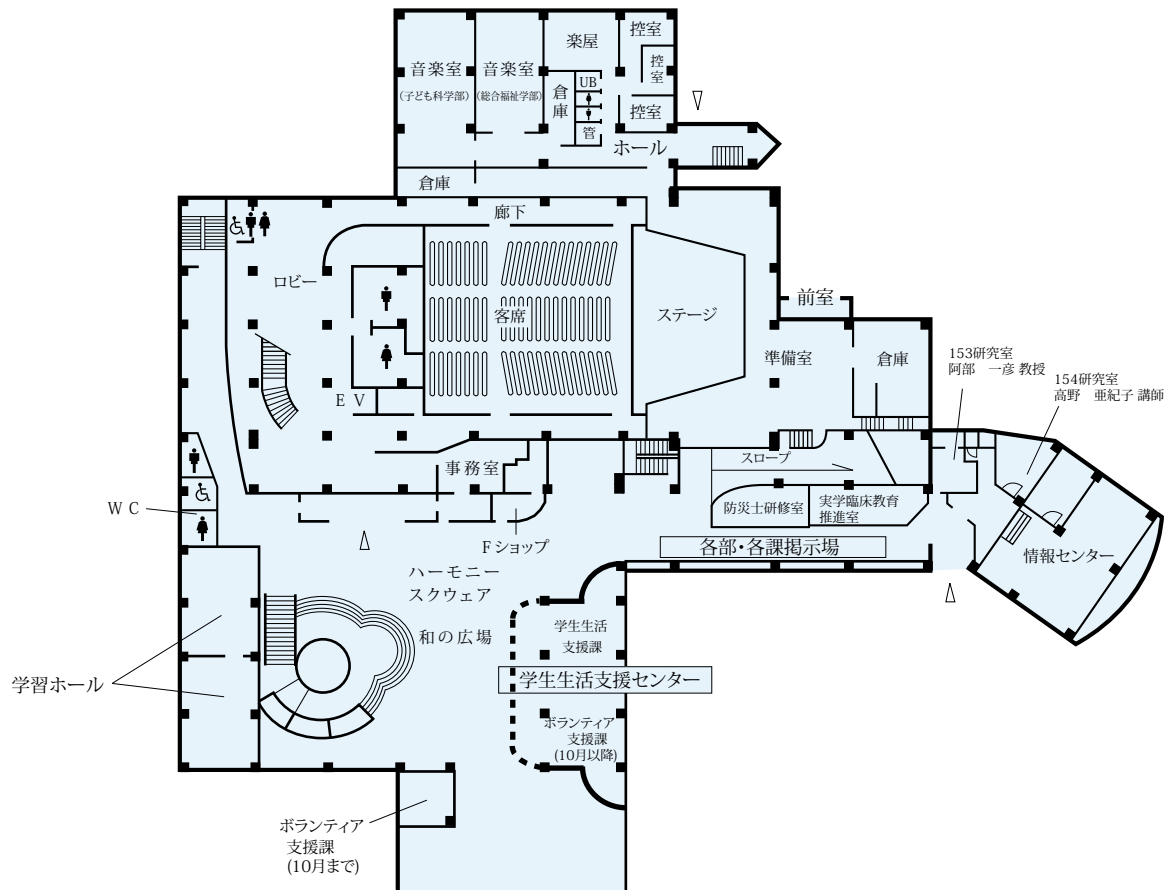


3 階

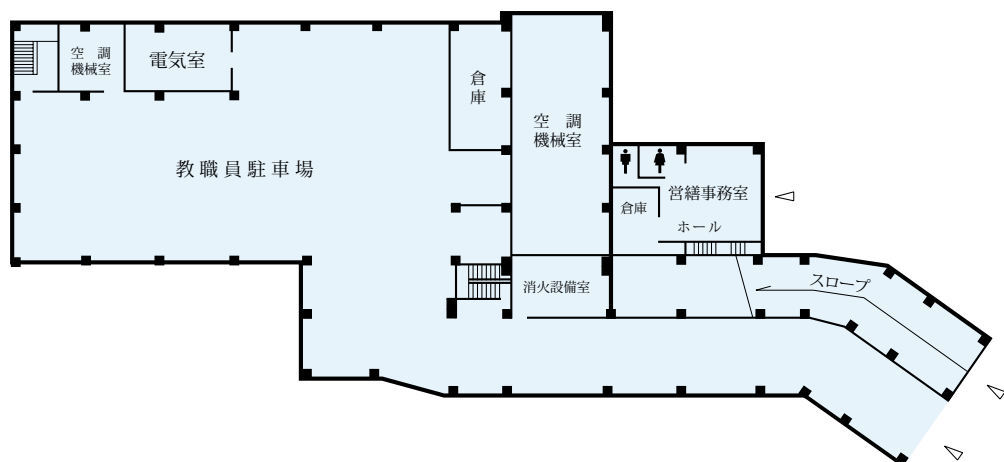


音楽堂(けやきホール)

地下1階

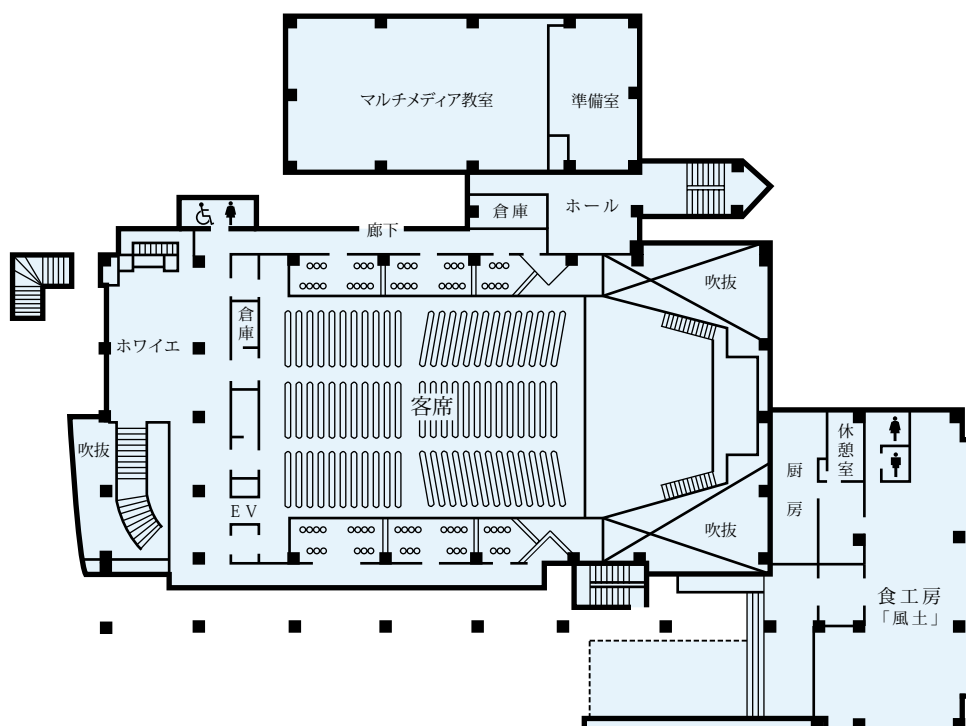


地下2階

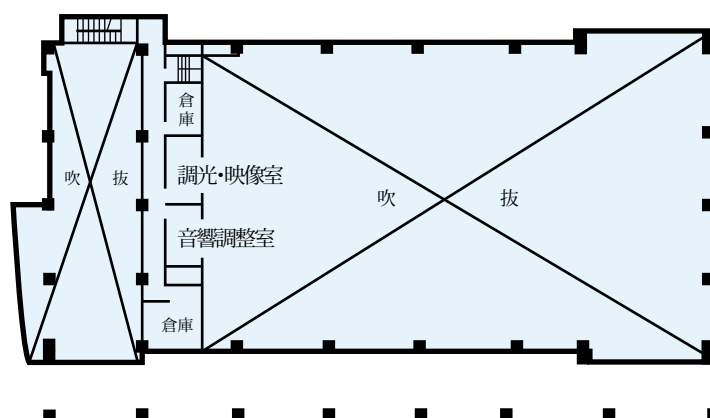


音 楽 堂(けやきホール)

1 階

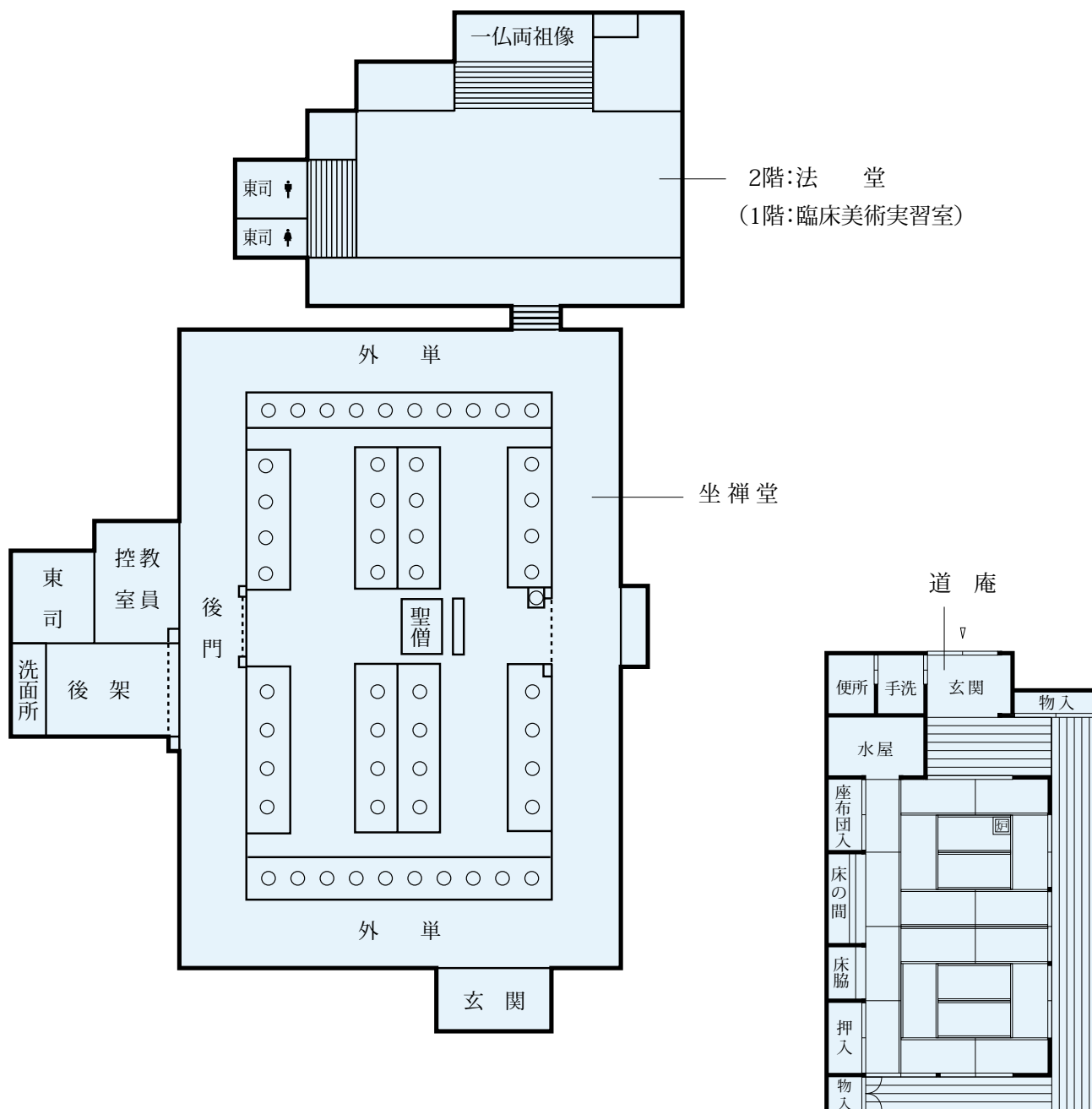


2 階

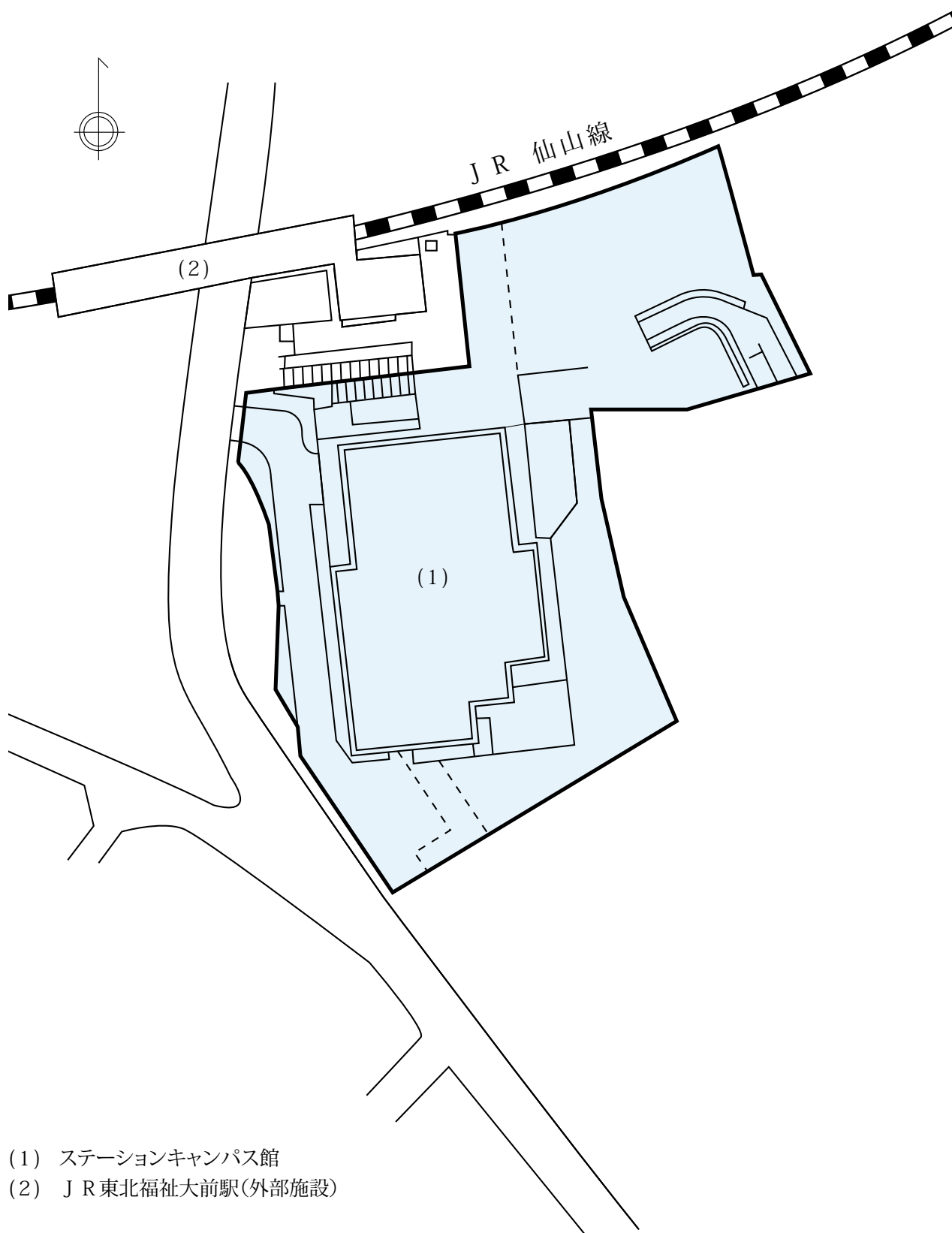


特 別 教 室

(坐禪堂・法堂・道庵)

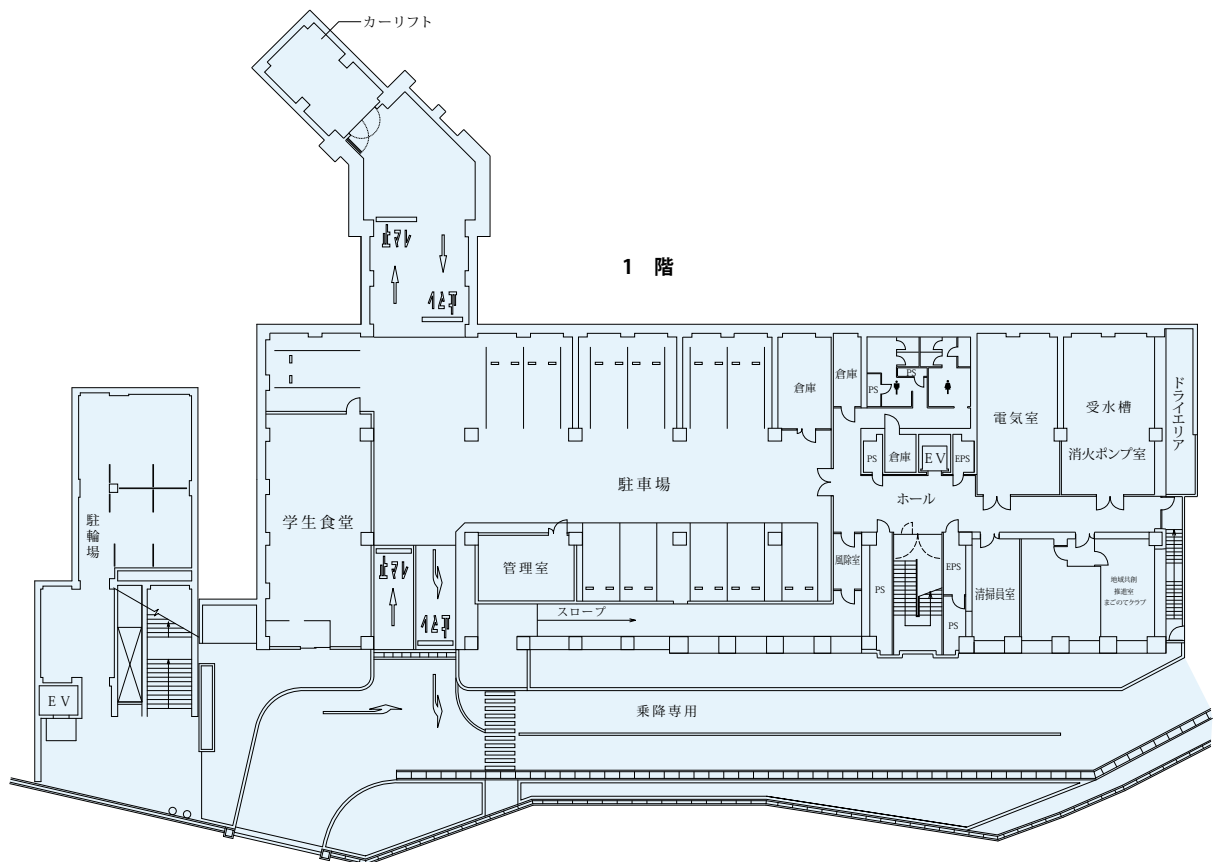


2 ステーションキャンパス (本校地より西方約550m)



- (1) ステーションキャンパス館
- (2) J R東北福祉大前駅(外部施設)

ステーションキャンパス館(ステーションキャンパス)

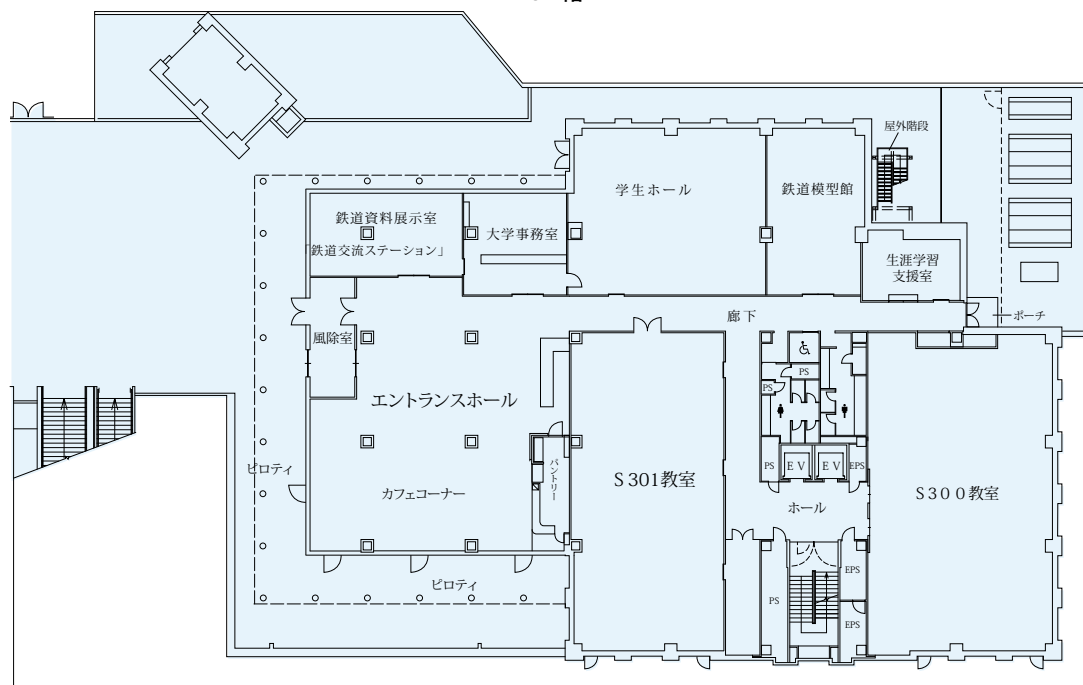


2 階

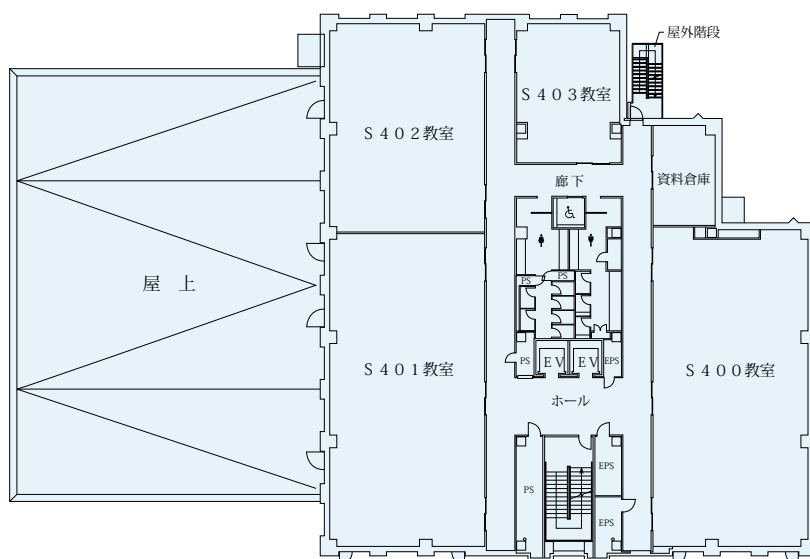


ステーションキャンパス館

3 階

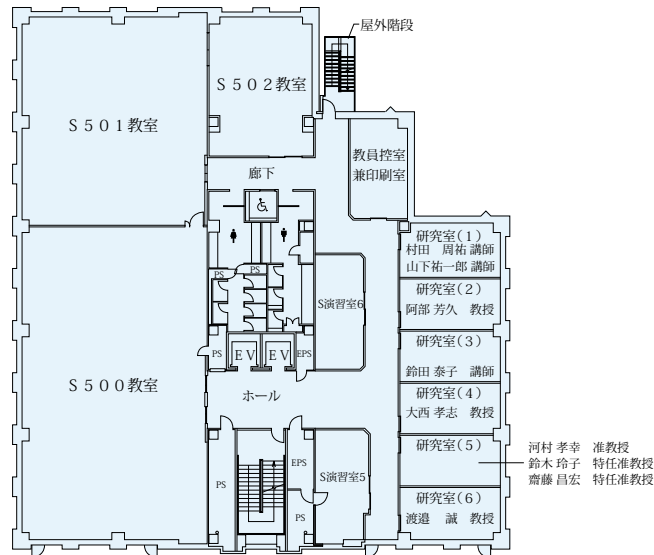


4 階

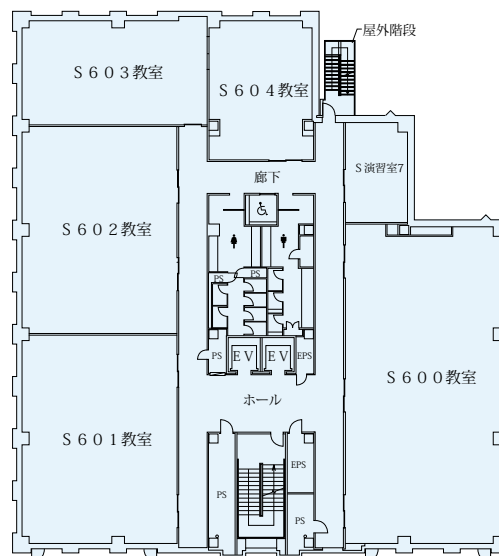


ステーションキャンパス館

5 階

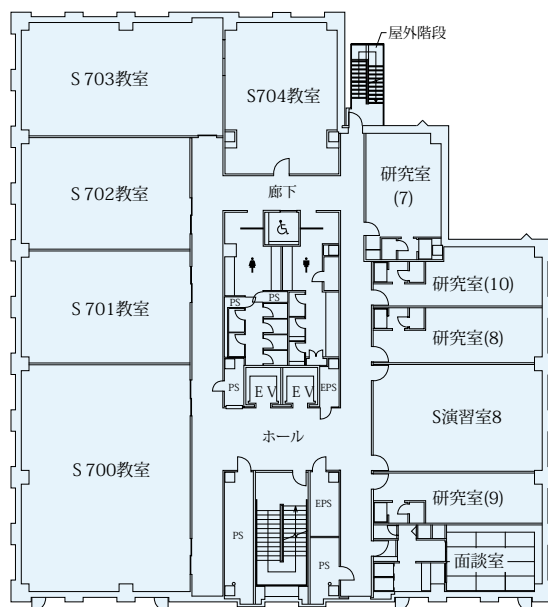


6 階

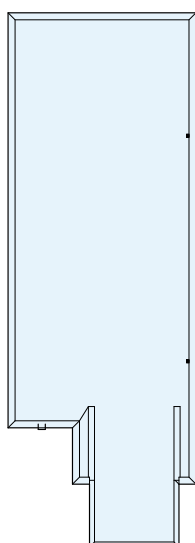


ステーションキャンパス館

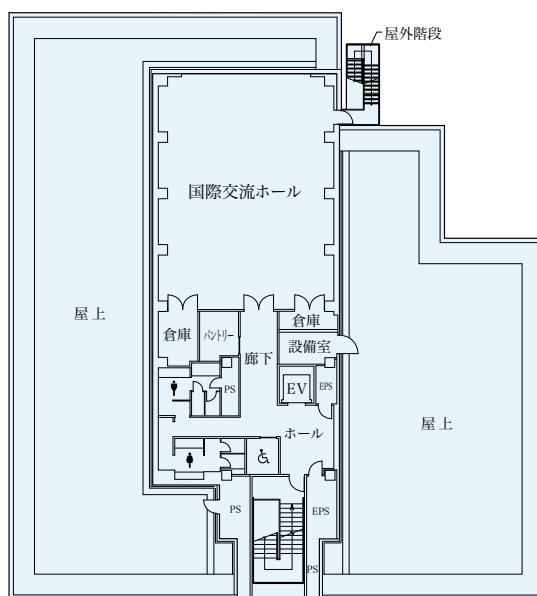
7 階



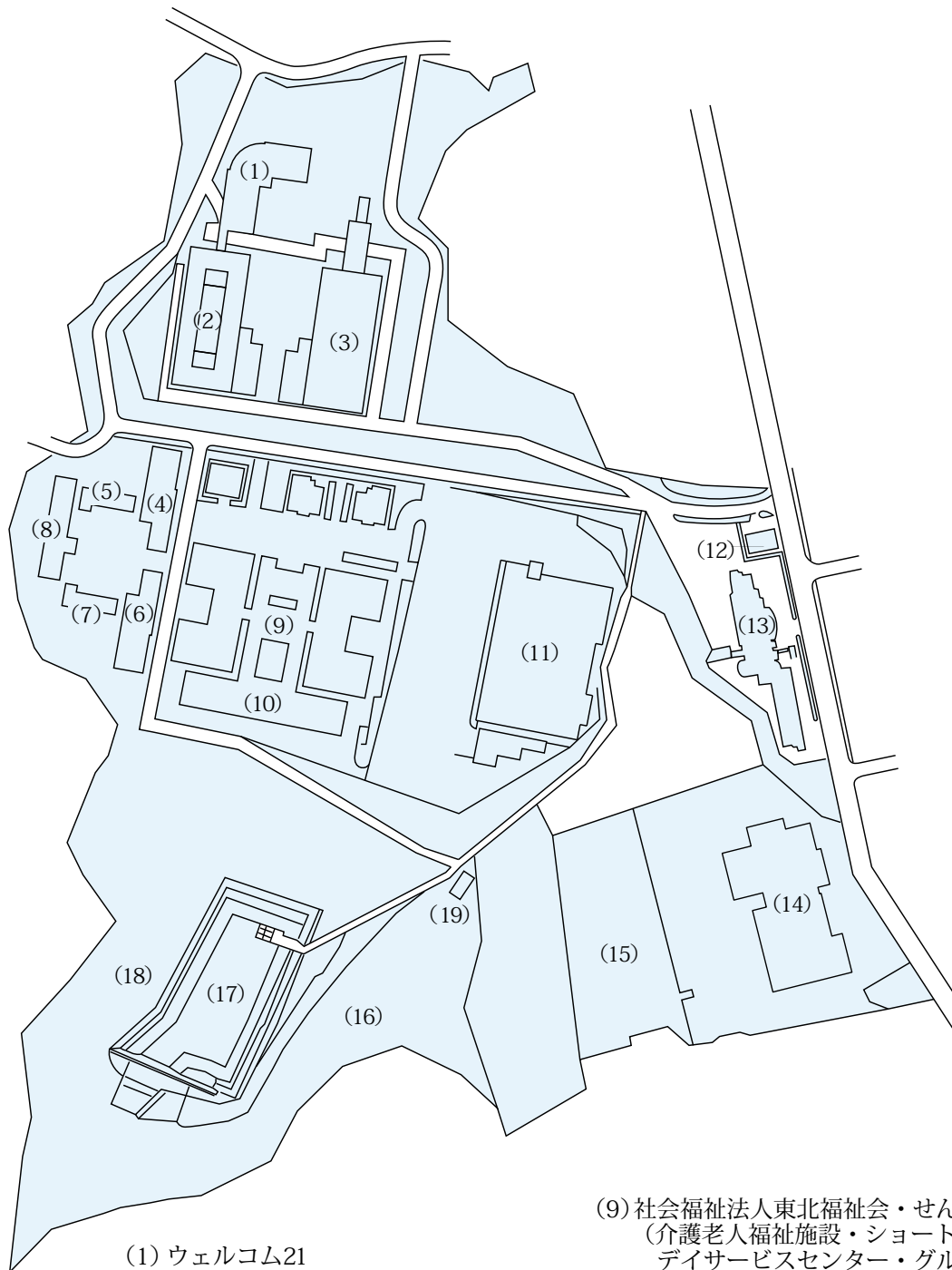
屋 根



8 階



3 国見ヶ丘第1キャンパス (本校地より西方約1000m)

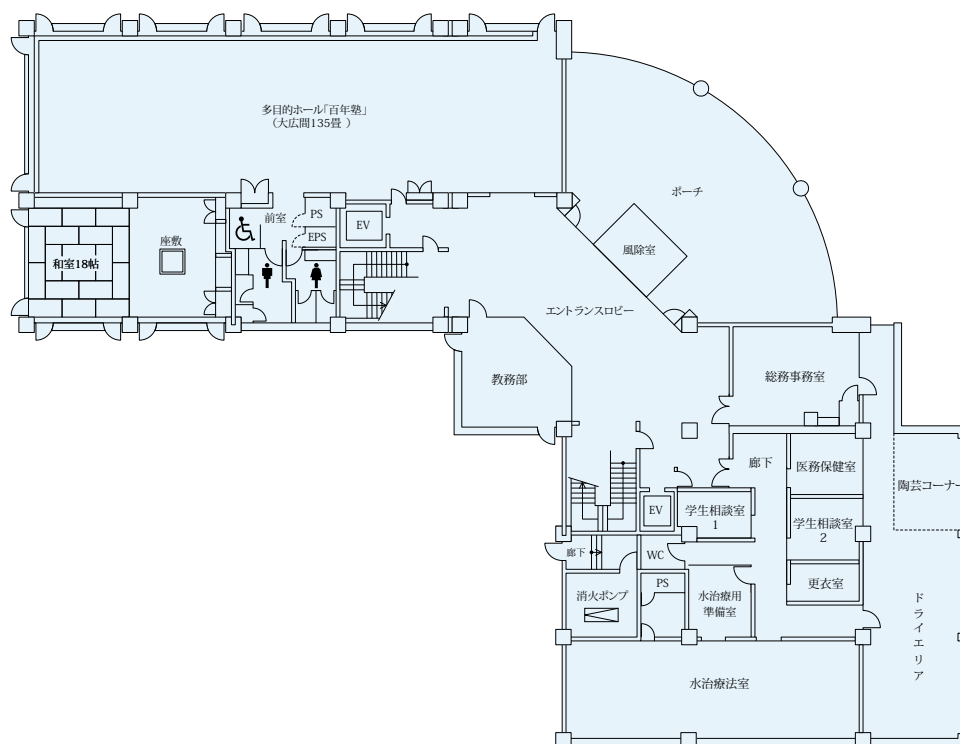


- (1) ウェルコム21
健康科学部リハビリテーション学科
講義室・実習室
大学院講義室
- (2) 感性福祉研究所
- (3) 医療法人社団東北福祉会・
せんだんの丘 (介護老人保健施設)
- (4) 東北福祉大学実学教育寮 (本館)
特別支援教育研究室
- (5) 東北福祉大学実学教育寮 (南館)
- (6) 東北福祉大学実学教育寮 (西館)
- (7) 東北福祉大学実学教育寮 (北館)
- (8) 東北福祉大学実学教育寮 (東館)

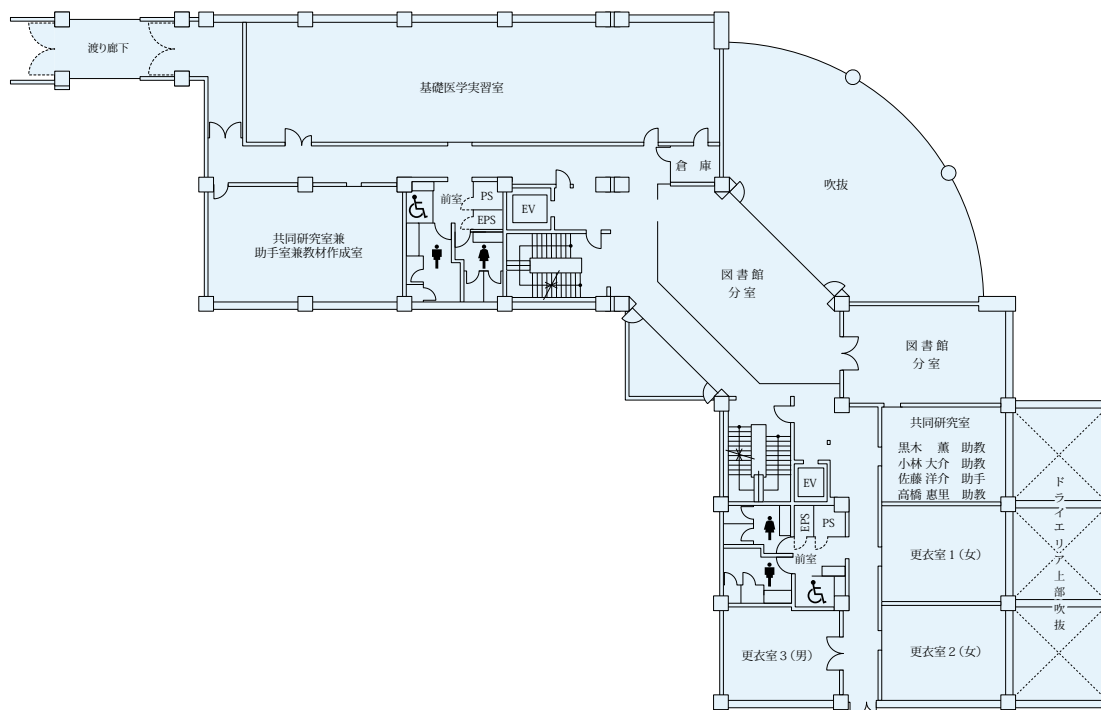
- (9) 社会福祉法人東北福祉会・せんだんの里
(介護老人福祉施設・ショートステイ・
デイサービスセンター・グループホーム)
- (10) 社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター
- (11) 全天候型体育館
(トレーニングセンター・武道場「武徳館」)
- (12) 石窯ピザ・Ozio
- (13) 雄翔館
予防福祉健康増進推進室
- (14) 東北福祉大学せんだんホスピタル
- (15) ゴルフ練習場
- (16) 自然緑地
- (17) 調整池
- (18) 自然緑地
- (19) 生ゴミ処理場

ウェルコム21 (国見ヶ丘第1キャンパス)

1 階

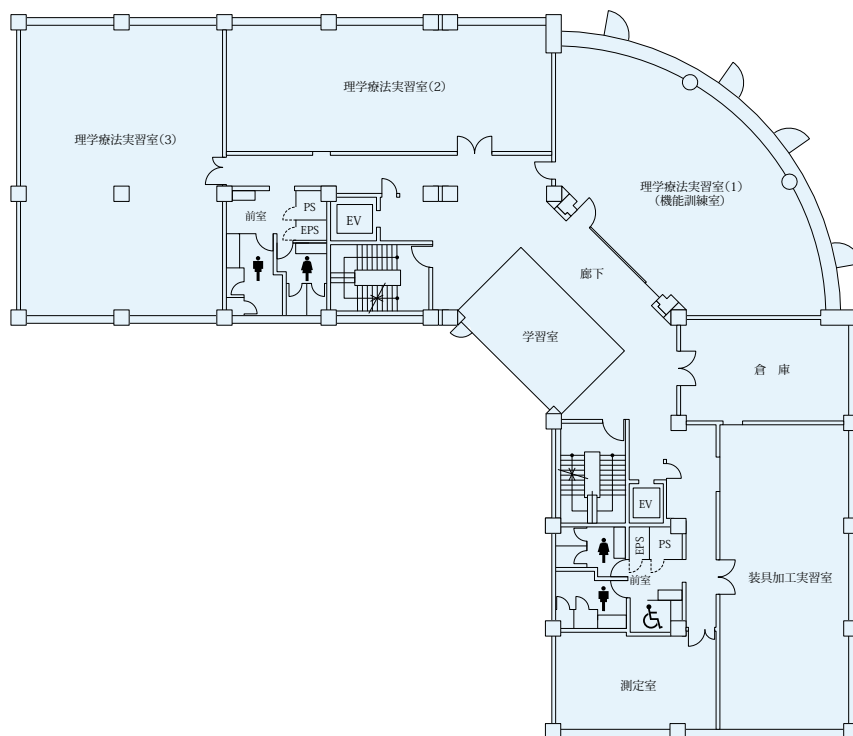


2 階

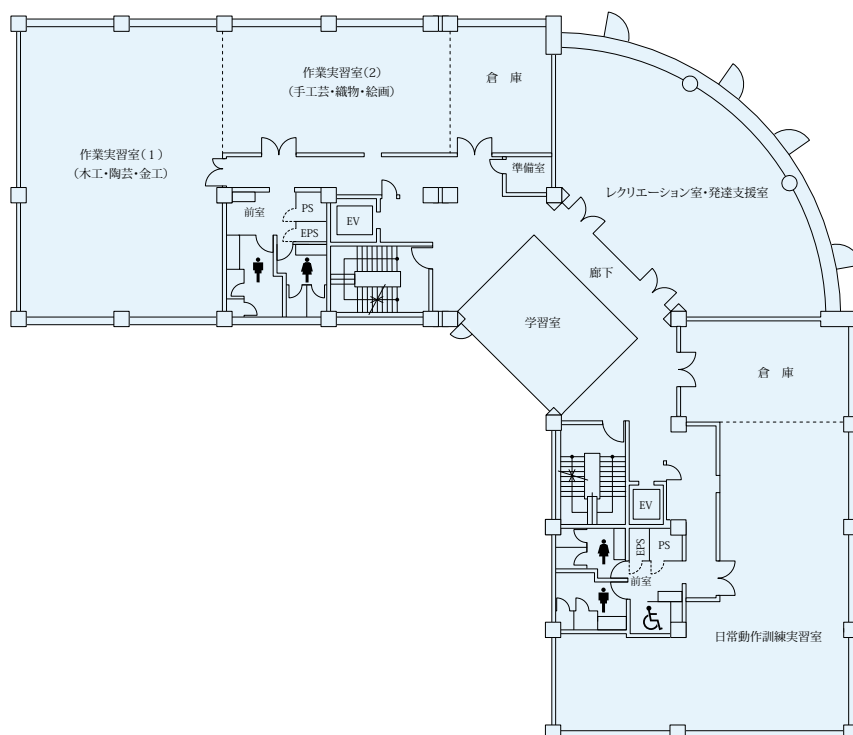


ウェルコム21

3 階

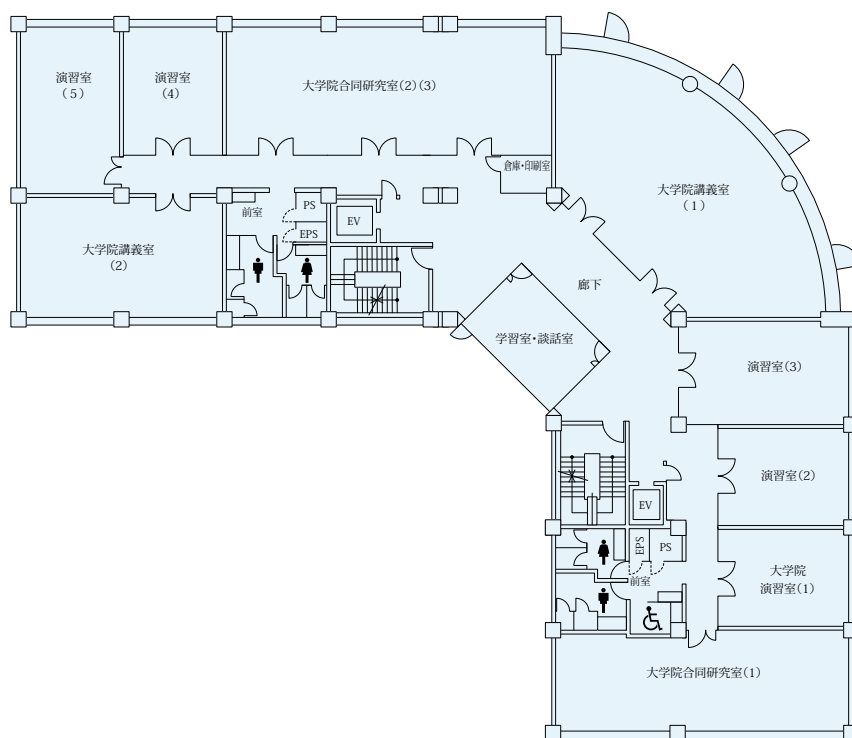


4 階

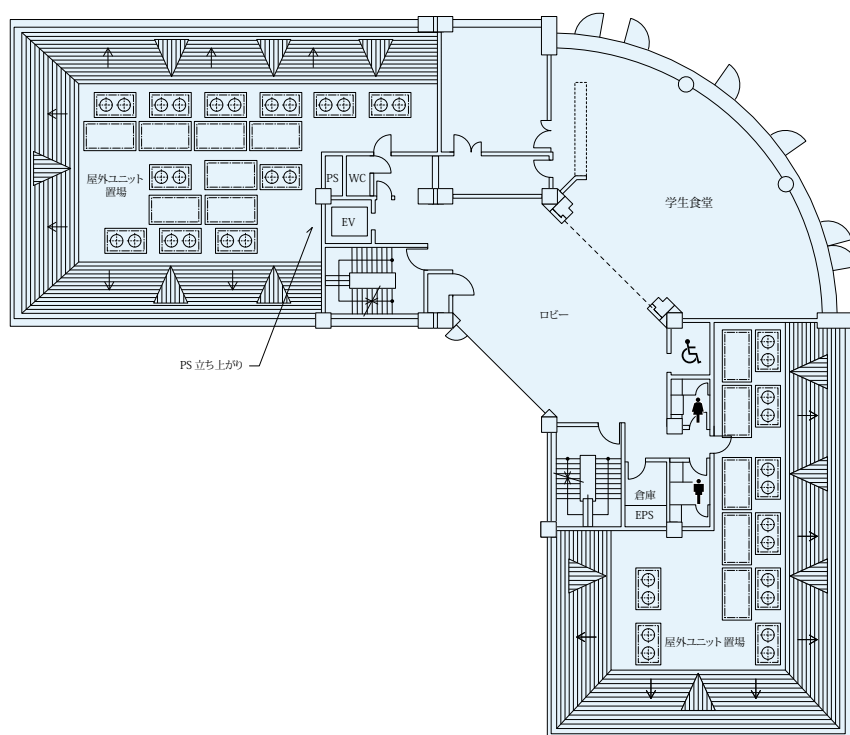


ウェルコム21

5 階

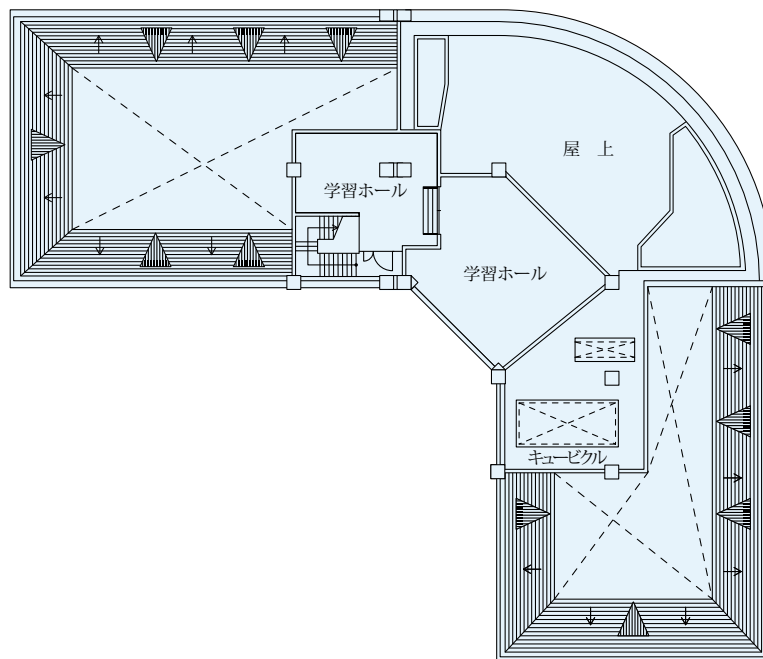


6 階



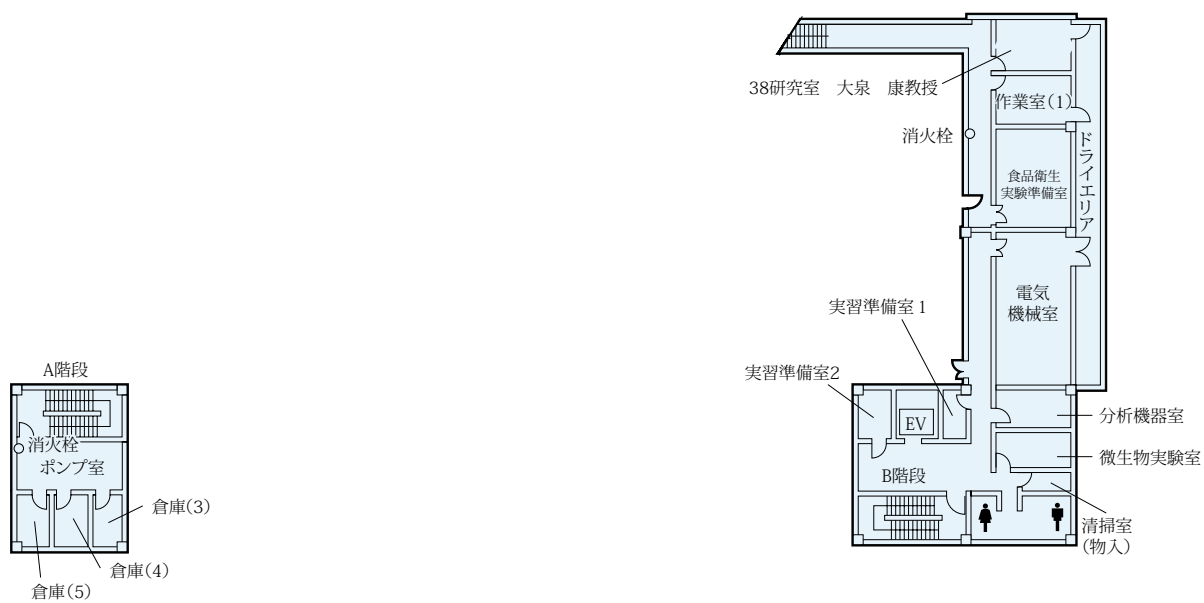
ウェルコム21

PH 階

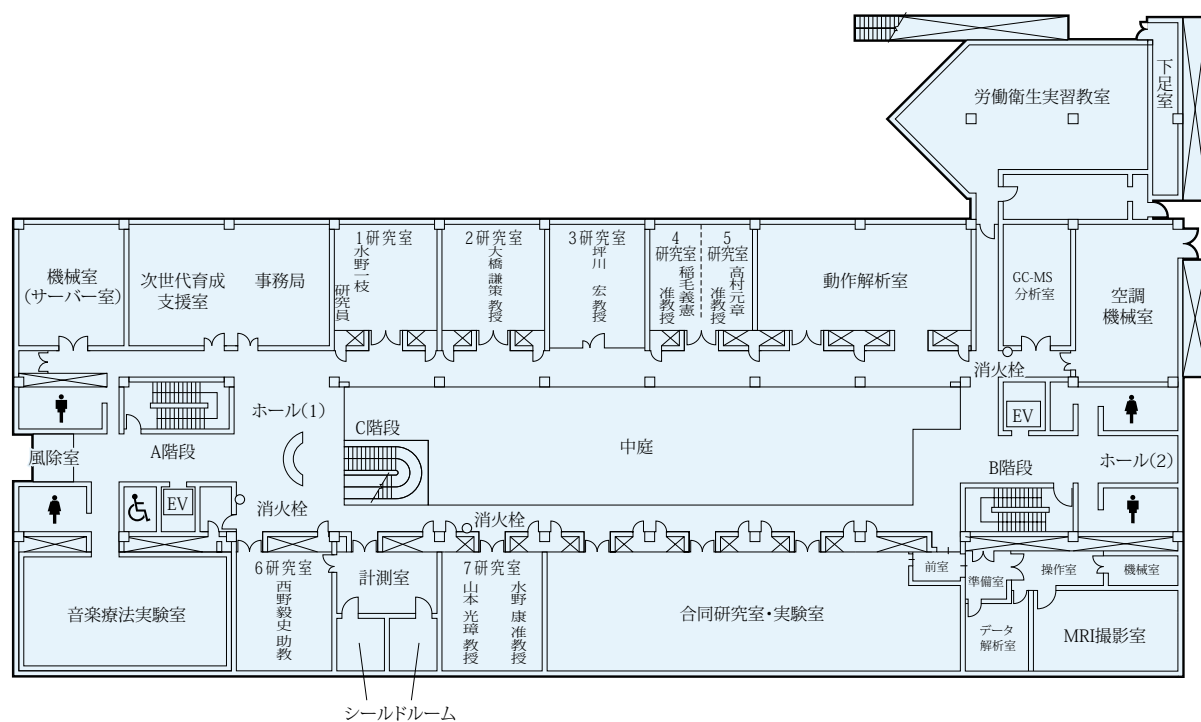


感性福祉研究所(国見ヶ丘第1キャンパス)

地 階

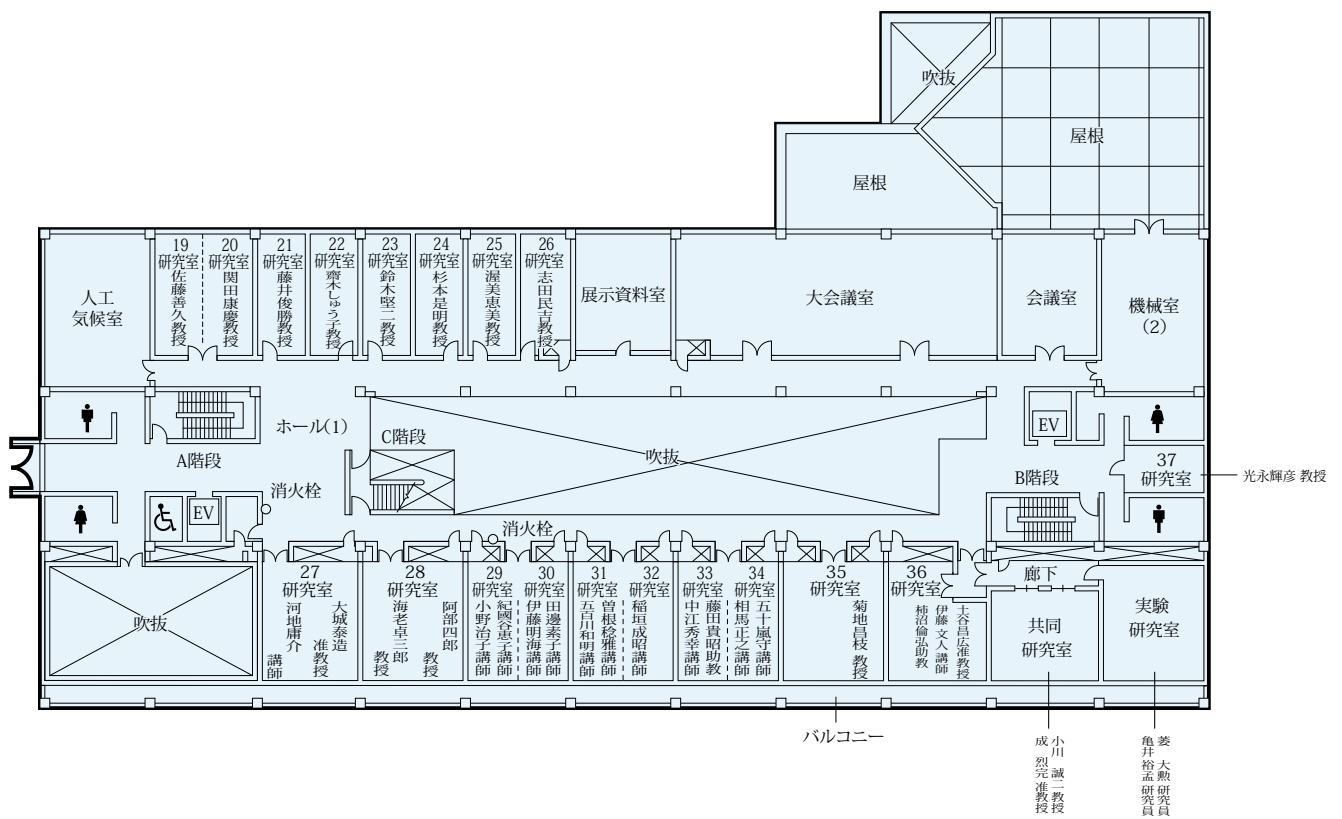


1 階

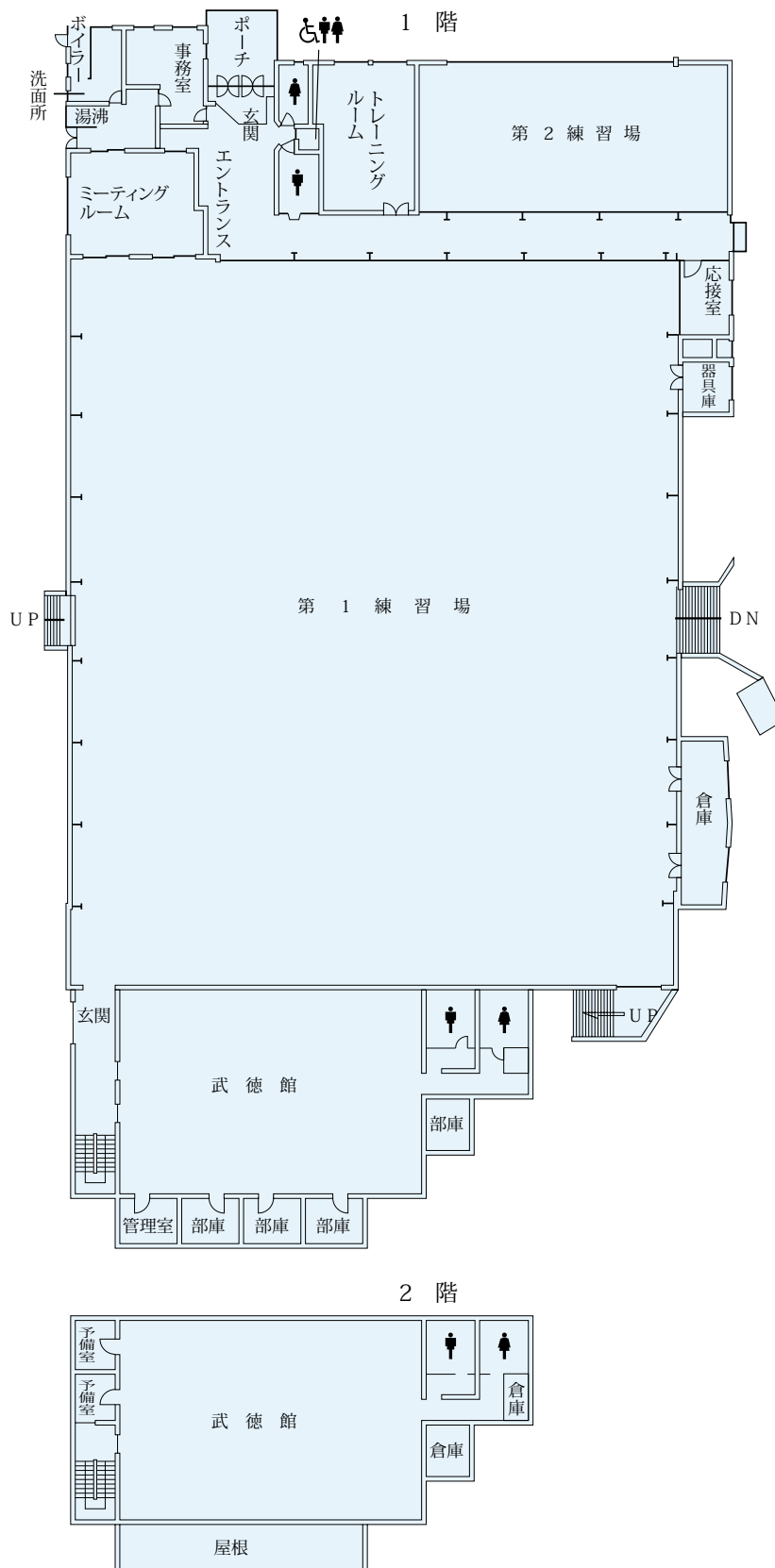


感性福祉研究所

2 階

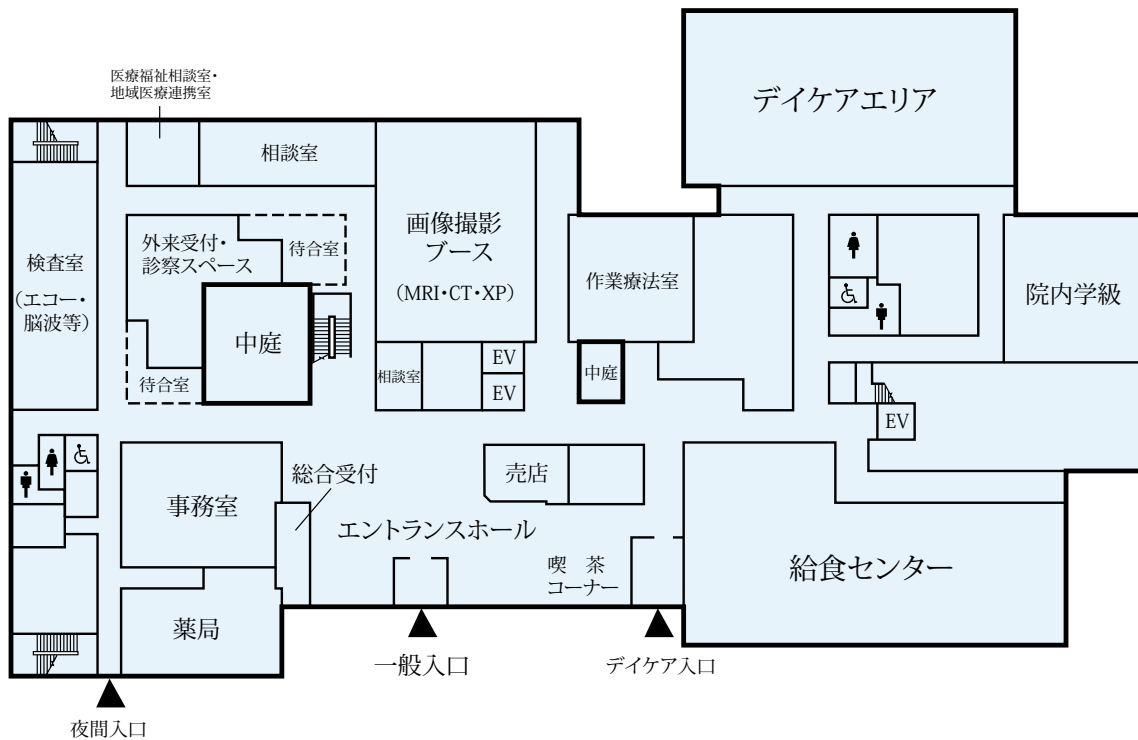


全天候型体育館 (国見ヶ丘第1キャンパス) (トレーニングセンター)

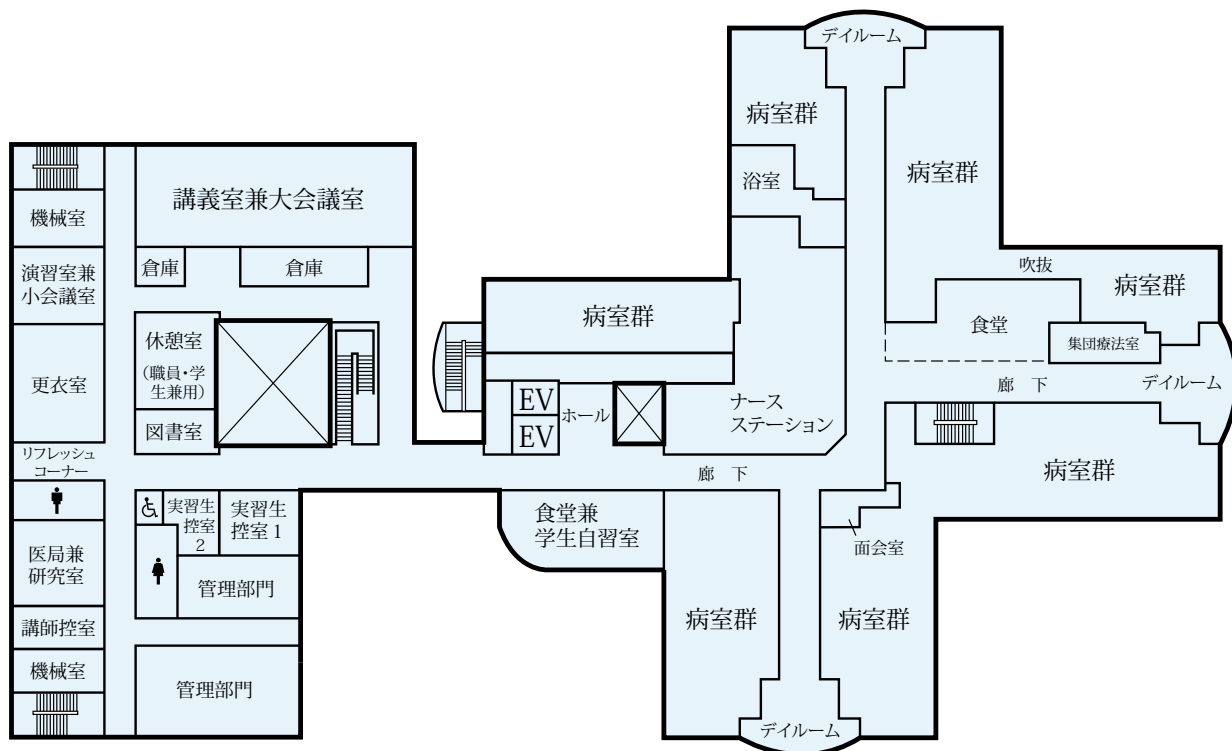


せんだんホスピタル (国見ヶ丘第1キャンパス)

1 階 (総合受付・外来診療・リハビリエリア)

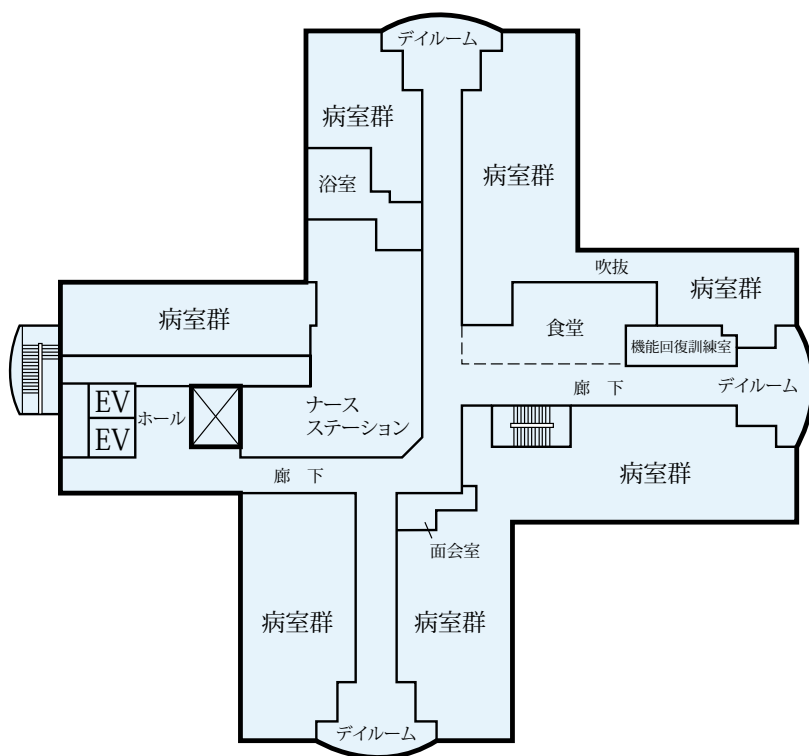


2 階 (講義室・管理室・病室)

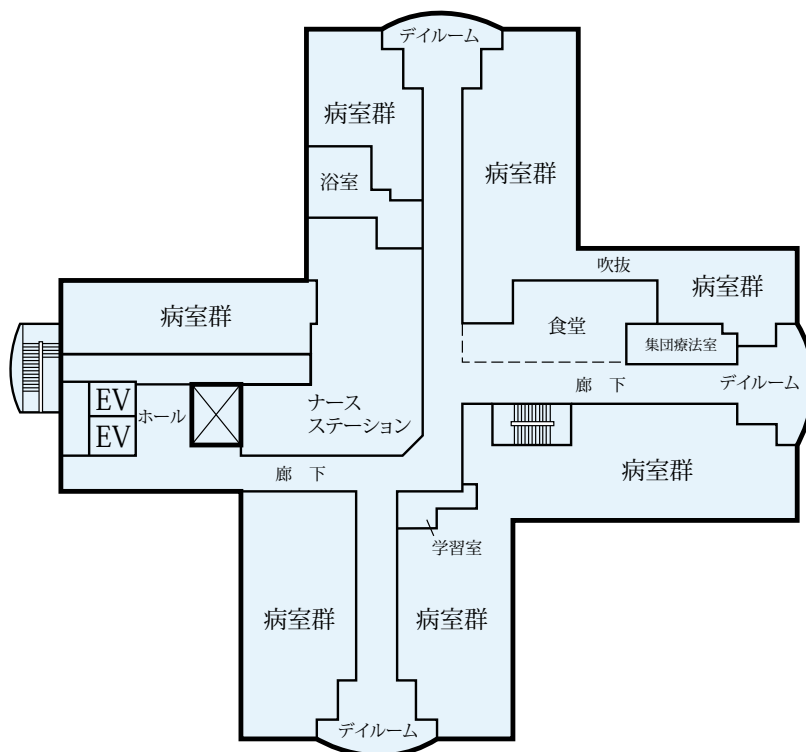


せんだんホスピタル

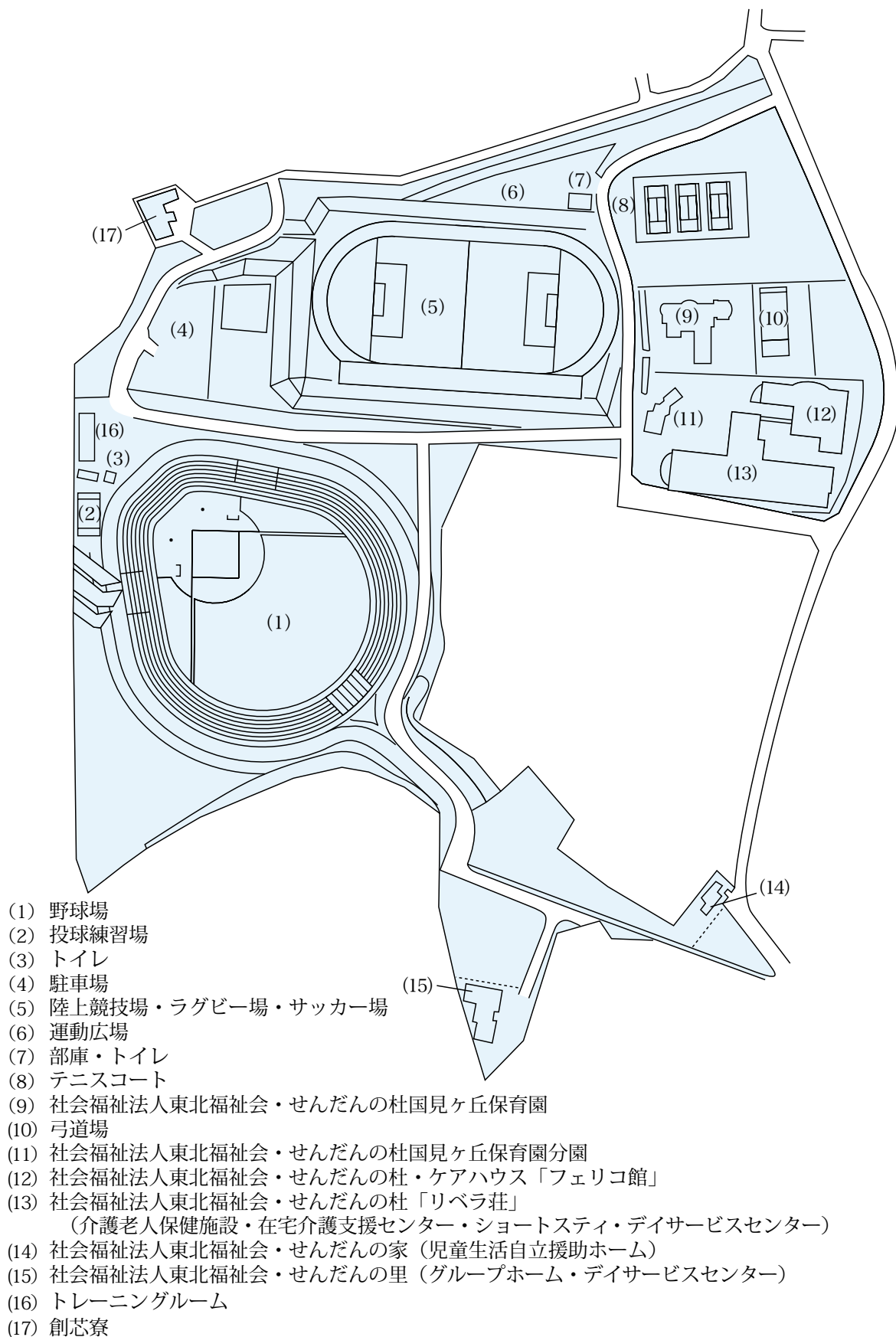
3 階 (病棟)



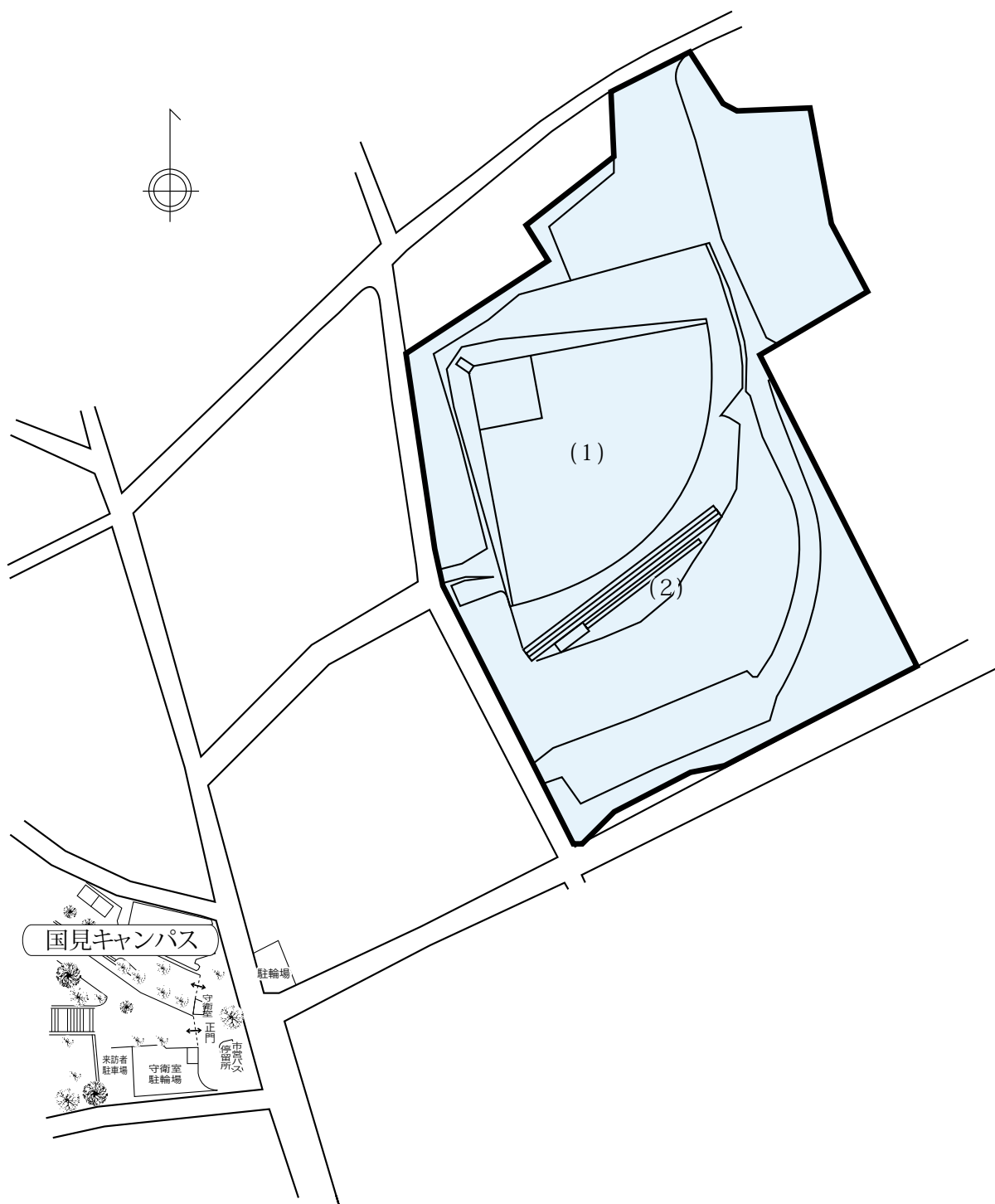
4 階 (病棟)



4 国見ヶ丘第2キャンパス (総合運動場・本校地より西方約1500m)



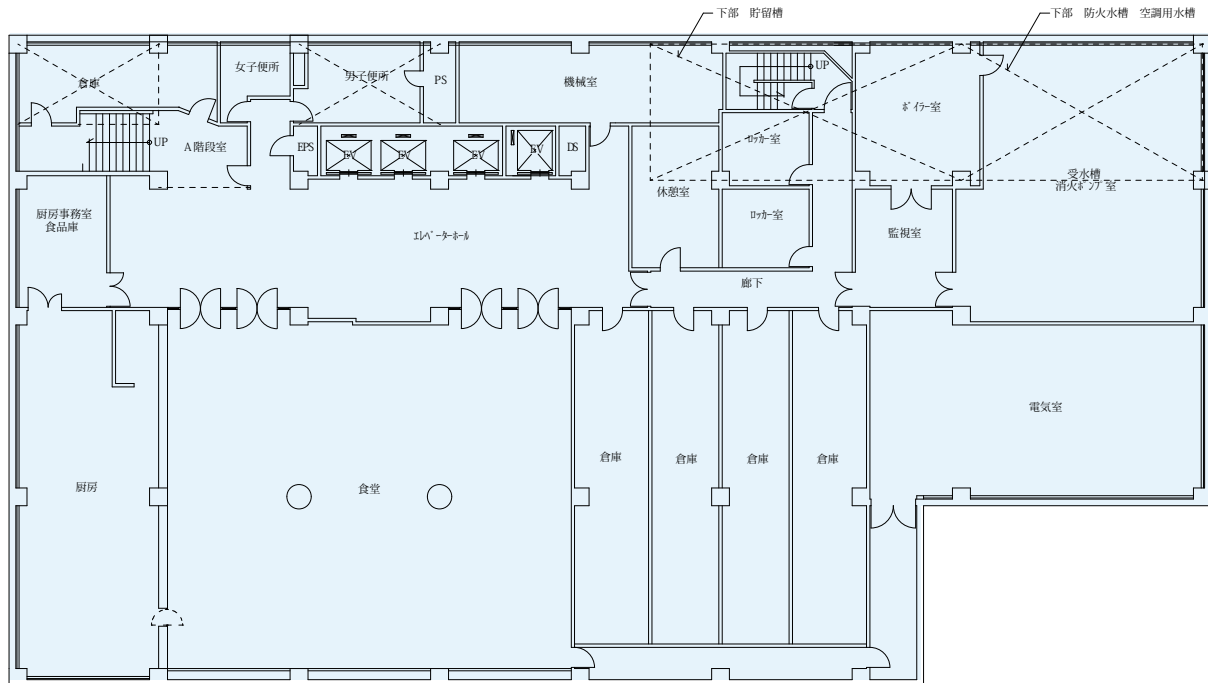
5 北山キャンパス (本校地より東方約100m)



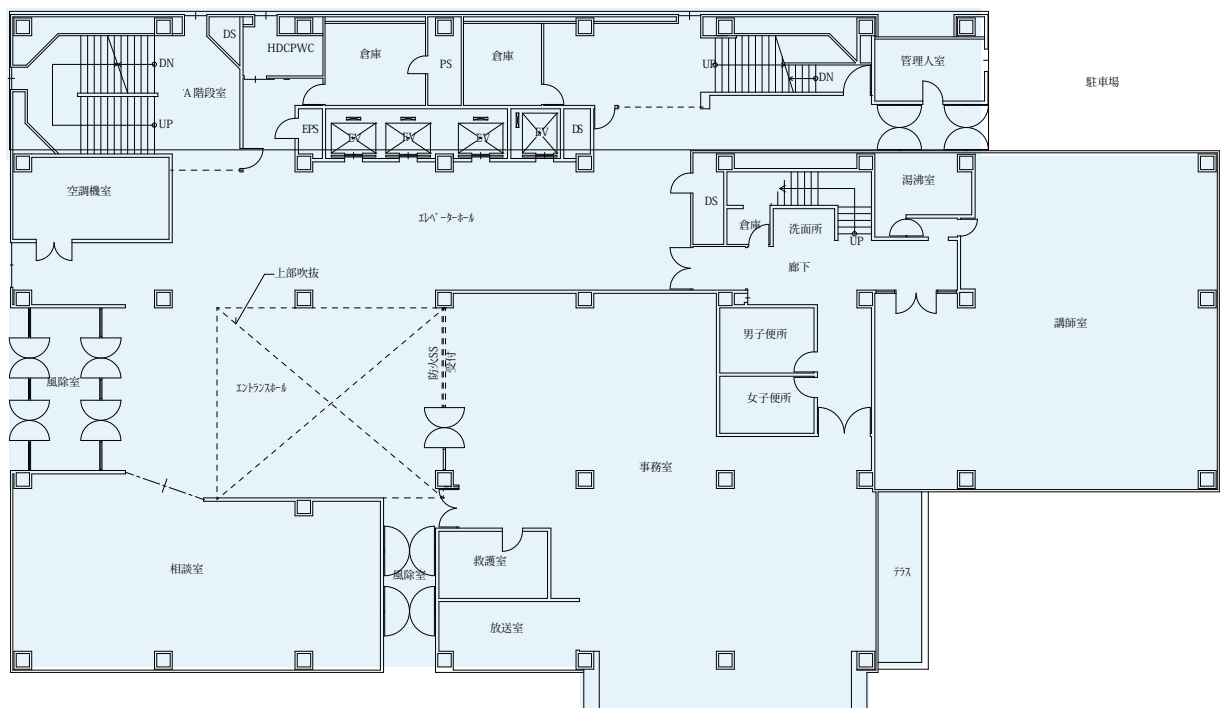
- (1) 多目的運動場
- (2) 跳躍ピットゾーン

仙台駅東口キャンパス館

地 階

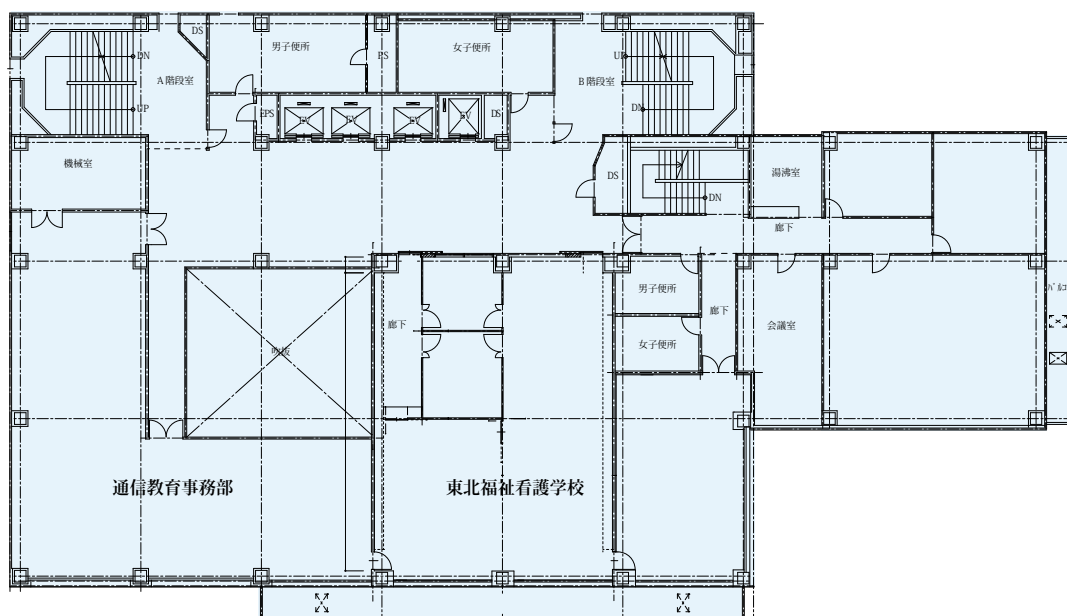


1 階

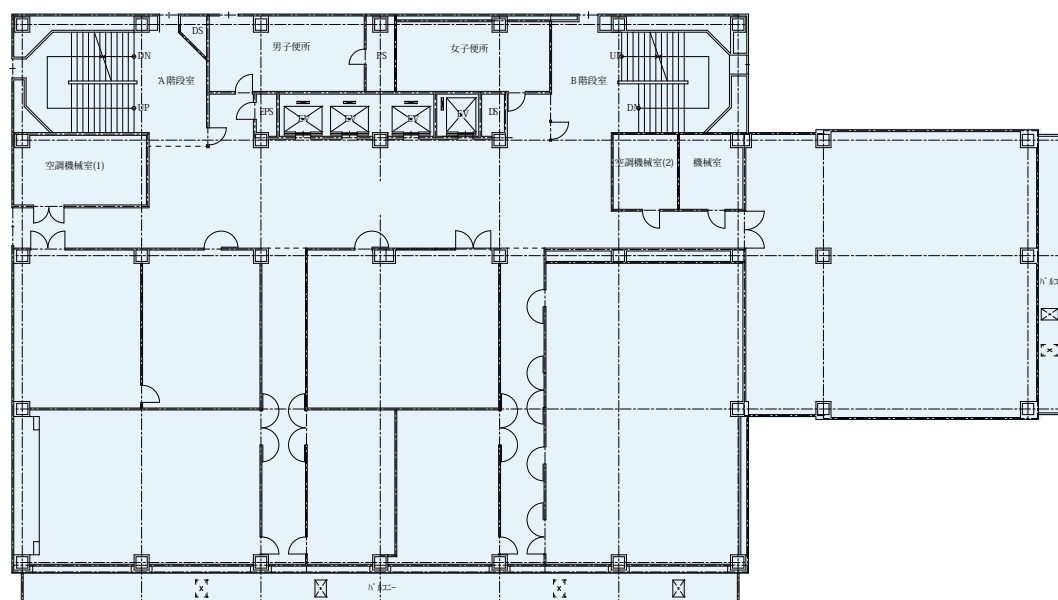


仙台駅東口キャンパス館

2 階

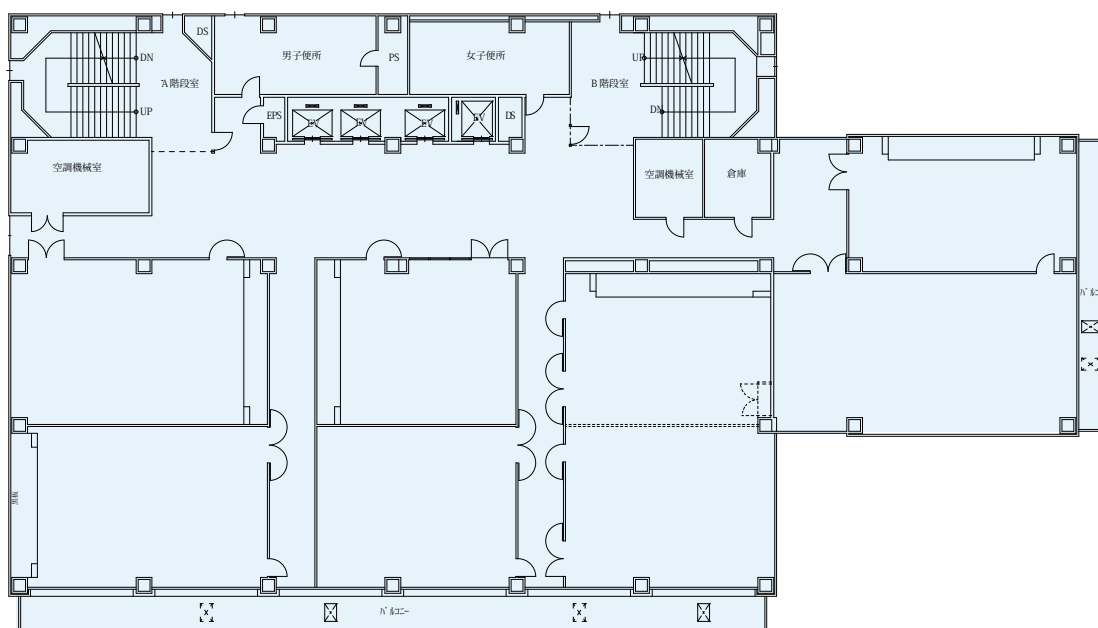


3 階

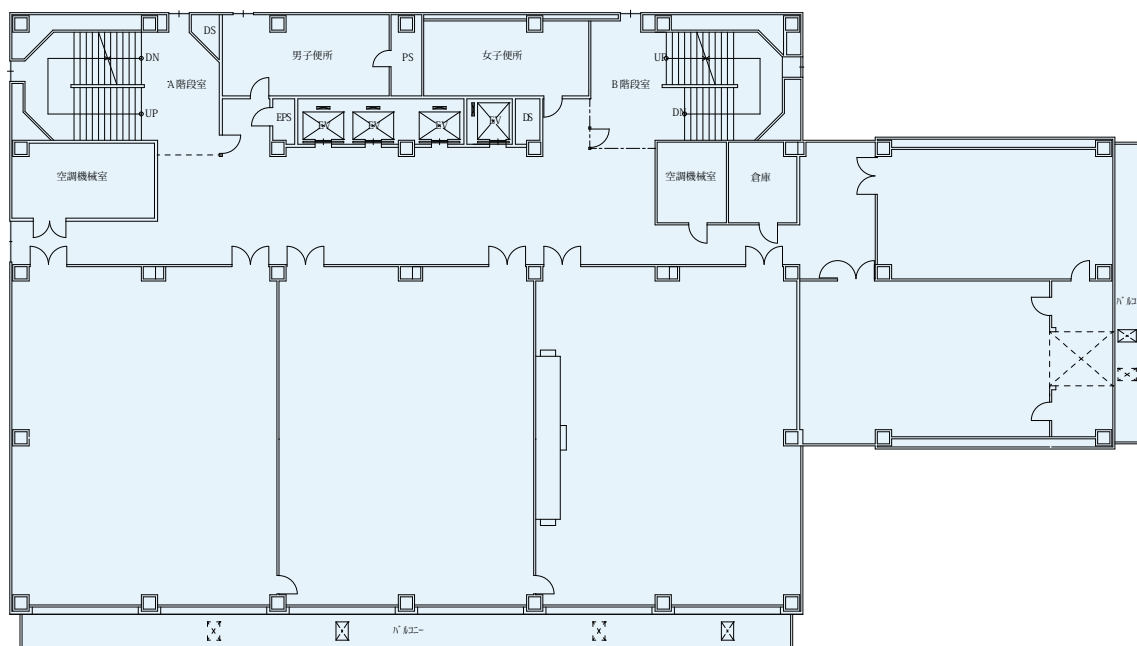


仙台駅東口キャンパス館

4 階

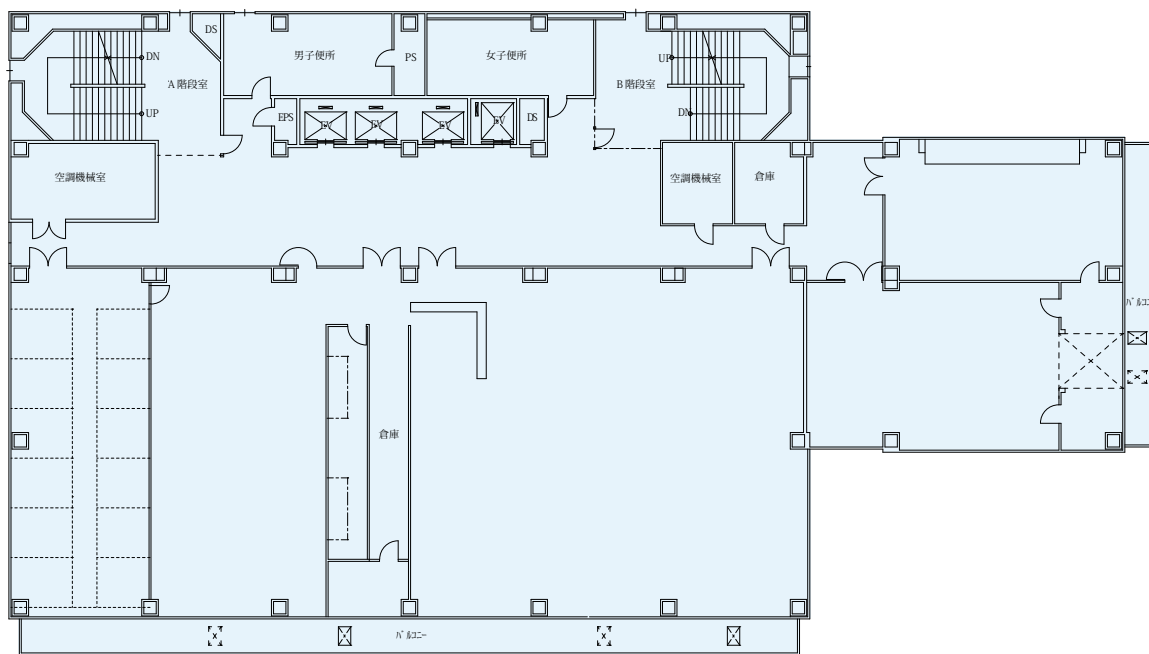


5 階

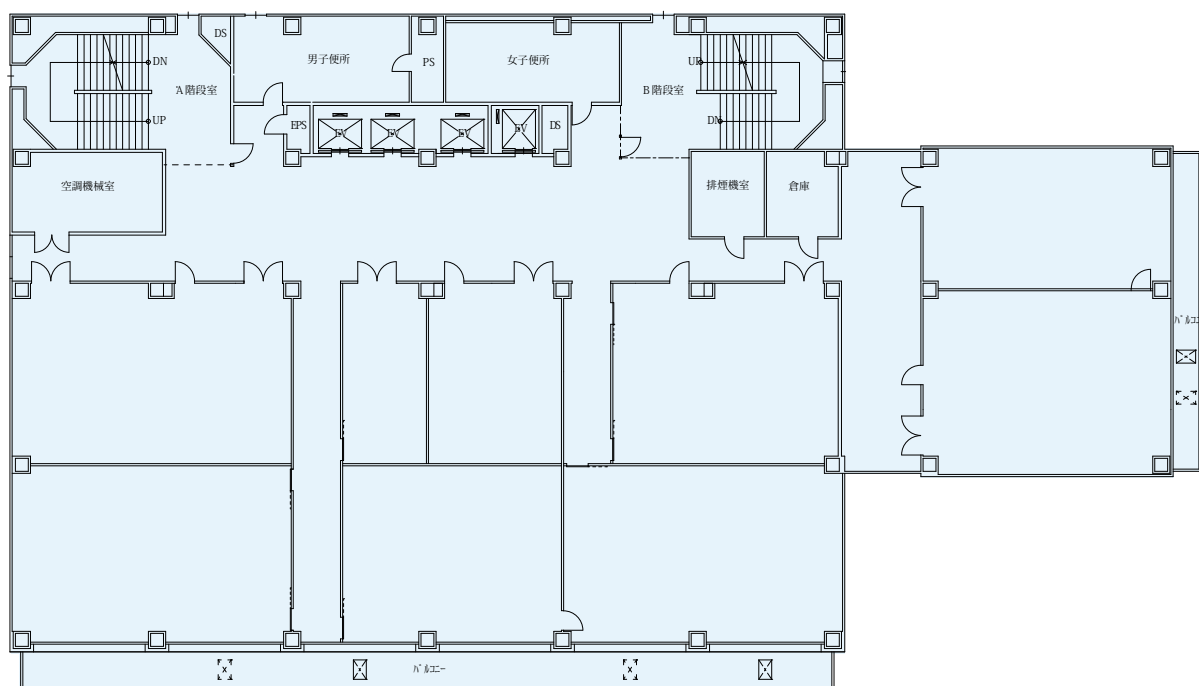


仙台駅東口キャンパス館

6 階



7 階



この学生便覧は限定版につき再発行しない

2015 年 4 月 1 日発行

発行者 東 北 福 祉 大 学

〒981-8522 仙台市青葉区国見一丁目 8 番 1 号

電 話 022 - 2 3 3 - 3 1 1 1 (代)

学籍番号

氏 名

万一、落丁や乱丁があった場合は、取替えますので教務部まで申し出てください。